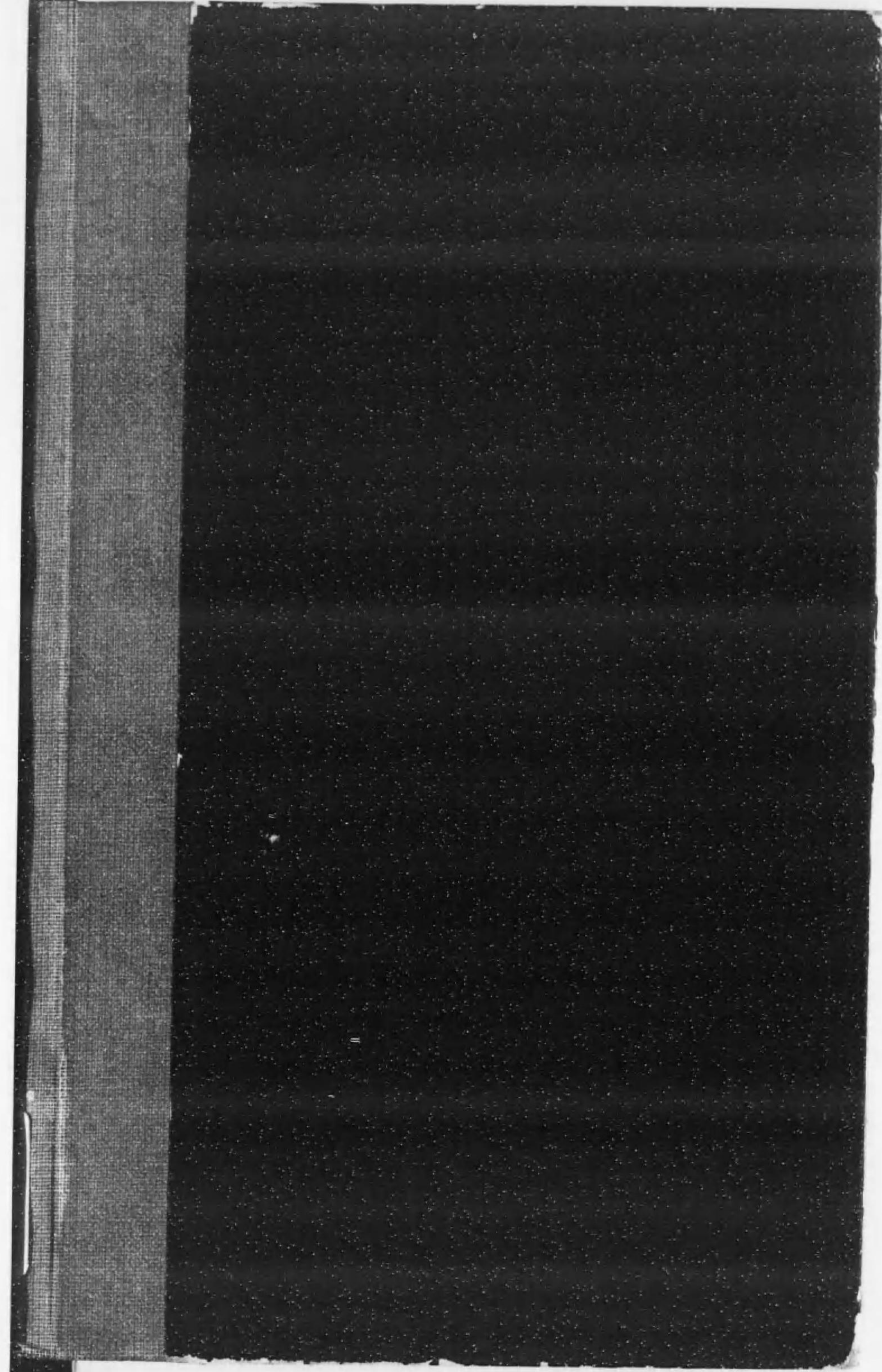
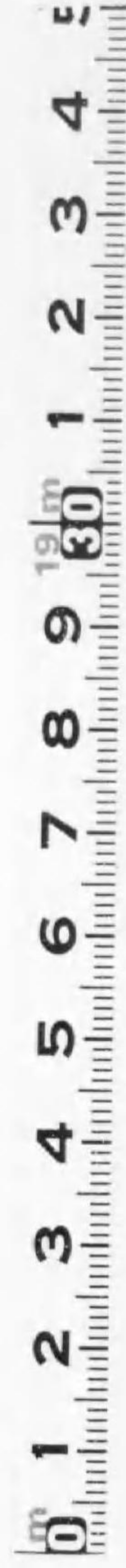




始



521

2

林學博士 諸戶北郎著

應 最小自乘法
用 測量平均法

東京 丸善株式會社

12. 1. 17

內交

緒 言

最小自乗法ハ諸種ノ觀測特ニ測量ノ結果ヲ平均シ且ツ其精密度ヲ比較スルニ用ヒラル。故ニ余ハ爰ニ其大要ヲ記シ且ツ其ノ應用ノ實例ヲ示シ測量家諸君ノ參考ニ供セントス。

本書ヲ公ニスルニ當リ東京帝國大學講師林學博士伊藤武夫君同林學士石井未太郎君故林學士鈴木忠吉君助手青沼正人君。ノ助力ヲ受ケタルコト多シ爰ニ特記シテ謝意ヲ表ス。

大正十一年十一月

諸 戸 北 郎 識 ス

42/-2

最小自乗法 測量平均法目次

第一章 緒論	1
第一節 最小自乘法ノ應用	1
第二節 測量ノ分類	1
第三節 測量ノ誤差	3
第四節 「ぶろばびりち」ノ原理	5
第二章 誤差ノ「ぶろばびりち」ノ法則	14
第一節 總説	14
第二節 經驗ヨリ得タル定理	14
第三節 「ぶろばびりち」曲線	16
第四節 「はーげん」氏法	18
第五節 「がうす」氏法	22
第六節 $y = Ke^{-h^2x^2}$ ナル曲線ノ研究	26
第七節 「ぶろばびりち」積分	23
第八節 理論ト實驗トノ比較	32
第九節 原式ニ關スル注意	33
第三章 測量ノ整正	36
第一節 觀測値ノ重み	36
第二節 最小自乘法ノ主義	38
第三節 一個ノ未知數ニ於ケル直接測量	41
第四節 多數ノ未知數ニ於ケル精密度等シキ獨立測量	42

第五節	二個ノ未知數ノ場合.....	47
第六節	實驗ニ依リ常數ヲ求ムル法.....	49
第七節	三個ノ未知數ノ場合.....	51
第八節	「がうす」氏ノ法正式解法.....	52
第九節	法正式解法ノ實例.....	60
第十節	二個ノ未知數ノ場合ニ於ケル「がうす」氏消去法及 誤差二乗ノ和.....	66
第十一節	二個ノ未知數ニ於ケル係數ノ計算及總和檢定法.....	68
第十二節	二個ノ未知數ノ場合ニ於ケル消去法ノ實例.....	70
第十三節	四個ノ未知數ノ場合.....	71
第十四節	多數ノ未知數ニ於ケル精密度等シカラザル獨立測 量.....	74
第十五節	四個ノ未知數ノ場合.....	77
第十六節	四個ノ未知數ノ場合ニ於ケル「がうす」氏消去法 及誤差二乗ノ和.....	79
第十七節	條件附測量.....	87
第十八節	「がうす」氏ノ不定係數法.....	89
第十九節	四個ノ未知數ニ於ケル條件付測量ヲ不定係數法 ニ依リ平均スル法.....	94
第二十節	一次ナラザル函數ノ場合.....	98
第二十一節	多數ノ測線ノ交切點ノ平均法.....	101
第四章 測量ノ精密度.....		105
第一節	總說.....	105

第二節	平均誤差.....	105
第三節	中數誤差.....	107
第四節	現ハレ易キ誤差.....	109
第五節	測量ノ精密度ト平均誤差ノ關係.....	117
第六節	測量ノ精密度ト中數誤差ノ關係.....	117
第七節	平均誤差、中數誤差及現ハレ易キ誤差ノ關係.....	121
第八節	誤差移行ノ法則.....	121
第九節	規則誤差及不規則誤差ノ同時ニ現ハルル場合.....	130
第十節	算術ノ平均值ノ中數誤差.....	130
第十一節	一般ノ平均值ノ中數誤差.....	137
第十二節	一般ノ平均值ノ現ハレ易キ誤差.....	142
第十三節	二個ノ測量ノ特別ノ場合.....	145
第十四節	三角形ノ内角ノ平均法.....	148
第十五節	觀測値ノ差ヨリ中數誤差ヲ定ムル法.....	154
第十六節	重みノ係數.....	158
第十七節	多數ノ未知數ニ於ケル獨立測量ノ現ハレ易キ誤差.....	160
第十八節	二個ノ未知數ニ於ケル單位重みノ中數誤差.....	173
第十九節	二個ノ未知數ノ中數誤差.....	175
第二十節	測量ノ重み等シカラザル場合.....	176
第二十一節	單位重みノ測量ノ中數誤差.....	179
第二十二節	條件付測量ノ中數誤差.....	181
第二十三節	條件付測量ノ現ハレ易キ誤差.....	184
	應用實例.....	184

第一節 重み等シキ測量.....	185
第五章 一個ノ未知數ニ於ケル直接測量.....	185
第二節 現ハレ易キ誤差ヲ算出スル簡單式.....	187
第三節 重み等シカラザル測量.....	191
第六章 測定數ノ函數.....	196
第一節 總說.....	196
第二節 直線測量.....	196
第三節 角測量.....	200
第四節 面積測量.....	202
第七章 多數ノ未知數ニ於ケル獨立測量.....	205
第一節 計算ノ順序.....	205
第二節 水準測量ノ平均法.....	206
其一 測量ノ精密度等シキ場合.....	206
其二 測量ノ精密度等シカラザル場合.....	209
第三節 氣壓測高式.....	214
第八章 條件付測量.....	221
第一節 計算ノ順序.....	221
第二節 三角形內角ノ平均法.....	221
其一 三內角ノ測量ノ精密度等シキ場合.....	221
其二 三內角ノ測量ノ精密度等シカラザル場合.....	223
第三節 一立點ニ於ケル角ノ平均法.....	225
其一 測量ノ精密度等シキ場合.....	226
其二 測量ノ精密度等シカラザル場合.....	237

第四節 方向對測ノ平均法.....	242
第五節 水準測量ノ平均法.....	247
第六節 水準線網ノ平均法.....	253
第九章 條件式付三角網平均法.....	256
第一節 四角形ニ於ケル條件式.....	256
第二節 四角形內角ノ平均法.....	259
第三節 一般條件式.....	266
第四節 完全方向對測ノ四角形平均法.....	275
第五節 はんのうゑる五角形ノ平均法.....	283
第六節 精密度等シカラザル測角ノ三角網平均法.....	296
第七節 四角形邊式撰定法.....	300
第八節 五角形ノ三角網條件式.....	302
第九節 簡單三角測量ノ平均法.....	308

(終り)

最小自乗法ノ應用 測量平均法

第一章 緒論

第一節 最小自乗法ノ應用

最小自乗法ノ測量學上ノ應用ハ測量ヲ整正シ其精密度ヲ比較スルニ在リ數回精密ノ測量ヲナスモ其結果ノ一致セザルコトアリ此時ニ測量ヲ整正スルコト必要ナリ 即吾人ハ測量ヲナシテ其眞値ヲ見出スヲ得ザル故ニ測量ヲ組合セ整正シテ最モ確カラシキ値ヲ求メザルベカラズ又測量ヲ組合セ整正スル爲メ又ハ最モ良キ測量法ヲ見出ス爲メニ種々ノ測量ノ精密度ヲ比較スルコト必要ナリ

第二節 測量ノ分類

第一. 直接測量 直接測量ハ或ル物ノ大サヲ定ムル爲メニ直接ニナス測量ナリ. 例ハバ測鏈ヲ用ヒテ直接ニ距離ヲ測リ或ハ經緯儀ヲ用ヒテ直接ニ角度ヲ測ルガ如シ

第二. 間接測量 間接測量ハ或ル物ノ大サヲ測ラントスルニ當リ其物ヲ直接ニ測ラズシテ其物ニ關係ヲ有スル或ル他ノ物ヲ測リテ其大サヲ間接ニ定ムルモノナリ 例ハバ或ル邊及角ヲ測リテ三角形ノ他ノ一邊ヲ定メ又二角ノ和或ハ差ニ依リテ他ノ一角ヲ定メ又兩點ニ於ケル照尺ノ讀數ニ依リテ二點ノ高サノ差ヲ定メ又星ノ高度ヲ測定シテ其地ノ緯度ヲ定ムルガ如シ

第三. 條件附測量 條件附測量ハ直接測量タルト間接測量タルヲ

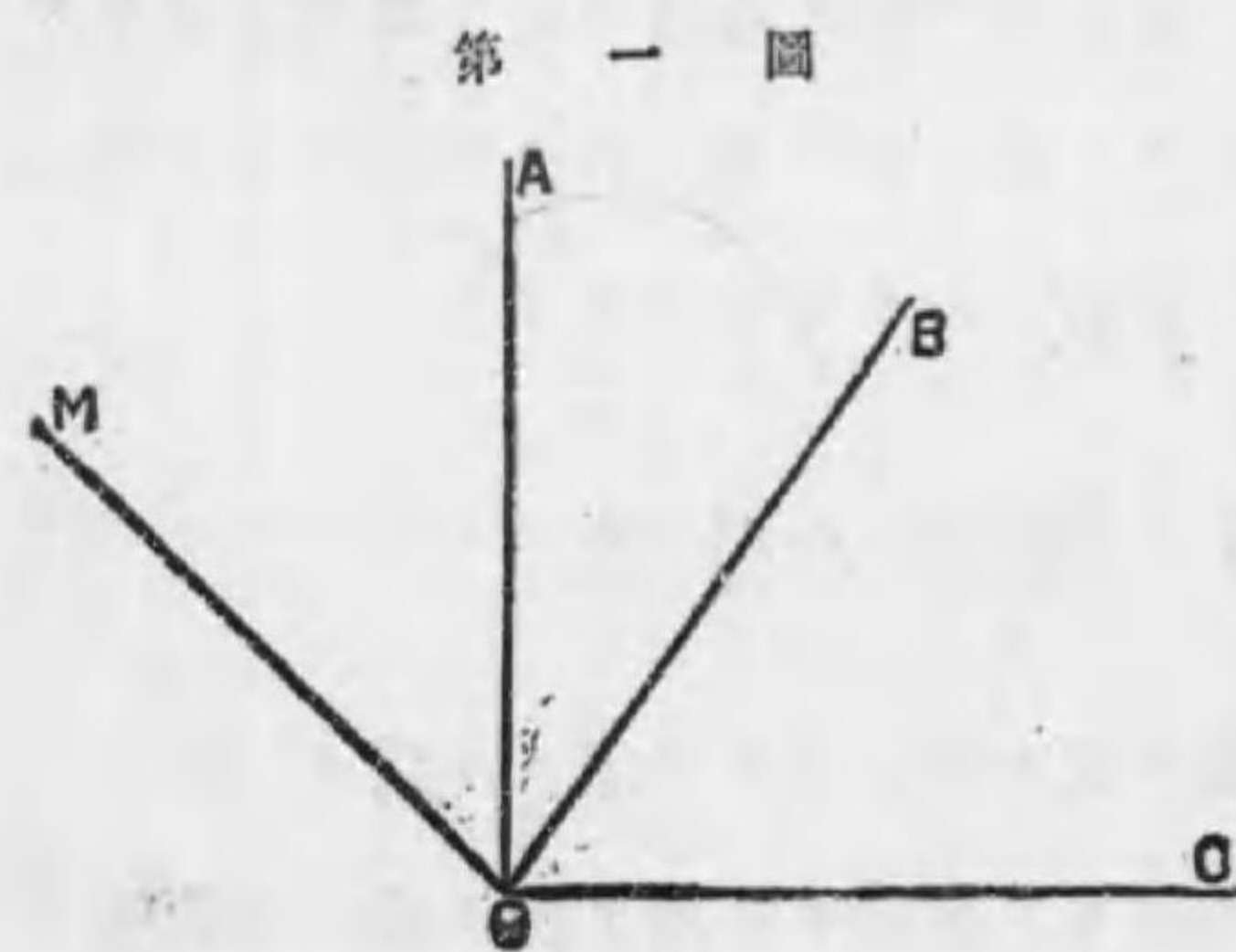
間ハズ理論上與ヘラレタル或嚴密ナル條件ニ從ハザル可カラザル如キ測量ナリ

例ヘバ平面三角形ニ於テハ三角形ノ三内角ノ和ハ180度ナラザル可カラザルガ如シ

第四. 獨立測量 獨立測量ハ直接測量タルト間接測量タルトヲ問ハズ嚴密ナル條件ニ從フコトヲ要セザル如キ測量ナリ

例ヘバ三角形ニ於テ二角ノ測定ハ獨立測量ナリ何トナレバ此二角ノ値ハ互ニ幾何學上ノ關係ヲ有セザレバナリ

以上ノ場合ヲ第一圖ニ就テ説明セン



今經緯儀ヲO點ニ据ヘAOB角及BOC角ヲ測ルトキハ此測量ハ何レモ直接測量ナリ

又假點Mヲ設ケMOA角, MOB角, MOC角ヲ測定シ之レヨリAOB角及BOC角

ヲ算出スルトキハ此AOB角及BOC角ノ測定ハ間接測量ナリ

$$\angle AOB = \angle MOB - \angle MOA$$

$$\angle BOC = \angle MOC - \angle MOB$$

而シテ直接又ハ間接ニ測定サルルモAOB角及BOC角ノ値ハ互ニ獨立ニシテ他ニ何等ノ關係ヲ有セザレドモAOB角, BOC角, AOC角ノ三角ヲ測ルトキハ此測量ハ條件附測量ナリ即チ $\angle AOB + \angle BOC = \angle AOC$ ナルコトノ幾何學上ノ條件ニ從ハザルベカラズ 從テ此條件ヲ満足スル角ノ値ヲ見出ササル可カラズ

又邊及角ヲ測定スル測量ハ直接測量ニシテ此邊及角ヨリ面積ヲ算出スルトキハ其面積ノ測定ハ間接測量ナリ

又或ル二邊ノミヲ考フルトキハ此レハ互ニ獨立ナレドモ若シ多角形ノ總テノ邊及角ヲ考フルトキハ製圖スル場合ニ圖ガ閉鎖セザル可カラザル條件アリ

第三節 測量ノ誤差

第一. 常數誤差或ハ(規則誤差)

常數誤差ハ既知ノ原因ヨリ生ジ測量ノ結果ヨリ除去シ得ベキ誤差ニシテ例ヘバ基線測量ニ於テ使用スル基線測器ノ長サニ溫度ノ影響ノ如キ物理的誤差アリ又基線測器ノ目盛ノ誤差ノ如キ器械的誤差アリ又二個ノ基線測器ヲ接觸スル毎ニ同一ノ誤ヲ爲スガ如キ測量者ノ習慣ニ因ル個人的誤差アリ. 常數誤差ハ此誤差ヲ生ズル原因ヲ知ルトキハ之ヲ除去シ得ル故ニ嚴格ニ言ヘバ誤差ナラズ. 故ニ測者ハ測量後ニ出來得ル限リ改正ヲ爲シテ常數誤差ヲ除去スベシ

第二. 過失誤差或ハ(大誤差)

過失誤差ハ測者ノ心理狀態ノ混亂ヨリ起ル誤差ニシテ熟練セル測者ニテモ時トシテハ爲ス誤差ナリ例ヘバ羅針盤ノ指針ヲ讀ムニ當リ 42° ヲ 58° ト讀ムコトアリ又角ヲ測ルトキニ誤リテ他ノ標尺ヲ見透スコトアリ. 此ノ如キ誤差ハ他ノ測量ト比較スレバ直ニ除去シ得ルモノナリ

第三. 偶然誤差或ハ(不規則誤差)

偶然誤差ハ總テノ常數誤差及過失誤差ヲ研究除去シタル後ニ尙殘存スル誤差ニシテ例ヘバ水準測量ニ於テ水準測器ノ急激ナル膨脹收

縮或ハ風ノ影響或ハ大氣中光線ノ屈折ヨリ起ル誤差ノ如シ此ノ如キ誤差ハ測者ノ觸覺及視覺ノ不完全即器械ヲ巧妙ニ取扱フヲ得ザルコト測標ノ中心ヲ見透シ得ザルコト、度盛ノ小區劃ヲ讀定シ得ザルコト、常ニ器械ヲ整正ニ保ツヲ得ザルコト等ヨリ起ルモノナリ此誤差ハ如何ニ注意シテ測量ヲナスモ起ルモノニシテ之ヲ除去スルハ最小自乘法ノ目的ナリ

此ノ如キ不規則ナル誤差ハ數學的考究ノ範圍ニ屬セザルガ如ク考ヘラルルモ實ニ驚ク可キ「ぶろばびりち」ノ法則ニ依リテ支配セララルルモノナリ

[參考] 本書ニ於テ誤差ト稱スルハ多數ノ原因ニヨリテ起リタル偶然誤差ニシテ測定セントスルモノノ眞値ト觀測値トノ差ナリ 故ニ今或角ノ眞値ヲ X トシ觀測値ヲ l_1, l_2, \dots, l_n 眞誤差ヲ $\epsilon_1, \epsilon_2, \dots, \epsilon_n$ トスレバ

$$\left. \begin{array}{l} X - l_1 = \epsilon_1 \\ X - l_2 = \epsilon_2 \\ X - l_3 = \epsilon_3 \\ \dots\dots\dots \\ X - l_n = \epsilon_n \end{array} \right\} \dots\dots\dots (1)$$

第四. 殘差

殘差トハ測定セントスルモノノ最モ確カラシキ値ト觀測値トノ差ナリ此最モ確カラシキ値ハ觀測値ニ最小自乘法ヲ適用シテ得ラルルモノナリ

例ヘバ一個ノ未知量ニ於ケル直接測定ノ如キ簡單ナル場合ニ於テハ最モ確カラシキ値ハ算術的平均數ナリ、

今殘差ヲ $v_1, v_2, v_3, \dots, v_n$ トシ測定セントスルモノノ最モ確カラシキ値ヲ x トシ觀測値ヲ l_1, l_2, \dots, l_n トスレバ

$$x = \frac{l_1 + l_2 + l_3 + \dots + l_n}{n} = \frac{[l]}{n} \dots\dots\dots (2)$$

$$\left. \begin{array}{l} x - l_1 = v_1 \\ x - l_2 = v_2 \\ x - l_3 = v_3 \\ \dots\dots\dots \\ x - l_n = v_n \end{array} \right\} \dots\dots\dots (3) \quad \text{ナリ}$$

而シテ測量ノ回數ガ多キ程最モ確カラシキ値ハ眞値 X ニ近ヅキ從ツテ殘差 (v) モ亦眞誤差 (ϵ) ニ近ヅクベシ故ニ精密ナル測量ヲ無限ニ反覆シタリト假定スルトキハ遂ニ x ハ X ト一致スルト同時ニ v ハ ϵ ト一致ス可シ

此理ニ由テ觀測ノ回數ガ多クナルニ從ヒ殘差ト眞誤差トノ差ハ次第ニ僅小トナリテ遂ニ此兩者ヲ同一ノ法則ニテ支配スルヲ得ルニ至ル故ニ殘差ヲ殘差誤差ト稱スルコトアリ、

第四節 「ぶろばびりち」ノ原理

數學上ニ於テ「ぶろばびりち」ナル語ハ1ヨリ小ナル數ヲ意味ス即チ或ル事柄ガ現ハル、場合ノ度數或ハ現ハレザル場合ノ度數ト總可能的場合ノ度數トノ比ニシテ常ニ1ヨリ小ナル數ナリ

例ヘバ一個ノ銅貨ヲ投ゲルトキニ之ニ二ツノ可能的場合アリ即チ表面或ハ裏面ガ出ヅ而シテ表面ガ出ルト裏面ガ出ルトハ其間ニ何等軒輕ナシ故ニ表面ガ出ル「ぶろばびりち」ハ $\frac{1}{2}$ ニシテ裏面ガ出ル「ぶろばびりち」モ亦 $\frac{1}{2}$ ナリ

又一個ノ賽目ヲ投ゲルトキニ一様ニ起ルベキ六ツノ場合アリ而シ

テ一度試ミテ1ガ出ル「ぶろばびりち」ハ $\frac{1}{6}$ ニシテ1ガ出デザル「ぶろばびりち」ハ $\frac{5}{6}$ ナリ

一般ニ或ル事柄ガa度現ハレb度現ハレズシテ其間ニ何等軒輕ナキトキハ此事柄ガ現ハル「ぶろばびりち」ハ $\frac{a}{a+b}$ ニシテ此事柄ガ現ハレザル「ぶろばびりち」ハ $\frac{b}{a+b}$ ナリ

故ニ「ぶろばびりち」ハ常ニ分數ニテ示サレ或事柄ノ現ハレ或ハ現ハレザルノ信用ノ度ヲ計ルモノナリ。而シテ其値ハ0ヨリ1迄ノ間ニ在リ

若シ此分數ガ0ナレバ事柄ノ全ク現レザルコトヲ意味シ

此分數ガ $\frac{1}{2}$ ナレバ事柄ガ現ハルル機會ト現ハレザル機會トハ同數ナルコトヲ意味シ此分數ガ1ナレバ事柄ガ確ニ現ハル、コトヲ意味ス

故ニ1ハ確實ナルコトヲ示ス數學上ノ記號ナリ。而シテ或ル事柄ハ現ハル、カ或ハ現ハレザルカ何レカナルヲ以テ此兩者ノ「ぶろばびりち」ノ和ハ1ナリ

故ニPヲ或事柄ノ現ハル「ぶろばびりち」トスレバ1-Pハ此事柄ノ現ハレザル「ぶろばびりち」ナリ

例ヘバ抽籤ニ於テ當籤スル「ぶろばびりち」ガ $\frac{1}{2000}$ ナレバ當籤セザル「ぶろばびりち」ハ $\frac{1999}{2000}$ ナリ

單獨事柄 單獨事柄ハ或ル事柄ガ獨立ノ方法ニ於テ現ハルルモノナリ而シテ其事柄ガ種々ノ獨立ノ方法ニ於テ現ハル、時ハ其レノ現ハルル「ぶろばびりち」ハ種々ノ獨立ノ場合ニ於テ現ハル「ぶろばびりち」ノ總和ナリ即チ或ル事柄ガ a_1 場合ニ於テ現ハレ又 a_2 場合ニ於テ現レ其總場合ガcアレバ其現ハルル「ぶろばびりち」ハ

$\frac{a_1+a_2}{c}$ ニシテ之レハ種々ノ獨立ノ場合ニ於テ現ハル「ぶろばびりち」 $\frac{a_1}{c}$ 及 $\frac{a_2}{c}$ ノ和ニ等シ

例ヘバ今1個ノ袋ノ内ニ

赤球 20	}	アリトシ此内ノ一球ヲ取出
白球 16		
黒球 14		
計 50		

ストキニ赤球ヲ取出ス「ぶろばびりち」ハ $\frac{20}{50}$
 白球ヲ取出ス「ぶろばびりち」ハ $\frac{16}{50}$
 黒球ヲ取出ス「ぶろばびりち」ハ $\frac{14}{50}$

赤球或ハ黒球何レカ一球ヲ取出ス「ぶろばびりち」ハ $\frac{20}{50} + \frac{14}{50} = \frac{34}{50}$ ナリ

集合事柄 集合事柄ハ獨立シタル種々ノ事柄ノ同時ニ現ハルルモノニシテ例ヘバ一度ニ三個ノ賽目ヲ投ジテ三面ヲ出スコトハ三個ノ事柄ノ集合ヨリ生ズル集合事柄ナリ

故ニ測量ニ於ケル誤差ハ多數且ツ偶然ニ起ル總テノ小サキ獨立誤差ノ集合ヨリ生ズル集合事柄トシテ考ヘラレ得ルモノナリ而シテ集合事柄ノ現ハル「ぶろばびりち」ハ多數ノ單獨事柄ノ現ハル「ぶろばびりち」ノ相乘積ナリ何トナレバ今爰ニ二個ノ袋アリテ

第一ノ袋ノ内ニハ

黒球 7個	}	合計 16個アリ
白球 9個		

第二ノ袋ノ内ニハ

黒球 4個	}	合計 15個アリ
白球 11個		

第一ノ袋ヨリ黒球ヲ取出ス「ぶろばびりち」ハ $\frac{7}{16}$ ニシテ

第二ノ袋ヨリ黒球ヲ取出ス「ぶろばびりち」ハ $\frac{4}{15}$ ナリ

而シテ同時ニ兩方ノ袋ヨリ黒球ヲ1個宛合計2個ヲ取出ス集合事柄ノ「ぶろばびりち」ハ次ノ如シ

第一ノ袋内ノ各球ハ第二袋内ノ各球ト對ヲナスヲ以テ二個ノ球ヲ取出ス組合セハ總計 $16 \times 15 = 240$ アリ而シテ第一袋内ノ七黒球ノ各々ハ第二袋内ノ四黒球ノ各々ト對ヲナシ得ル故ニ二個ノ黒球ヲ取出シ得ル場合ハ $7 \times 4 = 28$ ナリ。故ニ二個ノ袋ヨリ同時ニ2黒球ヲ取出ス「ぶろばびりち」ハ $\frac{7 \times 4}{16 \times 15} = \frac{7 \times 4}{16 \times 15}$ ニシテ之レ二個ノ獨立事柄ノ「ぶろばびりち」ノ相乗積 $\frac{7}{16} \times \frac{4}{15} = \frac{7 \times 4}{16 \times 15}$ ニ等シ

一般ニ二個ノ事柄アリテ其第一事柄ハ a_1 場合ニ於テ現ハレ b_1 場合ニ於テ現ハレズ第二事柄ハ a_2 場合ニ於テ現ハレ b_2 場合ニ於テ現ハレズトス即チ

第一事柄 $\left\{ \begin{array}{l} \text{現ハル、場合 } a_1 \\ \text{現ハレザル場合 } b_1 \end{array} \right\}$ 合計 $(a_1 + b_1)$ 場合

第二事柄 $\left\{ \begin{array}{l} \text{現ハル、場合 } a_2 \\ \text{現ハレザル場合 } b_2 \end{array} \right\}$ 合計 $(a_2 + b_2)$ 場合

而シテ $(a_1 + b_1)$ 場合中ノ各場合ハ $(a_2 + b_2)$ 場合中ノ各場合ト組合セ得ル故ニ二個ノ事柄ノ組合セノ總場合ハ $(a_1 + b_1)(a_2 + b_2) = a_1 a_2 + a_1 b_2 + a_2 b_1 + b_1 b_2$ ニシテ此總場合ノ内ニテ $a_1 a_2$ 場合ハ兩事柄ノ現ハル、場合、 $b_1 b_2$ 場合ハ兩事柄ノ現ハレザル場合、 $a_1 b_2$ 場合ハ第一事柄ノ現ハレ第二事柄ノ現ハレザル場合、 $a_2 b_1$ 場合ハ第一事柄ガ現ハレズ第二事柄ガ現ハル、場合ナリ 故ニ集合事柄ノ「ぶろばびりち」ハ次ノ如シ

兩事柄ガ現ハル、「ぶろばびりち」ハ

$$\frac{a_1 a_2}{(a_1 + b_1)(a_2 + b_2)} = \frac{a_1}{a_1 + b_1} \times \frac{a_2}{a_2 + b_2}$$

兩事柄ガ現ハレザル「ぶろばびりち」ハ

$$\frac{b_1 b_2}{(a_1 + b_1)(a_2 + b_2)} = \frac{b_1}{a_1 + b_1} \times \frac{b_2}{a_2 + b_2}$$

第一事柄ガ現ハレ第二事柄ガ現ハレザル「ぶろばびりち」ハ

$$\frac{a_1 b_2}{(a_1 + b_1)(a_2 + b_2)} = \frac{a_1}{a_1 + b_1} \times \frac{b_2}{a_2 + b_2}$$

第一事柄ガ現ハレズ第二事柄ガ現ハル、「ぶろばびりち」ハ

$$\frac{a_2 b_1}{(a_1 + b_1)(a_2 + b_2)} = \frac{a_2}{a_1 + b_1} \times \frac{b_1}{a_2 + b_2}$$

此等ノ「ぶろばびりち」ノ各々ハ獨立事柄ノ「ぶろばびりち」ノ相乗積ナル故ニ前述ノ如ク集合事柄ノ現ハル、「ぶろばびりち」ハ多數ノ獨立事柄ノ「ぶろばびりち」ノ相乗積ナリ

而シテ此理ハ三個以上ノ事柄ノ場合ニモ適用スルヲ得可シ故ニ若シ4個ノ事柄アリテ P_1, P_2, P_3 及 P_4 ヲ其現ハル、「ぶろばびりち」トスレバ總テノ事柄ノ現ハル「ぶろばびりち」ハ $P_1 P_2 P_3 P_4$ 總テノ事柄ノ現ハレザル「ぶろばびりち」ハ

$$(1 - P_1)(1 - P_2)(1 - P_3)(1 - P_4)$$

第一事柄ガ現ハレ他ノ三事柄ガ現ハレザル「ぶろばびりち」ハ $P_1(1 - P_2)(1 - P_3)(1 - P_4)$ ナリ而シテ多數ノ事柄ノ中最モ現ハレ易キ事柄ハ數學的ノ最大ナル「ぶろばびりち」ヲ有スルモノナリ

例ヘバ二個ノ銅貨ヲ同時ニ投グルトキハ三個ノ集合事柄ノ場合アリテ其「ぶろばびりち」ハ次ノ如シ

1. 二個共表面ノ出ル場合ニシテ其「ぶろばびりち」ハ $\frac{1}{4}$

2. 一個表面一個裏面ノ出ル場合ニシテ其「ぶろばびりち」ハ $\frac{2}{4}$
 $= \frac{1}{2}$

3. 二個共裏面ノ出ル場合ニシテ其「ぶろばびりち」ハ $\frac{1}{4}$

故ニ一個ガ表面他ノ一個ガ裏面ノ出ル場合ハ最大ノ「ぶろばびりち」ヲ有シ三個ノ集合事柄中ニテ最モ現ハレ易シ又三個ノ場合ノ「ぶろばびりち」ノ和ハ $\frac{1}{4} + \frac{1}{2} + \frac{1}{4} = 1$ ナリ之レ此三個ノ集合事柄中ノ一個ハ必ラズ現ハル、故ニ三個ノ場合ノ「ぶろばびりち」ノ和ハ 1 ナラザルベカラズ或ル距離ヲ四回測量シテ其値ガ 720.2尺、720.3尺、720.4尺、720.5尺ナレバ其算術的平均値ハ 720.35尺ニシテ之レ一般ニ此距離ノ最モ確カラシキ値ト見做サル而シテ此算術的平均値ノ「ぶろばびりち」ガ他ノモノヨリ大ナルコトハ第三章ニ在リ

次ニ獨立ノ事柄ヨリ成ル集合事柄ノ場合ヲ考ヘン

Pヲ或ル事柄ノ現ハル、「ぶろばびりち」Qヲ其事柄ノ現ハレザル「ぶろばびりち」トスレバ $P+Q=1$

此ノ如キ事柄ガ n 個アレバ總テノ事柄ノ現ハル、「ぶろばびりち」ハ $P \cdot P \cdot P \dots P = P^n$

n 個ノ中 (n-1) 個ガ現ハレ1 個ガ現ハレザル「ぶろばびりち」ハ $P^{n-1}Q$ ニシテ此場合ハ n アル故ニ一般ニ (n-1) 個ガ現ハレ1 個ガ現ハレザル「ぶろばびりち」ハ $nP^{n-1}Q$ ナリ 同様ニ (n-2) 個ガ現ハレ2 個ガ現ハレザル「ぶろばびりち」ハ $P^{n-2}Q^2$ ニシテ此場合ハ $\frac{n(n-1)}{2}$ アル故ニ一般ニ (n-2) 個ガ現ハレ2 個ガ現ハレザル「ぶろばびりち」ハ $\frac{n(n-1)}{2}P^{n-2}Q^2$ ナリ

$(P+Q)^n$ ヲ二項定理ニ依リ展開スレバ

$$(P+Q)^n = P^n + nP^{n-1}Q + \frac{n(n-1)}{1 \cdot 2}P^{n-2}Q^2 + \dots + \frac{n(n-1)(n-2)\dots(n-m+1)}{1 \cdot 2 \cdot 3 \dots m}P^{n-m}Q^m + \dots + Q^n$$

第一項ハ n 個ガ現ハル、「ぶろばびりち」

第二項ハ n-1 個ガ現ハレ1 個ガ現ハレザル「ぶろばびりち」

第(m+1)項ハ(n-m)個ガ現ハレm個ガ現ハレザル「ぶろばびりち」

故ニ最モ現ハレ易キ場合ヲ定ムルニハ此等ノ項ノ中ニテ最大ナル項ヲ見出スコト必要ナリ

銅貨ヲ投グル場合ハ $P=Q=\frac{1}{2}$ ニシテ此時ノ各項ハ次ノ如シ

$$\left(\frac{1}{2}\right)^n + n\left(\frac{1}{2}\right)^{n-1} + \frac{n(n-1)}{1 \cdot 2}\left(\frac{1}{2}\right)^{n-2} + \frac{n(n-1)(n-2)}{1 \cdot 2 \cdot 3}\left(\frac{1}{2}\right)^{n-3} + \dots + \left(\frac{1}{2}\right)^n$$

n ガ偶數ナレバ中央ノ項ガ最大ニシテ

n ガ奇數ナレバ中央ノ二項ガ相等シク最大ナリ

今 n=6 トスレバ

$$\begin{aligned} & \left(\frac{1}{2}\right)^6 + 6\left(\frac{1}{2}\right)^5 + \frac{6(6-1)}{1 \cdot 2}\left(\frac{1}{2}\right)^4 + \frac{6(6-1)(6-2)}{1 \cdot 2 \cdot 3}\left(\frac{1}{2}\right)^3 \\ & + \frac{6(6-1)(6-2)(6-3)}{1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot 4}\left(\frac{1}{2}\right)^2 + \frac{6(6-1)(6-2)(6-3)(6-4)}{1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5}\left(\frac{1}{2}\right) \\ & + \frac{6(6-1)(6-2)(6-3)(6-4)(6-5)}{1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5 \cdot 6}\left(\frac{1}{2}\right) = \frac{1}{64} + \frac{6}{64} + \frac{6 \times 5}{2 \times 64} + \frac{6 \times 5 \times 4}{1 \cdot 2 \cdot 3} \\ & \times \frac{1}{64} + \frac{6 \times 5 \times 4 \times 3}{1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot 4} \times \frac{1}{64} + \frac{6 \times 5 \times 4 \times 3 \times 2}{1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5} \times \frac{1}{64} + \frac{6 \times 5 \times 4 \times 3 \times 2 \times 1}{1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5 \cdot 6} \\ & \times \frac{1}{64} = \frac{1}{64} + \frac{6}{64} + \frac{15}{64} + \frac{20}{64} + \frac{15}{64} + \frac{6}{64} + \frac{1}{64} \end{aligned}$$

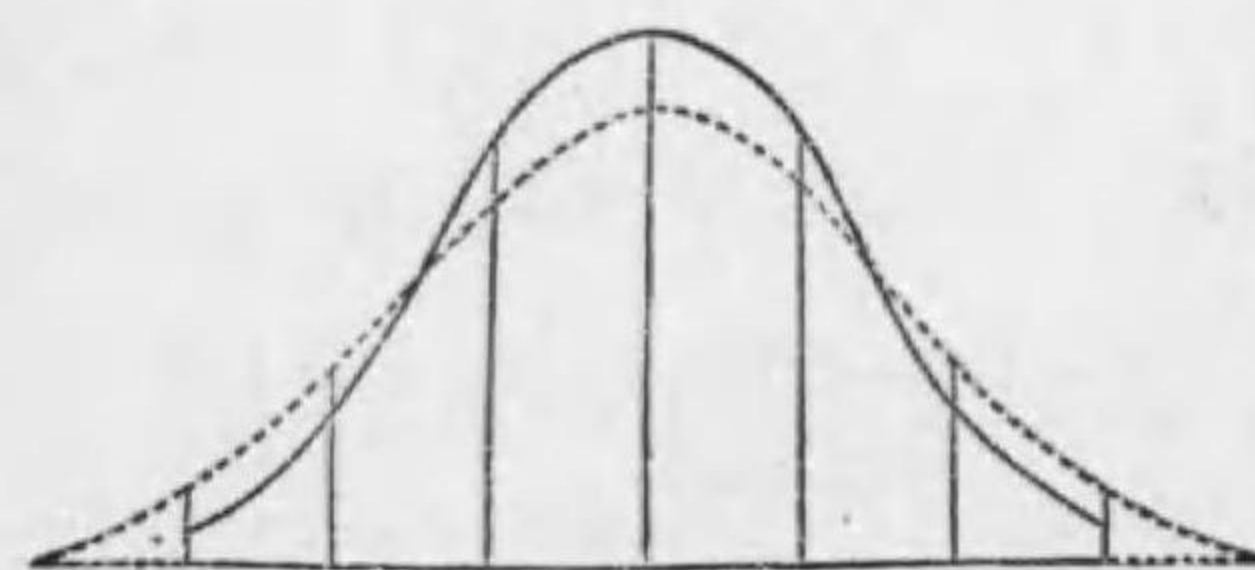
故ニ 6 個ノ銅貨ヲ投ゲタルトキニ現ハル、種々ノ場合ノ「ぶろばびりち」ハ次ノ如シ

六個共表面ノ出ル場合ノ「ぶろばびりち」	$\frac{1}{64}$
五個表面出デ一個裏面出ル場合ノ「ぶろばびりち」	$\frac{6}{64}$
四個表面出デ二個裏面出ル場合ノ「ぶろばびりち」	$\frac{15}{64}$
三個表面出デ三個裏面出ル場合ノ「ぶろばびりち」	$\frac{20}{64}$
二個表面出デ四個裏面出ル場合ノ「ぶろばびりち」	$\frac{15}{64}$
一個表面出デ五個裏面出ル場合ノ「ぶろばびりち」	$\frac{6}{64}$
六個共裏面ノ出ル場合ノ「ぶろばびりち」	$\frac{1}{64}$
總 計	1

圖 解

六個ノ銅貨ヲ投ゲタル場合ニ現ハル、~~七個~~ノ場合ノ「ぶろばびりち」ノ値ヲ圖ニ示セバ次ノ如シ

第 二 圖



水平線ヲ六等分シ其等分點ヨリ各「ぶろばびりち」
 $\frac{1}{64}, \frac{6}{64}, \frac{15}{64}, \frac{20}{64}, \frac{15}{64}, \frac{6}{64}$
 $\frac{1}{64}$ ニ比例シテ縦線ヲ立テ

其先端ヲ連絡スルトキハ第二圖ノ實線ヲ得.

又八個ノ銅貨ヲ投ゲタル場合ニ現ハル、九個ノ場合ノ「ぶろばびりち」ノ値ハ次ノ如シ

$$(P+Q)^8 = \left(\frac{1}{2} + \frac{1}{2}\right)^8 = \left(\frac{1}{2}\right)^8 + 8\left(\frac{1}{2}\right)^7 + \frac{8 \times 7}{1 \cdot 2} \left(\frac{1}{2}\right)^6 + \frac{8 \times 7 \times 6}{1 \cdot 2 \cdot 3} \left(\frac{1}{2}\right)^5 + \frac{8 \times 7 \times 6 \times 5}{1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot 4} \left(\frac{1}{2}\right)^4 + \frac{8 \times 7 \times 6 \times 5 \times 4}{1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5} \left(\frac{1}{2}\right)^3 + \dots$$

$$+ \frac{8 \times 7 \times 6 \times 5 \times 4 \times 3}{1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5 \cdot 6} \left(\frac{1}{2}\right)^2 + \frac{8 \times 7 \times 6 \times 5 \times 4 \times 3 \times 2}{1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5 \cdot 6 \cdot 7} \left(\frac{1}{2}\right)^1 + \frac{8 \times 7 \times 6 \times 5 \times 4 \times 3 \times 2 \times 1}{1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5 \cdot 6 \cdot 7 \cdot 8} \left(\frac{1}{2}\right)^0$$

$$= \frac{1}{256} + \frac{8}{256} + \frac{28}{256} + \frac{56}{256} + \frac{70}{256} + \frac{56}{256} + \frac{28}{256} + \frac{8}{256} + \frac{1}{256}$$

此値ヲ圖ニ示セバ第二圖點線ノ如シ

此曲線ハ測量ノ誤差ノ現ハルル「ぶろばびりち」ノ法則ヲ表ハス。曲線ニ酷似ス。

第二章

誤差ノ「ふるばびりち」ノ法則

第一節 總 說

測量ニ於テ或ル大サノ偶然誤差ガ現ハルハ「ふるばびりち」ハ其大サノ誤差ノ數ガ誤差ノ總數ニ對スル割合ナリ

即チ 偶然誤差ノ「ふるばびりち」 $= \frac{\text{其大サノ誤差ノ數}}{\text{誤差ノ總數}}$
次ニ誤差ノ大サト其「ふるばびりち」ノ關係ヲ研究セン。

第二節 經驗ヨリ得タル定理

熟練ナル射手ガ銃ヲ撃ツトキニ重力ノ影響ノ如キ規則誤差ヲ除去スレバ誤差ハ全ク規則正シク且對稱的ニ現ハルハコトガ認めラル即チ

1. 小ナル誤差ハ大ナル誤差ヨリ多ク現ハルハコト
2. 誤差ハ水平規線ノ上下兩側ニ略ボ同様ニ現ハルコト
3. 非常ニ大ナル誤差ハ現ハレザルコト

例ヘバ 600 尺ノ距離ニ在ル長サ 52 尺高サ 11 尺ノ射的ノ中央水平線ヲ規ヒ彈丸千個ヲ發射セシニ千發共射的ニ當リタレドモ其位置同ジカラズ。今射的ノ高サヲ十一等分シテ水平線ヲ引キ此部分ノ各々ニ當リシ彈丸ノ數ヲ數ヘシニ次ノ如シ

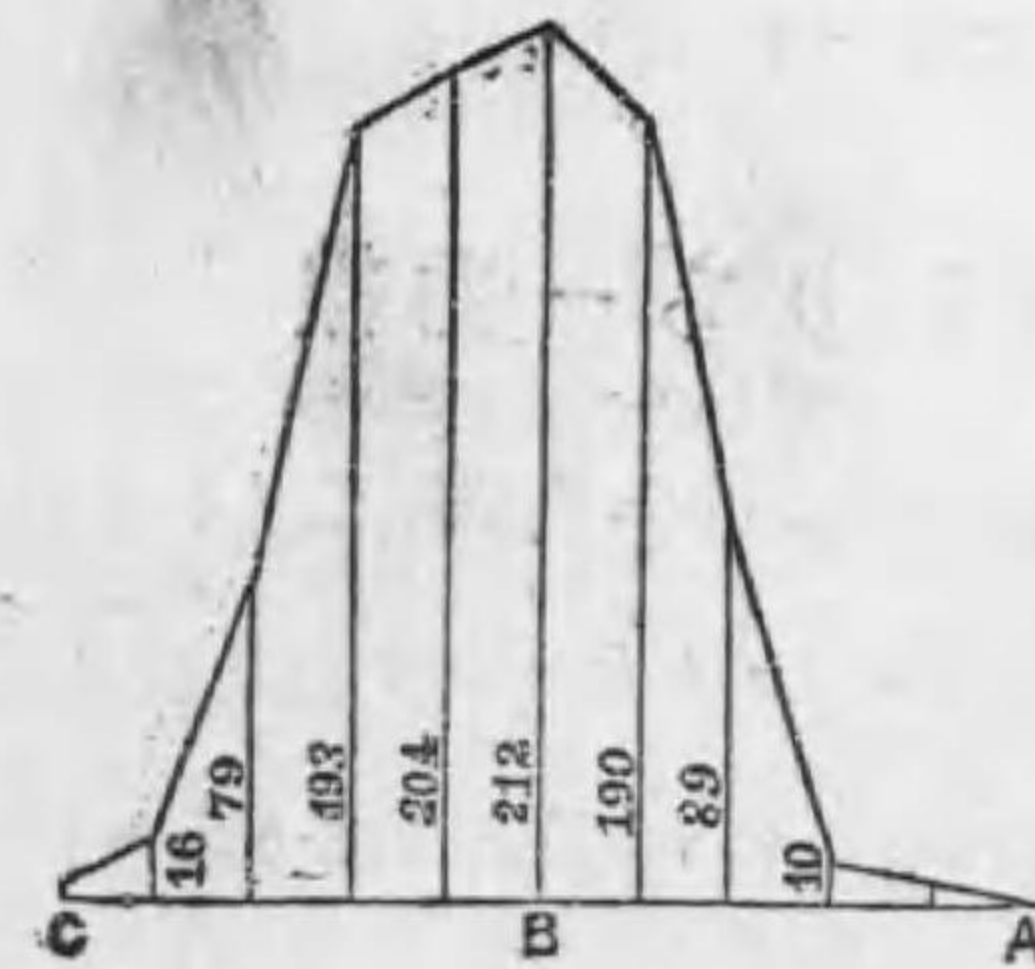
最上部ニ當リシ彈丸數..... 1

第二部ニ當リシ彈丸數.....	4
第三部ニ當リシ彈丸數.....	10
第四部ニ當リシ彈丸數.....	89
第五部ニ當リシ彈丸數.....	190
第六部ニ當リシ彈丸數.....	212
第七部ニ當リシ彈丸數.....	204
第八部ニ當リシ彈丸數.....	193
第九部ニ當リシ彈丸數.....	79
第十部ニ當リシ彈丸數.....	16
最下部ニ當リシ彈丸數.....	2

總 計 1000

此數ヲ縱線トシテ圖示スルトキハ彈丸ノ分配ノ状態ハ第三圖ノ如シ 圖ニ於テ A ハ射的ノ最上部 Bハ中央部 Cハ最下部ナリ 而シテ彈丸ハ上部ヨリモ下部ニ多ク當レルヲ見ル之レ重力ノ爲メ起ル規則誤差ニシテ銃ニテ規フトキニ全ク除クヲ得ザルモノナリ。

第 三 圖



直接測量ノ場合ニ於テ誤差ノ分布ハ上述ノ規ヒ外レノ彈丸ノ分布ニ等シ例ヘバ合衆國ニ於ケル一等三角測量ノ角ノ百回ノ測量結果ニ依リ其最モ確カラシキ値ヨリ各觀測值ヲ減ジテ殘差誤差ヲ作り之ヲ大サニ依リ分類スルトキハ次ノ如シ

+6.0" 乃至 +5.0"	1 個	} 47 個
+5.0" " +4.0"	2 "	
+4.0" " +3.0"	2 "	
+3.0" " +2.0"	3 "	
+2.0" " +1.0"	13 "	
+1.0" " 0.0"	26 "	} 53 個
0.0" " -1.0"	26 "	
-1.0" " -2.0"	17 "	
-2.0" " -3.0"	8 "	
-3.0" " -4.0"	2 "	
總 計	100 個	

此結果ニ依レバ小ナル誤差ハ大ナル誤差ヨリモ多ク現ハレ正及負ノ誤差ノ數ハ殆ンド相等シク非常ニ大ナル誤差ハ現ハレザルヲ知ル又此場合ノ最大ナル誤差ハ 5.0" ナリキ

然レドモ測量ノ方法ガ粗雜ナルトキハ誤差ノ限界ハ此結果ヨリモ廣クナルベシ。故ニ經驗ヨリ得タル定理ハ次ノ如シ

- 第一. 小ナル誤差ハ大ナル誤差ヨリモ多ク現ハルコト
 - 第二. 正及負ノ誤差ノ數ハ同様ニ現ハルコト
 - 第三. 非常ニ大ナル誤差ハ現ハレザルコト
- 以上ノ定理ハ以下述ブル理論ノ基礎ナリ

第三節 「ぶろばびりち」曲線

精密ナル測量ニ於テハ小ナル誤差ノ現ハル「ぶろばびりち」ハ大ナル誤差ノ現ハル「ぶろばびりち」ヨリ大ニシテ正及負ノ誤差ハ同様ニ現ハレ非常ニ大ナル誤差ノ現ハル「ぶろばびりち」ハ零ナリ

此非常ニ大ナルトノ語ハ意味漠然ナル如キモ特別ノ場合ニ於テ考

フルトキハ明カナリ。例ヘバ 1 秒迄讀定シ得ベキ經緯儀ヲ使用スルトキハ 20 秒ノ誤差ハ非常ニ大ニシテ 1 分迄讀定シ得ベキ經緯儀ヲ使用スルトキハ 5 分ノ誤差ハ非常ニ大ナリ。測量ニ於テハ限界アリ今 l ヲ限界トスレバ

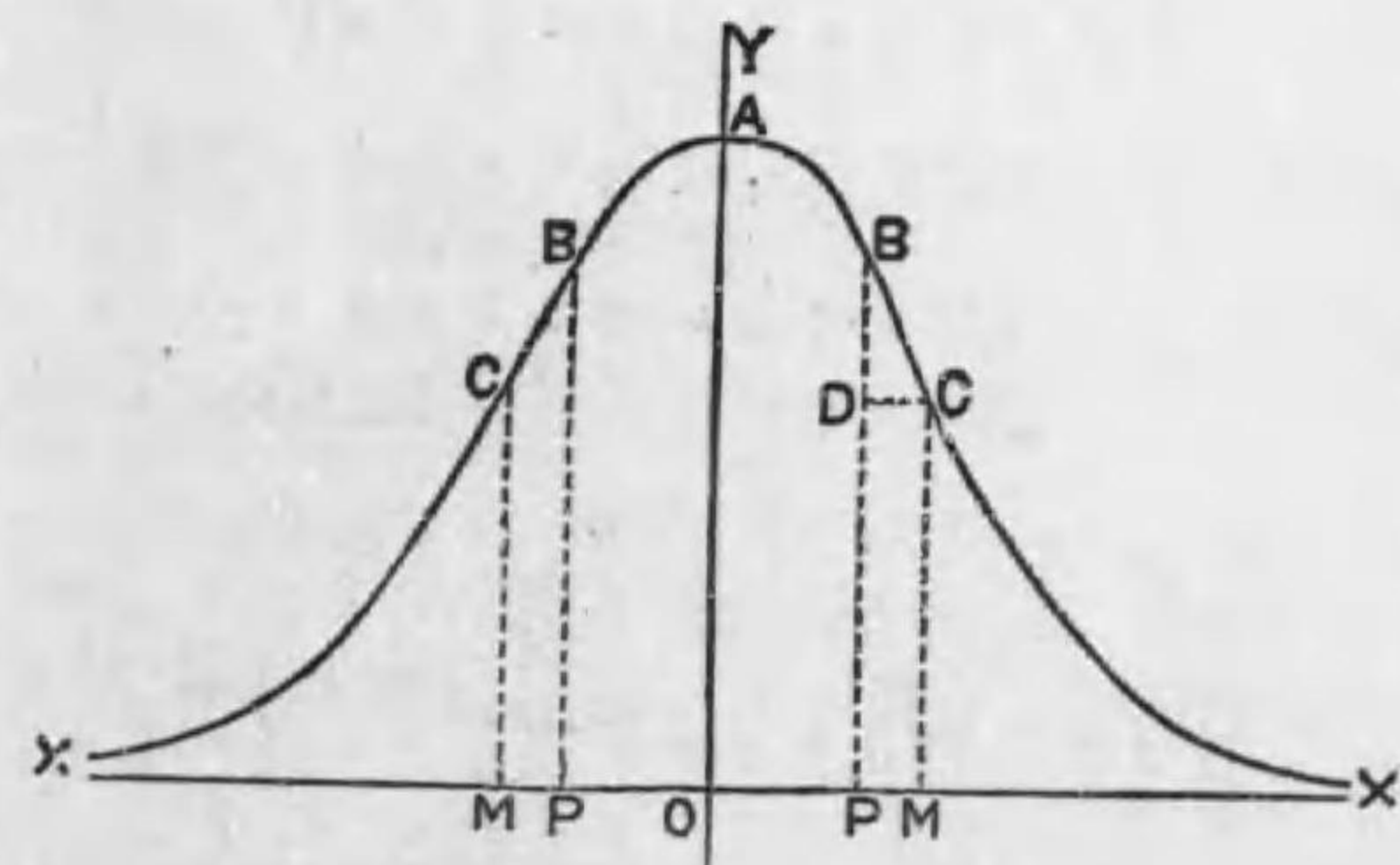
正誤差ハ $0 \text{---}(+l)$ ノ間ニ在リ

負誤差ハ $0 \text{---}(-l)$ ノ間ニ在リ

故ニ誤差ノ現ハル「ぶろばびりち」ハ其誤差ノ函數ナリ今 x ヲ或ル誤差トシ y ヲ其「ぶろばびりち」トスレバ誤差ノ「ぶろばびりち」ノ法則ハ $y=f(x)$ ナル式ニテ示スヲ得ル故ニ $f(x)$ ノ形狀ヲ見出セバ之ヲ決定スルヲ得可シ

今 y ヲ縱距トシ x ヲ横距トスレバ此曲線式ハ前述ノ三個ノ基礎定理ト一致スル形狀ノ曲線式ナラザルベカラズ即チ其ノ最大縱距 OA ハ誤差 0 ト一致シ又同大ノ正負誤差ハ同様ニ現ハレ得ル故ニ此曲線ハ對稱的ナリ又 x ノ絶對値ガ増加スルニ隨ヒ y ノ値ハ次第ニ減少シ x ガ非常ニ大ニナレバ y ハ 0 トナラザルベカラズ故ニ此曲線ハ第四圖ニ示ス如キ形狀ノ曲線ニシテ OP 及 OM ハ誤差ニシテ PB 及

第 四 圖



MC ハ夫々其「ぶろばびりち」ナリ

而シテ其精密ノ度等シカラザル測量ハ各自ニ異ル曲線ヲ有ス可シ此ノ如キ曲

線ヲ「ぶろばびりち」曲線ト云フ

此曲線ノ方程式ヲ定ムルニハ y ヲ x ノ連続函数トシテ考フルコト必要ナリ之レ測量ガ精密ナルトキハ誤差ノ連續値ノ差ハ小トナルヲ以テナリ

又其限界 ($\pm l$) ヨリ大ナル x ノ値ニ對シテ y ノ値ガ 0 トナラザル可カラザル第三ノ定理ハ不合理ナルガ如ク見ユ何トナレバ $x = \pm l$ ノトキニ 0 トナリ且又 $\pm l$ ヨリ $\pm \infty$ ニ至ル間ノ x ノ總テノ値ニ對シ 0 トナル可キ y ノ連續函数ヲ定ムルヲ得ザル故ナリ

然レドモ此限界 l ハ精密ニ定ムルヲ得ザル故ニ限界ヲ $\pm \infty$ 迄擴ムルヲ宜シトス 而シテ y ノ値ハ x ノ大ナル値ノ場合ニ全ク 0 トナラザルモ實際ニ於テハ計算ニ入レザルモ可ナル程度ノ非常ニ小ナル値トナル如ク曲線ヲ定ムレバ可ナリ

此「ぶろばびりち」曲線式ハ測量ノ誤差ノ現ハル「ぶろばびりち」ノ法測ヲ數學的ニ示スモノナリ

此法則ヲ導クニハ一げん氏法及がらす氏法ノ二法アリ

第四節 は一げん氏法

は一げん氏法ハ經驗ヨリ得タル假設ヨリ來タルモノニシテ其假設トハ即チ測量誤差ハ正負何レニモナリ得ベキ同大ノ小ナル誤差 (元誤差) ガ非常ニ多數集合 (代數的和) シテ成レルモノナリト云フニ在リ此説明ハ次ノ如シ

今水準測器及照尺ヲ用キテ二點間ノ高低差ヲ測定シ h ナル値ヲ得タリト假定セヨ. 此値ハ眞ノ高低差ヨリ x ナル誤差ダケ異ルモノナリ而シテ此 x ナル誤差ハ測量ニ於ケル多數ノ原因ノ結果ナリ

例ヘバ水準器ガ完全ニ水平ナラズ或ハ風ガ器械ヲ動カシ或ハ太陽ノ熱ガ器械ノ一側面ヲ膨脹セシメ或ハ水準器ノ氣泡ガ精密ナラズ或ハ玻璃ノ質不良ニシテ指度判明ナラズ或ハ三脚ガ固定セズ, 或ハ測者ノ眼ガ完全ナラズ或ハ大氣ニ不規則ナル屈折アリ或ハ照尺ガ垂直ニ立タズ或ハ照尺ノ目盛正シカラズ或ハ視的ガ適當ニ固定セラレズ或ハ讀度ノ不正確其他種々ノ原因ガ集リテ x ナル誤差ヲ生ゼシナリ而シテ此等ノ各原因モ亦多數ノ原因ノ集合ヨリ成ルモノニテ例ヘバ照尺ヲ讀ムトキノ誤差ハ多數ノ原因ガ集合シテ生ジタルモノナリ故ニ測量誤差 x ハ多數ノ小ナル誤差ノ集合ヨリ成ルモノト考ヘラル, 而シテ此等ノ誤差ハ正負何レニモナリ得ルモノナリ

正元誤差ノ數ガ負元誤差ノ數ト略ボ同數ナルコトハ正元誤差ノ數ガ負元誤差ノ數ヨリ非常ニ多クナリ或ハ非常ニ少クナルコトヨリモ有リ得ベキコトナリ又總テノ元誤差カ正トナリ或ハ負トナルコトノ「ぶろばびりち」ハ非常ニ小ナリ

第一ノ場合即チ正及負ノ元誤差ノ數ガ略同數トナル場合ニ於テハ實際ノ誤差ハ非常ニ小ナリ

第二ノ場合即チ總テノ元誤差ガ正或ハ負ナル場合ニ於テハ實際ノ誤差ハ大ナリ. 故ニ小ナル誤差ノ現ハル「ぶろばびりち」ハ最大ニシテ大ナル誤差ノ現ハル「ぶろばびりち」ハ最小ナリ之レ「ぶろばびりち」曲線ノ有スベキ性質ニ一致ス今 Δx ヲ元誤差ノ大サトシ Δx ガ正トナル「ぶろばびりち」ハ $\frac{1}{2}$ ニシテ Δx ガ負トナル「ぶろばびりち」モ亦 $\frac{1}{2}$ ナリ故ニ n 個ノ元誤差ガ總テ正トナル「ぶろばびりち」ハ $\left(\frac{1}{2}\right)^n$ ニシテ $(n-1)$ 個ノ元誤差ガ正トナリ 1 個ノ元

誤差ガ負トナル「ぶろばびりち」ハ $n\left(\frac{1}{2}\right)^{n-1}\left(\frac{1}{2}\right)^1$ ナリ以下順次各場
 合ニ於ケル「ぶろばびりち」ハ二項定理ノ項ニ同シ即チ n 個ノ元誤
 差ガ總テ正ナルトキハ誤差ノ大サハ $+n\Delta x$, $(n-1)$ 個ノ元誤差ガ正
 ニシテ 1 個ノ元誤差ガ負ナルトキハ誤差ノ大サハ $(n-1)\Delta x - \Delta x =$
 $(n-2)\Delta x$, $(n-m)$ 個ノ元誤差ガ正ニシテ m 個ノ元誤差ガ負ナルトキ
 ハ誤差ノ大サハ $(n-m)\Delta x - m\Delta x = (n-2m)\Delta x$ ニシテ此誤差ノ現
 ハル「ぶろばびりち」ハ $\left(\frac{1}{2} + \frac{1}{2}\right)^n$ ノ展開式ノ第 $(m+1)$ 項ナリ故
 ニ次ノ如ク書クヲ得ベシ

元誤差(Δx)	誤差(x)	ぶろばびりち
n 個ガ正ナル場合	$n\Delta x$	$\left(\frac{1}{2}\right)^n$
$(n-1)$ 個ガ正・1 個ガ負ナル場合	$(n-2)\Delta x$	$n\left(\frac{1}{2}\right)^n$
$(n-2)$ 個ガ正・2 個ガ負ナル場合	$(n-4)\Delta x$	$\frac{n(n-1)}{1 \cdot 2}\left(\frac{1}{2}\right)^n$
$(n-3)$ 個ガ正・3 個ガ負ナル場合	$(n-6)\Delta x$	$\frac{n(n-1)(n-2)}{1 \cdot 2 \cdot 3}\left(\frac{1}{2}\right)^n$
.....
$(n-m)$ 個ガ正・ m 個ガ負ナル場合	$(n-2m)\Delta x$	$\frac{n(n-1)(n-2)\dots(n-m+1)}{1 \cdot 2 \cdot 3 \dots m}\left(\frac{1}{2}\right)^n$
$(n-m-1)$ 個ガ正・ $(m+1)$ 個ガ負ナル場合	$(n-2m-2)\Delta x$	$\frac{n(n-1)(n-2)\dots(n-m)}{1 \cdot 2 \cdot 3 \dots (m+1)}\left(\frac{1}{2}\right)^n$

$y=f(x)$ ナル曲線ニ於テ (第四圖)

OM = 誤差 (x)

MC = 誤差 (x) ノ現ハル「ぶろばびりち」(y)

OP = x ノ次ノ小ナル誤差 (x')

PB = 誤差 (x') ノ現ハル「ぶろばびりち」(y')

依テ圖上ヨリ極限 $\frac{BD}{CD} = \text{極限} \frac{y-y'}{x-x'} = \frac{dy}{dx}$

之レ曲線ノ微分式ナリ故ニ誤差ノ「ぶろばびりち」ノ法則ヲ導ク

ニハ y 及 x ノ項ニテ $\frac{y-y'}{x-x'}$ ヲ見出シ此極限ヲ $\frac{dy}{dx}$ ト等シクシテ之レ
 ヲ積分スルコト必要ナリ

今 x' ヲ x ノ次ノ誤差トスルトキハ

$$x-x' = (n-2m)\Delta x - (n-2m-2)\Delta x = 2\Delta x$$

而シテ $\frac{y-y'}{x-x'}$ ノ値ハ曲線ガ連續的ナラバ極限ハ $\frac{dy}{dx}$ ナリ二個ノ相
 連續スル誤差 x 及 x' ノ値ヲ $x = (n-2m)\Delta x$ 及 $x' = (n-2m-2)\Delta x$ ト
 スレバ此兩誤差ノ現ハル「ぶろばびりち」ノ割合ハ次ノ如シ

$$\frac{y'}{y} = \frac{\frac{n(n-1)(n-2)\dots(n-m)}{1 \cdot 2 \cdot 3 \dots (m+1)}\left(\frac{1}{2}\right)^n}{\frac{n(n-1)(n-2)\dots(n-m+1)}{1 \cdot 2 \cdot 3 \dots m}\left(\frac{1}{2}\right)^n} = \frac{n-m}{m+1}$$

[参考]

$$\begin{cases} x = (n-2m)\Delta x & \text{故ニ} \frac{x}{\Delta x} = n-2m \\ m = \frac{n-\frac{x}{\Delta x}}{2} = \frac{n}{2} - \frac{x}{2\Delta x} \end{cases}$$

$$1 - \frac{y'}{y} = 1 - \frac{n-m}{m+1} = \frac{m+1-n+m}{m+1} = \frac{2m+1-n}{m+1} = \frac{n-\frac{x}{\Delta x}+1-n}{\frac{n}{2}-\frac{x}{2\Delta x}+1}$$

$$= \frac{\frac{\Delta x - x}{\Delta x}}{\frac{n\Delta x - x + 2\Delta x}{2\Delta x}} = \frac{2(\Delta x - x)}{n\Delta x - x + 2\Delta x} = \frac{2(\Delta x - x)}{(n+2)\Delta x - x}$$

$$y-y' = y \times \frac{2(\Delta x - x)}{(n+2)\Delta x - x} = y \times \frac{-2x}{n\Delta x} = \frac{-2yx}{n\Delta x}$$

但シ分子ニ於テハ Δx ハ x ニ比較シテ小ナル故ニ消失ス又分母ニ於テ 2 ハ n ニ比シテ小
 ナル故ニ消失シ $n\Delta x$ ハ最大正誤差ニシテ之レニ比スレバ x ハ消失ス

故ニ $\frac{dy}{dx} = \frac{y-y'}{x-x'} = \frac{y-y'}{2\Delta x} = \frac{-2yx}{2\Delta x} = -\frac{yx}{n\Delta x^2}$

或ハ $\frac{dy}{dx} = -2h^2yx$

式中 $2h^2 = \frac{1}{n\Delta x^2}$ トス

此式ヲ積分スレバ $\int \frac{dy}{y} = \int -2h^2x dx$

$\log y = -h^2x^2 + K'$

式中 K' ハ定数ナリ

$y = e^{-h^2x^2 + K'} = e^{-h^2x^2} e^{K'}$

式中 $e = 2.71828$ 自然對數ノ底數

$e^{K'}$ ハ定数ナル故ニ之ヲ K トスレバ

$y = Ke^{-h^2x^2}$ ナリ

此式ハ「ぶろばびりち」曲線式即チ測量誤差ノ現ハルル「ぶろばびりち」ノ法則ヲ示ス式ナリ

此式ハ前述ノ條件ヲ満足サスルモノナリ

即チ

- 1) $x=0$ ノ時ニ y ハ最大トナル
- 2) x ノ同大ノ正負値ニ於テハ y ノ値ハ等シクナルヲ以テ此曲線ハ y 軸ニ對シテ對稱ナリ
- 3) x ノ値ガ非常ニ大ナル時ハ y ノ値ハ非常ニ小トナル

第五節 がうす氏法

がうす氏法モ亦經驗上ニ立脚スル假設ヲ基トスルモノニシテ即チ直接ニ數回同様ノ注意ヲ以テ測量シタル時ニ其ノモノノ最モ確カラシキ値ハ觀測値ノ算術的平均數ナリト云フニ在リ

此算術的平均法ハ同一量ニ於テ等シキ精密度ヲ以テナシタル數多ノ直接測量ヲ結合スルニ最良ノ方法ト認メラル

此一般ノ認定ハ算術的平均數ガ最モ確カラシキ値ナリト云フ定理ヲ證明スルニ充分ナリ何トナレバ「ぶろばびりち」ノ理論ハ「らぶ

らぶ」氏ノ言ノ如ク計算ニ導キタル常識ニ外ナラザレバナリ故ニ測量ガ二回ナレバ無論算術的平均數ガ最モ確カラシキ値ニシテ尙二回以上ノ場合ニモ古來算術的平均數ヲ最モ確カラシキ値トセリ。算術的平均法ノ特徴ハ其ノ殘差誤差ノ代數的和ガ零トナルヲナリ。

例ヘバ l_1, l_2, \dots, l_n ヲ n 回ノ觀測値トスレバ算術的平均數ハ

$$x = \frac{l_1 + l_2 + l_3 + \dots + l_n}{n}$$

$$nx = l_1 + l_2 + l_3 + \dots + l_n$$

$$(x - l_1) + (x - l_2) + (x - l_3) + \dots + (x - l_n) = 0$$

$$v_1 + v_2 + v_3 + \dots + v_n = 0$$

即チ算術的平均法ニ於テハ殘差誤差ノ代數的和ガ零ナルコトヲ要ス

(例)

730.4 尺, 730.5 尺及 730.9 尺ヲ三回ノ觀測値トスレバ。

算術的平均數ハ、

$$x = \frac{730.4 + 730.5 + 730.9}{3} = 730.6 \text{ 尺}$$

殘差誤差ハ次ノ如シ、

$$v_1 = 730.6 - 730.4 = +0.2$$

$$v_2 = 730.6 - 730.5 = +0.1$$

$$v_3 = 730.6 - 730.9 = -0.3$$

計 0

即チ殘差誤差ノ代數的和ハ零トナル

間接測量ノ一般ノ場合

z_1 及 z_2 ナル二個ノ量ノ函數ヲ測量シ間接ニ z_1 及 z_2 ノ最モ確カラシキ値ヲ見出サントス 而シテ觀測値ト函數ノ眞値トノ差即チ眞誤差

ヲ $x_1, x_2, x_3, \dots, x_n$ トス

此 $x_1, x_2, x_3, \dots, x_n$ モ亦 z_1 及 z_2 ノ函數ナリ

此眞誤差ノ現ハル、「ぶろばびりち」ハ次ノ如シ

$$y_1=f(x_1) \quad y_2=f(x_2) \dots\dots\dots y_n=f(x_n)$$

而シテ或ル系統誤差ノ現ハル、「ぶろばびりち」ハ

$$P=y_1y_2y_3 \dots\dots\dots y_n=f(x_1)f(x_2) \dots\dots\dots f(x_n)$$

之ヲ對數ニテ示セバ

$$\log P = \log f(x_1) + \log f(x_2) + \dots\dots\dots + \log f(x_n)$$

未知數 (z₁ 及 z₂) ノ最モ確カラシキ値ハ P ヲ最大ニナス値ナリ故ニ此ノ z₁ 及 z₂ ノ各々ニ關シテ P ヲ微分シ其微分係數ヲ零トシテ之ヲ求ム

$$\text{即チ} \quad \frac{dP}{Pdz_1} = \frac{df(x_1)}{f(x_1)dz_1} + \frac{df(x_2)}{f(x_2)dz_1} + \dots\dots\dots + \frac{df(x_n)}{f(x_n)dz_1} = 0$$

$$\frac{dP}{Pdz_2} = \frac{df(x_1)}{f(x_1)dz_2} + \frac{df(x_2)}{f(x_2)dz_2} + \dots\dots\dots + \frac{df(x_n)}{f(x_n)dz_2} = 0$$

$$\text{一般ニ} \quad df(x) = \phi(x)f(x)dx \quad \text{ナル故ニ} \dots\dots\dots (1)$$

$$\left. \begin{aligned} \phi(x_1)\frac{dx_1}{dz_1} + \phi(x_2)\frac{dx_2}{dz_1} + \dots\dots\dots + \phi(x_n)\frac{dx_n}{dz_1} &= 0 \\ \phi(x_1)\frac{dx_1}{dz_2} + \phi(x_2)\frac{dx_2}{dz_2} + \dots\dots\dots + \phi(x_n)\frac{dx_n}{dz_2} &= 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots (2)$$

此等ノ式ノ數ハ未知數ノ數ト等シキ故ニ函数 φ ノ形狀ヲ知ルトキハ未知數ノ値ヲ定メ得可シ

此等ノ式ハ一般的ニシテ未知數ノ任意ノ數ニ適用シ得ル故ニ函数 φ ノ形狀ハ或ル特種ノ場合即チ只 1 個ノ未知數ヲ直接ニ測定セシ場合ニ於テ之ヲ定メ得ベシ

例ヘバ z ヲ測量セシトキニ其觀測値ガ

$$l_1 \quad l_2 \quad l_3 \dots\dots\dots l_n \quad \text{ナルトキハ誤差ハ}$$

$$x_1 = z - l_1 \quad x_2 = z - l_2 \dots\dots\dots x_n = z - l_n$$

之レヨリ

$$\frac{dx_1}{dz} = \frac{dx_2}{dz} = \dots\dots\dots = \frac{dx_n}{dz} = 1$$

故ニ (2) 式ハ次ノ如クナル

$$\phi(x_1) + \phi(x_2) + \phi(x_3) + \dots\dots\dots + \phi(x_n) = 0 \dots\dots (3)$$

此場合ハ 1 個ノ未知數ヲ直接ニ測量セシ故ニ算術的平均數ハ最モ確カラシキ値ナリ

而シテ算術的平均數ノ特徴ハ殘差誤差ノ代數的和ガ零トナルコトナリ 故ニ v ヲ殘差誤差トスレバ

$$v_1 + v_2 + v_3 + \dots\dots\dots + v_n = 0$$

前述ノ如ク、測量ノ回數 (n) ガ非常ニ多キトキハ殘差誤差 (v) ハ眞誤差 (x) ト一致ス

$$\text{故ニ} \quad x_1 + x_2 + x_3 + \dots\dots\dots + x_n = 0 \dots\dots\dots (4)$$

此式ヲ (2) 式ト比スルトキハ (2) 式中ノ φ ハ常數ヲ乘ズルコトヲ意味スルコトナル故ニ

$$\phi(x_1) + \phi(x_2) + \dots\dots\dots \phi(x_n) = Cx_1 + Cx_2 + \dots\dots\dots + Cx_n$$

(1) 式ニ依リ φ(x₁), φ(x₂)...ノ値ヲ入ル、トキハ

$$\frac{df(x_1)}{f(x_1)dx_1} + \frac{df(x_2)}{f(x_2)dx_2} + \dots\dots\dots = Cx_1 + Cx_2 + \dots\dots\dots$$

此關係ハ測量ノ回數ガ何程ナルモ眞ナル故ニ兩方ノ相應スル項ハ相等シカルベシ故ニ x ヲ或ル誤差トシ

$$y = f(x) \quad \text{トスレバ} \quad \frac{df(x)}{f(x)dx} = \frac{dy}{ydx} = Cx$$

$$\text{故ニ} \quad \frac{dy}{y} = Cx dx$$

$$\text{之ヲ積分スルトキハ} \quad \log y = \frac{Cx^2}{2} + K'$$

$$\text{故} = y = e^{\frac{1}{2}Cx^2} e^{Kx}$$

而シテ「ぶろばびりち」(y)ハxノ絶對値が増加スルトキニ減少スルモノナル故ニ常數Cハ負數ナラザルベカラズ故ニ

$$C = -2h^2 \quad e^{Kx} = K \text{トスレバ}$$

$$y = Ke^{-h^2x^2}$$

之レ「ぶろばびりち」曲線ノ式ニシテ測量ノ誤差ノ「ぶろばびりち」ノ法則ヲ示ス式ナリ

第六節 $y = Ke^{-h^2x^2}$ ナル曲線ノ研究

此曲線式ハxノ値等シキトキハ正負ニ拘ラズyノ値等シキ故ニ此曲線ハYノ軸ニ關シテ對稱ナリ

又 $x=0$ ノトキハyノ値ハ最大ニシテ $y=K$ トナル故ニKハ零ナル誤差ノ現ハルル「ぶろばびりち」ナリ

又xノ値が増加スルトキハyノ値ハ減少シ $x=\pm\infty$ ノトキニ $y=0$ トナル

第一微分係數ノ値ハ次ノ如シ

$$\frac{dy}{dx} = -2Kh^2e^{-h^2x^2}x$$

之レハ $x=0$ ノトキニ0トナリ

$x=\pm\infty$ ノトキニ0トナル

故ニ此曲線ハy軸トノ交點ニ於テ水平ニシテxノ軸ハ此曲線ノ漸近線トナル又第二微分係數ノ値ハ次ノ如シ

$$\frac{d^2y}{dx^2} = -2Kh^2e^{-h^2x^2} + 2Kh^2e^{-h^2x^2}x \times 2h^2x$$

$$= -2Kh^2e^{-h^2x^2}(-2h^2x^2+1)$$

此式ハ $-2h^2x^2+1=0$ ナルトキニ零トナル故ニ此曲線ハ $x=\pm\frac{1}{h\sqrt{2}}$ ナル處ニ變曲點ヲ有ス。曲線ノ形狀ヲ示ス爲メニK及hヲ1トスレバ此曲線式ハ次ノ如クナル

$$y = e^{-x^2} = \frac{1}{e^{x^2}}$$

此式ニ依レバx及yノ値ハ次ノ如シ

x	y	x	y
0	1.0000	±1.8	0.0332
±0.2	0.9603	±2.0	0.0183
±0.4	0.8521	±2.2	0.0079
±0.6	0.6977	±2.4	0.0032
±0.8	0.5273	±2.6	0.0013
±1.0	0.3679	±2.8	0.0004
±1.2	0.2370	±3.0	0.0001
±1.4	0.1409		
±1.6	0.0773	±∞	0.0000

第四圖ハ縦ノ縮尺ヲ横ノ縮尺ノ二倍トシテ此表ノ値ニ依リ畫キタルモノナリ而シテCハ變曲點ニシテ其横距ハ $OM=0.707$ ナリeノ指數 h^2x^2 ハ不名數ナルガ故ニ常數(h)ハ $\frac{1}{x}$ ノ如キ同種ノモノナリ而シテ或ル測量ニ對スルhノ値ヲ定ムル方法ハ第四章ニ在リ

或ル誤差(x)ノ現ハルル「ぶろばびりち」(y)ハhが増大スルトキニ減少スルモノナリ。故ニ測量ガ精密ナルニ從ヒhハ大トナル。

故ニ此hヲ精密度ト云フ

又常數(K)ハ不名數ニシテ零ナル誤差ノ「ぶろばびりち」ナル故ニKノ値ハ精密ナル測量ノトキハ粗雑ナル測量ノトキヨリモ大ニシテ測量ガ精密ナルニ從ヒ益々大トナル

第七節 「ぶろばびりち」積分

常數 K ノ値ヲ定メ或ル限界内ノ誤差ノ「ぶろばびりち」ヲ研究スルニハ次ノ理論ヲ用フ

今 x_1, x_2, \dots, x_n ヲ誤差ノ一組トシ

x_1 ヲ最小誤差. x_2 ヲ其次ノ誤差. x_n ヲ最大ノ誤差トス

而シテ相連續スル二個ノ誤差ノ差ヲ等シトスルトキハ此等ノ誤差中ノ或ル一誤差ガ現ハルル「ぶろばびりち」即チ x_1 及 x_n ノ間ニ在ル一誤差ガ現ハルル「ぶろばびりち」P ハ前述ノ如ク種々ノ「ぶろばびりち」即 $Ke^{-h^2x_1^2}, Ke^{-h^2x_2^2}, \dots, Ke^{-h^2x_n^2}$ ノ總和ニシテ

$$P = K(e^{-h^2x_1^2} + e^{-h^2x_2^2} + \dots + e^{-h^2x_n^2}) = K \sum_{x_1}^{x_n} e^{-h^2x^2}$$

又積分ノ符號ニテ示シ相連續スル二個ノ誤差ノ差ヲ dx トスレバ誤差ガ x_1 及 x_n ナル兩極限ノ間ニ在ル「ぶろばびりち」ハ

$$P = \frac{K}{dx} \int_{x_1}^{x_n} e^{-h^2x^2} dx \dots \dots \dots (2)$$

而シテ誤差ガ $-\infty$ 及 $+\infty$ ノ間ニ在ルコトハ確實ニシテ確實ノ符號ハ1ナルヲ以テ次ノ如シ

$$1 = \frac{K}{dx} \int_{-\infty}^{+\infty} e^{-h^2x^2} dx = \frac{2K}{dx} \int_0^{\infty} e^{-h^2x^2} dx = \frac{2K}{dx} \times \frac{\sqrt{\pi}}{2h} \text{ 故 } 1 = \frac{K\sqrt{\pi}}{hdx}$$

[参考]

$$\int_0^{\infty} e^{-h^2x^2} dx = \frac{\sqrt{\pi}}{2h} \text{ ナル證明}$$

$$hx = t \text{ トスレバ } hdx = dt \text{ 或ハ } dx = \frac{dt}{h} \text{ 故 } \int_0^{\infty} e^{-h^2x^2} dx = \frac{1}{h} \int_0^{\infty} e^{-t^2} dt$$

$$\int_0^{\infty} e^{-t^2} dt = \int_0^{\infty} e^{-v^2} dv = A \text{ トスレバ } A^2 = \int_0^{\infty} \int_0^{\infty} e^{-(t^2+v^2)} dt dv$$

次 = $v = tu$ トスレバ $dv = tdu$

$$\text{故} = A^2 = \int_0^{\infty} du \int_0^{\infty} e^{-t^2(1+u^2)} t dt$$

$$\text{然ルニ} \int_0^{\infty} e^{-t^2(1+u^2)} t dt = \left[-\frac{e^{-t^2(1+u^2)}}{2(1+u^2)} \right]_0^{\infty} = \frac{1}{2(1+u^2)}$$

$$\text{故} = A^2 = \frac{1}{2} \int_0^{\infty} \frac{du}{1+u^2} = \frac{1}{2} [\text{tag}^{-1} u]_0^{\infty} = \frac{1}{2} (\text{tag}^{-1} \infty - \text{tag}^{-1} 0) = \frac{\pi}{4}$$

$$\text{故} = A = \frac{\sqrt{\pi}}{2}$$

$$\int_0^{\infty} e^{-h^2x^2} dx = \frac{1}{h} \int_0^{\infty} e^{-t^2} dt = \frac{A}{h} = \frac{\sqrt{\pi}}{2h}$$

或ハ次ノ方法ニ依リ.

$$\int_0^{\infty} e^{-t^2} dt = \frac{\sqrt{\pi}}{2} \text{ ナルコトヲ證スルヲ得可シ}$$

此積分ノ値ヲ A トシテノ代リ = at ナルルトキハ

$$\int_0^{\infty} e^{-a^2t^2} a dt = A$$

$$\text{故} = \int_0^{\infty} e^{-a^2(1+t^2)} a dt = Ae^{-a^2}$$

$$\text{之レヨリ} \int_0^{\infty} \int_0^{\infty} e^{-a^2(1+t^2)} a da dt = A \int_0^{\infty} e^{-a^2} da = A^2$$

$$\text{而シテ} \int_0^{\infty} e^{-a^2(1+t^2)} a dx = \frac{1}{2} \frac{1}{1+t^2}$$

$$\text{故} = \frac{1}{2} \int_0^{\infty} \frac{dt}{1+t^2} = A^2$$

$$\text{又} \int_0^{\infty} \frac{dt}{1+t^2} = [\text{tag}^{-1} t]_0^{\infty} = \frac{\pi}{2}$$

$$\text{故} = \frac{1}{2} \int_0^{\infty} \frac{dt}{1+t^2} = \frac{1}{2} \times \frac{\pi}{2} = \frac{\pi}{4} = A^2$$

$$\text{故} = \int_0^{\infty} e^{-t^2} dt = A = \frac{1}{2} \sqrt{\pi}$$

之レヨリ $K = \frac{hdx}{\sqrt{\pi}}$ ナルヲ以テ之レヲ「ぶろばびりち」曲線式ニ入

ルハトキハ

$$y = Ke^{-h^2x^2} = \frac{hdx}{\sqrt{\pi}} e^{-h^2x^2} = hdx \pi^{-\frac{1}{2}} e^{-h^2x^2} \dots \dots \dots (3)$$

故ニ誤差ガ或二個ノ限界誤差 x_1 及 x_n ノ間ニ在ル「ぶろばびりち」

「ぶろばびりち」(2)式ヨリ次ノ如シ

P_{x_1}^{x_n} = \frac{h}{\sqrt{\pi}} \int_{x_1}^{x_n} e^{-h^2 x^2} dx \dots \dots \dots (4)

- (1) y = Ke^{-h^2 x^2}
(2) y = h dx \pi^{-1/2} e^{-h^2 x^2}
(3) P_{x_1}^{x_n} = \frac{h}{\sqrt{\pi}} \int_{x_1}^{x_n} e^{-h^2 x^2} dx
ナル式ハ測量ノ偶然誤差ノ理論ニ於ケル原式ナリ

「ぶろばびりち」曲線ハ對稱的ナルヲ以テ誤差ガ (-x) 及 (+x) ナル限界ノ間ニ在ル「ぶろばびりち」ハ誤差ガ (0) 及 (+x) ナル限界ノ間ニ在ル「ぶろばびりち」ノ二倍ナリ即チ

P_{-x}^{+x} = \frac{2h}{\sqrt{\pi}} \int_0^x e^{-h^2 x^2} dx

此式ハ誤差ガ ±x ヨリ小ナルコト即チ 0 ト (+x) ノ間及 0 ト (-x) ノ間ニ在ルコトノ「ぶろばびりち」ヲ示ス

此形狀ハ次ノ如ク書クヲ得ベシ

P_{-hx}^{+hx} = \frac{2}{\sqrt{\pi}} \int_0^{hx} e^{-h^2 x^2} d(hx) \dots \dots \dots (5)

之レヲ「ぶろばびりち」積分ト云フ

x ナル大サノ誤差ノ數ハ其「ぶろばびりち」y ニ比例シ又 P_{-x}^{+x} = \frac{2h}{\sqrt{\pi}} \int_0^x e^{-h^2 x^2} dx ナル式ハ -x 及 +x ノ間ニ在ル總テノ誤差ノ「ぶろばびりち」ノ總和ナル故ニ P ハ誤差ガ -x 及 +x ノ間ニ在ル「ぶろばびりち」曲線ト X 軸トノ間ノ面積ニシテ 1 ナリ。故ニ或ル二個ノ限界ノ間ニ在ル誤差ノ數ト誤差ノ總數トノ比ハ此等ノ限界ノ間ニ在ル誤差ノ P ト 1 トノ比ニ等シ積分法ニ依リ hx ノ値ニ相當スル「ぶろばびりち」積分ノ値ヲ計算スレバ第一表ノ如シ。

第一表 「ぶろばびりち」積分ノ値

P_{+hx}^{-hx} = \frac{2}{\sqrt{\pi}} \int_0^{hx} e^{-h^2 x^2} d(hx)

Table with columns for hx (0 to infinity) and values from 0.0000 to 1.0000. Includes a '差' (difference) column on the right.

第一表ノ使用法

表ニ於テ hx=1.24 ナルトキハ P=0.9215 ナルコトヲ知ル故ニ

0.9205 の誤差が $\frac{1.24}{h}$ より小ナルコトノ「ぶろばびりち」ナリ換言スレバ 10000 回ノ測量中ニテ 9205 回ハ誤差ガ $-\frac{1.24}{h}$ 及 $+\frac{1.24}{h}$ ノ間ニ在リテ 795 回ハ誤差ガ此限界外ニ在ルコトヲ豫期シ得ベシ

h ハ精密度ニシテ人々及場合ニ依テ等シカラズ h ヲ 1 トスレバ hx ハ測量ノ誤差ニシテ之レガ ± 0.1 ナレバ誤差ノ現ハルル「ぶろばびりち」ハ 0.1125 即チ $\frac{112.5}{1000}$ ナリ 即チ 1000 個ノ誤差中ニテ 112.5 個ハ 0.1 ナル値ヲ越エズ即チ 0.1 ナル誤差ガ 1000 個ノ誤差中ニ 112 個・100 個ノ誤差中ニ 11 個・10 個ノ誤差中ニ 1 個アルコトヲ意味ス

第八節 理論ト實驗トノ比較

第一表ニ依テ (1)(3)(4) 及 (5) 式ノ誘導ニ用ヒシ理論ヲ証明スルヲ得ベシ

(1) $y = Ke^{-h^2x^2}$

(3) $y = hdx\pi^{-\frac{1}{2}}e^{-h^2x^2}$

(4) $P_{x_1}^{x_2} = \frac{h}{\sqrt{\pi}} \int_{x_1}^{x_2} e^{-h^2x^2} dx$

(5) $P_{-hx}^{+hx} = \frac{2}{\sqrt{\pi}} \int_0^{hx} e^{-h^2x^2} d(hx)$

第一表ヲ用フルニハ先ヅ常數 (h) ノ値ヲ知ラザルベカラズ然レドモ爰ニ h ハ既知ノモノト假定シテ理論及經驗ノ一致ヲ証セントス

第二章第二節ノ 100 個ノ殘差誤差ニ於テ $h = \frac{1}{2.7236}$ トスレバ

第一表ヨリ

$x=1.0$ ナルトキハ $hx=0.447$ 面積 $P=0.473$

$x=2.0$ ナルトキハ $hx=0.894$ $P=0.794$

$x=3.0$ ナルトキハ $hx=1.341$ $P=0.942$

$x=4.0$ ナルトキハ $hx=1.788$ $P=0.989$

$x=5.0$ ナルトキハ $hx=2.235$ $P=0.998$

$x=\infty$ ナルトキハ $hx=\infty$ $P=1.000$

之レニ誤差ノ總數 100 ヲ乘ジテ各々ヲ次ノモノヨリ減ズレバ x ノ連續スル値ノ間ニ在ル理論誤差ヲ見出シ得ベシ

今實際ニ現ハレシ誤差ノ數ト理論上現ハルベキ誤差ノ數トノ比較ヲ示セバ次ノ如シ

限 界	實際ニ現ハレシ誤差數	理論上現ハルベキ誤差數	差
0.0 及 1.0	52	47	+5
1.0 及 2.0	30	32	-2
2.0 及 3.0	11	15	-4
3.0 及 4.0	4	5	-1
4.0 及 5.0	2	1	+1
5.0 及 6.0	1	0	+1
6.0 及 ∞	0	0	0

此表ニ依レバ理論ト實驗ノ結果ト略ホ一致ス

第九節 原式ニ關スル注意

(1) $y = Ke^{-h^2x^2}$ } ナル兩「ぶろばびりち」曲線式ハ相似
 (3) $y = hdx\pi^{-\frac{1}{2}}e^{-h^2x^2}$ } ナリ

而シテ (1) 式ハ既ニ論究セリ (3) 式ニ於テハ (dx) ハ x ノ連續スル値ノ差ナリ。例ヘバ角度ノ測量ヲ秒ノ $\frac{1}{10}$ 迄爲ストキハ $dx = 0.1$ ナリ。又秒ノ $\frac{1}{100}$ 迄爲ストキハ $dx = 0.01$ ナリ又連續曲線ヲ考フルトキハ dx ハ x ノ微分ナリ

y は不名數ナル故 $= h \cdot dx$ 亦不名數ナリ故 $= h \cdot \frac{1}{dx}$ ノ如キ種類ノモノナラザル可カラズ

零ナル誤差ノ現ハルル「ぶろばびりち」ハ $\frac{h dx}{\sqrt{\pi}}$ ナリ。故ニ秒ノ $\frac{1}{100}$ 迄角ヲ測ルトキニ零ナル誤差ノ現ハル「ぶろばびりち」ハ $\frac{0.01h}{\sqrt{\pi}}$ ナリ。此値ハ h ガ増大スレバ増大スル故ニ h ノ値ハ測量ノ精密度トシテ考ヘラル而シテ h ヲ定ムル方法ハ第四章ニ在リ

$$(4) \quad P_{x_1}^{x_n} = \frac{h}{\sqrt{\pi}} \int_{x_1}^{x_n} e^{-h^2 x^2} dx \quad \left. \begin{array}{l} \text{ナル兩ぶろばびりちニ積分式} \\ \text{ハ相似ニシテ其限界異ル} \end{array} \right\}$$

$$(5) \quad P_{-hx}^{+hx} = \frac{2}{\sqrt{\pi}} \int_0^{hx} e^{-h^2 x^2} d(hx)$$

(4) 式ハ誤差ガ x_1 及 x_n ノ間ニ在ル「ぶろばびりち」ニシテ (5) 式ハ誤差ガ $-hx$ 及 $+hx$ ノ間ニ在ルコト即チ誤差ノ絶對値ガ hx ヨリ小ナルコトノ「ぶろばびりち」ナリ故ニ (5) 式ハ (4) 式ノ特別ノ場合ナリ

第一表ハ (5) 式ニ關係スルモノニシテ簡單ニ加減スレバ或ル限界ノ間ニ在ル誤差ノ現ハル「ぶろばびりち」ヲ見出し得ベシ例ハバ誤差ガ $(-2.0) - (+4.0)$ ノ間ニ在ル「ぶろばびりち」ハ誤差ガ $(0.0) - (2.0)$ ノ間及 $(0.0) - (4.0)$ ノ間ニ在ル「ぶろばびりち」ノ和ナリ又誤差ガ $(+2.0) - (+4.0)$ ノ間ニ在ル「ぶろばびりち」ハ此兩限界ノ「ぶろばびりち」ノ差ナリ

此積分 (P) ハ或ル限界ノ間ノ y ノ和ニシテ即チ

$$P = \Sigma y$$

之レ前述ノ $\frac{a+a'}{c} = \frac{a}{c} + \frac{a'}{c}$ ト同理ナリ

[参考]

符 號	常 數	對 數
hr	0.4769363	$\bar{I}6784604$
$hr\sqrt{2}$	0.6744967	$\bar{I}8289754$
$hr\sqrt{\pi}$	0.8453476	$\bar{I}9270333$
$\sqrt{2}$	1.4142136	0 1505150
π	3 1415927	0.4971490
$\sqrt{\pi}$	1.7724539	0.248 719
$\pi^{-\frac{1}{2}}$	0.5641896	$\bar{I}7514251$
e	2.7182818	0.4312915
常用對數ノ係數	0.4342945	$\bar{I}C377813$

第三章 測量ノ修正

最小自乗法ニハ次ノ二個ノ目的アリ

第一. 測量ノ修正. 即チ測量シタルモノノ最モ確カラシキ値ヲ定ムルコト

第二. 測量ノ精密度ヲ研究スルコト

第一節 觀測値ノ重み

觀測値ノ重みトハ觀測ノ比較的ノ價値ヲ示ス數ニシテ例ヘバ同一測鏈ヲ以テ或ル距離ヲ 20 回測リ此ノ 20 回ノ内

10 回ハ	934.2 ^R	} ナリシトスレバ此 10, 8, 及 2 ヲ各觀測値ノ重みト云フ.
8 回ハ	934.0 ["]	
2 回ハ	934.6 ["]	
20 回		

重みハ只比較的ノ値ヲ示スモノナル故ニ 5.4. 及 1 ナル數モ亦重みナリ. 又 10, 8, 及 2 ノ比例ニアル數ハ總テ其重みナリ. 即チ 934.2 尺ナル結果ハ 934.6 尺ナル結果ヨリ五倍ノ價値アリ故ニ之レヲ 934.6 尺ト平均スル場合ニハ五倍ノ價値ヲ有セシメザル可ラズ又或ル觀測値ノ重みハ 1 ナル重みヲ有スル觀測値ノ數ヲ示ス例ヘバ各觀測値ノ重みヲ 1 ト爲ストキハ n 個ノ精密度ノ等シキ直接測量ノ平均値ハ n ナル重みヲ有ス.

p ナル重みヲ有スル或觀測値ハ重み 1 ナル p 個ノ觀測値ト同様ト考ヘラレ又單一ノモノヨリモ p 倍ノ價値ヲ有スルモノト考ヘラル故

ニ重みハ省略法トシテ必要ノモノナリ

故ニ 934.2 尺ナル結果ガ 10 ノ重みヲ有スト云フトキハ平均スル場合ニ 934.2 尺ナル値ヲ 10 回書キテ各々ヲ單一測量ノ結果ト考フルニ等シ

重み付觀測値ハ觀測値ニ其重みヲ乘ジタルモノナリ即チ今

$$\left. \begin{array}{l} l_1, l_2, l_3, \dots, l_n \text{ ヲ觀測値} \\ p_1, p_2, p_3, \dots, p_n \text{ ヲ其重み} \end{array} \right\} \text{トスレバ}$$

$p_1 l_1, p_2 l_2, p_3 l_3, \dots, p_n l_n$ ハ重み付觀測値ナリ

又 $x_1, x_2, x_3, \dots, x_n$ ヲ各觀測値ノ誤差トスレバ

$p_1 x_1, p_2 x_2, p_3 x_3, \dots, p_n x_n$ ハ重み付誤差ナリ

而シテ誤差 x ハ眞値 X ト觀測値 l トノ差ナル故ニ px ハ觀測値 l ガ p ナル重みヲ有スルコトヲ含意スベシ又此ノ關係ハ誤差ニ對シテノミナラズ殘差誤差 v ニ對シテモ亦同ジ又二個ノ未知數 z_1 及 z_2 ノ函數 $f(z_1, z_2)$ ノ觀測値ヲ l トシ z_1 及 z_2 ヲ未知數ノ最モ確カラシキ値トスレバ殘差誤差ハ次ノ如シ

$$v = f(z_1, z_2) - l$$

今觀測値 l ノ重みヲ p トスレバ

$$pv = pf(z_1, z_2) - pl$$

故ニ重み付觀測値ハ常ニ重み付殘差誤差ヲ含意シ重み付殘差誤差ハ常ニ重み付觀測値ヲ含意ス

重みハ前述ノ精密度ト同シカラズ即チ重み p ハ比較的ノ不名數ニシテ通常整數ニ選バル可キモノ又精密度 (h) ハ絶對量ナリ此關係ハ次節ニ在リ.

第二節 最小自乘法ノ主義

最小自乘法ナル語ノ起原ハ次ノ如シ

精密度ノ等シキ測量ニ於テ測定スベキモノノ最モ確カラシキ値ハ
殘差誤差ノ二乗ノ和ヲ最小ナラシムルガ如キ値ナリト

此證明ハ次ノ如シ

間接測量ノ場合ニ於テ n 回ノ精密度ノ等シキ測量ヲ二個ノ未知數
 z_1 及 z_2 ノ函數ニ就テ行ヒ即チ

l_1, l_2, \dots, l_n ヲ $f_1(z_1, z_2), f_2(z_1, z_2), \dots, f_n(z_1, z_2)$ ナル函數ノ觀測
値トセヨ。

此觀測値ハ函數ノ眞値ト一致セズシテ眞値ト x_1, x_2, \dots, x_n ナル
差アリトス

即チ

$$f_1(z_1, z_2) - l_1 = x_1$$

$$f_2(z_1, z_2) - l_2 = x_2$$

.....

$$f_n(z_1, z_2) - l_n = x_n$$

而シテ此等ノ誤差ノ「ぶろばびりち」ハ前述ノ原則ニ依リ

$$y_1 = Ke^{-h^2 x_1^2}$$

$$y_2 = Ke^{-h^2 x_2^2}$$

.....

$$y_n = Ke^{-h^2 x_n^2} \quad \text{ナリ}$$

而シテ測量ヲ等シキ精密度ニテ測量セシモノト假定セル故ニ h ノ
値ハ等シ而シテ前述ノ如ク獨立誤差 x_1, x_2, \dots, x_n ガ同時ニ現ハルル
集合事柄ノ「ぶろばびりち」ハ

$$P' = K^n e^{-h^2(x_1^2 + x_2^2 + x_3^2 + \dots + x_n^2)}$$

此等ノ誤差ハ測定セントスル數量 z_1 及 z_2 ノ函數ナル故ニ z_1 及 z_2
ノ異ル値ニ對シ P' ノ異ル値アリ而シテ誤差ノ最モ確カラシキ組ハ
 P' ヲ最大ニナスモノナリ。

又 z_1 及 z_2 ノ最モ確カラシキ値ハ誤差ノ最モ確カラシキ組ニ相當ス
ルモノナリ而シテ「ぶろばびりち」 P' ノ最大ノトキハ e ノ指數ノ
最小ノトキニシテ即チ $x_1^2 + x_2^2 + x_3^2 + \dots + x_n^2 =$ 最小ノトキナリ

故ニ z_1 及 z_2 ノ値ノ最モ確カラシキ組ハ

$$x_1^2 + x_2^2 + x_3^2 + \dots + x_n^2 = \text{最小ノトキナリ}$$

之ニ依テ最小自乘法ノ原則ヲ証スルコトヲ得

x_1, x_2, \dots, x_n ハ測量ノ眞ノ誤差トシテ考ヘラレタリ然レドモ其
ノ二乗ノ和ガ最小ナリトノ條件ヲ満足セシムル必要アルトキハ此誤
差ハ殘差誤差ニシテ z_1 及 z_2 ノ最モ確カラシキ値ハ

$$v_1^2 + v_2^2 + v_3^2 + \dots + v_n^2 = \text{最小} \dots \dots \dots (6)$$

ナル條件ヲ満足セシムルコトヲ要シ即チ z_1 及 z_2 ガ最モ確カラシキ
値ナレバ殘差誤差 $f_1(z_1, z_2) - l_1 = v_1, f_2(z_1, z_2) - l_2 = v_2, \dots, f_n(z_1, z_2) - l_n = v_n$
等ハ此條件ヲ充スモノナリ

以上ノ理論ハ未知數ガ 2 個ナル場合ニ限ラズ多數ナル場合ニモ亦
適用セラル

最小自乘法ヲ用フル一般ノ場合ハ測量ノ精密度ガ等シカラザル場
合ナリ。此場合ニ於ケル一般ノ原則ハ次ノ如シ

重みノ等シカラザル測量ニ於テ測定シタルモノノ最モ確カラシキ
値ハ重み付殘差誤差ノ自乗ノ和ヲ最小ニナスモノナリト

今二個ノ未知數 z_1 及 z_2 ノ函數ヲ n 回測量シテ l_1, l_2, \dots, l_n ナル

値ヲ得タリト假定セヨ. 而シテ其ノ重みヲ夫々 $p_1 p_2 \dots p_n$ トシ
 觀測値ト眞値トノ差即チ眞誤差ヲ x_1, x_2, \dots, x_n トスレバ此等ノ「ぶ
 ろばびりち」ハ

$$\left. \begin{aligned} y_1 &= K_1 e^{-h_1^2 x_1^2} \\ y_2 &= K_2 e^{-h_2^2 x_2^2} \\ &\dots \dots \dots \\ y_n &= K_n e^{-h_n^2 x_n^2} \end{aligned} \right\} \text{但シ } K \text{ 及 } h \text{ ハ各測量ニ於テ等シカラズ}$$

獨立誤差 x_1, x_2, \dots, x_n ノ一組ノ現ハル「ぶろばびりち」ハ
 次ノ如シ

$$P' = K_1 K_2 \dots K_n e^{-(h_1^2 x_1^2 + h_2^2 x_2^2 + \dots + h_n^2 x_n^2)}$$

而シテ x ノ値ノ最モ確カラシキ組ハ P' ヲ最大ニナスモノ即チ
 $h_1^2 x_1^2 + h_2^2 x_2^2 + \dots + h_n^2 x_n^2 = \text{最小ノ場合ナリ}$ 而シテ此條件ヨリ求ム
 ル x_1, x_2, \dots, x_n ノ値ハ殘差誤差 v_1, v_2, \dots, v_n ナリ故ニ次ノ如ク書
 クヲ得ベシ

$$h_1^2 v_1^2 + h_2^2 v_2^2 + \dots + h_n^2 v_n^2 = \text{最小}$$

h ヲ標準精密度トシテ $h_1^2 = p_1 h^2, h_2^2 = p_2 h^2, \dots, h_n^2 = p_n h^2$ ナル如ク之
 ヲ選ビ前式ヲ h^2 ニテ除スレバ次式ヲ得ル

$$\frac{h_1^2}{h^2} v_1^2 + \frac{h_2^2}{h^2} v_2^2 + \dots + \frac{h_n^2}{h^2} v_n^2 = \text{最小}$$

$$p_1 v_1^2 + p_2 v_2^2 + \dots + p_n v_n^2 = \text{最小} \dots \dots \dots (7)$$

即チ最小自乘法ノ主義ヲ証スルヲ得タリ

$$\left. \begin{aligned} \text{故ニ } v_1^2 + v_2^2 + v_3^2 + \dots + v_n^2 &= \text{最小} \dots \dots \dots (6) \\ p_1 v_1^2 + p_2 v_2^2 + \dots + p_n v_n^2 &= \text{最小} \dots \dots \dots (7) \end{aligned} \right\} \text{ナル條件ハ獨立}$$

測量ノ整正ニ關スル實地ノ規則ヲ立ツル基礎トナルモノナリ.

若シ觀測値ノ重みガ等シキトキハ (7) 式ハ (6) 式トナル
 爰ニ測量ノ精密度ノ自乗ハ重みニ比例スルコトヲ見ル即チ

$$h_1^2 : h_2^2 : h^2 = p_1 : p_2 : p$$

精密度 (h) ハ理論上ニハ非常ニ便利ナルモノナレドモ應用上ニハ
 使用セラレズ之ニ反シテ重み (p) ハ常ニ使用セラル

第三節 一個ノ未知數ニ於ケル直接測量

等シキ精密度ヲ以テ或ル未知數ヲ直接ニ測量スルトキハ算術的平
 均數ガ最モ確カラシキ値ナルコトハ一般ニ認メラル而シテ最小自乘
 法ノ基礎原理ヨリ次ノ如ク之ヲ説明スルヲ得ベシ

今 l_1, \dots, l_n ヲ重み或ハ精密度ノ等シキ直接測量ノ結果トシテ
 未知數ノ最モ確カラシキ値トスレバ殘差誤差ハ $z - l_1, z - l_2, \dots, z - l_n$
 ナリ

而シテ基礎原理 (6) ヲ

$$(z - l_1)^2 + (z - l_2)^2 + \dots + (z - l_n)^2 = \text{最小}$$

之レノ第一微分係數ヲ作り之ヲ零トナス 即チ

$$2(z - l_1) + 2(z - l_2) + \dots + 2(z - l_n) = 0$$

之レヨリ z ノ値ヲ求ムルトキハ

$$z = \frac{l_1 + l_2 + \dots + l_n}{n} \dots \dots \dots (1)$$

即チ最モ確カラシキ値ハ觀測値ノ算術的平均數ナリ

故ニ或數ヲ等シキ精密度ヲ以テ直接ニ數回測量ヲ爲セシトキニ之
 レヲ整正スルニハ觀測値ノ算術的平均ヲ取レバ可ナリ. 然レドモ測
 量ノ精密度等シカラザルトキハ算術的平均ハ採用スルヲ得ズ此場合
 ニハ重み付殘差誤差ノ自乗ノ和ヲ最小ニナス如クス. 即チ

l_1, l_2, \dots, l_n の重みヲ夫々 p_1, p_2, \dots, p_n トスレバ (7) 式ハ
 $p_1(z-l_1)^2 + p_2(z-l_2)^2 + \dots + p_n(z-l_n)^2 = \text{最小}$

之レノ第一微分係數ヲ作り之レヲ零トナス即チ

$$p_1(z-l_1) + p_2(z-l_2) + \dots + p_n(z-l_n) = 0$$

之レヨリ

$$z = \frac{p_1 l_1 + p_2 l_2 + \dots + p_n l_n}{p_1 + p_2 + \dots + p_n} = \frac{[pl]}{[p]} \dots \dots \dots (2)$$

即チ未知數ノ最モ確カラシキ値ハ各觀測値ニ其重みヲ乗ジタルモノノ和ヲ重みノ和ニテ除シテ得。

此平均法ヲ算術的平均法ト區別シテ一般的平均法或ハ重み付平均法ト云フ

故ニ算術的平均數ガ精密度ノ等シキ測量ノ最モ確カラシキ値ナレバ一般平均數ハ精密度ノ等シカラザル測量ノ最モ確カラシキ値ナリ故ニ重みノ等シカラザル直接測量ノ修正ニハ觀測値ノ一般平均數ヲ取レバ可ナリ

第四節 多數ノ未知數ニ於ケル精密度等シキ獨立測量

獨立測量ノ一般ノ場合ハ多數ノ未知數ヲ決定スル場合ナリ。

前節ノ平均法ハ一個ノ未知數ニ於ケル觀測値ヲ平均スル場合ニ用ヒラル

多數ノ未知數ヲ定ムル爲メニ未知數ノ數 q ヨリモ多クノ測量ヲナシタル場合ノ平均法ハ次ノ如シ

觀測式トハ求メントスル未知數ト觀測値トヲ結合スル式ナリ故ニ

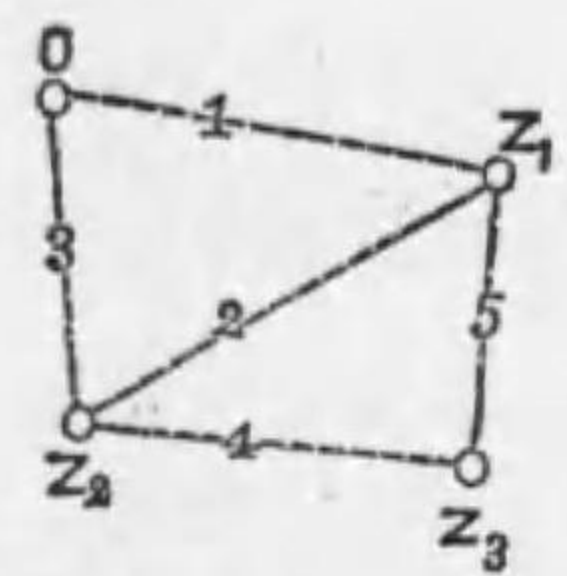
シテ $f(z_1, z_2)$ ノ觀測値トスレバ $l = f(z_1, z_2)$ ハ觀測式ナリ

此等ノ式ノ數ハ測量ノ回數ト等シクシテ一般ニ測定セントスル未知數ノ數ヨリモ多シ。

故ニ嚴密ニ觀測式ヲ満足セシムル所ノ値ノ組ヲ見出し得ズ 併シ近似値ノ多クノ組アリ故ニ此中ニテ最モ確カラシキ組即チ最大ノ「ぶらばりち」ヲ持ッ組ヲ決定スルヲ要ス

次ニ例ヲ以テ之レヲ説明セン

第五圖



0 ヲ或ル水準基點. Z_1, Z_2, Z_3 ヲ水準高ヲ定メントスル 3 點トシ而シテ水準測量線ガ 5 線アリトス
 第一測量線ニ依レバ Z_1 點ハ 0 點ヨリ 10 尺高シ

第二測量線ニ依レバ Z_2 點ハ Z_1 點ヨリ 7 尺高シ

第三測量線ニ依レバ Z_3 點ハ 0 點ヨリ 18 尺高シ

第四測量線ニ依レバ Z_2 點ハ Z_3 點ヨリ 9 尺高シ

第五測量線ニ依レバ Z_3 點ハ Z_1 點ヨリ 2 尺低シ

今 Z_1, Z_2 及 Z_3 點ノ高サヲ夫々 z_1, z_2 及 z_3 トスレバ次ノ觀測式ヲ得

$$z_1 = 10 \quad z_2 - z_3 = 9$$

$$z_2 - z_1 = 7 \quad z_1 - z_3 = 2$$

$$z_3 = 18$$

此各式ハ眞値ニ近似ノモノナレドモ式數ガ未知數ノ數ヨリ多キ故ニ正解ヲナシ得ズ故ニ z_1, z_2 及 z_3 ノ最モ確カラシキ値ヲ見出サントス(此解法ハ第十節ニ在リ)

觀測式ハ一次二次或ハ二次以上ノ代數式トナリ或ハ圓函數或ハ對

$$\left. \begin{aligned} a_1 z_1 + b_1 z_2 + c_1 z_3 + \dots + f_1 z_q &= l_1 \\ a_2 z_1 + b_2 z_2 + c_2 z_3 + \dots + f_2 z_q &= l_2 \\ \dots & \\ a_n z_1 + b_n z_2 + c_n z_3 + \dots + f_n z_q &= l_n \end{aligned} \right\} \dots (7)$$

而シテ z_1 = 對スル法正式ハ此等ノ式中ノ第一式 = a_1 ヲ乘ジ第二式 = a_2 ヲ乘ジ第 n 式 = a_n ヲ乘ジタルモノ即チ

$$\left. \begin{aligned} \text{第一式} \times a_1 & \left\{ \begin{aligned} a_1^2 z_1 + a_1 b_1 z_2 + a_1 c_1 z_3 + \dots + a_1 f_1 z_q &= a_1 l_1 \\ \text{第二式} \times a_2 & \left\{ \begin{aligned} a_2^2 z_1 + a_2 b_2 z_2 + a_2 c_2 z_3 + \dots + a_2 f_2 z_q &= a_2 l_2 \\ \dots & \\ \text{第 } n \text{ 式} \times a_n & \left\{ \begin{aligned} a_n^2 z_1 + a_n b_n z_2 + a_n c_n z_3 + \dots + a_n f_n z_q &= a_n l_n \end{aligned} \right. \end{aligned} \right. \end{aligned} \right\} \dots (8)$$

之レヲ加フレバ

$$\begin{aligned} & (a_1^2 + a_2^2 + a_3^2 + \dots + a_n^2) z_1 + (a_1 b_1 + a_2 b_2 + \dots + a_n b_n) z_2 \\ & + \dots + (a_1 f_1 + a_2 f_2 + \dots + a_n f_n) z_q \\ & = (a_1 l_1 + a_2 l_2 + \dots + a_n l_n) \end{aligned}$$

同様ニ他ノ未知數ニ對スル法正式ヲ作ルヲ得而シテ此等ノ式ヲ示スニ次ノ略符ヲ用フ

$$\begin{aligned} [aa] &= a_1^2 + a_2^2 + a_3^2 + \dots + a_n^2 \\ [ab] &= a_1 b_1 + a_2 b_2 + a_3 b_3 + \dots + a_n b_n \\ [af] &= a_1 f_1 + a_2 f_2 + a_3 f_3 + \dots + a_n f_n \\ [bb] &= b_1^2 + b_2^2 + b_3^2 + \dots + b_n^2 \\ [al] &= a_1 l_1 + a_2 l_2 + a_3 l_3 + \dots + a_n l_n \end{aligned}$$

然ルトキハ法正式ハ次ノ如クナル

$$\left. \begin{aligned} [aa] z_1 + [ab] z_2 + \dots + [af] z_q &= [al] \\ [ab] z_1 + [bb] z_2 + \dots + [bf] z_q &= [bl] \end{aligned} \right\}$$

$$\left. \begin{aligned} [ac] z_1 + [bc] z_2 + \dots + [cf] z_q &= [cl] \\ \dots & \\ [af] + [bf] z_2 + \dots + [ff] z_q &= [fl] \end{aligned} \right\} \dots (10)$$

此等ノ法正式ヲ見ルニ未知數ノ係數ハ對稱的ヲナス即チ

第一横列ノ係數 $[aa], [ab], \dots, [af]$ ハ

第一縦列ノ係數 $[aa], [ab], \dots, [af]$ ト等シク

第二横列ノ係數 $[ab], [bb], \dots, [bf]$ ハ

第二縦列ノ係數 $[ab], [bb], \dots, [bf]$ ト等シ

故ニ精密度等シキ獨立間接測量ヲ整正スル方法ハ先ヅ n 回ノ測量ニ對シ n 個ノ觀測式ヲ書キ次ギニ法正式ヲ作り之ヲ解キテ未知數ノ最モ確カラシキ値ヲ得ルニ在リ

此方法ノ應用ハ第七章ニ在リ

第五節 二個ノ未知數ノ場合

$l_1, l_2, l_3, \dots, l_n$ ヲ觀測値 } トシ
 x, y, \dots ヲ未知數 }

次ノ n 個ノ誤差式アリトス

$$\left. \begin{aligned} v_1 &= a_1 x + b_1 y - l_1 \\ v_2 &= a_2 x + b_2 y - l_2 \\ v_3 &= a_3 x + b_3 y - l_3 \\ \dots & \\ v_n &= a_n x + b_n y - l_n \end{aligned} \right\} \dots (1)$$

修正數 v ノ二乗ノ和ガ最小ニナル如ク v ヲ定メントス

各 v ノ二乗ヲ作ルトキハ

$$v^2 = a^2x^2 + 2abxy - 2alx + b^2y^2 - 2lly + l^2$$

總テノVヲ二乗シテ加フルトキハ

$$[vv] = [aa]x^2 + 2[ab]xy - 2[al]x + [bb]y^2 - 2[lly] + [ll] \dots \dots (2)$$

最小二乗平均法ノ主義ニ依リ [vv]ヲ未知數ニ關シ微分シテ其微分係數ヲ零トナストキハ

$$\frac{\partial [vv]}{\partial x} = 0 \quad \frac{\partial [vv]}{\partial y} = 0 \dots \dots \dots (3)$$

$$2[aa]x + 2[ab]y - 2[al] = 0$$

$$2[ab]x + 2[bb]y - 2[lly] = 0$$

之レヲ共通ノ因子2ニテ除シ次ノ法正式ヲ得ル

$$\left. \begin{aligned} [aa]x + [ab]y - [al] &= 0 \\ [ab]x + [bb]y - [lly] &= 0 \end{aligned} \right\} \dots \dots \dots (4)$$

此式ヲ通常ノ方法ニテ解クトキハ

$$\left. \begin{aligned} x &= \frac{[bb][al] - [ab][lly]}{[aa][bb] - [ab]^2} \\ y &= \frac{[aa][lly] - [ab][al]}{[aa][bb] - [ab]^2} \end{aligned} \right\} \dots \dots \dots (5)$$

此(4)式或ハ(5)式ハ完全ナル平均式ナリ。故ニ誤差式(2)ノ係數ab及絶對項lヨリ法正式(4)ヲ作り之レヲ解キテ(5)式ヲ得ベシ

又法正式ヲ次ノ如ク書クヲ得ベシ

$$\left. \begin{aligned} [av] &= 0 \\ [bv] &= 0 \end{aligned} \right\} \dots \dots \dots (6)$$

[參考]

(2)式ヨリ

$$[av] = a_1v_1 + a_2v_2 + a_3v_3 + \dots = [aa]x + [ab]y - [al] = 0$$

(6)式ハ算術的平均ノ場合ニ於ケル [v]=0 式ニ相當スルモノナリ。

第六節 實驗ニ依リ常數ヲ求ムル法

其一. $l = \alpha x + \beta y$ ナル場合

此式ノ變數 x, y, l ノ値ヲ觀測シテ成ルベク精密ニ常數 α 及 β ノ値ヲ定メントス從ツテ α 及 β ハ x, y 及 l ノ間ノ關係ヲ精密ニ示スモノトナル

$$\left. \begin{aligned} x_1 \ y_1 \ l_1 \\ x_2 \ y_2 \ l_2 \\ x_3 \ y_3 \ l_3 \\ \dots \dots \dots \\ x_n \ y_n \ l_n \end{aligned} \right\} \begin{aligned} &\text{ヲ觀測ノ結果トスレバ觀測誤差式ハ} \\ &\text{次ノ如シ} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} v_1 &= \alpha x_1 + \beta y_1 - l_1 \\ v_2 &= \alpha x_2 + \beta y_2 - l_2 \\ v_3 &= \alpha x_3 + \beta y_3 - l_3 \\ &\dots \dots \dots \\ v_n &= \alpha x_n + \beta y_n - l_n \end{aligned}$$

此式ヲ第五節(1)式ニ比スレバ

$$x = \alpha \quad y = \beta \quad a = x \quad b = y$$

故ニ(5)式ニ於テ $x = \alpha \quad y = \beta \quad a = x \quad b = y$ トスレバ α 及 β ニ對スル法正式ヲ得

$$\left. \begin{aligned} \alpha &= \frac{[yy][xl] - [xy][yl]}{[xx][yy] - [xy]^2} \\ \beta &= \frac{[xx][yl] - [xy][xl]}{[xx][yy] - [xy]^2} \end{aligned} \right\} \dots \dots \dots (1)$$

〔例一〕運動法則の場合

始メノ速度 (c) 及加速度 (p) ナ見出ス爲メニ種々ノ時間 (t_1, t_2, \dots) = 對スル距離 (s_1, s_2, s_3, \dots) ナ測定シテ次ノ結果ヲ得タリトス

時間 (秒) t	0	1	3'	5	7	10
距離 (呎) s	0	3	20	2 ²	58 ¹ / ₂	101

而シテ $s = ct + \frac{pt^2}{2}$ ナル式ハ運動ノ基礎トナルベキモノナル故ニ此式ノ常數 (c 及 p) ナ見出サントス 本節 (1) 式ニ於テ

$$\left. \begin{aligned} x &= t \\ y &= t^2 \\ \alpha &= c \\ \beta &= \frac{p}{2} \\ l &= s \end{aligned} \right\} \text{トスレバ}$$

c 及 p ハ次式ニ依リテ算出サル

$$c = \frac{[t^2t][st] - [tt^2][st^2]}{[tt][t^2t^2] - [tt^2][t^2t]}$$

$$\frac{p}{2} = \frac{[tt][st^2] - [tt^2][st]}{[tt][t^2t^2] - [tt^2][t^2t]}$$

故ニ次ノ計算ヲナス

t	t^2	tt^2	t^2t^2	s	st	st^2
1	1	1	1	5	5	5
3	9	27	81	20	60	180
5	25	125	625	38	190	950
7	49	343	2401	58.5	409.5	2866.5
10	100	1000	10000	101.0	1010.0	10100
計	184	1496	13108	222.5	1674.5	14101.5
	$[tt]$	$[tt^2]$	$[t^2t^2]$	$[s]$	$[st]$	$[st^2]$

之レヨリ

$$c = \frac{13108 \times 1674.5 - 1496 \times 14101.5}{184 \times 13108 - 1496 \times 1496} = \frac{853502}{173856} = 4.909 \text{ 呎}$$

$$\frac{p}{2} = \frac{184 \times 14101.5 - 1496 \times 1674.5}{184 \times 13108 - 1496 \times 1496} = \frac{89624}{173856} = 0.5155 \text{ 呎}$$

故ニ次式ヲ得

$$s = 4.909t + 0.5155t^2$$

此式ニ從ヘバ

時間 (秒) t	0	1	3	5	7	10
距離 (呎) s	0	5.42	19.39	37.43	59.62	100.64

其二. $l = \alpha + \beta y$ ナル場合

此場合ハ $x=1$ ナル場合ナル故ニ

$$\begin{aligned} [xy] &= [y] \\ [xl] &= [l] \\ [xx] &= 1+1+1+\dots+1 = n \text{ (観測ノ回数)} \end{aligned}$$

故ニ (1) 式ハ次ノ如クナル

$$\left. \begin{aligned} \alpha &= \frac{[xy][l] - [y][yl]}{n[yy] - [y][y]} \\ \beta &= \frac{n[y][l] - [y][l]}{n[yy] - [y][y]} \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (2)$$

其三. $l = \beta y$ ナル場合

此場合ハ α ガ零ナル場合ナル故ニ

$$\beta = \frac{[yl]}{[yy]} \dots\dots\dots (3)$$

其四. $l = \alpha$ ナル場合

此場合ハ $x=1$ $\beta=0$ ナル場合ナル故ニ (1) 式ハ次ノ如クナル

$$\alpha = \frac{[l]}{n} \dots\dots\dots (4)$$

此値ハ總テノ観測値ノ算術的平均數ナリ

第七節 三個ノ未知數ノ場合

- l_1, l_2, l_3, \dots 観測値
- x, y, z, \dots 未知數
- a, b, c, \dots 係數 (誤差ナキモノトス) } トスレバ
- n, \dots 観測回数
- $v_1, v_2, v_3, \dots, v_n$ 殘差

誤差式ハ n 個アリテ次ノ如シ

$$\left. \begin{aligned} v_1 &= a_1x + b_1y + c_1z - l_1 \\ v_2 &= a_2x + b_2y + c_2z - l_2 \\ &\dots\dots\dots \\ v_n &= a_nx + b_ny + c_nz - l_n \end{aligned} \right\} n \text{ 個} \dots\dots\dots(1)$$

而シテ最小自乗法ニ於テハ次ノ條件式アリ

$$[vv] = v_1^2 + v_2^2 + v_3^2 + \dots + v_n^2 = \text{最小} \dots\dots\dots(2)$$

$$\left. \begin{aligned} v^2 &= a^2x^2 + 2abxy + 2acxz - 2alx \\ &\quad + b^2y^2 + 2bcyz - 2bly + c^2z^2 - 2clz + l^2 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(3)$$

$$\left. \begin{aligned} [vv] &= [aa]x^2 + 2[ab]xy + 2[ac]xz - 2[al]x \\ &\quad + [bb]y^2 + 2[bc]yz - 2[bl]y \\ &\quad + [cc]z^2 - 2[cl]z + [ll] \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(4)$$

$$\frac{\partial [vv]}{\partial x} = 0, \quad \frac{\partial [vv]}{\partial y} = 0, \quad \frac{\partial [vv]}{\partial z} = 0, \dots\dots\dots(5)$$

$$2[aa]x + 2[ab]y + 2[ac]z - 2[al] = 0$$

$$2[ab]x + 2[bb]y + 2[bc]z - 2[bl] = 0$$

$$2[ac]x + 2[bc]y + 2[cc]z - 2[cl] = 0$$

法正式ハ次ノ如シ

$$\left. \begin{aligned} [aa]x + [ab]y + [ac]z - [al] &= 0 \\ [ab]x + [bb]y + [bc]z - [bl] &= 0 \\ [ac]x + [bc]y + [cc]z - [cl] &= 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(6)$$

此式ヲ解キテ x, y, z ノ値ヲ求メ得

第八節 「がうす」氏ノ法正式解法

法正式ハ代數法ニテモ之レヲ解クヲ得レドモ式ノ數ガ 5 個ヨリ多

キトキハ解法ヲ規則正シクナシ且數回計算ノ正否ヲ檢定スルコト必要ナリ

「がうす」氏ノ解法ハ法正式ノ係數ガ常ニ對稱ヲ保ツヲ以テ宜シ

今等シキ精密度ノ測量ヲ行ヒテ 3 個ノ未知數ヲ定ムル場合ニ就テ

説明セン

先ヅ n 個ノ觀測式ヲ次ノ如ク書ク

$$a_1z_1 + b_1z_2 + c_1z_3 - l_1 = 0$$

$$a_2z_1 + b_2z_2 + c_2z_3 - l_2 = 0$$

$$\dots\dots\dots$$

$$a_nz_1 + b_nz_2 + c_nz_3 - l_n = 0$$

式中 l_1, \dots, l_n ハ絕對項ナリ

之レヨリ 3 個ノ法正式ヲ作ルトキハ次ノ如シ

$$a_1a_1z_1 + a_1b_1z_2 + a_1c_1z_3 - a_1l_1 = 0$$

$$a_2a_2z_1 + a_2b_2z_2 + a_2c_2z_3 - a_2l_2 = 0$$

$$\dots\dots\dots$$

$$a_n a_n z_1 + a_n b_n z_2 + a_n c_n z_3 - a_n l_n = 0$$

$$[aa]z_1 + [ab]z_2 + [ac]z_3 - [al] = 0 \dots\dots\dots(1)$$

$$\text{故ニ} \quad z_1 = \frac{-[ab]z_2 - [ac]z_3 + [al]}{[aa]}$$

$$b_1a_1z_1 + b_1b_1z_2 + b_1c_1z_3 - b_1l_1 = 0$$

$$b_2a_2z_1 + b_2b_2z_2 + b_2c_2z_3 - b_2l_2 = 0$$

$$\dots\dots\dots$$

$$b_n a_n z_1 + b_n b_n z_2 + b_n c_n z_3 - b_n l_n = 0$$

$$[ab]z_1 + [bb]z_2 + [bc]z_3 - [bl] = 0 \dots\dots\dots(2)$$

$$c_1 a_1 z_1 + c_1 b_1 z_2 + c_1 c_1 z_3 - c_1 l_1 = 0$$

$$c_2 a_2 z_1 + c_2 b_2 z_2 + c_2 c_2 z_3 - c_2 l_2 = 0$$

$$\dots\dots\dots$$
$$c_n a_n z_1 + c_n b_n z_2 + c_n c_n z_3 - c_n l_n = 0$$

$$[ac]z_1 + [bc]z_2 + [cc]z_3 - [cl] = 0 \dots\dots\dots(3)$$

(1) 式ヨリ z_1 ノ値ヲ求メテ之レヲ (2) 式ニ入ルルトキハ次ノ如シ

$$[ab] \left(\frac{-[ab]z_2 - [ac]z_3 + [al]}{[aa]} \right) + [bb]z_2 + [bc]z_3 - [bl] = 0$$

故ニ

$$\left([bb] - \frac{[ab]}{[aa]} [ab] \right) z_2 + \left([bc] - \frac{[ab]}{[aa]} [ac] \right) z_3 - \left([bl] - \frac{[ab]}{[aa]} [al] \right) = 0 \dots(4)$$

又 (1) 式ヨリ z_1 ノ値ヲ求メテ之レヲ (3) 式ニ入ルルトキハ次ノ如シ

$$[ac] \left(\frac{-[ab]z_2 - [ac]z_3 + [al]}{[aa]} \right) + [bc]z_2 + [cc]z_3 - [cl] = 0$$

故ニ

$$\left([bc] - \frac{[ab]}{[aa]} [ac] \right) z_2 + \left([cc] - \frac{[ac]}{[aa]} [ac] \right) z_3 - \left([cl] - \frac{[ac]}{[aa]} [al] \right) = 0 \dots\dots(5)$$

次ノ略符ヲ用フルトキハ

$$[bb] - \frac{[ab]}{[aa]} [ab] = [bb. 1]$$

$$[bc] - \frac{[ab]}{[aa]} [ac] = [bc. 1]$$

$$[cc] - \frac{[ac]}{[aa]} [ac] = [cc. 1]$$

$$[bl] - \frac{[ab]}{[aa]} [al] = [bl. 1]$$

$$[cl] - \frac{[ac]}{[aa]} [al] = [cl. 1]$$

(4) 及 (5) ノ兩式ハ次ノ如クナル

$$[bb. 1]z_2 + [bc. 1]z_3 - [bl. 1] = 0 \dots\dots\dots(6)$$

$$[bc. 1]z_2 + [cc. 1]z_3 - [cl. 1] = 0 \dots\dots\dots(7)$$

此兩式ハ (2) 及 (3) 法正式ト相似形ニシテ只 z_1 ヲ含ム項ノナキト

[] 活弧内ニ1ガ入リタルノミナリ

(6) 式ヨリ z_2 ノ値ヲ求メテ之レヲ (7) 式ニ入ルルトキハ

$$[bc. 1] \left(\frac{-[bc. 1]z_3 + [bl. 1]}{[bb. 1]} \right) + [cc. 1]z_3 - [cl. 1] = 0$$

略符ヲ用ヒ

$$\left. \begin{aligned} [cc. 1] - \frac{[bc. 1]}{[bb. 1]} [bc. 1] &= [cc. 2] \\ [cl. 1] - \frac{[bc. 1]}{[bb. 1]} [bl. 1] &= [cl. 2] \end{aligned} \right\} \text{トスルトキハ}$$

$$[cc. 2]z_3 - [cl. 2] = 0$$

此式ヨリ z_3 ノ値ヲ見出ストキハ

$$z_3 = + \frac{[cl. 2]}{[cc. 2]}$$

z_3 ノ此値ヲ z_2 及 z_1 ヲ含有スル二式ノ一ツニ入レテ z_2 ノ値ヲ得次ニ法正式ノ一ツヨリ z_1 ノ値ヲ見出シ得ベシ

或數ノ法正式ニ於ケル $[bb. 2]$, $[cl. 2]$ 等ハ補助係數ニシテ其値ハ直ニ書クヲ得ル即チ前述ノ如ク先ヅ z_1 ヲ除クトキニ第一補助係數ハ法正式ニ於ケル考フル項ノ係數ヨリ $\frac{PQ}{R}$ ヲ減ジタルモノナリ。

式中 P ハ考フル項ヲ含ム横列ノ左端ニ在ル係數

Q ハ考フル項ヲ含ム縦列ノ頂上ニ在ル係數

R ハ法正式ノ第一式ノ第一係數ナリ

第二以上ノ補助係數ノ値モ亦同様ニ書クヲ得ル

例へバ

$$\left. \begin{aligned} [aa]z_1 + [ab]z_2 + [ac]z_3 - [al] &= 0 \\ [ab]z_1 + [bb]z_2 + [bc]z_3 - [bl] &= 0 \\ [ac]z_1 + [bc]z_2 + [cc]z_3 - [cl] &= 0 \end{aligned} \right\} \text{ナル法正式ニ於テ}$$

考フル項ノ係數 [bb]	[bc]	[bl]
P=[ab]	[ab]	[ab]
Q=[ab]	[ac]	[al]
R=[aa]	[aa]	[aa]
$[bb] - \frac{[ab]}{[aa]}[ab]z_2$	$[bc] - \frac{[ab]}{[aa]}[ac]z_3$	$[bl] - \frac{[ab]}{[aa]}[al]$

故ニ $[bb. 1]z_2 + [bc. 1]z_3 - [bl. 1] = 0$

考フル項ノ係數 [bc]	[cc]	[cl]
P=[ac]	[ac]	[ac]
Q=[ab]	[ac]	[al]
R=[aa]	[aa]	[aa]
$([bc] - \frac{[ab]}{[aa]}[ac])z_2$	$([cc] - \frac{[ac]}{[aa]}[ac])z_3$	$([cl] - \frac{[ac]}{[aa]}[al])$

故ニ $[bc. 1]z_2 + [cc. 1]z_3 - [cl. 1] = 0$

法正式ノ形成及其解法ハ測量ノ整正ノ工作中ニテ最モ多ク勞力ヲ要スル部分ナリ 故ニ自乗表、乘數表、算盤及計算器械ヲ使用シテ之ヲ爲ス又屢々檢算ヲ爲スコト必要ナリ而シテ仕事ヲ配列シ且檢算スルニ次ノ方法ヲ用フルコトアリ

觀測式ノ係數及絶對項ヲ書き而シテ各横列ニ在ル數ノ代數的和ヲ作り之レヲ右方ノ縦列ニ記入スベシ 三個ノ未知數 z_1, z_2 及 z_3 ニ對スル場合ニ於テ表ヲ書クトキハ次ノ如シ

a	b	c	-l	s	$a+b+c-l=s$
a_1	b_1	c_1	$-l_1$	s_1	
a_2	b_2	c_2	$-l_2$	s_2	
a_n	b_n	c_n	$-l_n$	s_n	

次ニ法正式ノ係數 [ll], [as], [bs], [cs] 及 [ss] ヲ作ルベシ 而シテ法正式ニ於ケル各項ノ係數ヲ次ノ如ク表ニ記入シ右方ニ縦列ヲ加ヘ又對角線ノ上下ノ係數ハ同ジキヲ以テ之ヲ省略スベシ

z_1	z_2	z_3	l	s
[aa]	[ab]	[ac]	-[al]	[as]
	[bb]	[bc]	-[bl]	[bs]
		[cc]	-[cl]	[cs]
			[ll]	-[ls]
				[ss]

而シテ [as] ガ其横列ニ於ケル數ノ代數的和ニ等シケレバ計算ハ正シキナリ

此他同様ナル檢算四個アリ即チ

$$[bs] = -[bl] + [bc] + [bl] + [ab]$$

$$[cs] = -[cl] + [cc] + [bc] + [ac]$$

$$-[ls] = [ll] - [cl] - [bl] - [al]$$

$$[ss] = -[ls] + [cs] + [bs] + [as]$$

而シテ此檢算ガ履行セラレザレバ計算ニ誤リアリ故ニ再算ス可シ 次ニ第一補助係數 [ll. 1], [bs. 1], [cs. 1], [ls. 1] 及 [ss. 1] ヲ計算スベシ

例へバ

$$[ls. 1] = [ls] - \frac{[al]}{[aa]}[as]$$

次 = z_1 ヲ除ケバ表ハ次ノ形トナル

z_2	z_3	$l. 1$	$s. 1$
$[b]. 1$	$[bc. 1]$	$-[bl. 1]$	$[bs. 1]$
	$[cc. 1]$	$-[cl. 1]$	$[cs. 1]$
		$[ll. 1]$	$-[ls. 1]$
			$[ss. 1]$

之レ = モ亦次ノ四個ノ檢算法アリ

$$[bs. 1] = -[bl. 1] + [bc. 1] + [bb. 1]$$

$$[cs. 1] = -[cl. 1] + [cc. 1] + [bc. 1]$$

$$-[ls. 1] = [ll. 1] - [cl. 1] - [bl. 1]$$

$$[ss. 1] = -[ls. 1] + [cs. 1] + [bs. 1]$$

次 = 第二補助係數ヲ計算スルトキハ表ハ次ノ如クナル

z_3	$l. 2$	$s. 2$
$[cc. 2]$	$-[cl. 2]$	$[cs. 2]$
	$[ll. 2]$	$-[ls. 2]$
		$[ss. 2]$

之レ = モ亦次ノ三個ノ檢算法アリ

$$[cs. 2] = -[cl. 2] + [cc. 2]$$

$$-[ls. 2] = [ll. 2] - [cl. 2] \quad \left. \begin{array}{l} [cs. 2] \\ [ss. 2] \end{array} \right\} \text{而シテ之レ = 誤リナキトキハ}$$

$$[ss. 2] = -[ls. 2] + [cs. 2]$$

$$z_3 = + \frac{[cl. 2]}{[cc. 2]}$$

尙完全ナル檢算法ハ第三補助係數 $[ll. 3]$, $[ls. 3]$ 及 $[ss. 3]$ ヲ算出スルニ在リ然ルトキハ表ハ次ノ如クナリテ此三個ノ値ハ互ニ等シク又此各自ハ $[vv]$ 即チ法正式ヨリ算出シタル z_1, z_2, z_3 ノ値ヲ觀測式

$[ll. 3]$	$-[ls. 3]$	中ニ入レテ得タル殘差ノ自乗ノ和ニ等シ
	$[ss. 3]$	

[参考] 觀測式ヲ $az_1 + bz_2 + cz_3 - l = 0$ トシ最モ確カラシキ値 z_1, z_2 及 z_3 ナ入ルルトキハ此式ハ零トナラズシテ小ナル殘差 (v) ヲ殘ス 即チ

$$az_1 + bz_2 + cz_3 - l = v$$

而シテ v ノ n 個ノ値ヲ自乗シテ加ヘ $[vv]$ ノ値ヲ算出ス即チ

$$v_1^2 = a_1^2 z_1^2 + 2a_1 b_1 z_1 z_2 + 2a_1 c_1 z_1 z_3 + b_1^2 z_2^2 + 2b_1 c_1 z_2 z_3$$

$$- 2a_1 l_1 z_1 - 2b_1 l_1 z_2 + c_1^2 z_3^2 - 2c_1 l_1 z_3 + l_1^2$$

$$v_2^2 = a_2^2 z_1^2 + 2a_2 b_2 z_1 z_2 + 2a_2 c_2 z_1 z_3 + b_2^2 z_2^2 + 2b_2 c_2 z_2 z_3$$

$$- 2a_2 l_2 z_1 - 2b_2 l_2 z_2 + c_2^2 z_3^2 - 2c_2 l_2 z_3 + l_2^2$$

$$\dots \dots \dots$$

$$v_n^2 = a_n^2 z_1^2 + 2a_n b_n z_1 z_2 + 2a_n c_n z_1 z_3 + b_n^2 z_2^2 + 2b_n c_n z_2 z_3$$

$$- 2a_n l_n z_1 - 2b_n l_n z_2 + c_n^2 z_3^2 - 2c_n l_n z_3 + l_n^2$$

$$[vv] = [a_1]z_1 z_1 + 2[ab]z_1 z_2 + 2[ac]z_1 z_3 + [b]z_2 z_2 + 2[bc]z_2 z_3 - 2[cl]z_1 - 2[bl]z_2 + [cc]z_3 z_3 - 2[cl]z_3 + [l]$$

$$= z_1([aa]z_1 + [ab]z_2 + [ac]z_3 - [al]) + z_2([ab]z_1 + [bb]z_2 + [bc]z_3 - [bl])$$

$$+ z_3([ac]z_1 + [bc]z_2 + [cc]z_3 - [cl]) - [al]z_1 - [bl]z_2 - [cl]z_3 + [ll]$$

而シテ

$$[aa]z_1 + [ab]z_2 + [ac]z_3 - [al] = 0$$

$$[ab]z_1 + [bb]z_2 + [bc]z_3 - [bl] = 0$$

$$[ac]z_1 + [bc]z_2 + [cc]z_3 - [cl] = 0 \quad \text{ナル故ニ}$$

$$-[al]z_1 - [bl]z_2 - [cl]z_3 + [ll] = [vv] \dots \dots \dots (1)$$

而シテ之ヲ第四ノ法正式ト考ヘ z_1 ヲ除クトキハ

$$-[bl. 1]z_2 - [cl. 1]z_3 + [ll. 1] = [vv] \quad \text{トナル} \dots \dots \dots (2)$$

何トナレバ $[aa]z_1 + [ab]z_2 + [ac]z_3 - [al] = 0$ ナル式ヨリ

$$z_1 = - \frac{[ab]z_2 + [ac]z_3 - [al]}{[aa]} \quad \text{此ノ値ヲ (1) 式ニ入ルトキハ}$$

$$-[al] \left(\frac{-[ab]z_2 - [ac]z_3 + [al]}{[aa]} \right) - [bl]z_2 - [cl]z_3 + [ll] = [vv]$$

故ニ

$$-\left([bl] - \frac{[ab]}{[aa]} [al] \right) z_2 - \left([cl] - \frac{[ac]}{[aa]} [al] \right) z_3 + \left([ll] - \frac{[al]}{[aa]} [al] \right) = [vv]$$

故ニ

$$-[bl. 1]z_2 - [cl. 1]z_3 + [ll. 1] = [vv]$$

次 = z_2 ヲ除クトキハ

$$-[cl. 2]z_2 + [ll. 2] = [vv] \dots\dots\dots(3)$$

何トナレバ $[bb. 1]z_2 + [bc. 1]z_2 - [bl. 1] = 0$ ナル式ヨリ

$$z_2 = -\frac{[bc. 1]z_2 - [bl. 1]}{[bb. 1]} \quad \text{此ノ値ヲ(2)式ニ入ルニトキハ}$$

$$-[bl. 1]\left(\frac{-[bc. 1]z_2 + [bl. 1]}{[bb. 1]}\right) - [cl. 1]z_2 + [ll. 1] = [vv]$$

故ニ $-\left([cl. 1] - \frac{[bc. 1][bl. 1]}{[bb. 1]}\right)z_2 + \left([ll. 1] - \frac{[bl. 1]^2}{[bb. 1]}\right) = [vv]$

故ニ $-[cl. 2]z_2 + [ll. 2] = [vv]$

次ニ z_2 ナ除クニトキハ $[ll. 3] = [vv] \dots\dots\dots(4)$

何トナレバ $[cc. 2]z_3 - [cl. 2] = 0$ ナル式ヨリ

$$z_3 = \frac{[cl. 2]}{[cc. 2]}$$

此ノ値ヲ(3)式ニ入ルニトキハ

$$-[cl. 2] \times \frac{[cl. 2]}{[cc. 2]} + [ll. 2] = [vv]$$

故ニ $[ll. 3] = [vv]$ トナル

故ニ補助係數 $[ll. 3]$, $-[ls. 3]$ 及 $[ss. 3]$ ノ各々ハ $[vv] =$ 等シ即チ

$$[ll. 3] = [ls. 3] = [ss. 3] = [vv]$$

第九節 法正式解法ノ實例

第五圖ニ於テ 0 點ヲ或水準基標トシ z_1, z_2 及 z_3 ヲ基點ヨリノ高低ト

セヨ

- 1 線ノ測量ニ依リ 0 點ヨリ Z_1 點ノ高サ = 10尺
- 2 線ノ測量ニ依リ Z_1 點ヨリ Z_2 點ノ高サ = 7尺
- 3 線ノ測量ニ依リ 0 點ヨリ Z_2 點ノ高サ = 18尺
- 4 線ノ測量ニ依リ Z_3 點ヨリ Z_2 點ノ高サ = 9尺
- 5 線ノ測量ニ依リ Z_3 點ヨリ Z_1 點ノ高サ = 2尺

z_1, z_2 及 z_3 ヲ 3 點ノ高サトスルニバ次ノ觀測式ヲ得ベシ

$$z_1 = 10 \quad \text{即チ} \quad +z_1 + 0 + 0 - 10 = 0$$

$$z_2 - z_1 = 7 \quad -z_1 + z_2 + 0 - 7 = 0$$

$$z_2 = 18 \quad +0 + z_2 + 0 - 18 = 0$$

$$z_2 - z_3 = 9 \quad +0 + z_2 - z_3 - 9 = 0$$

$$z_1 - z_3 = 2 \quad +z_1 + 0 - z_3 - 2 = 0$$

此等ノ式ヲ前節ノ觀測式ト對照スレバ係數及絕對項ノ値ハ次ノ如シ

$$a_1 = +1 \quad b_1 = 0 \quad c_1 = 0 \quad -l_1 = -10$$

$$a_2 = -1 \quad b_2 = +1 \quad c_2 = 0 \quad -l_2 = -7$$

$$a_3 = 0 \quad b_3 = +1 \quad c_3 = 0 \quad -l_3 = -18$$

$$a_4 = 0 \quad b_4 = +1 \quad c_4 = -1 \quad -l_4 = -9$$

$$a_5 = +1 \quad b_5 = 0 \quad c_5 = -1 \quad -l_5 = -2$$

故ニ觀測式ニ於ケル係數及絕對項ノ表ハ次ノ如シ

a	b	c	-l	s
+1	0	0	-10	-9
-1	+1	0	-7	-7
0	+1	0	-18	-17
0	+1	-1	-9	-9
+1	0	-1	-2	-2

次ニ $[aa][ab][ac]$ 等ヲ算出スレバ次ノ如シ

$[aa] = +3$	$[bb] = +3$	$[cc] = +2$
$[ab] = -1$	$[bc] = -1$	$[cl] = -9 - 2 = -11$
$[ac] = -1$	$[bl] = +7 + 18 + 9 = +34$	$[cs] = +9 + 2 = +11$
$[al] = +10 - 7 + 2 = +5$	$[bs] = -7 - 17 - 9 = -33$	$[ll] = 100 + 49 + 324 + 81 + 4 = +558$
$[as] = -9 + 7 - 2 = -4$		$[ls] = -90 - 49 - 303 - 81 - 4 = -530$
		$[ss] = +81 + 49 + 269 + 81 + 4 = +504$

故ニ法正式ニ於ケル各項ノ係數表ハ次ノ如シ

z_1	z_2	z_3	l	s
+3	-1	-1	+5	-4
	+3	-1	+34	-33
		+2	-11	+11
			+558	-530
				+504

次ノ5個ノ檢定ヲ行フニ計算ニ誤ナシ

$$(1) \quad [aa] + [ab] + [ac] - [al] = [as]$$

$$+3 \quad -1 \quad -1 \quad -5 \quad = -4$$

$$(2) \quad -[bl] + [bc] + [bb] + [ab] = [bs]$$

$$-34 \quad -1 \quad +3 \quad -1 \quad = -33$$

$$(3) \quad -[cl] + [cc] + [bc] + [ab] = [cs]$$

$$11 \quad +2 \quad -1 \quad -1 \quad = +11$$

$$(4) \quad [ll] - [cl] - [ll] - [al] = [ls]$$

$$558 + 11 - 34 - 5 \quad = +530$$

$$(5) \quad -[ls] + [cs] + [bs] + [as] = [ss]$$

$$530 + 11 - 33 - 4 \quad = +504$$

次ニ第一補助係數ヲ計算スレバ次ノ如シ

$$[bb.1] = [bb] - \frac{[ab]}{[aa]}[ab] = 3 - \frac{-1}{3} \times (-1) = +2\frac{2}{3}$$

$$[bc.1] = [bc] - \frac{[ab]}{[aa]}[ac] = -1 + \frac{1}{3} \times (-1) = -1\frac{1}{3}$$

$$[bl.1] = [bl] - \frac{[ab]}{[aa]}[al] = 34 - \frac{1}{3} \times (-5) = +35\frac{2}{3}$$

$$[bs.1] = [bs] - \frac{[ab]}{[aa]}[as] = -33 + \frac{1}{3} \times (-4) = -34\frac{1}{3}$$

$$[cc.1] = [cc] - \frac{[ac]}{[aa]}[ac] = +2 - \frac{-1}{3} \times (-1) = +1\frac{2}{3}$$

$$[cl.1] = [cl] - \frac{[ac]}{[aa]}[al] = -11 - \frac{-1}{3} \times 5 = -11 + 1\frac{2}{3} = -9\frac{1}{3}$$

$$[cs.1] = [cs] - \frac{[ac]}{[aa]}[as] = 11 - \frac{-1}{3} \times (-4) = 11 - 1\frac{1}{3} = +9\frac{2}{3}$$

$$[ll.1] = [ll] - \frac{[al]}{[aa]}[al] = 558 - \frac{5}{3} \times 5 = +549\frac{2}{3}$$

$$[ls.1] = [ls] - \frac{[al]}{[aa]}[as] = -530 - \frac{5}{3} \times (-4) = -523\frac{1}{3}$$

$$[ss.1] = [ss] - \frac{[as]}{[aa]}[as] = 504 - \frac{-4}{3} \times (-4) = +498\frac{2}{3}$$

之レヲ表ニ示セバ次ノ如シ

z_2	z_3	l	s
$+2\frac{2}{3}$	$-1\frac{1}{3}$	$+35\frac{2}{3}$	$-34\frac{1}{3}$
	$+1\frac{2}{3}$	$-9\frac{1}{3}$	$9\frac{2}{3}$
		$549\frac{2}{3}$	$-523\frac{1}{3}$
			$498\frac{2}{3}$

次ノ四個ノ檢算ヲナスニ計算ニ誤リナシ

$$(1) \quad [bb.1] + [bc.1] - [bl.1] = [bs.1]$$

$$+2\frac{2}{3} - 1\frac{1}{3} - 35\frac{2}{3} = -34\frac{1}{3}$$

$$(2) \quad -[cl.1] + [cc.1] + [bc.1] = [cs.1]$$

$$+9\frac{1}{3} + 1\frac{2}{3} - 1\frac{1}{3} = +9\frac{2}{3}$$

$$(3) \quad [ll.1] - [cl.1] - [bl.1] = -[ls.1]$$

$$+549\frac{2}{3} + 9\frac{1}{3} - 35\frac{2}{3} = +523\frac{1}{3}$$

$$(4) -[ls. 1] + [cs. 1] + [bs. 1] = [ss. 1]$$

$$+523\frac{1}{3} + 9\frac{2}{3} - 34\frac{1}{3} = +498\frac{2}{3}$$

次 = z_2 ヲ除ク爲メ = 第二補助係數ヲ計算スレバ次ノ如シ

$$[cc. 2] = [cc. 1] - \frac{[bc. 1]}{[bb. 1]} [bc. 1] = 1\frac{2}{3} - \frac{-1\frac{1}{3}}{2\frac{2}{3}} \left(-1\frac{1}{3}\right) = +1.00$$

$$[cl. 2] = [cl. 1] - \frac{[bc. 1]}{[bb. 1]} [bl. 1] = -9\frac{1}{3} + \frac{1}{2} \times 35\frac{2}{3} = +8.50$$

$$[cs. 2] = [cs. 1] - \frac{[bc. 1]}{[bb. 1]} [bs. 1] = 9\frac{2}{3} + \frac{1}{2} \left(-34\frac{1}{3}\right) = -7.50$$

$$[ll. 2] = [ll. 1] - \frac{[bl. 1]}{[bb. 1]} [bl. 1] = 549\frac{2}{3} - \frac{35\frac{2}{3}}{2\frac{2}{3}} \times 35\frac{2}{3} = +72.625$$

$$[ls. 2] = [ls. 1] - \frac{[bl. 1]}{[bb. 1]} [bs. 1] = -523\frac{1}{3} - \frac{107}{8} \left(-34\frac{1}{3}\right) = -64.125$$

$$[ss. 2] = [ss. 1] - \frac{[bs. 1]}{[bb. 1]} [bs. 1] = 498\frac{2}{3} - \frac{-34\frac{1}{3}}{2\frac{2}{3}} \left(-34\frac{1}{3}\right) = +56.625$$

z_2	l.2]	s.2]
+1.00	+8.50	-7.50
	+72.625	-64.125
		+56.625

次ノ三個ノ檢算ヲナス = 計算 = 誤ナシ

$$(1) \quad [cc. 2] - [cl. 2] = [cs. 2]$$

$$1.00 - 8.50 = -7.50$$

$$(2) \quad [ll. 2] - [cl. 2] = [ls. 2]$$

$$72.625 - 8.50 = +64.125$$

$$(3) \quad -[ls. 2] + [cs. 2] = [ss. 2]$$

$$+64.125 - 7.50 = +56.625$$

今 z_3 ノ値ハ $z_3 = +\frac{[cl. 2]}{[cc. 2]} = \frac{8.50}{1.00} = +8.5$

此 z_3 ノ値ヲ z_2 及 z_3 ヲ含ム式 = 入レテ

$$z_2 = +17.625 \quad \text{ヲ見出ス}$$

(参考)

$$[bb. 1]z_2 + [bc. 1]z_3 - [bl. 1] = 0$$

$$2\frac{2}{3}z_2 + \left(-1\frac{1}{3}\right)8.5 - \left(+35\frac{2}{3}\right) = 0$$

$$\frac{8}{3}z_2 - \frac{34}{3} - \frac{107}{3} = 0$$

$$\text{故} = \quad 8z_2 - 141 = 0$$

$$\text{故} = \quad z_2 = +17.625$$

次 = z_2 及 z_3 ヲ法正式 = 入レテ $z_1 = +10.375$ ヲ見出ス

(参考)

$$[aa]z_1 + [ab]z_2 + [ac]z_3 - [a] = 0$$

$$+3z_1 - 1z_2 - 1z_3 - 5 = 0$$

$$+3z_1 - 17.625 - 8.5 - 5 = 0$$

$$+3z_1 - 31.125 = 0$$

$$\text{次} = \quad z_1 = +10.375$$

次 = 最後ノ檢定トシテ z_1, z_2 及 z_3 ノ値ヲ觀測式 = 入レテ殘差ヲ見出ス可シ

$$\left. \begin{array}{l} z - 10 = 0 \\ -z_1 + z_2 - 7 = 0 \\ +z_2 - 18 = 0 \\ +z_2 - z_3 - 9 = 0 \\ +z_1 - z_3 - 2 = 0 \end{array} \right\} \begin{array}{l} 10.375 - 10 = 0.375 = v_1 \\ -10.375 - 17.625 - 7 = 0.250 = v_2 \\ 17.625 - 18 = -0.375 = v_3 \\ 17.625 - 8.50 - 9 = 0.125 = v_4 \\ 10.375 - 8.5 - 2 = -0.125 = v_5 \end{array}$$

$$[vv] = 0.375^2 + 0.25^2 + (-0.375)^2 + 0.125^2 + (-0.125)^2$$

$$= 0.140625 + 0.0625 + 0.140625 + 0.015625 + 0.015625 = 0.375$$

次 = 第三補助係數ヲ計算スレバ次ノ如シ

$$[ll. 3] = [ll. 2] - \frac{[cl. 2]}{[cc. 2]} [cl. 2] = 72.625 - \frac{8.50}{1.00} \times (8.50) = 0.375$$

$$[ls. 3] = [ls. 2] - \frac{[cl. 2]}{[cc. 2]} [cs. 2] = -64.125 - \frac{8.50}{1.00} \times (-7.50) = -0.375$$

$$[ss. 3] = [ss. 2] - \frac{[cs. 2]}{[cs. 2]} [cs. 2] = 6.625 - \frac{-7.50}{1} \times (-7.50) = 0.375$$

故=計算ハ正シ

第十節 二個ノ未知數ノ場合ニ於ケル「がうす」氏消去法及誤差二乗ノ和

第五節ノ法正式ハ

$$[aa]x + [ab]y - [al] = 0 \dots\dots\dots(1)$$

$$[ab]x + [bb]y - [bl] = 0 \dots\dots\dots(2)$$

(1)式 = $-\frac{[ab]}{[aa]}$ ヲ乘ジ (2)式 = 加フルトキハ

$$\left([bb] - \frac{[ab]}{[aa]}[ab]\right)y - \left([bl] - \frac{[ab]}{[aa]}[al]\right) = 0 \dots\dots\dots(3)$$

$$[bb. 1]y - [bl. 1] = 0 \quad y = \frac{[bl. 1]}{[bb. 1]} \dots\dots\dots(4)$$

式中 $[bb] - \frac{[ab]}{[aa]}[ab] = [bb. 1] \quad [bl] - \frac{[ab]}{[aa]}[al] = [bl. 1] \dots\dots(5)$

又 (2)式 = $-\frac{[ab]}{[bb]}$ ヲ乘ジ (1)式 = 加フルトキハ

$$\left([aa] - \frac{[ab]}{[bb]}[ab]\right)x + \left([al] - \frac{[ab]}{[bb]}[bl]\right) = 0$$

$$[aa. 1]x - [al. 1] = 0 \dots\dots\dots x = \frac{[al. 1]}{[aa. 1]} \dots\dots\dots(6)$$

式中 $[aa] - \frac{[ab]}{[bb]}[ab] = [aa. 1] \quad [al] - \frac{[ab]}{[bb]}[bl] = [al. 1] \dots\dots(7)$

[参考] [bb. 1] [bl. 1] 等ヲ作り誤リナキヤヲ檢スルニハ文字ヲ代數的ニ加へ此値ガ零トナレハ可ナリ例ヘバ

$$[bb. 1] = [bb] - \frac{[ab]}{[aa]}[ab] = bb - \frac{ab}{aa}ab = bb - \frac{b}{a}a^2 = bb - bb = 0 \dots\dots\dots(8)$$

殘差ノ二乗ノ和 $[vv] = [l. 2]$ ナリ

[参考] $[vv] = [aa]x^2 + 2[ab]xy - 2[al]x + [bb]y^2 - 2[bl]y + [l]$ (9)

法正式ノ二乗ヲ作レバ

$$\left\{ \begin{aligned} ([aa]x + [ab]y - [al])^2 &= [aa]^2x^2 + 2[aa][ab]xy - 2[aa][al]x + [ab]^2y^2 \\ &\quad - 2[ab][al]y + [al]^2 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(10)$$

之レヲ [aa] = 除セバ

$$\left\{ \begin{aligned} \frac{([aa]x + [ab]y - [al])^2}{[aa]} &= \frac{[aa]^2x^2}{[aa]} + \frac{2[aa][ab]xy}{[aa]} - \frac{2[aa][al]x}{[aa]} \\ &\quad + \frac{[ab]^2y^2}{[aa]} - \frac{2[ab][al]y}{[aa]} + \frac{[al]^2}{[aa]} \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(11)$$

之レヲ (9)式ヨリ減ズレバ

$$\left\{ \begin{aligned} [vv] - \frac{([aa]x + [ab]y - [al])^2}{[aa]} &= \left([bb] - \frac{[ab]}{[aa]}[ab]\right)y^2 - 2\left([bl] - \frac{[ab]}{[aa]}[al]\right)y \\ &\quad + \left([l] - \frac{[al]^2}{[aa]}\right) = [bb. 1]y^2 - 2[bl. 1]y + [l. 1] \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(12)$$

又 $([bb. 1]y - [bl. 1])^2 = [bb. 1]^2y^2 - 2[bb. 1][bl. 1]y + [bl. 1]^2$

$$\frac{([bb. 1]y - [bl. 1])^2}{[bb. 1]} = [bb. 1]y^2 - 2[bl. 1]y + \frac{[bl. 1]^2}{[bb. 1]} \dots\dots\dots(13)$$

此 (13)式ヲ (12)式ヨリ減ズレバ

$$[vv] - \frac{([aa]x + [ab]y - [al])^2}{[aa]} - \frac{([bb. 1]y - [bl. 1])^2}{[bb. 1]} = [l. 1] - \frac{[bl. 1]^2}{[bb. 1]} = [l. 2] \dots\dots(14)$$

$$[vv] = \frac{([aa]x + [ab]y - [al])^2}{[aa]} + \frac{([bb. 1]y - [bl. 1])^2}{[bb. 1]} + [l. 2] \dots\dots\dots(15)$$

而シテ $\left. \begin{aligned} [aa]x + [ab]y - [al] &= 0 \\ [bb. 1]y - [bl. 1] &= 0 \end{aligned} \right\}$ ナル故ニ $[vv] = [l. 2] \dots\dots\dots(16)$

又 $[l. 2] = [l. 1] - \frac{[bl. 1]^2}{[bb. 1]}$ 及ビ $[l. 1] = [l] - \frac{[al]^2}{[aa]}$ ナル故ニ

(16)式ハ次ノ如クナル $[vv] = [l] - \frac{[al]^2}{[aa]} - \frac{[bl. 1]^2}{[bb. 1]} \dots\dots\dots(17)$

第十一節 二個ノ未知數ニ於ケル係數ノ計算及總和檢定法

$$\left. \begin{aligned} a_1 + b_1 - l_1 + s_1 &= 0 \\ a_2 + b_2 - l_2 + s_2 &= 0 \\ \dots \dots \dots \end{aligned} \right\} \text{トスルトキハ} \dots \dots \dots (1)$$

$$\left. \begin{aligned} [aa] + [ab] - [al] + [as] &= 0 \\ [ab] + [bb] - [bl] + [bs] &= 0 \\ -[al] - [bl] + [ll] - [ls] &= 0 \\ [as] + [bs] - [ls] + [ss] &= 0 \end{aligned} \right\} \dots \dots \dots (2)$$

[aa]	[ab]	-[al]	[as]
	[bb]	-[bl]	[bs]
		[ll]	-[ls]
			[ss]

$$\left. \begin{aligned} [bb. 1] &= [bb] - \frac{[ab]}{[aa]} [ab] \\ -[bl. 1] &= -\left([bl] - \frac{[ab]}{[aa]} [al] \right) \\ [ll. 1] &= [ll] - \frac{[al]}{[aa]} [al] \end{aligned} \right\}$$

$$[bs. 1] = [bs] - \frac{[ab]}{[aa]} [as]$$

$$-[ls. 1] = -\left([ls] - \frac{[al]}{[aa]} [as] \right)$$

$$[ss. 1] = [ss] - \frac{[as]}{[aa]} [as]$$

[bb. 1]	-[bl. 1]	[bs. 1]
	[ll. 1]	-[ls. 1]
		[ss. 1]

之レガ正否ハ次ノ如クシテ容易ニ檢スルヲ得ベシ例ヘバ

$$[bb. 1] = [bb] - \frac{[ab]}{[aa]} [ab]$$

$$-[bl. 1] = -\left([bl] - \frac{[ab]}{[aa]} [al] \right)$$

$$0 = [ab] - \frac{[ab]}{[aa]} [aa]$$

$$[bb. 1] - [bl. 1] = -[bs] - \frac{[ab]}{[aa]} (-[as]) = -[bs. 1]$$

故ニ $[bb. 1] - [bl. 1] + [bs. 1] = 0$

同様ニ $-[bl. 1] + [ll. 1] - [ls. 1] = 0$

$$[bs. 1] - [ls. 1] + [ss. 1] = 0$$

$[ll. 2] = [ll. 1] - \frac{[ll. 1]}{[bb. 1]} [bl. 1]$	$-[ls. 2] = -\left([ls. 1] - \frac{[bl. 1]}{[bb. 1]} [bs. 1] \right)$
	$[ss. 2] = [ss. 1] - \frac{[bs. 1]}{[bb. 1]} [bs. 1]$

$$\left. \begin{aligned} [ll. 2] & \quad -[ls. 2] \\ & \quad [ss. 2] \end{aligned} \right\} \dots \dots \dots (4)$$

之レニ依テ檢算ヲナスヲ得ル

$$[ll. 2] = [ls. 2] = [ss. 2]$$

$$[ll. 2] = [vv] \dots \dots \dots (5)$$

$$\begin{array}{l|l} \text{又} & [ss] = [aa] + 2[ab] - 2[al] \\ & + [bb] - 2[bl] \\ & + [ll] \end{array} \quad \left| \quad \begin{array}{l} \text{又ハ} & [ss] = [aa] + [ab] - [al] \\ & + [ab] + [bb] - [bl] \\ & - [al] - [bl] + [ll] \end{array} \right.$$

第十二節 二個ノ未知數ノ場合ニ於ケル消去法ノ實例

第七章第三節ノ例ニ於テ

	[a]b	-[l]s
a]	+9.0)	-40.74	+4.88	+26.86
b]		+229.87	-2.26	-163.87
-l]			+4.33	+16.05
b.1]		+45.45	-3.17	-42.28
-l.1]			+1.68	+1.49
-l.2]			+1.46	-1.46

計算

計算	檢算
$[aa] = +9.00, [ab] = -40.74, -[al] = +4.88, [as] = +26.86$	0.00
$[bb] = +229.87, -[bl] = -25.26, [bs] = -163.87$	0.00
$-\frac{[ab]}{[aa]}[ab] = -184.42, \frac{[ab]}{[aa]}[al] = +22.09, -\frac{[ab]}{[aa]}[as] = +121.59$	
$[bb.1] = +45.45 \quad -[bl.1] = -3.17 \quad [bs.1] = -42.28$	0.00
$[ll] = +4.33 \quad -[ls] = +16.05$	0.00
$-\frac{[al]}{[aa]}[al] = -2.65, +\frac{[al]}{[aa]}[as] = -14.56$	
$(-[bl.1] = -3.17) \quad [ll.1] = +1.68, \quad -[ls.1] = +1.49$	0.00
$-\frac{[bl.1]}{[bb.1]}[bl.1] = -0.22, \frac{[bl.1]}{[bb.1]}[bs.1] = -2.95$	
$[ll.2] = +1.46 \quad -[ls.2] = -1.46$	0.00

$$y = \frac{[bl.1]}{[bb.1]} = \frac{-3.17}{+45.45} = +0.06975 \dots\dots\dots(2)$$

$$p_y = [bb.1] = 45.45, [vv] = 1.46$$

又反對ニyヲ消去シテx及p_xヲ定ムル法ハ次ノ如シ

	[b]a	-[l]s
b]	+229.9	-40.7	-25.3	-163.9
a]		+9.0	+4.9	+26.8
-l]			+4.3	+16.1
a.1]		+1.8	+0.4	-2.2
-l.1]			+1.5	-1.9
-l.2]			+1.4	-1.4

計算

計算	檢算
$[bb] = +229.9, [ab] = -40.7, -[bl] = -25.3, [bs] = -163.9$	0.0
$[aa] = +9.0, -[al] = +4.9, [as] = +26.8$	0.0
$-\frac{[ab]}{[bb]}[ab] = -7.2, \frac{[ab]}{[bb]}[bl] = -4.5, -\frac{[ab]}{[bb]}[bs] = -29.0$	
$[aa.1] = +1.8 \quad -[al.1] = +0.4, \quad [as.1] = -2.2$	0.0
$[ll] = +4.3, \quad -[ls] = +16.1$	0.0
$-\frac{[bl]}{[bb]}[bl] = -2.8, \frac{[bl]}{[bb]}[bs] = -18.1$	
$(-[al.1] = +0.4) \quad [ll.1] = +1.5, \quad -[ls.1] = -1.9$	0.0
$-\frac{[al.1]}{[aa.1]}[al.1] = -0.1, \frac{[al.1]}{[aa.1]}[as.1] = +0.5$	
$[ll.2] = +1.4 \quad -[ls.2] = -1.4$	0.0

$$x = \frac{[al.1]}{[aa.1]} = \frac{-0.4}{+1.8} = -0.222 \dots\dots\dots(3)$$

$$p_x = [aa.1] = 1.8; [vv] = 1.4$$

第十三節 四個ノ未知數ノ場合

x, y, z, t ヲ未知數トスレバ誤差式ハ次ノ如シ

$$v_1 = a_1x + b_1y + c_1z + d_1t - l_1$$

$$v_2 = a_2x + b_2y + c_2z + d_2t - l_2 \dots\dots\dots(1)$$

$$\left. \begin{array}{l} \dots\dots\dots \\ v_n = a_n x + b_n y + c_n z + d_n t - l_n \end{array} \right\}$$

第一法正式ハ

$$\left. \begin{array}{l} [aa]x + [ab]y + [ac]z + [ad]t - [al] = 0 \\ [ab]x + [bb]y + [bc]z + [bd]t - [bl] = 0 \\ [ac]x + [bc]y + [cc]z + [cd]t - [cl] = 0 \\ [ad]x + [bd]y + [cd]z + [dd]t - [dl] = 0 \end{array} \right\} \dots\dots\dots(2)$$

第一法正式ヲ略記スルトキハ

$$\left. \begin{array}{l} [aa]x + [ab]y + [ac]z + [ad]t - [al] = 0 \\ [bb]y + [bc]z + [bd]t - [bl] = 0 \\ [cc]z + [cd]t - [cl] = 0 \\ [dd]t - [dl] = 0 \\ [l] \end{array} \right\} \dots\dots\dots(3)$$

第二法正式ヲ略記スルトキハ

$$\left. \begin{array}{l} [bb. 1]y + [bc. 1]z + [bd. 1]t - [bl. 1] = 0 \\ [cc. 1]z + [cd. 1]t - [cl. 1] = 0 \\ [dd. 1]t - [dl. 1] = 0 \\ [l. 1] \end{array} \right\} \dots\dots\dots(4)$$

第三法正式ヲ略記スルトキハ

$$\left. \begin{array}{l} [cc. 2]z + [cd. 2]t - [cl. 2] = 0 \\ [dd. 2]t - [dl. 2] = 0 \\ [l. 2] \end{array} \right\} \dots\dots\dots(5)$$

第四法正式ヲ略記スルトキハ

$$\left. \begin{array}{l} [dd. 3]t - [dl. 3] = 0 \\ [l. 3] \end{array} \right\} \dots\dots\dots(6)$$

$$[l. 4] \dots\dots\dots(7)$$

【注意】(1) 補助係数ノ文字ヲ代數的ニ加フルバ零トナル

$$[bl. 1] = [bl] - \frac{[ab]}{[aa]}[al] = bl - \frac{ab \cdot al}{aa} = ll - bl = 0$$

(2) 活弧 = 1, 2, 3 ガアルトキハ減ズル項ノ分母ニ

[aa], [bb. 1], [cc. 2].....等アリ

【實例】法正式解法

$$\left. \begin{array}{l} +459x - 308y - 389z + 244t - 507 = 0 \\ +464y + 408z - 269t + 695 = 0 \\ +676z - 331t + 653 = 0 \\ +469t - 283 = 0 \\ +1129 \end{array} \right\} \dots\dots\dots(8)$$

此式ノ解法ハ次ノ如シ

各短縮法正式ノ第一式ヲ集メタルモノヲ完全短縮法正式或ハ終式ト云フ此式ニ於テハ各式ノ未知數ノ數ガ次第ニ一箇宛減少ス

$$\left. \begin{array}{l} \text{第一式 } A = [aa]x + [ab]y + [ac]z + [ad]t + [al] = 0 \\ \text{第二式 } [bb. 1] + [bc. 1]z + [bd. 1]t + [bl. 1] = 0 \\ \text{第三式 } [cc. 2]z + [cd. 2]t + [cl. 2] = 0 \\ \text{第四式 } [dd. 3]t + [dl. 3] = 0 \\ [l. 4] = [lv] \end{array} \right\} \dots\dots\dots(9)$$

(8) 式ヨリ次ノ終式ヲ得

$$\left. \begin{array}{l} \text{第一式 } +459x - 308y - 389z + 244t - 507 = 0 \\ \text{第二式 } +256y + 146z - 105t + 354 = 0 \\ \text{第三式 } +263z - 64t + 21 = 0 \\ \text{第四式 } +281t + 137 = 0 \\ 11 = [vv] \end{array} \right\} \dots\dots\dots(10)$$

此第四式ニ依リテ定メ之レヲ第三式ニ入レテ定メ順次ニy, xヲ定ム

$$\left. \begin{array}{l} \dots\dots\dots \\ p_1 v_1 \frac{dv_1}{dz_1} + p_2 v_2 \frac{dv_2}{dz_2} + \dots\dots\dots + p_n v_n \frac{dv_n}{dz_n} = 0 \end{array} \right\}$$

此等ノ條件式ニ於テ微分係數 $\frac{dv}{dz}$ ノ値ハ各變數ニ關シテ誤差式ノ微分係數ヲ作レバ之レヲ見出し得ベシ

即チ $\frac{dv_1}{dz_1} = a_1 \quad \frac{dv_2}{dz_2} = a_2 \quad \frac{dv_n}{dz_n} = b_n \dots\dots\dots$ 等

故ニ條件式ハ次ノ如クナル

$$\left. \begin{array}{l} p_1 a_1 v_1 + p_2 a_2 v_2 + \dots\dots\dots + p_n a_n v_n = 0 \\ p_1 b_1 v_1 + p_2 b_2 v_2 + \dots\dots\dots + p_n b_n v_n = 0 \\ \dots\dots\dots \\ p_1 f_1 v_1 + p_2 f_2 v_2 + \dots\dots\dots + p_n f_n v_n = \end{array} \right\} \dots\dots\dots (4)$$

此等ノ式ノ數ハ未知數 $z_1, z_2, \dots\dots\dots z_n$ ノ數ニ等シ
而シテ此等ノ式中ノ $v_1, v_2, \dots\dots\dots v_n$ ノ値ヲ殘差式ニ代入スルトキハ法正式ヲ得

$$\begin{aligned} & p_1 a_1 (a_1 z_1 + b_1 z_2 + \dots\dots\dots + f_1 z_n - l_1) \\ & + p_2 a_2 (a_2 z_1 + b_2 z_2 + \dots\dots\dots + f_2 z_n - l_2) \\ & + \dots\dots\dots + p_n a_n (a_n z_1 + \dots\dots\dots + f_n z_n - l_n) = 0 \dots\dots\dots (5) \end{aligned}$$

而シテ次ノ略符ヲ用フルトキハ法正式ハ (6) 式トナル

$$\begin{aligned} [paa] &= p_1 a_1^2 + p_2 a_2^2 + \dots\dots\dots + p_n a_n^2 \\ [pab] &= p_1 a_1 b_1 + p_2 a_2 b_2 + \dots\dots\dots + p_n a_n b_n \\ [pal] &= p_1 a_1 l_1 + p_2 a_2 l_2 + \dots\dots\dots + p_n a_n l_n \\ \dots\dots\dots \\ [paa]z_1 + [pab]z_2 + \dots\dots\dots + [paf]z_n &= [pal] \\ [pab]z_1 + [pbb]z_2 + \dots\dots\dots + [pbf]z_n &= [pll] \dots\dots\dots (6) \end{aligned}$$

$$\left. \begin{array}{l} \dots\dots\dots \\ [paf]z_1 + [pbf]z_2 + \dots\dots\dots + [pff]z_n = [pfl] \end{array} \right\}$$

此式ヲ解クトキハ $z_1, z_2, \dots\dots\dots z_n$ ノ値ヲ得
此等ノ式ニ於ケル係數ハ前述ノ如ク對稱的ニシテ第一橫列ノ係數ハ第一縱列ノ係數ニ同ジク第二橫列ノ係數ハ第二縱列ノ係數ニ同ジク q 個ノ未知數ヲ決定スル爲メニ n 回ノ測量ヲ爲シテ未知數ノ最モ確カラシキ値ヲ見出すニハ n 個ノ觀測式ヲ作り之レヨリ q 個ノ法正式ヲ作り之レヲ解クトキハ未知數ノ最モ確カラシキ値ヲ得ベシ最モ普通ノ場合ハ觀測式ニ於ケル係數ハ (+1), (-1) 或ハ (0) ナルヲ以テ法正式ノ係數ヲ作ルトキニ此符號ニ注意スルヲ要ス

此方法ヲ用ヒテ整正スル例ハ第七章ニ在リ
第四節ノ場合ハ重みガ等シキ場合ニシテ本節ノ場合ハ其ノ特別ノ場合ニ過キズ

重みハ反覆ノ回數ヲ示ス數ニ過ギザル故ニ一般ノ場合ハ特別ノ場合ヨリ導カルルコト明ナリ即チ v 及 v^2 ヲ p 回反覆スルニ過ギズ故ニ第四節ノ規則ハ重みノ等シカラザル測量ニモ之ヲ適用シ得即チ初メニ各觀測式ニ其重みノ平方根ヲ乘ジ置ケバ法正式ニ重みガ (2) 式ノ如ク入ルベシ

第十五節 四個ノ未知數ノ場合

- | | | |
|------------------------|-------|------|
| X, Y, Z, T | ヲ未知數 | トスレバ |
| L_1, L_2, \dots, L_n | ヲ函數ノ値 | |
| a, b, c, d | ヲ係數 | |
| n | ヲ觀測ノ數 | |

$$\left. \begin{aligned} a_1X + b_1Y + c_1Z + d_1T &= L_1 \\ a_2X + b_2Y + c_2Z + d_2T &= L_2 \\ \dots\dots\dots \\ a_nX + b_nY + c_nZ + d_nT &= L_n \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(1)$$

未知數ノ最モ確カラシキ値ヲ x, y, z, t トシ觀測値ヲ l_1, l_2, \dots, l_n トシ其最モ確カラシキ修正數ヲ v_1, v_2, \dots, v_n トスレバ次ノ誤差式ヲ得

$$\left. \begin{aligned} a_1x + b_1y + c_1z + d_1t &= l_1 + v_1 \text{ 重み } p_1 \\ a_2x + b_2y + c_2z + d_2t &= l_2 + v_2 \text{ 重み } p_2 \\ \dots\dots\dots \\ a_nx + b_ny + c_nz + d_nt &= l_n + v_n \text{ 重み } p_n \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(2)$$

此誤差式ヨリ未知數ヲ求ムルニハ

$$U = [pvv] = p_1v_1^2 + p_2v_2^2 + \dots + p_nv_n^2 = \text{最小ナル條件} = \text{從フ}$$

條件満足ナル、爲メニハ未知數 x, y, z, t 關シテ U ヲ微分シ其微分係數ヲ零トス即チ

$$\frac{\partial U}{\partial x} = 0, \frac{\partial U}{\partial y} = 0, \frac{\partial U}{\partial z} = 0, \frac{\partial U}{\partial t} = 0 \dots\dots\dots(3)$$

$$\left. \begin{aligned} p_1v_1 \frac{dv_1}{dx} + p_2v_2 \frac{dv_2}{dx} + \dots + p_nv_n \frac{dv_n}{dx} &= 0 \\ p_1v_1 \frac{dv_1}{dy} + p_2v_2 \frac{dv_2}{dy} + \dots + p_nv_n \frac{dv_n}{dy} &= 0 \\ p_1v_1 \frac{dv_1}{dz} + p_2v_2 \frac{dv_2}{dz} + \dots + p_nv_n \frac{dv_n}{dz} &= 0 \\ p_1v_1 \frac{dv_1}{dt} + p_2v_2 \frac{dv_2}{dt} + \dots + p_nv_n \frac{dv_n}{dt} &= 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(4)$$

然ルニ (2) 式ヨリ

$$\left. \begin{aligned} \frac{dv_1}{dx} &= a_1 \\ \frac{dv_2}{dx} &= a_2 \dots\dots\dots \end{aligned} \right\}$$

$$\left. \begin{aligned} \frac{dv_1}{dy} &= b_1 & \frac{dv_2}{dy} &= b_2 \dots\dots\dots \\ \frac{dv_1}{dz} &= c_1 & \frac{dv_2}{dz} &= c_2 \dots\dots\dots \\ \frac{dv_1}{dt} &= d_1 & \frac{dv_2}{dt} &= d_2 \dots\dots\dots \end{aligned} \right\} \text{ナルヲ以テ}$$

(4) 式ハ次ノ如クナル

$$\left. \begin{aligned} p_1a_1v_1 + p_2a_2v_2 + \dots + p_na_nv_n &= [pav] = 0 \\ p_1b_1v_1 + p_2b_2v_2 + \dots + p_nb_nv_n &= [pbv] = 0 \\ p_1c_1v_1 + p_2c_2v_2 + \dots + p_nc_nv_n &= [pcv] = 0 \\ p_1d_1v_1 + p_2d_2v_2 + \dots + p_nd_nv_n &= [pdv] = 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(5)$$

誤差式ヨリ得タル v ノ値ヲ上式ニ代入スレバ四ケノ未知數ヲ含ム

四ケノ法正式ヲ得之レヨリ未知數ヲ求メラル

$$\left. \begin{aligned} [paa]x + [pab]y + [pac]z + [pad]t &= [pav] \\ [pab]x + [pbb]y + [pbc]z + [pbd]t &= [pbv] \\ [pac]x + [pcb]y + [pcc]z + [pcd]t &= [pcv] \\ [pad]x + [pdb]y + [pdc]z + [pdd]t &= [pdv] \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(6)$$

此等ノ法正式ノ係數ハ $[laa]$ ト $[pdd]$ トヲ結ブ線ニ對シテ對稱的ナリ

第十六節 四個ノ未知數ノ場合ニ於ケル「がうす」氏消去法及誤差二乗ノ和

前節 (6) 式ノ法正式ヲ解クニハ先ヅ之レヲ次ノ如ク書キ

$$\left. \begin{aligned} A^{(0)} &\equiv [paa]x + [pab]y + [pac]z + [pad]t - [pav] = 0 \\ A^{(1)} &\equiv [pab]x + [pbb]y + [pbc]z + [pbd]t - [pbv] = 0 \dots\dots(7) \end{aligned} \right\}$$

$$\left. \begin{aligned} A^{(2)} &\equiv [pac]x + [pbc]y + [pcc]z + [pcd]t - [pcl] = 0 \\ A^{(3)} &\equiv [pad]x + [pbd]y + [pcd]z + [pdd]t - [pdl] = 0 \end{aligned} \right\}$$

第一ノ式ニ順次 = $\frac{[pab]}{[paa]}, \frac{[pac]}{[paa]}, \frac{[pad]}{[paa]}$ ヲ乗ジ斯クシテ得タル新シキ式ヲ他ノ式ヨリ減ズルコト次ノ如シ

$$\left. \begin{aligned} A^{(1)} - A^{(2)} \frac{[pab]}{[paa]} &= \left([pbb] - \frac{[pab][pab]}{[paa]} \right) y + \left(\frac{[pbc] - [pab][pac]}{[paa]} \right) z \\ &+ \left([pbd] - \frac{[pab][pad]}{[paa]} \right) t - \left([pcl] - \frac{[pab][pal]}{[paa]} \right) = 0 \\ A^{(2)} - A^{(3)} \frac{[pac]}{[paa]} &= \left([pbc] - \frac{[pab][pac]}{[paa]} \right) y + \left([pcc] - \frac{[pac][pac]}{[paa]} \right) z \\ &+ \left([pcd] - \frac{[pac][pad]}{[paa]} \right) t - \left([pcl] - \frac{[pac][pal]}{[paa]} \right) = 0 \\ A^{(3)} - A^{(2)} \frac{[pad]}{[paa]} &= \left([pbd] - \frac{[pab][pad]}{[paa]} \right) y + \left([pcd] - \frac{[pac][pad]}{[paa]} \right) z \\ &+ \left([pdd] - \frac{[pad][pad]}{[paa]} \right) t - \left([pdl] - \frac{[pad][pdl]}{[paa]} \right) = 0 \end{aligned} \right\} \quad (8)$$

簡單ナル記號ヲ用ヒテ上式ヲ書き直シ之ヲ一次短縮法正式ト云フ

$$\left. \begin{aligned} B^{(1)} &\equiv [pbb. 1]y + [pbc. 1]z + [pbd. 1]t - [pbl. 1] = 0 \\ B^{(2)} &\equiv [pbc. 1]y + [pcc. 1]z + [pcd. 1]t - [pcl. 1] = 0 \\ B^{(3)} &\equiv [pbd. 1]y + [pdc. 1]z + [pdd. 1]t - [pdl. 1] = 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (9)$$

本式ヲ (8) 式ト比較スレバ容易ニ記號ノ意味ヲ理解シ得可シ

次ニ y ヲ消去スル爲メニ (9) 式ノ B⁽¹⁾ 式 = $\frac{[pbc. 1]}{[pbb. 1]}, \frac{[pbc. 1]}{[pbb. 1]}$ ヲ乗シ之レヲ B⁽²⁾ 並ニ B⁽³⁾ 式ヨリ減ズルトキハ

$$\begin{aligned} B^{(2)} - B^{(1)} \frac{[pbc. 1]}{[pbb. 1]} &= \left([pcc. 1] - \frac{[pbc. 1][pbc. 1]}{[pbb. 1]} \right) z \\ &+ \left([pcd. 1] - \frac{[pbc. 1][pbd. 1]}{[pbb. 1]} \right) t \end{aligned}$$

$$\left. \begin{aligned} &- \left([pcl. 1] - \frac{[pbc. 1][pbl. 1]}{[pbb. 1]} \right) = 0 \\ B^{(3)} - B^{(1)} \frac{[pbd. 1]}{[pbb. 1]} &= \left([pcd. 1] - \frac{[pbc. 1][pbd. 1]}{[pbb. 1]} \right) z \\ &+ \left([pdd. 1] - \frac{[pbd. 1][pbd. 1]}{[pbb. 1]} \right) t \\ &- \left([pdl. 1] - \frac{[pbd. 1][pbl. 1]}{[pbb. 1]} \right) = 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (10)$$

更ニ簡單ナル記號ヲ用ヒテ上式ヲ書き直シ之ヲ二次短縮法正式ト云フ。

$$\left. \begin{aligned} C^{(2)} &\equiv [pcc. 2]z + [pcd. 2]t - [pcl. 2] = 0 \\ C^{(3)} &\equiv [pcd. 2]z + [pdd. 2]t - [pdl. 2] = 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (11)$$

新記號ノ意味ハ本式ヲ第 (10) 式ト比較スレバ容易ニ理解スルヲ得可シ。

次ニ z ヲ消去スル爲メニ同様ノ方法ヲ用ヒテ、

$$\left. \begin{aligned} C^{(3)} - C^{(2)} \frac{[pcd. 2]}{[pcc. 2]} &= \left([pdd. 2] - \frac{[pcd. 2][pcd. 2]}{[pcc. 2]} \right) t \\ &- \left([pdl. 2] - \frac{[pcd. 2][pdl. 2]}{[pcc. 2]} \right) = 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (12)$$

簡單ナル記號ヲ用ヒテ上式ヲ書き直シ之ヲ第三次短縮法正式ト云フ。

$$D^{(3)} \equiv [pdd. 3]t - [pdl. 3] = 0 \dots\dots\dots (13)$$

(7), (9), (11), 及 (13) 式中ノ初メノ式ヲ書き並べ之ヲ消去式ト云フ

$$\left. \begin{aligned} A^{(1)} &\equiv [paa]x + [pab]y + [pac]z + [pad]t - [pal] = 0 \\ B^{(1)} &\equiv [pbb. 1]y + [pbc. 1]z + [pbd. 1]t - [pbl. 1] = 0 \\ C^{(2)} &\equiv [pcc. 2]z + [pcd. 2]t - [pcl. 2] = 0 \\ D^{(3)} &\equiv [pdd. 3]t - [pdl. 3] = 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (14)$$

運算ノ正否ヲ檢スル爲ニ

$$s = -(a+b+c+d-l)$$

或ハ $a+b+c+d-l+s=0 \dots\dots\dots(15)$

トスルトキハ次ノ如キ和ノ檢算式ヲ得

$$\left. \begin{aligned} [paa] + [pab] + [pac] + [pad] - [pal] + [pas] &= 0 \\ [pab] + [pbb] + [pbc] + [pbd] - [pbl] + [pbs] &= 0 \\ [pac] + [pcb] + [pcc] + [pcd] - [pcl] + [pcs] &= 0 \dots\dots(16) \\ [pad] + [pdb] + [pdc] + [pdd] - [pdl] + [pds] &= 0 \\ [pal] + [plb] + [pic] + [pld] - [pll] + [pls] &= 0 \end{aligned} \right\}$$

A ⁽¹⁾	[p ¹ a]	[p ¹ b]	[p ¹ c]	[p ¹ d]
		$\frac{[p^{1b}]}{[p^{1a}]}[pab]$	$\frac{[p^{1c}]}{[p^{1a}]}[pac]$	$\frac{[p^{1d}]}{[p^{1a}]}[pad]$
B ⁽¹⁾	[p ¹ b. 1]	[p ¹ b. 1]	[p ¹ b. 1]	[p ¹ b. 1]
		$\frac{[p^{1c}]}{[p^{1a}]}[pac]$	$\frac{[p^{1d}]}{[p^{1a}]}[pad]$	$\frac{[p^{1d.1}]}{[p^{1b.1}]}[p^{1d.1}]$
C ⁽²⁾	[pcc. 2]	[pcc. 2]	[pcc. 2]	[pcc. 2]
		$\frac{[p^{1d}]}{[p^{1a}]}[pad]$	$\frac{[p^{1d.1}]}{[p^{1b.1}]}[p^{1d.1}]$	$\frac{[p^{1d.2}]}{[p^{1c.2}]}[p^{1d.2}]$
D ⁽³⁾	[p ¹ d. 3]	[p ¹ d. 3]	[p ¹ d. 3]	[p ¹ d. 3]

$$\left. \begin{aligned} [p^{1b.1}] + [p^{1bc.1}] + [p^{1bd.1}] - [p^{1bl.1}] + [p^{1bs.1}] &= 0 \\ [p^{1bc.1}] + [p^{1cc.1}] + [p^{1cd.1}] - [p^{1cl.1}] + [p^{1cs.1}] &= 0 \dots\dots(17) \\ [p^{1bd.1}] + [p^{1ds.1}] + [p^{1dl.1}] - [p^{1dl.1}] + [p^{1ds.1}] &= 0 \end{aligned} \right\}$$

$$\left. \begin{aligned} [p^{1cc.2}] + [p^{1cd.2}] - [p^{1cl.2}] + [p^{1cs.2}] &= 0 \\ [p^{1cd.2}] + [p^{1dd.2}] - [p^{1dl.2}] + [p^{1ds.2}] &= 0 \dots\dots\dots(18) \end{aligned} \right\}$$

$$[p^{1dd.3}] - [p^{1dl.3}] + [p^{1ds.3}] = 0 \dots\dots\dots(19)$$

法正式ヲ解クニ當リテハ各係數系ニ對シテ少クトモ此等ノ内第一ノ檢算ハ行ハザル可カラズ。

又法正式ヲ次第ニ短縮スルニハ次ノ様式ニ依ルヲ便トス。

[p ¹ al]	[p ¹ as]	檢算=0
$\frac{[p^{1b}]}{[p^{1a}]}[p^{1al}]$	$\frac{[p^{1b}]}{[p^{1a}]}[p^{1as}]$	
[p ¹ bl. 1]	[p ¹ bs. 1]	0
$\frac{[p^{1c}]}{[p^{1a}]}[p^{1al}]$	$\frac{[p^{1c}]}{[p^{1a}]}[p^{1as}]$	
$\frac{[p^{1bc.1}]}{[p^{1bb.1}]}[p^{1bl.1}]$	$\frac{[p^{1bc.1}]}{[p^{1bb.1}]}[p^{1bs.1}]$	
[p ¹ cl. 2]	[p ¹ cs. 2]	0
$\frac{[p^{1d}]}{[p^{1a}]}[p^{1al}]$	$\frac{[p^{1d}]}{[p^{1a}]}[p^{1as}]$	
$\frac{[p^{1bd.1}]}{[p^{1bb.1}]}[p^{1bl.1}]$	$\frac{[p^{1bd.1}]}{[p^{1bb.1}]}[p^{1bs.1}]$	
$\frac{[p^{1cd.2}]}{[p^{1cc.2}]}[p^{1cl.2}]$	$\frac{[p^{1cd.2}]}{[p^{1cc.2}]}[p^{1cs.2}]$	
[p ¹ dl. 3]	[p ¹ ds. 3]	0
$\frac{[p^{1l}]}{[p^{1a}]}[p^{1al}]$	$\frac{[p^{1l}]}{[p^{1a}]}[p^{1as}]$	
$\frac{[p^{1bb.1}]}{[p^{1bb.1}]}[p^{1bl.1}]$	$\frac{[p^{1bb.1}]}{[p^{1bb.1}]}[p^{1bs.1}]$	
$\frac{[p^{1cc.2}]}{[p^{1cc.2}]}[p^{1cl.2}]$	$\frac{[p^{1cc.2}]}{[p^{1cc.2}]}[p^{1cs.2}]$	
$\frac{[p^{1dd.3}]}{[p^{1dd.3}]}[p^{1dl.3}]$	$\frac{[p^{1dd.3}]}{[p^{1dd.3}]}[p^{1ds.3}]$	
[p ¹ l. 4]	[p ¹ ls. 4]	0

未知數ノ計算法

總テノ消去式ノ係數ノ値ヲ知レバ之レヨリ未知數ヲ定ムルヲ得可シ。之レニ逆進算法ト獨立算法トアリ

一. 逆進算法.

此法ハ (13) 式ヨリ未知數 t ヲ計算シ之レヲ (11) 式ニ入レテ x ヲ計算シ總未知數ヲ得ルマデ此法ヲ續行ス。斯クシテ求メタル未知數ノ値ハ計算ニ誤リナケレバ初メノ法正式ヲ満足セザル可カラズ

二. 獨立算法

此法ハ (14) 式ヲ次ノ形ニ書き換フ、

$$\left. \begin{aligned} x + \frac{[pab]}{[paa]}y + \frac{[pac]}{[paa]}z + \frac{[pad]}{[paa]}t &= \frac{[pal]}{[paa]} & 1 \\ y + \frac{[pbc.1]}{[pbb.1]}z + \frac{[pbd.1]}{[pbb.1]}t &= \frac{[pbl.1]}{[pbb.1]} & A_1 \quad 1 \\ z + \frac{[pcd.2]}{[pcc.2]}t &= \frac{[pcl.2]}{[pcc.2]} & A_2 \quad B_2 \quad 1 \\ t &= \frac{[pdl.3]}{[pdd.3]} & A_3 \quad B_3 \quad C_3 \end{aligned} \right\} \dots\dots(20)$$

各式ニ順次ニ 1, A₁, A₂, A₃ ヲ乘ジ加フ。但シ A₁, A₂, A₃ 等ハ未知數 y, z, t ノ係數ヲ消去セシムル様選ブモノニシテ 次ノ如シ

$$\left. \begin{aligned} 0 &= \frac{[pab]}{[paa]} + A_1 \\ 0 &= \frac{[pac]}{[paa]} + \frac{[pbc.1]}{[pbb.1]}A_1 + A_2 \\ 0 &= \frac{[pad]}{[paa]} + \frac{[pbd.1]}{[pbb.1]}A_1 + \frac{[pcd.2]}{[pcc.2]}A_2 + A_3 \end{aligned} \right\} \dots\dots(21)$$

然ルトキハ x ヲ得。次ニ殘リノ三式ニ順次ニ 1, B₂, B₃ ヲ乘ジテ加フ。但シ B₂, B₃ ハ z 及 t ノ係數ノ消滅スル様ニ選ブモノニシテ次ノ

如シ。

$$\left. \begin{aligned} 0 &= \frac{[pbc.1]}{[pbb.1]} + B_2 \\ 0 &= \frac{[pbd.1]}{[pbb.1]} + \frac{[pcd.2]}{[pcc.2]}B_2 + B_3 \end{aligned} \right\} \dots\dots(22)$$

然ルトキハ y ヲ得

次ニ殘リノ二式ニ順次ニ 1, C₃ ヲ乘ジテ加フ。但シ C₃ ハ t ノ係數ヲ消滅セシムル様選ブモノニシテ次ノ如シ。

$$0 = \frac{[pcd.2]}{[pcc.2]} + C_3 \dots\dots(23)$$

然ルトキハ z ヲ得。

斯クシテ得タル未知數ノ値ヲ列記スレバ次ノ如シ。

$$\left. \begin{aligned} x &= \frac{[pal]}{[paa]} + \frac{[pbl.1]}{[pbb.1]}A_1 + \frac{[pcl.2]}{[pcc.2]}A_2 + \frac{[pdl.3]}{[pdd.3]}A_3 \\ y &= \frac{[pbl.1]}{[pbb.1]} + \frac{[pcl.2]}{[pcc.2]}B_2 + \frac{[pdl.3]}{[pdd.3]}B_3 \\ z &= \frac{[pcl.2]}{[pcc.2]} + \frac{[pdl.3]}{[pdd.3]}C_3 \\ t &= \frac{[pdl.3]}{[pdd.3]} \end{aligned} \right\} \dots(24)$$

但シ A₁, A₂, A₃, B₂, B₃ 及 C₃ 等ハ (21)(22) 及 (23) 式ヨリ次ノ如シ。

$$\left. \begin{aligned} A_1 &= -\frac{[pab]}{[paa]} \\ A_2 &= -\frac{[pac]}{[paa]} + \frac{[pab][pbc.1]}{[paa][pbb.1]} \\ A_3 &= -\frac{[pad]}{[paa]} + \frac{[pab][pbd.1]}{[paa][pbb.1]} + \frac{[pac][pcd.2]}{[paa][pcc.2]} - \frac{[pab][pbc.1][pcd.2]}{[paa][pbb.1][pcc.2]} \\ B_2 &= -\frac{[pbc.1]}{[pbb.1]} \end{aligned} \right\} (25)$$

未知數ノ計算法

總テノ消去式ノ係數ノ値ヲ知レバ之レヨリ未知數ヲ定ムルヲ得可シ。之レニ逆進算法ト獨立算法トアリ

一. 逆進算法.

此法ハ (13) 式ヨリ未知數 t ヲ計算シ之レヲ (11) 式ニ入レテ x ヲ計算シ總未知數ヲ得ルマデ此法ヲ續行ス。斯クシテ求メタル未知數ノ値ハ計算ニ誤リナケレバ初メノ法正式ヲ満足セザル可カラズ

二. 獨立算法

此法ハ (14) 式ヲ次ノ形ニ書キ換フ。

$$\left. \begin{aligned} x + \frac{[pa'b]}{[paa]}y + \frac{[pac]}{[paa]}z + \frac{[pad]}{[paa]}t &= \frac{[pal]}{[paa]} & 1 \\ y + \frac{[pbc.1]}{[pbb.1]}z + \frac{[pbd.1]}{[pbb.1]}t &= \frac{[pbl.1]}{[pbb.1]} & A_1 \quad 1 \\ z + \frac{[pcd.2]}{[pcc.2]}t &= \frac{[pcl.2]}{[pcc.2]} & A_2 \quad B_2 \quad 1 \\ t &= \frac{[pdl.3]}{[pdd.3]} & A_3 \quad B_3 \quad C_3 \end{aligned} \right\} \dots(20)$$

各式ニ順次ニ 1, A_1 , A_2 , A_3 ヲ乘ジ加フ。但シ A_1 , A_2 , A_3 等ハ未知數 y, z, t ノ係數ヲ消去セシムル様選ブモノニシテ 次ノ如シ

$$\left. \begin{aligned} 0 &= \frac{[pab]}{[paa]} + A_1 \\ 0 &= \frac{[pac]}{[paa]} + \frac{[pbc.1]}{[pbb.1]}A_1 + A_2 \\ 0 &= \frac{[pad]}{[paa]} + \frac{[pbd.1]}{[pbb.1]}A_1 + \frac{[pcd.2]}{[pcc.2]}A_2 + A_3 \end{aligned} \right\} \dots(21)$$

然ルトキハ x ヲ得。次ニ殘リノ三式ニ順次ニ 1, B_2 , B_3 ヲ乘ジテ加フ。但シ B_2, B_3 ハ z 及 t ノ係數ノ消滅スル様ニ選ブモノニシテ次ノ

如シ。

$$\left. \begin{aligned} 0 &= \frac{[pbc.1]}{[pbb.1]} + B_2 \\ 0 &= \frac{[pbd.1]}{[pbb.1]} + \frac{[pcd.2]}{[pcc.2]}B_2 + B_3 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(22)$$

然ルトキハ y ヲ得

次ニ殘リノ二式ニ順次ニ 1, C_3 ヲ乘ジテ加フ。但シ C_3 ハ t ノ係數ヲ消滅セシムル様選ブモノニシテ次ノ如シ。

$$0 = \frac{[pcd.2]}{[pcc.2]} + C_3 \dots\dots\dots(23)$$

然ルトキハ z ヲ得。

斯クシテ得タル未知數ノ値ヲ列記スレバ次ノ如シ。

$$\left. \begin{aligned} x &= \frac{[pal]}{[paa]} + \frac{[pbl.1]}{[pbb.1]}A_1 + \frac{[pcl.2]}{[pcc.2]}A_2 + \frac{[pdl.3]}{[pdd.3]}A_3 \\ y &= \frac{[pbl.1]}{[pbb.1]} + \frac{[pcl.2]}{[pcc.2]}B_2 + \frac{[pdl.3]}{[pdd.3]}B_3 \\ z &= \frac{[pcl.2]}{[pcc.2]} + \frac{[pdl.3]}{[pdd.3]}C_3 \\ t &= \frac{[pdl.3]}{[pdd.3]} \end{aligned} \right\} \dots(24)$$

但シ A_1, A_2, A_3, B_2, B_3 及 C_3 等ハ (21)(22) 及 (23) 式ヨリ次ノ如シ。

$$\left. \begin{aligned} A_1 &= -\frac{[pab]}{[paa]} \\ A_2 &= -\frac{[pac]}{[paa]} + \frac{[pab][pbc.1]}{[paa][pbb.1]} \\ A_3 &= -\frac{[pad]}{[paa]} + \frac{[pab][pbd.1]}{[paa][pbb.1]} + \frac{[pac][pcd.2]}{[paa][pcc.2]} - \frac{[pab][pbc.1][pcd.2]}{[paa][pbb.1][pcc.2]} \\ B_2 &= -\frac{[pbc.1]}{[pbb.1]} \end{aligned} \right\} (25)$$

メザル可カラズ。故ニ n' 個ノ條件式ヲ精密ニ満足セシムル所ノ未知數ノ値ノ組ノ中ニテ n 個ノ觀測式ノ重み付殘差ノ二乗ノ和ヲ最小ニナス所ノ組ヲ選バザル可カラズ

故ニ條件附測量ノ問題ヲ獨立測量ノ問題ニナスニハ n' 個ノ條件式ニ依リ n' 個ノ未知數ノ値ヲ $(q-n')$ 個ノ未知數ノ項ニテ示シ之レヲ n 個ノ觀測式ニ入ルレバ $(q-n')$ 個ノ未知數ノ項ニテ n 個ノ獨立觀測式ヲ生ズ。之レヨリ法正式ヲ作りテ $(q-n')$ 個ノ未知數ノ最モ確カラシキ値ヲ見出し得次ニ此値ヲ n' 個ノ條件式中ニ入ルルトキハ殘餘ノ n' 個ノ未知數ノ値ヲ見出し得ベシ

此クノ如クシテ見出シタル q 個ノ未知數ノ値ハ精密ニ條件式ヲ満足セシメ同時ニ觀測式ノ最モ確カラシキ値ナリ

例ヘバ平面三角形ノ三角ヲ測量シタル場合ニ於テ z_1, z_2 及 z_3 ヲ三角ノ最モ確カラシキ値トスレバ

觀測式ハ次ノ如シ

$$z_1 = l_1, \quad z_2 = l_2 \quad \text{及} \quad z_3 = l_3$$

又條件式ハ次ノ如シ

$$z_1 + z_2 + z_3 = 180^\circ$$

今條件式ヨリ z_3 ノ値ヲ取り之レヲ觀測式ニ入ルルトキハ次ノ如シ

$$z_1 = l_1$$

$$z_2 = l_2$$

$$z_1 + z_2 = 180^\circ - l_3$$

然ルトキハ z_1 及 z_2 ノ最モ確カラシキ値ハ此等ノ觀測式ヨリ第五節ノ方法ニ依リ求メラル

而シテ z_3 ノ最モ確カラシキ値ハ $180^\circ - z_1 - z_2$ ナリ

其方法ヲ記スレバ次ノ如シ

$$\left. \begin{aligned} z_1 &= l_1 \\ z_2 &= l_2 \\ z_1 + z_2 &= 180^\circ - l_3 \end{aligned} \right\} \text{觀測式}$$

z_1	z_2		
a	b	$-l$	s
1	0	$-l_1$	$1 - l_1$
0	1	$-l_2$	$1 - l_2$
1	1	$-180^\circ + l_3$	$2 - 180^\circ + l_3$

z_1	z_2		
$[aa] = 2$	$[ab] = 1$ $[bb] = 2$	$[al] = -l_1 - 180^\circ + l_3$ $[bl] = -l_2 - 180^\circ + l_3$ $[ll] = l_1^2 + l_2^2 + l_3^2 + (180^\circ)^2 - 2 \times 180^\circ l_3$	$[as] = (1 - l_1) + (2 - 180^\circ + l_3)$ $[bs] = (1 - l_2) + (2 - 180^\circ + l_3)$ $[ls] = -l_1(1 - l_1) - l_2(1 - l_2) - (180^\circ - l_3)(2 - 180^\circ + l_3)$ $[ss] = (1 - l_1)^2 + (1 - l_2)^2 + (2 - 180^\circ + l_3)^2$

z_2

$$[lb. 1] = [ob] - \frac{[ab]}{[aa]} [ab] = 2 - \frac{1}{2} = 1 \frac{1}{2}$$

$$[bl. 1] = [bl] - \frac{[ab]}{[aa]} [al] = -l_2 - 180^\circ + l_3 - \frac{1}{2}(-l_1 - 180^\circ + l_3) = \frac{l_1}{2} - l_2 + \frac{l_3}{2} - 90^\circ$$

上述ノ方法ハ一般ニシテ理論ハ非常ニ簡單ナレドモ實際ニ於テハ計算面倒ニシテ特ニ條件式ノ數ガ多クナルニ從ツテ益々面倒ナリ故ニ「がうす」氏ノ不定係數法ヲ一般ニ採用ス

第十八節 「がうす」氏不定係數法

其一 測量ノ重み等シキ場合

條件式ヲ一次式ト考ヘ測量ノ數ヲ測定セントスル未知數ノ數ト等シトス即チ $n=q$ トシ n 個ノ未知數ガ次ノ n' 個ノ條件式ニ依リ結付ケラレ居ルモノト假定ス

$$\left. \begin{aligned} a_0 + a_1x_1 + a_2x_2 + \dots + a_nx_n &= 0 \\ b_0 + b_1x_1 + b_2x_2 + \dots + b_nx_n &= 0 \\ c_0 + c_1x_1 + c_2x_2 + \dots + c_nx_n &= 0 \\ \dots & \\ n_0' + n_1'x_1 + n_2'x_2 + \dots + n_n'x_n &= 0 \end{aligned} \right\} \dots \dots \dots (1)$$

(1) 式ニ示ス條件式ニ於テ $x=l+v$ トシ未知數ノ値ノ代リニ觀測値並ニ其修正數ヲ用フルトキハ

$$\left. \begin{aligned} a_0 + a_1l_1 + \dots + a_nl_n + a_1v_1 + \dots + a_nv_n &= 0 \\ b_0 + b_1l_1 + \dots + b_nl_n + b_1v_1 + \dots + b_nv_n &= 0 \\ c_0 + c_1l_1 + \dots + c_nl_n + c_1v_1 + \dots + c_nv_n &= 0 \\ \dots & \\ n_0 + n_1l_1 + \dots + n_nl_n + n_1v_1 + \dots + n_nv_n &= 0 \end{aligned} \right\} \dots \dots \dots (2)$$

即チ此等ノ n' 個ノ式ノ初メノ $(n+1)$ 個ノ項ノ和ハ零ニ等シカル可キモ觀測誤差ノ爲メニ次式ニ示ス如キ誤差ヲ生ズ

$$\left. \begin{aligned} w_1 &= a_0 + a_1l_1 + \dots + a_nl_n \\ w_2 &= b_0 + b_1l_1 + \dots + b_nl_n \\ w_3 &= c_0 + c_1l_1 + \dots + c_nl_n \\ \dots & \\ w_{n'} &= n_0' + n_1'l_1 + \dots + n_n'l_n \end{aligned} \right\} \dots \dots \dots (3)$$

此等ノ値ヲ (2) 式ニ入ルルトキハ次ニ示ス如キ誤差條件式ヲ得

$$\left. \begin{aligned} a_1v_1 + \dots + a_nv_n + w_1 &= 0 \\ b_1v_1 + \dots + b_nv_n + w_2 &= 0 \\ \dots & \\ n_1'v_1 + \dots + n_n'v_n + w_{n'} &= 0 \end{aligned} \right\} \dots \dots \dots (\pm)$$

此 n' 個ノ條件式ヲ夫々 $\varphi_1, \varphi_2, \dots, \varphi_{n'}$ トスレバ

$$x_1x_2 \dots x_n \text{ ノ最モ確カラシキ値ハ } [vv] - 2K_1\varphi_1 - 2K_2\varphi_2 \dots - 2K_{n'}\varphi_{n'}$$

ヲ最小トスルモノナリ

式中 $K_1, K_2, \dots, K_{n'}$ ハ條件式ノ乘數或ハ不定係數ナリ. v ニ關シテ此式ヲ微分シ其微分係數ヲ零トナストキハ次ノ n 個ノ不定係數式ヲ得

$$\left. \begin{aligned} v_1 - (a_1K_1 + b_1K_2 + \dots + n_1'K_{n'}) &= 0 \\ v_2 - (a_2K_1 + b_2K_2 + \dots + n_2'K_{n'}) &= 0 \\ \dots & \\ v_n - (a_nK_1 + b_nK_2 + \dots + n_n'K_{n'}) &= 0 \end{aligned} \right\} \dots \dots \dots (5)$$

此 n 個ノ式ト n' 個ノ條件式トニ依リ n 個ノ殘差及 n' 個ノ不定係數ヲ定ムルヲ得ベシ

(5) 式ヨリ殘差誤差ヲ次ノ如ク書クヲ得

$$\left. \begin{aligned} v_1 &= a_1K_1 + b_1K_2 + \dots + n_1'K_{n'} \\ v_2 &= a_2K_1 + b_2K_2 + \dots + n_2'K_{n'} \\ \dots & \\ v_n &= a_nK_1 + b_nK_2 + \dots + n_n'K_{n'} \end{aligned} \right\} \dots \dots \dots (6)$$

之レヲ條件式 (4) ニ入ルルトキハ

$$\left. \begin{aligned} [aa]K_1 + [ab]K_2 + \dots + [an']K_{n'} + w_1 &= 0 \\ [ab]K_1 + [bb]K_2 + \dots + [bn']K_{n'} + w_2 &= 0 \\ \dots\dots\dots \\ [an']K_1 + [bn']K_2 + \dots + [n'n']K_{n'} + w_{n'} &= 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots(7)$$

此等ノ式ノ係數ハ法正式ノ係數ト等シキ性質ヲ有ス而シテ式數 n' 個アル故ニ n' 個ノ不定係數ヲ定メ得ベク從テ殘差誤差 v ヲ知ルヲ得
此殘差誤差ヲ觀測値ニ加ヘテ修正スルトキハ未知數 x_1, x_2, \dots, x_n ノ最モ確カラシキ値ヲ得。且之レハ正確ニ條件式ヲ満足セシムルモノナリ。此方法ノ應用ノ例ハ第八章ニ在リ。

其二. 測量ノ重み等シカラザル場合

測量ノ重み等シカラザルトキハ條件式 (4) ニ於テ $U = [pvv]$ ヲ最小ニナサントス之レガ爲メニ誤差條件式 $\varphi =$ 不定係數 $-2K$ ヲ乘ジテ U ニ加フルトキハ次ノ新シキ函數ヲ得。

$$F = U - 2K_1\varphi_1 - 2K_2\varphi_2 - 2K_3\varphi_3 \dots - 2K_{n'}\varphi_{n'}$$

之レヲ各修正數 v ニ關シテ微分シ其微分係數ヲ零ニ等シトスレバ次ノ n 個ノ不定係數式ヲ得

$$\left. \begin{aligned} p_1v_1 &= a_1K_1 + b_1K_2 + \dots + n'_1K_{n'} \\ p_2v_2 &= a_2K_1 + b_2K_2 + \dots + n'_2K_{n'} \\ \dots\dots\dots \\ p_nv_n &= a_nK_1 + b_nK_2 + \dots + n'_nK_{n'} \end{aligned} \right\} \dots\dots(8)$$

本式ニ於テ不定係數 K ノ値ヲ知レバ最モ確カラシキ修正數 v ヲ計算シ得可シ。不定係數ヲ求ムルニハ不定係數式ヨリ。

$$v = \frac{a}{p}K_1 + \frac{b}{p}K_2 + \dots + \frac{n'}{p}K_{n'} \dots\dots(9)$$

ノ如キ誤差式ヲ作リ之レヲ誤差條件式ニ入レ K ノ順ニ配列スレバ。次ノ法正式ヲ得。

$$\left. \begin{aligned} \left[\frac{aa}{p} \right] K_1 + \left[\frac{ab}{p} \right] K_2 + \dots + \left[\frac{an'}{p} \right] K_{n'} + w_1 &= 0 \\ \left[\frac{ab}{p} \right] K_1 + \left[\frac{bb}{p} \right] K_2 + \dots + \left[\frac{bn'}{p} \right] K_{n'} + w_2 &= 0 \\ \dots\dots\dots \\ \left[\frac{an'}{p} \right] K_1 + \left[\frac{bn'}{p} \right] K_2 + \dots + \left[\frac{n'n'}{p} \right] K_{n'} + w_{n'} &= 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots(10)$$

之レヨリ不定係數 K ヲ求ム求メタル K ノ正否ヲ檢スルニハ之レガ法正式ヲ満足スルヤ否ヤヲ見ルニ在リ。斯クシテ v ヲ知レバ之レヲ觀測値ニ加ヘテ平均セラレタル未知數ヲ得可シ。即チ

$$x_1 = l_1 + v_1, \quad x_2 = l_2 + v_2, \dots, \quad x_n = l_n + v_n \dots\dots(11)$$

斯クシテ得タル x ノ値ガ (1) 式ヲ満足スルヤ否ヤニ依リテ全計算ノ正否ヲ檢スルヲ得可シ。

誤差ノ自乗和 $[pvv]$ ヲ得ルニハ (9) 式ニ \sqrt{p} ヲ乘ジテ次式ヲ得。

$$\sqrt{p}v = \frac{a}{\sqrt{p}}K_1 + \frac{b}{\sqrt{p}}K_2 + \dots + \frac{n'}{\sqrt{p}}K_{n'} \dots\dots(12)$$

斯カル式ヲ自乗シテ加ヘ K ノ順ニ配列スレバ

$$\begin{aligned} [pvv] &= K_1 \left(\left[\frac{aa}{p} \right] K_1 + \left[\frac{ab}{p} \right] K_2 + \dots + \left[\frac{an'}{p} \right] K_{n'} \right) \\ &+ K_2 \left(\left[\frac{ab}{p} \right] K_1 + \left[\frac{bb}{p} \right] K_2 + \dots + \left[\frac{bn'}{p} \right] K_{n'} \right) \\ &\dots\dots\dots \\ &+ K_{n'} \left(\left[\frac{an'}{p} \right] K_1 + \left[\frac{bn'}{p} \right] K_2 + \dots + \left[\frac{n'n'}{p} \right] K_{n'} \right) \dots\dots(13) \end{aligned}$$

法正式 (10) ニ依レバ上式ノ括弧中ハ $-w$ ニ等シキガ故ニ

$$[pvv] = -[wK] \dots\dots\dots(14)$$

此關係ハ [pvv] ノ檢算ニ重要ナリ。

**第十九節 四個ノ未知數ニ於ケル條件附測量
ヲ不定係數法ニ依リ平均スル法**

其一. 測量ノ重み等シキ場合.

四個ノ未知數 x_1, x_2, x_3, x_4 ノ間ニ次ノ三個ノ條件式アリトス

$$\left. \begin{aligned} a_0 + a_1x_1 + a_2x_2 + a_3x_3 + a_4x_4 &= 0 \\ b_0 + b_1x_1 + b_2x_2 + b_3x_3 + b_4x_4 &= 0 \\ c_0 + c_1x_1 + c_2x_2 + c_3x_3 + c_4x_4 &= 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(1)$$

此式ノ x_1, x_2, x_3, x_4 ノ代リニ觀測値 l_1, l_2, l_3, l_4 ヲ入ルルトキハ

$$\left. \begin{aligned} a_0 + a_1l_1 + a_2l_2 + a_3l_3 + a_4l_4 &= w_1 \\ b_0 + b_1l_1 + b_2l_2 + b_3l_3 + b_4l_4 &= w_2 \\ c_0 + c_1l_1 + c_2l_2 + c_3l_3 + c_4l_4 &= w_3 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(2)$$

今 w ヲ消去センガ爲メニ次ノ如ク l = 修正數 v ヲ加フ

$$\left. \begin{aligned} x_1 &= l_1 + v_1 \\ x_2 &= l_2 + v_2 \\ x_3 &= l_3 + v_3 \\ x_4 &= l_4 + v_4 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(3)$$

然ルトキハ (1) 式ハ次ノ如クナルベシ

$$\begin{aligned} a_0 + a_1(l_1 + v_1) + a_2(l_2 + v_2) + a_3(l_3 + v_3) + a_4(l_4 + v_4) &= 0 \\ b_0 + b_1(l_1 + v_1) + b_2(l_2 + v_2) + b_3(l_3 + v_3) + b_4(l_4 + v_4) &= 0 \\ c_0 + c_1(l_1 + v_1) + c_2(l_2 + v_2) + c_3(l_3 + v_3) + c_4(l_4 + v_4) &= 0 \end{aligned}$$

而シテ之レヨリ (2) 式ヲ減ズルトキハ

$$\left. \begin{aligned} a_1v_1 + a_2v_2 + a_3v_3 + a_4v_4 + w_1 &= 0 \\ b_1v_1 + b_2v_2 + b_3v_3 + b_4v_4 + w_2 &= 0 \\ c_1v_1 + c_2v_2 + c_3v_3 + c_4v_4 + w_3 &= 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(4)$$

略式ニスレバ

$$\begin{aligned} (2) \text{ 式ハ } & \left\{ \begin{aligned} a_0 + [a] &= w_1 \\ b_0 + [b] &= w_2 \\ c_0 + [c] &= w_3 \end{aligned} \right. \dots\dots\dots(5) \\ (4) \text{ 式ハ } & \left\{ \begin{aligned} [av] &= -w_1 \\ [bv] &= -w_2 \\ [cv] &= -w_3 \end{aligned} \right. \end{aligned}$$

而シテ (4) 式ハ v ヲ精密ニ満足セシムベキ條件ナルヲ以テ條件式ナリ

又此 (4) 式ノ外ニ v ヲ定ムル原式アリ 即チ

$$[vv] = v_1^2 + v_2^2 + v_3^2 + v_4^2 = \text{最小} \dots\dots\dots(6)$$

條件式 (4) = 此最小條件ヲ關係セシムル爲メニ次ノ如クナス

今條件式 (4) = 不定ノ係數 $-2K_1, -2K_2, -2K_3$ ヲ乘ズルトキハ

$$\left. \begin{aligned} -2a_1K_1v_1 - 2a_2K_1v_2 - 2a_3K_1v_3 - 2a_4K_1v_4 - 2w_1K_1 &= 0 \\ -2b_1K_2v_1 - 2b_2K_2v_2 - 2b_3K_2v_3 - 2b_4K_2v_4 - 2w_2K_2 &= 0 \\ -2c_1K_3v_1 - 2c_2K_3v_2 - 2c_3K_3v_3 - 2c_4K_3v_4 - 2w_3K_3 &= 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots(7)$$

此式ヲ最小條件式 (6) = 加フルトキハ

$$\left. \begin{aligned} \Omega &= v_1^2 - 2v_1(a_1K_1 + b_1K_2 + c_1K_3) \\ &+ v_2^2 - 2v_2(a_2K_1 + b_2K_2 + c_2K_3) \\ &+ v_3^2 - 2v_3(a_3K_1 + b_3K_2 + c_3K_3) \\ &+ v_4^2 - 2v_4(a_4K_1 + b_4K_2 + c_4K_3) \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(8)$$

$$-2(w_1K_1 + w_2K_2 + w_3K_3)$$

此 Ω の最小ヲ定ムルトキハ $[vv]$ ノ最小及 (4) 式ノ條件モ含マルル故ニ之レヲ $v_1v_2v_3v_4$ ニ從ヒ微分シ其ノ微分係數ヲ零トナストキハ

$$0 = 2v_1 - 2(a_1K_1 + b_1K_2 + c_1K_3)$$

$$0 = 2v_2 - 2(a_2K_1 + b_2K_2 + c_2K_3)$$

$$0 = 2v_3 - 2(a_3K_1 + b_3K_2 + c_3K_3)$$

$$0 = 2v_4 - 2(a_4K_1 + b_4K_2 + c_4K_3)$$

即チ

$$\left. \begin{aligned} v_1 &= a_1K_1 + b_1K_2 + c_1K_3 \\ v_2 &= a_2K_1 + b_2K_2 + c_2K_3 \\ v_3 &= a_3K_1 + b_3K_2 + c_3K_3 \\ v_4 &= a_4K_1 + b_4K_2 + c_4K_3 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(9)$$

此式ヲ (4) 式ニ入レ $K_1K_2K_3$ ノ順序ニ配列スレバ

$$\left. \begin{aligned} [aa]K_1 + [ab]K_2 + [ac]K_3 + w_1 &= 0 \\ [ab]K_1 + [bb]K_2 + [bc]K_3 + w_2 &= 0 \\ [ac]K_1 + [bc]K_2 + [cc]K_3 + w_3 &= 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(10)$$

之レ法正式ニシテ其數ハ條件式ノ數ニ同ジ

計算ノ順序

(4) 式ノ a, b, c , 及 w ヲ定メ次ニ法正式 (10) ノ係數 $[aa][ab]$ 等ヲ計算シ之レヲ解キテ $K_1K_2K_3$ ヲ定メ之ヲ (9) 式ニ入レテ修正數 v ヲ算出シ之レヲ l ニ加フルトキハ未知數ノ最モ確カラシキ値 x ヲ得ベシ

其二. 測量ノ重み等シカラザル場合

觀測値ノ重みヲ $p_1p_2p_3p_4$ トスレバ最小ノ條件ハ

$$[pvv] = p_1v_1^2 + p_2v_2^2 + p_3v_3^2 + p_4v_4^2 = \text{最小} \dots\dots(1)$$

又 a, b, c ノ代ヲ $\frac{a}{p}, \frac{b}{p}, \frac{c}{p}$ トナリ (9) 及 (10) 式ハ次ノ如クナル

法正式

$$\left. \begin{aligned} \left[\frac{aa}{p} \right] K_1 + \left[\frac{ab}{p} \right] K_2 + \left[\frac{ac}{p} \right] K_3 + w_1 &= 0 \\ \left[\frac{ab}{p} \right] K_1 + \left[\frac{bb}{p} \right] K_2 + \left[\frac{bc}{p} \right] K_3 + w_2 &= 0 \\ \left[\frac{ac}{p} \right] K_1 + \left[\frac{bc}{p} \right] K_2 + \left[\frac{cc}{p} \right] K_3 + w_3 &= 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(2)$$

修正式

$$\left. \begin{aligned} v_1 &= \frac{a_1}{p_1} K_1 + \frac{b_1}{p_1} K_2 + \frac{c_1}{p_1} K_3 \\ v_2 &= \frac{a_2}{p_2} K_1 + \frac{b_2}{p_2} K_2 + \frac{c_2}{p_2} K_3 \\ v_3 &= \frac{a_3}{p_3} K_1 + \frac{b_3}{p_3} K_2 + \frac{c_3}{p_3} K_3 \\ v_4 &= \frac{a_4}{p_4} K_1 + \frac{b_4}{p_4} K_2 + \frac{c_4}{p_4} K_3 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(3)$$

若シ重み p ヲ計算式ヨリ除カントセバ初メノ係數 $a b c$ ヲ \sqrt{p} ニテ除シテ總テノ重みガ 1 ナルカノ如ク計算スベシ

即チ 第一條件式ハ

$$\frac{a_1}{\sqrt{p_1}} v_1 \sqrt{p_1} + \frac{a_2}{\sqrt{p_2}} v_2 \sqrt{p_2} + \frac{a_3}{\sqrt{p_3}} v_3 \sqrt{p_3} + \frac{a_4}{\sqrt{p_4}} v_4 \sqrt{p_4} + w_1 = 0$$

或ハ $a_1'v_1' + a_2'v_2' + a_3'v_3' + a_4'v_4' + w_1 = 0$

第一法正式ハ

$$[a'a']K_1 + [a'b']K_2 + [a'c']K_3 + w_1 = 0$$

第一修正式ハ

$$v_1' = v_1 \sqrt{p_1} = a_1'K_1 + b_1'K_2 + c_1'K_3$$

故= $v_1 = \frac{v_1'}{\sqrt{p_1}}$
 $[pvv] = [(v\sqrt{p})^2] = [v'v'] \dots\dots\dots(4)$

第二十節 一次ナラザル函數ノ場合

【其一】 測量ノ精密度等シキ場合

X, Y ヲ未知數. L_1, L_2, L_3 ヲ其函數ノ觀測値トスレバ

$$\left. \begin{aligned} F_1(X, Y) - L_1 &= 0 \\ F_2(X, Y) - L_2 &= 0 \\ F_3(X, Y) - L_3 &= 0 \\ \dots\dots\dots \\ F_n(X, Y) - L_n &= 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(1)$$

誤差式ハ次ノ如シ

$$\left. \begin{aligned} v_1 &= F_1(X, Y) - L_1 \\ v_2 &= F_2(X, Y) - L_2 \\ v_3 &= F_3(X, Y) - L_3 \\ \dots\dots\dots \\ v_n &= F_n(X, Y) - L_n \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(2)$$

或ハ $F(X, Y) - (L + v) = 0$ ノ形トナス.....(3)

今 (X) 及 (Y) ヲ X 及 Y ノ近似値トスレバ

$$X = (X) + x \quad Y = (Y) + y \dots\dots\dots(4)$$

「てらー」ノ公理ヨリ

$$F(X, Y) = F((X) + x, (Y) + y)$$

$$F(X, Y) = F((X), (Y)) + \frac{\partial F}{\partial X}x + \frac{\partial F}{\partial Y}y$$

【参考】

$$(x+h, y+k) = u + h \frac{du}{dx} + k \frac{du}{dy} + \frac{h^2 d^2u}{1.2 dx^2} + hk \frac{d^2u}{dx dy} + \frac{k^2 d^2u}{1.2 dy^2} + \dots\dots\dots$$

故= (2) 式ハ次ノ如クナル.

$$\left. \begin{aligned} v_1 &= a_1x + b_1y - l_1 \\ v_2 &= a_2x + b_2y - l_2 \\ v_3 &= a_3x + b_3y - l_3 \\ \dots\dots\dots \\ v_n &= a_nx + b_ny - l_n \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(5)$$

式中 $a = \frac{\partial F}{\partial X}$
 $b = \frac{\partial F}{\partial Y}$ }.....(6)

$$-l = F(X, Y) - L \text{ 或ハ } -l = (L) - L \dots\dots\dots(7)$$

$$\text{或ハ } F(X, Y) - (L - l) = 0 \text{ 或ハ } (L) - (L - l) = 0 \dots\dots\dots(8)$$

(5) 式ハ (2) 式ニ代リテ未知數ハ x, y トナリ L ハ l トナリタル誤差式ナリ

其二. 測量ノ精密度等シカラザル場合

若シ未知數ト觀測値トノ間ノ關係ガ一次ナラズシテ

$$F(X, Y, Z, \dots\dots\dots) = L \dots\dots\dots(9)$$

ノ如キ關係アルトキハ近似値ヲ代入シテ一次式ニ導クヲ得

即チ $X = X_0 + dX$
 $Y = Y_0 + dY$ }.....(10)

トシ「てらー」氏ノ法則ニ從ヒテ (9) 式ヲ展開スレバ

$$\frac{\partial F}{\partial X}dX + \frac{\partial F}{\partial Y}dY + \frac{\partial F}{\partial Z}dZ + \dots\dots\dots = L - F(X_0, Y_0, Z_0, \dots\dots\dots) \dots\dots(11)$$

$$\text{或ハ } adX + bdY + cdZ + \dots\dots\dots = dL \dots\dots\dots(12)$$

未知數一個ナル場合ノ間接觀測ノ平均.

此ノ場合ニハ決定式ハ次ノ如シ

$$\left. \begin{aligned} a_1 X &= L_1 \\ a_2 X &= L_2 \\ \dots\dots\dots \\ a_n X &= L_n \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(13)$$

式中 L_i の真値ニシテ未知ナル故ニ未知數ノ真値 X ヲ知ル能ハズ。依テ X ノ代リニ最モ確カラシキ値 x ヲ用ヒ L_i ノ代リニ觀測値 l_i 並ニ其最モ確カラシキ修正數 v_i ヲ用フルトキハ次ノ誤差式ヲ得

$$\left. \begin{aligned} a_1 x &= l_1 + v_1 \\ a_2 x &= l_2 + v_2 \\ \dots\dots\dots \\ a_n x &= l_n + v_n \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(14)$$

測量ノ重みヲ夫々 p_1, p_2, \dots, p_n トシ $U = [p v v]$ ガ最小トナル如ク x ノ最モ確カラシキ値ヲ定メントセバ

$$\frac{dU}{dx} = 0 \dots\dots\dots(15)$$

ヨリ次式ヲ得

$$[p a v] = p_1 a_1 v_1 + p_2 a_2 v_2 + \dots + p_n a_n v_n = 0 \dots(16)$$

此式ノ v_i (14) 式ノ v_i ノ値ヲ用フレバ次ノ法正式ヲ得

$$[p a a] x = [p a l]$$

依テ

$$x = \frac{[p a l]}{[p a a]} \dots\dots\dots(17)$$

誤差計算ノ檢算トシテ次式ヲ用フ

$$[p v v] = [p l l] - [p a l] x = -[p l v] \dots\dots\dots(18)$$

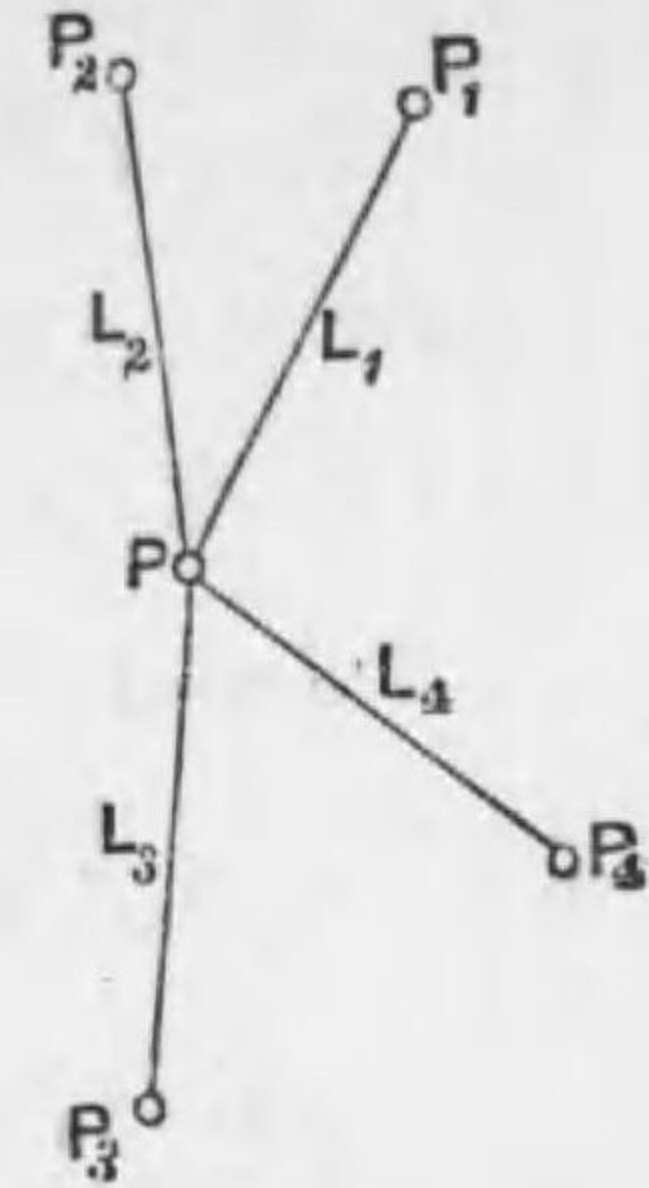
此式ハ (14)(16) 及 (17) 式ヨリ容易ニ求メラル

第二十一節 多數ノ測線ノ交切點ノ平均法

第六圖ニ於テ P_1, P_2, P_3 及 P_4 點ノ經緯距ヲ次ノ如シトス

$$\left. \begin{aligned} X_1 &= +551.78 \text{ 米} & Y_1 &= +899.06 \text{ 米} \\ X_2 &= +548.11 \text{ 米} & Y_2 &= +824.95 \text{ 米} \\ X_3 &= +307.63 \text{ 米} & Y_3 &= +850.40 \text{ 米} \\ X_4 &= +377.57 \text{ 米} & Y_4 &= +955.51 \text{ 米} \end{aligned} \right\} \dots\dots(1)$$

第六圖



以上ノ四點ヨリ定メントスル點 P ニ至ル距離ヲ測定シテ次ノ結果ヲ得タリ。

$$\left. \begin{aligned} L_1 &= 123.81 \text{ 米} \\ L_2 &= 114.59 \text{ 米} \\ L_3 &= 129.25 \text{ 米} \\ L_4 &= 118.78 \text{ 米} \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(2)$$

此距離ヨリ P 點ノ經緯距 X 及 Y ヲ算出セントス

測定距離ハ平均スルニ當リ修正スルヲ要スル故ニ次ノ關係式アリ

$$\left. \begin{aligned} L_1 + v_1 &= \sqrt{(X_1 - X)^2 + (Y_1 - Y)^2} \\ L_2 + v_2 &= \sqrt{(X_2 - X)^2 + (Y_2 - Y)^2} \\ L_3 + v_3 &= \sqrt{(X_3 - X)^2 + (Y_3 - Y)^2} \\ L_4 + v_4 &= \sqrt{(X_4 - X)^2 + (Y_4 - Y)^2} \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(3)$$

即チ誤差式ハ

$$\left. \begin{aligned} v_1 &= -L_1 + \sqrt{(X_1 - X)^2 + (Y_1 - Y)^2} \\ v_2 &= -L_2 + \sqrt{(X_2 - X)^2 + (Y_2 - Y)^2} \\ v_3 &= -L_3 + \sqrt{(X_3 - X)^2 + (Y_3 - Y)^2} \\ v_4 &= -L_4 + \sqrt{(X_4 - X)^2 + (Y_4 - Y)^2} \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(4)$$

前節ノ方法ヲ應用スル爲メ任意二線例ヘバ L_1 及 L_2 ノ交切點ヨリ P 點ノ近似經緯距 (X) 及 (Y) ヲ計算シ修正經緯距ヲ次ノ如クス

$$\left. \begin{aligned} X &= (X) + x \\ Y &= (Y) + y \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(5)$$

然ルトキハ誤差式 (4) ノ第一式ハ

$$v_1 = -L_1 + \sqrt{(X_1 - (X) - x)^2 + (Y_1 - (Y) - y)^2}$$

此平方根ヲ「てらー」氏ノ公理ニ依リ展開シ x 及 y ノ二乗以上ヲ捨ツルトキハ次ノ如シ

$$v_1 = -L_1 + L_1^0 - \frac{X_1 - (X)}{L_1^0} x - \frac{Y_1 - (Y)}{L_1^0} y$$

式中 $L_1^0 = \sqrt{((X_1 - (X))^2 + (Y_1 - (Y))^2)} \dots\dots\dots(6)$

又 $-L_1 + L_1^0 = -l_1 \quad -\frac{X_1 - (X)}{L_1^0} = a_1 \quad -\frac{Y_1 - (Y)}{L_1^0} = b_1 \dots\dots(7)$

トスルトキハ誤差式 (4) ハ直線式トナル.

$$\left. \begin{aligned} v_1 &= -l_1 + a_1 x + b_1 y \\ v_2 &= -l_2 + a_2 x + b_2 y \\ v_3 &= -l_3 + a_3 x + b_3 y \\ v_4 &= -l_4 + a_4 x + b_4 y \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(8)$$

今 $(X) = +436.95 \quad (Y) = +852.66 \dots\dots\dots(9)$

トスレバ (6) 式ニ依リ

$$L_1^0 = 123.850 \quad L_2^0 = 114.562 \quad L_3^0 = 129.340 \quad L_4^0 = 118.761$$

故ニ (7) 式ニ依リ.

$$\begin{aligned} -l_1 &= +0.040 & a_1 &= -0.928 & b_1 &= -0.375 \\ -l_2 &= -0.028 & a_2 &= -0.970 & b_2 &= +0.242 \\ -l_3 &= +0.090 & a_3 &= +1.000 & b_3 &= +0.017 \end{aligned}$$

$$-l_4 = -0.019 \quad a_4 = +0.500 \quad b_4 = -0.866$$

故ニ誤差式ハ次ノ如シ

$$\left. \begin{aligned} v_1 &= +0.040 - 0.928x - 0.375y \\ v_2 &= -0.028 - 0.970x + 0.242y \\ v_3 &= +0.090 + 1.000x + 0.017y \\ v_4 &= -0.019 + 0.500x - 0.866y \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(10)$$

之レヨリ法正式ヲ作レバ次ノ如シ

$$\left. \begin{aligned} 3.0521x - 0.3028y + 0.0705 &= 0 \\ -0.3028x + 0.9494y - 0.0039 &= 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(11)$$

之レヨリ $x = -0.0234 \quad y = -0.0034$

(5) 式及 (9) 式ニ依リ

$$X = +436.927 \quad Y = +852.657 \dots\dots\dots(12)$$

次ニ曲線式 (4) ヲ直線式 (10) ニ變化セシコトヲ檢定セントス.

即チ x 及 y ヲ定メタル後 (10) 式ニ依リ v ヲ算出シ v 及 X, Y ヲ (3)

及 (4) 式ニ入ルルトキハ満足セザル可カラズ

修正數 v ヲ算出スレバ

$$\left. \begin{aligned} v_1 &= +0.062 & v_3 &= +0.067 \\ v_2 &= -0.007 & v_4 &= -0.028 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(13)$$

故ニ修正距離ハ

$$\left. \begin{aligned} L_1 + v_1 &= 123.872 & L_3 + v_3 &= 129.317 \\ L_2 + v_2 &= 114.583 & L_4 + v_4 &= 118.752 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(14)$$

又 P 及四定點ノ經緯距ヨリ距離ヲ算出スレバ

$$\left. \begin{aligned} PP_1 &= 123.873 \text{ 米} & PP_3 &= 129.317 \text{ 米} \\ PP_2 &= 114.583 \text{ 米} & PP_4 &= 118.751 \text{ 米} \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(15)$$

(14) 及 (15) ノ差ハ 1 耗以下ニシテ之レ計算ニ當リ圓約スル爲メナリ。

第 四 章

測 量 ノ 精 密 度

第 一 節 總 說

測量ヲ整正スルニ當リ精密度ノ等シカラザル多數ノ測量ヲ結合スルノ必要アルコトアリ之レガ爲メニ測量ノ重みヲ定ムルコト必要ナリ故ニ最モ確カラシキ値即チ整正シタル値ガ得ラレタルトキハ他ノ事情ノ下ニ得ラレタル値ト比較スル爲メニ如何ナル信用ノ度ヲ其整正值ニ置キ得ルカヲ知ルヲ要ス。測量ノ値及其精密度ヲ知ルコトハ測量ノ利用上重要ノコトニシテ尙又測量ノ精密度ノ研究ハ常ニ測量ノ方法ヲ進歩セシムルニ必要ノコトナリ。

第 二 節 平 均 誤 差

平均誤差 (t) ハ多數ノ同種ノ誤差ヲ其符號ニ無關係ニ加ヘテ平均シタルモノナリ。即チ $\varepsilon_1, \varepsilon_2, \varepsilon_3, \dots, \varepsilon_n$ ヲ n 個ノ眞誤差トスレバ平均誤差ハ

$$t = \frac{[\pm \varepsilon]}{n} \dots \dots \dots (1) \text{ ナリ}$$

[實例]

22 個ノ三角形ノ三内角ヲ測定レ之レヲ理論的内角和ト比較セシ。次ノ 22 個ノ誤差ヲ生ゼリ。

三角形番號	眞誤差 (ε)	三角形番號	眞誤差 (ε)
1	+0.36"	12	0.00"
2	+0.93	13	-1.36
3	-0.51	14	+1.86
4	-1.46	15	-0.43
5	-0.95	16	+1.68
6	-1.40	17	+1.62
7	+1.76	18	+1.62
8	+0.93	19	+1.67
9	+0.56	20	-0.72
10	0.00	21	-1.35
11	-0.59	22	-0.98

和 22.72" = [±ε]

$$\text{平均誤差 } t = \frac{22.72''}{22} = \pm 1.03''$$

此例ハ三角形ノ内角ノ和ヲ一觀測値ト考ヘ其ノ平均誤差ヲ求メテ ±1.03" ヲ得タリ故ニ此誤差ハ三角形ノ平均誤差ニシテ内角ノ平均誤差ニアラス

無數ノ誤差ニ基キテ算出スル平均誤差ハ精密度ヲ表スモノナレドモ誤差ノ數有限ナル以上ハ單ニ平均誤差ヲ求メ得ルノミニシテ精密度ヲ知ルヲ得ズ。又眞誤差ヲ知ルコトハ稀レナリ然レドモ多數ノ觀測値ノ算術的平均値ト各觀測値トヲ比較スレバ容易ニ殘差ヲ知ルヲ得ベシ即チ l_1, l_2, \dots, l_n ヲ n 個ノ觀測値トスレバ其算術的平均値ハ

$$x = \frac{l_1 + l_2 + \dots + l_n}{n} = \frac{[l]}{n} \dots \dots \dots (2)$$

$$\text{依テ殘差ハ } v_1 = x - l_1 \quad v_2 = x - l_2 \quad \dots \quad v_n = x - l_n \dots \dots \dots (3)$$

$$(3) \text{ 式ヨリ } v_1 + v_2 + \dots + v_n = nx - (l_1 + l_2 + \dots + l_n)$$

$$(2) \text{ 式ヨリ } [v] = nx - [l] = 0$$

$$\text{故ニ } [v] = 0 \dots \dots \dots (4)$$

即チ殘差ノ代數的總和ハ零ナリ此式ハ檢算ニ使用セラレ殘差 v ヲ近似的ニ眞誤差 ϵ ト同様ニ取扱ヒ平均誤差ノ計算式ニ於テ ϵ ノ代リニ v ヲ用フルコトアリ即チ

$$t = \frac{[\pm v]}{n}$$

〔實例〕 或ル角ヲ測定シテ次ノ結果ヲ得タリトス

觀測値 (l)	殘差 (v)	檢算
35° 26' 16"	+2.8"	
" " 10"	-1.2"	
" " 18"	+0.8"	[+v] = +7.4
" " 25"	-6.2"	[-v] = -7.4
" " 15"	+3.5"	[v] = 0
和 94"	14.8"	

平均 $x = 35^\circ 26' 18.8''$

$$t = \frac{14.8}{5} = 2.96''$$

之レ測量ノ平均誤差ナリ

各觀測値ノ精密度ト算術的平均値ノ精密度トノ關係ヲ知ルコト必要ニシテ之レニハ中數誤差或ハ現ハレ易キ誤差ニ依ラザルベカラズ。

第三節 中數誤差

n 個ノ眞誤差 $\epsilon_1, \epsilon_2, \dots, \epsilon_n$ ヲ知ラバ次式ニ依テ誤差ノ中庸ナル値ヲ作ルヲ得可シ

$$m = \pm \sqrt{\frac{\epsilon_1^2 + \epsilon_2^2 + \dots + \epsilon_n^2}{n}} = \pm \sqrt{\frac{[\epsilon^2]}{n}} \dots \dots \dots (1)$$

之レヲ中數誤差ト云フ。

一般ニ中數誤差ハ平均誤差ヨリモ大ニシテ特ニ總テノ誤差ガ等シキトキニハ兩者ハ互ニ相等シ.

誤差二個ナル場合ニ就キテ之ヲ證明セン

平均誤差 中數誤差

$$t = \frac{\epsilon_1 + \epsilon_2}{2} \qquad m = \sqrt{\frac{\epsilon_1^2 + \epsilon_2^2}{2}}$$

$$t^2 = \frac{\epsilon_1^2 + \epsilon_2^2 + 2\epsilon_1\epsilon_2}{4} \qquad m^2 = \frac{\epsilon_1^2 + \epsilon_2^2}{2} = \frac{2\epsilon_1^2 + 2\epsilon_2^2}{4}$$

$$m^2 - t^2 = \frac{\epsilon_1^2 + \epsilon_2^2 - 2\epsilon_1\epsilon_2}{4} = \frac{(\epsilon_1 - \epsilon_2)^2}{4} \dots\dots\dots(2)$$

($\epsilon_1 - \epsilon_2$)² ハ常ニ正符ナルヲ以テ $m^2 > t^2$ 依テ $m > t$ ナリ

又 $\epsilon_1 = \epsilon_2$ ナルトキハ $m^2 - t^2 = 0$ $m^2 = t^2$ $m = t$ ナリ

此ノ證明ハ一般的ニ擴ムルヲ得ベシ

今次ノ如キニツノ眞誤差群アリトス.

		和	自乗和
I	5, 6, 2, 7, 3, 8, 10, 9, 3, 5	58	402
II	14, 3, 0, 0, 6, 20, 2, 2, 1, 10	58	750

此ノ兩場合ニ於テ平均誤差ハ共ニ $\frac{58}{10} = 5.8$ ナレドモ中數誤差ハ等シカラズ即チ

$$m_I = \sqrt{\frac{402}{10}} = \pm 6.34, \qquad m_{II} = \sqrt{\frac{750}{10}} = \pm 8.66$$

依テ I 群ノ誤差ヲ有スル測量ハ II 群ノ誤差ヲ有スル測量ヨリモ精密ナルヲ知ル

I 群ノ誤差ノ限界ハ 10 ニシテ II 群ノ誤差ノ限界ハ 20 ナリ而シテ II 群ニ於テハ誤差ノ零ナルコト二回アレドモ其限界大ナルガ爲メニ中數誤差大ナリ

次ニ前節ノ例ノ殘差ヲ眞誤差同様ニ取扱フトキハ

觀 測 値	v	v ²
35° 26' 16"	+2.8"	7.84
" " 20"	-1.2"	1.44
" " 18"	+0.8"	0.64
" " 25"	-6.2"	38.44
" " 15"	+3.8"	14.44
和 94"	[v]=0.0"	[v ²]=62.80

平均 $x = 35^\circ 26' 18.8''$

$$m = \sqrt{\frac{62.80}{5}} = \pm 3.54'' (?) \dots\dots\dots(3)$$

然レドモ殘差ノ場合ニハ $m = \sqrt{\frac{[vv]}{n-1}}$ 式(本章第十節(10)式)ヲ用ヒザルベカラズ

第四節 現ハレ易キ誤差

現ハレ易キ誤差トハ一群ノ誤差ノ中ニテ其レヨリ大ナル誤差ノ數ガ其レヨリ小ナル誤差ノ數ト同數ナル如キ値ヲ有スル誤差ナリ

故ニ現ハレ易キ誤差ハ「ぶろばびりち」積分ニ於テ $P = \frac{1}{2}$ ノトキノ x ノ値ナリ. 即チ次式ヨリ出テタル x ノ値ナリ

$$\frac{1}{2} = \frac{2}{\sqrt{\pi}} \int_0^{hx} e^{-h^2x^2} d \cdot hx$$

故ニ第二章第一表ニ依テ $P = 0.5$ ナルトキハ

$$hx = 0.4769$$

故ニ x ノ此値ヲ x トスレバ $hx = 0.4769$ ナル式ハ精密度 (h) 及現ハレ易キ誤差 (r) ノ間ノ關係ヲ示スモノナリ而シテ此式ニ依ルトキハ h ハ r ニ反比スルモノナリ

【参考】

$$P_{-x}^{+x} = \frac{2}{\sqrt{\pi}} \int_0^{xh} e^{-t^2} dt \dots\dots\dots (1)$$

一般に $e^x = 1 + \frac{x}{1!} + \frac{x^2}{2!} + \frac{x^3}{3!} + \dots\dots\dots$ ナル故に

$$e^{-t^2} = 1 - \frac{t^2}{1!} + \frac{t^4}{2!} - \frac{t^6}{3!} + \frac{t^8}{4!} - \dots\dots\dots$$

$$\int_0^{xh} e^{-t^2} dt = t - \frac{t^3}{3 \cdot 1!} + \frac{t^5}{5 \cdot 2!} - \frac{t^7}{7 \cdot 3!} + \frac{t^9}{9 \cdot 4!} - \dots\dots\dots$$

故に

$$\int_0^{xh} e^{-t^2} dt = xh - \frac{(xh)^3}{3 \cdot 1!} + \frac{(xh)^5}{5 \cdot 2!} - \frac{(xh)^7}{7 \cdot 3!} + \frac{(xh)^9}{9 \cdot 4!} - \dots\dots\dots (2)$$

(1) 及 (2) 式より誤差が $-x$ より $+x$ の間 = 在ル「ぶろびりち」へ

$$P_{-x}^{+x} = \frac{2}{\sqrt{\pi}} \left(xh - \frac{(xh)^3}{3 \cdot 1!} + \frac{(xh)^5}{5 \cdot 2!} - \frac{(xh)^7}{7 \cdot 3!} + \frac{(xh)^9}{9 \cdot 4!} - \dots \right) \dots\dots\dots (3)$$

$xh = 0.1$ トスレバ

$$P_{-x}^{+x} = 1.12838(0.100000 - 0.003333 + 0.000001) = 0.112463$$

(3) 式は依り P_{-x}^{+x} の値ハ第二章第一表ノ如シ。

【参考】

現ハレ易キ誤差 r が $0-x$ の間 = 在ルトキノ P ナ 0.5 トスレバ $x-\infty$ の間 = 在ルトキノ P モ亦 0.5 ナルベシ此場合ノ x ノ値ヲ r トス

$$P_{-r}^{+r} = \frac{1}{2} = P_{-r}^{+r} \quad r \text{ハ (3) 式ニ依リ定ムルヲ得ル (3) 式ニ於テ } x \text{ ナ } r \text{ トスレバ}$$

$$P_{-r}^{+r} = \frac{1}{2} = \frac{2}{\sqrt{\pi}} \left(rh - \frac{(rh)^3}{3 \cdot 1!} + \frac{(rh)^5}{5 \cdot 2!} - \frac{(rh)^7}{7 \cdot 3!} + \frac{(rh)^9}{9 \cdot 4!} - \dots \right) \dots\dots\dots (4)$$

今 $rh = \rho$ トスレバ

$$\rho - \frac{\rho^3}{3} + \frac{\rho^5}{10} - \frac{\rho^7}{42} + \frac{\rho^9}{216} - \dots = \frac{\sqrt{\pi}}{4} = 0.443113$$

今 ρ ナ見出ス爲メ ρ ノ第一近似値ヲ p トスレバ

$$\rho = \frac{\sqrt{\pi}}{4} = 0.443113 \dots\dots = p \quad \text{故に } \rho^3 = p^3$$

第二近似値 $\rho = p + \frac{p^3}{3}$

$$\text{故に } \rho^3 = p^3 + 3p^2 \frac{p^3}{3} + \dots\dots\dots$$

$$= p^3 + p^5$$

及 $\rho^5 = p^5 + \dots\dots\dots$

$$\rho - \left(\frac{p^3}{3} + \frac{p^5}{5} \right) + \frac{p^5}{10} = p$$

$$\text{故に } \rho = p + \frac{p^3}{3} + \frac{7}{30} p^5 + \dots\dots\dots$$

斯ノ進ムトキハ

$$\rho = p + \frac{p^3}{3} + \frac{7}{30} p^5 + \frac{127}{630} p^7 + \dots\dots\dots$$

$$= 0.4431 + 0.0290 + 0.0040 + 0.0007 + \dots\dots\dots$$

$$\div 0.4768$$

「がうす」氏ニ依レバ

$$rh = \rho = 0.4769303 \quad \log \rho = 9.6784064$$

而シテ $h=1$ トスレバ $r = \rho$ ナリ故に ρ ハ精密度ガ1ナルトキノ現ハレ易キ誤差ナリ。

(3) 式ニ於テ h ノ代リ $\frac{r}{\rho}$ ナ入ル時ハ

$$P_0^x = P_{-x}^{+x} = \frac{2}{\sqrt{\pi}} \left(\frac{x}{r} \rho - \frac{1}{3 \cdot 1!} \left(\frac{x}{r} \rho \right)^3 + \frac{1}{5 \cdot 2!} \left(\frac{x}{r} \rho \right)^5 - \frac{1}{7 \cdot 3!} \left(\frac{x}{r} \rho \right)^7 + \frac{1}{9 \cdot 4!} \left(\frac{x}{r} \rho \right)^9 - \dots \right) \dots\dots\dots (5)$$

$$\frac{x}{r} = n \text{ トスレバ}$$

$$P_0^x = P_0^{nr} = \frac{2}{\sqrt{\pi}} \left(nr - \frac{(nr)^3}{3 \cdot 1!} + \frac{(nr)^5}{5 \cdot 2!} - \frac{(nr)^7}{7 \cdot 3!} + \frac{(nr)^9}{9 \cdot 4!} - \frac{(nr)^{11}}{11 \cdot 5!} + \dots \right) \dots\dots\dots (6)$$

$$= 0.5381650n - 0.0108051n^3 + 0.0027846n^5 - 0.0001508n^7 + 0.0000067n^9 - 0.0000002n^{11} + \dots\dots\dots (7)$$

此式ヲ檢定スルニハ $n=1$ トスルニアリ之レ $P=0.5$ ノ時ナリ此式ヲ計算スルニハ對數ニ依ルヲ便トス。

$$[9.7309154]n - [8.6107149]n^3 + [7.4447570]n^5 - [6.178428]n^7 + [4.82414]n^9 - [3.3949]n^{11} + \dots\dots\dots (8)$$

此値ハ第二表ニ在リ

精密度 (h) 及現ハレ易キ誤差 (r) ノ意義ヲ尙明白ニナス爲メニ精密度ノ等シカラザル二組ノ測量ノ場合ヲ考ヘヨ。而シテ

$$\left. \begin{array}{l} h_1 = \text{第一測量ノ精密度} \\ h_2 = \text{第二測量ノ精密度} \end{array} \right\} \text{トスルトキハ}$$

第二章第七節 (3) 式ヨリ第一組ノ誤差ノ「ぶろばびりち」ハ

$$y = h_1 dx \pi^{-\frac{1}{2}} e^{-h_1^2 x^2} \text{ ナル曲線式ニテ示サル}$$

又第二組ノ誤差ノ「ぶろばびりち」ハ

$$y = h_2 dx \pi^{-\frac{1}{2}} e^{-h_2^2 x^2} \text{ ナル曲線式ニテ示サル}$$

式中 dx ハ二個ノ相連続スル誤差ノ間ノ定差ナリ

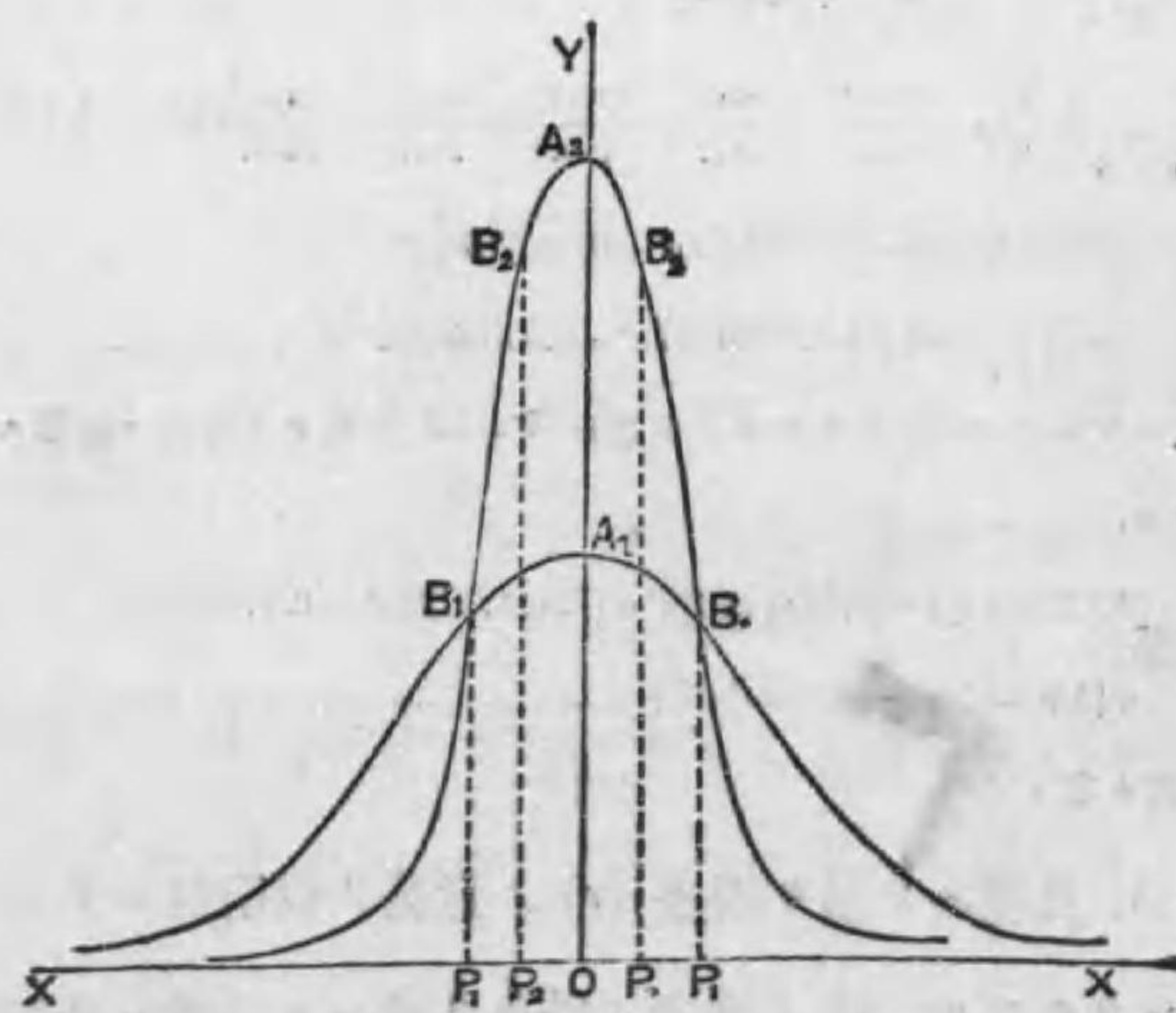
今第二組ハ第一組ヨリ二倍精密ナリト假定シ

$$\left. \begin{array}{l} h_1 = h \\ h_2 = 2h \end{array} \right\} \text{トスルトキハ兩曲線式ハ次ノ如シ}$$

$$\left. \begin{array}{l} y = a h e^{-h^2 x^2} \\ y = 2 a h e^{-4 h^2 x^2} \end{array} \right\} \text{式中 } a \text{ ハ定數}$$

此兩式ニ相當スル曲線ハ第七圖ニテ示サル

第 七 圖



$XB_1A_1B_1X$ ナル曲線ハ精密度ガ $h_1=h$ ナル測量ノ曲線ニシテ

$XB_2A_2B_2X$ ナル曲線ハ精密度ガ $h_2=2h$ ナル測量ノ曲線ナリ

此曲線ハ二組ニ於ケル相當誤差ノ「ぶろばびりち」ヲ示ス此ノ如ク誤差(零)ノ「ぶろばびりち」ハ第二組ニ於テハ第一組ノ二倍ナリ

誤差 (OP_1) ノ「ぶろばびりち」ハ兩組共ニ等シ

而シテ (OP_1) ヨリモ大ナル誤差ノ「ぶろばびりち」ハ第二組ハ第一組ヨリモ小ナリ

今 $P_1B_1A_1B_1P_1$ ナル面積ガ相當曲線ノ總面積ノ二分ノ一ニナル如ク P_1B_1 ナル線ヲ引クトキハ OP_1 ハ第一組ノ測量ノ現ハレ易キ誤差ナリ

又 $P_2B_2A_2B_2P_2$ ナル面積ガ相當曲線ノ總面積ノ二分ノ一ニナル如ク P_2B_2 ナル線ヲ引クトキハ OP_2 ハ第二組ノ測量ノ現ハレ易キ誤差ナリ

今此現ハレ易キ誤差ヲ r_1 及 r_2 トスレバ

$$\left. \begin{array}{l} h_1 r_1 = 0.4769 \\ h_2 r_2 = 0.4769 \end{array} \right\} \text{故ニ } h_1 r_1 = h_2 r_2$$

而シテ假定ニ依リ $h_2=2h_1$ ナル故ニ

$$r_1 = 2r_2 \quad \text{故ニ} \quad \frac{r_1}{2} = r_2 \quad \text{即チ}$$

r_2 ハ r_1 ノ二分ノ一ナリ

故ニ現ハレ易キ誤差ハ測量ノ精密度ヲ比較スルニ用ヒラレ之レノ小ナル程測量ノ精密ナリ

例ヘバ二組ノ距離測量アリテ其結果ハ次ノ如シ

$$L_1 = 427.32 \pm 0.04 \text{ 及 } L_2 = 427.30 \pm 0.16$$

而シテ此 0.04 及 0.16 ヲ現ハレ易キ誤差トス此意味ハ即チ第一組

ノ結果ハ眞値ヨリ 0.04米以内ニ在リ第二組ノ結果ハ眞値ヨリ 0.16米以内ニ在ルコトナリ

故ニ第一組ノ精密度ハ第二組ノ精密度ノ 4 倍ナリ

此ノ如ク現ハレ易キ誤差ハ精密度ノ比較ニ用ヒラレ又測量ノ結果ノ確定不確定ヲ知ラシムルモノナリ

既ニ第三章第二節ニ於テ精密度 (h) ノ自乗ハ重み (p) ニ正比スルコトヲ述ベタリ

又本節ニ於テ精密度ハ現ハレ易キ誤差ニ反比スルコトヲ知ル

故ニ觀測ノ重みハ其現ハレ易キ誤差ノ自乗ニ反比ス

即チ p1:p2:p = 1/r1^2 : 1/r2^2 : 1/p^2(9)

而シテ精密度 h ハ唯理論上ニ於テ用ヒラルルノミナレドモ重み及現ハレ易キ誤差ハ最小自乘法ノ應用上ニ於テ常ニ用ヒラル

前述ノ關係ニ依テ精密度ノ等シカラザル觀測値ノ重みハ其現ハレ易キ誤差ヨリ見出し得ルモノニシテ測量ノ修正ニ用ヒラル

例ヘバ二組ノ測量ノ結果ガ

L1 = 427.*32 ± 0.04
L2 = 427.*30 ± 0.16
ナルトキハ

427.32 ノ重みハ 427.30 ノ重みヨリ 16 倍大ナルコトヲ知ル

[参考] p1:p2 = 1/r1^2 : 1/r2^2 = 1/4^2 : 1/16^2 = 1/16 : 1/256

故ニ p1/p2 = (1/16) / (1/256) = 16

零ヨリ x/r 間ニ在ル或誤差ノ現ハルルぶろばびりちヲ示ス表

(第二表)

Table with columns for x/r (0.0 to 5.0) and rows for error values (0.0000 to 0.9993). The table lists the probability of an error occurring within a certain range.

零ヨリ $\frac{x}{m}$ ノ間ニ在ル或誤差ノ現ハルル「ぶろばびりち」ヲ示ス表

(第 三 表)

$\frac{x}{m}$.00	.01	.02	.03	.04	.05	.06	.07	.08	.09	差
0.0	0.0000	0.0080	0.0159	0.0239	0.0319	0.0399	0.0478	0.0558	0.0637	0.0717	80
0.1	0797	0876	0955	1034	1113	1192	1271	1350	1428	1507	78
0.2	1585	1663	1741	1819	1897	1974	2051	2128	2205	2282	76
0.3	2358	2434	2510	2586	2661	2737	2812	2886	2960	3035	73
0.4	3108	3182	3255	3328	3401	3473	3545	3616	3688	3759	70
0.5	0.3829	0.3900	0.3969	0.4039	0.4108	0.4177	0.4245	0.4313	0.4381	0.4448	67
0.6	4515	4581	4647	4713	4778	4843	4908	4971	5035	5098	63
0.7	5161	5223	5285	5346	5407	5467	5527	5587	5746	5705	58
0.8	5763	5821	5878	5935	5991	6047	6090	6151	6211	6265	54
0.9	6319	6372	6424	6476	6528	6579	6629	6680	6729	6778	49
1.0	0.6827	0.6875	0.6923	0.6970	0.7016	0.7063	0.7109	0.7154	0.7198	0.7243	44
1.1	7287	7330	7373	7415	7457	7498	7539	7580	7620	7660	39
1.2	7699	7737	7775	7813	7850	7887	7923	7959	7994	8030	34
1.3	8064	8098	8132	8165	8197	8229	8262	8293	8324	8355	30
1.4	8385	8415	8444	8473	8501	8529	8557	8584	8611	8638	26
1.5	0.8664	0.8689	0.8715	0.8740	0.8764	0.8789	0.8812	0.8836	0.8859	0.8882	22
1.6	8904	8926	8948	8969	8990	9011	9031	9051	9070	9090	19
1.7	9109	9127	9146	9164	9181	9199	9216	9233	9249	9266	15
1.8	9281	9297	9312	9328	9342	9357	9371	9385	9399	9412	14
1.9	9426	9439	9451	9464	9476	9488	9500	9518	9533	9534	11
2.0	0.9545	0.9556	0.9566	0.9576	0.9586	0.9596	0.9606	0.9616	0.9625	0.9634	9
2.1	9643	9651	9660	9668	9676	9684	9692	9700	9707	9715	7
2.2	9722	9729	9736	9742	9749	9756	9762	9768	9774	9780	5
2.3	9785	9791	9797	9802	9807	9812	9817	9822	9827	9832	4
2.4	9836	9840	9845	9849	9853	9857	9861	9865	9869	9872	4
2.5	0.9376	0.9379	0.9383	0.9386	0.9389	0.9392	0.9395	0.9398	0.9401	0.9404	3
2.6	9907	9909	9912	9915	9917	9920	9922	9924	9926	9928	3
2.7	9931	9933	9935	9937	9939	9940	9942	9944	9946	9947	2
2.8	9949	9950	9952	9953	9955	9956	9958	9959	9960	9961	2
2.9	9963	9964	9965	9966	9967	9968	9969	9970	9971	9972	1
$\frac{x}{m} =$	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	
P =	0.9973	0.9981	0.9986	0.9990	0.9993	0.9995	0.9997	0.9998	0.9999	0.9999	
$\frac{x}{m} =$	4.0	4.1								$\frac{x}{m} = \infty$	
P =	0.9999	1.0000								P = 1	

第五節 測量ノ精密度ト平均誤差ノ關係

x ナル誤差ノ現ハルル「ぶろばびりち」 y ハ第二章第六節ニ依リ

$$y_x = \frac{h}{\sqrt{\pi}} e^{-h^2 x^2} dx$$

n 觀測ニ於テ x ノ現ハルル數ハ ny_x ニシテ總テノ誤差ノ和ハ

$$ny_x x = nx \frac{h}{\sqrt{\pi}} e^{-h^2 x^2} dx$$

此式ヲ一般ニ現ハルル誤差ニ適用シ總テノ和ヲ作レバ

$$[x] = \int nx \frac{h}{\sqrt{\pi}} e^{-h^2 x^2} dx$$

$$[\pm x] = 2n \frac{h}{\sqrt{\pi}} \int_0^{\infty} x e^{-h^2 x^2} dx$$

平均誤差

$$(t) = \frac{[\pm x]}{n} = 2 \frac{h}{\sqrt{\pi}} \int_0^{\infty} x e^{-h^2 x^2} dx$$

今

$$hx = t \quad x = \frac{t}{h} \quad dx = \frac{dt}{h} \quad \text{トスレバ}$$

$$t = \frac{2h}{\sqrt{\pi}} \int_0^{\infty} t e^{-t^2} dt$$

而シテ $\int_0^{\infty} t e^{-t^2} dt = +\frac{1}{2}$ ナル故ニ平均誤差 $(t) = \frac{1}{h\sqrt{\pi}}$

第六節 測量ノ精密度ト中數誤差ノ關係

精密度ヲ h トシ誤差ヲ x_1, x_2, x_3, \dots トスレバ其現ハルル「ぶろばびりち」ハ第二章第六節ニ依リ

$$y_1 = \frac{h}{\sqrt{\pi}} e^{-h^2 x_1^2} \quad y_2 = \frac{h}{\sqrt{\pi}} e^{-h^2 x_2^2} \quad y_3 = \frac{h}{\sqrt{\pi}} e^{-h^2 x_3^2} \dots$$

而シテ x_1, x_2, x_3, \dots 等ノ誤差ガ同時ニ現ハルル「ぶろばびりち」

ハ次ノ如シ

$$P = \left(\frac{h}{\sqrt{\pi}}\right)^n e^{-h^2x_1^2 - h^2x_2^2 - h^2x_3^2 - \dots}$$

$$= \left(\frac{h}{\sqrt{\pi}}\right)^n e^{-h^2[x^2]}$$

最大ノ「ぶろばひりち」ヲ以テ此誤差ノ組ヲ生ズル測量ハ此式ヲ最大ニナス所ノ h ヲ有スルモノト假定ス。

$$\frac{dP}{dh} = \frac{d\left(\frac{h}{\sqrt{\pi}}\right)^n e^{-h^2[x^2]}}{dh} = 0$$

今定數 $\left(\frac{1}{\sqrt{\pi}}\right)^n$ ヲ除キ微分スルトキハ

$$\frac{d(h^n e^{-h^2[x^2]})}{dh} = n h^{n-1} e^{-h^2[x^2]} + h^n e^{-h^2[x^2]} (-2h[x^2])$$

$$= h^{n-1} e^{-h^2[x^2]} (n - 2h^2[x^2]) = 0$$

之レガ零トナルニハ $n - 2h^2[x^2] = 0$ ナラザル可カラズ

$$\text{即チ } \frac{[x^2]}{n} = \frac{1}{2h^2} \quad \text{或ハ} \quad h = \sqrt{\frac{n}{2[x^2]}}$$

$$\frac{[x^2]}{n} = m^2 = \frac{1}{2h^2}$$

$$m = \frac{1}{h\sqrt{2}} \quad h = \frac{1}{m\sqrt{2}}$$

$$\text{故ニ} \quad y_x = \frac{1}{m\sqrt{2\pi}} e^{-\frac{x^2}{2m^2}}$$

故ニ x ナル誤差ノ現ハルル「ぶろばひりち」ハ

$$y_x = \frac{1}{m\sqrt{2\pi}} e^{-\frac{x^2}{2m^2}} dx$$

今 m ヲ誤差ノ單位トナシテ

$$\frac{x}{m} = x' \quad \text{及} \quad \frac{dx}{m} = dx' \quad \text{トスレバ}$$

$$y_x = y_{mx} = \frac{1}{\sqrt{2\pi}} e^{-\frac{x'^2}{2}} dx'$$

$$y_{x'} = \frac{1}{\sqrt{2\pi}} e^{-\frac{x'^2}{2}}$$

【参考】

$$ny_{x'} = nx' \frac{h}{\sqrt{\pi}} e^{-h^2x'^2} dx \quad \text{ナル式ハ}$$

總テノ誤差ノ二乗ノ和ニシテ總テノ現ハルル誤差ニ此式ヲ適用スレバ

$$[xx] = n \int_{-\infty}^{+\infty} x' \frac{h}{\sqrt{\pi}} e^{-h^2x'^2} dx$$

故ニ中數誤差ハ

$$m^2 = \frac{[xx]}{n} = \int_{-\infty}^{+\infty} x'^2 \frac{h}{\sqrt{\pi}} e^{-h^2x'^2} dx$$

從テ

$$\left. \begin{aligned} hx = t \\ dx = \frac{dt}{h} \end{aligned} \right\} \text{トスレバ}$$

$$m^2 = \frac{1}{h^2 \sqrt{\pi}} \int_{-\infty}^{+\infty} t^2 e^{-t^2} dt$$

而シテ第二章第七節ニ於テ

$$\int_0^{\infty} e^{-t^2} dt = \frac{\sqrt{\pi}}{2} \quad \text{ナルコトヲ知ル}$$

$$t = t\sqrt{s} \quad \text{トスレバ}$$

$$\int_0^{\infty} e^{-t^2 s} dt = \frac{\sqrt{\pi}}{2\sqrt{s}}$$

是ヲ常數ト考ヘ s ニ關シテ此式ヲ微分スルトキハ

$$-\int_0^{\infty} e^{-t^2 s} ds dt = -\frac{\sqrt{\pi} ds}{4\sqrt{s^3}}$$

之レヲ $-ds$ ニテ除シ $s=1$ トスレバ

$$\int_0^{\infty} e^{-t^2} t^2 dt = \frac{\sqrt{\pi}}{4}$$

故ニ

$$\int_{-\infty}^{+\infty} e^{-t^2} t^2 dt = \frac{\sqrt{\pi}}{2}$$

故 = $m^2 = \frac{1}{h^2 \sqrt{\pi}} \times \frac{\sqrt{\pi}}{2} = \frac{1}{2h^2}$

$m = \frac{1}{h\sqrt{2}}$ 或ハ $h = \frac{1}{m\sqrt{2}}$

$\int_{-\infty}^{+\infty} t^2 e^{-t^2} dt$ ナ求ムル別法: 先ヅ $\int_0^{\infty} t^2 e^{-t^2} dt$ ナ求ム

今 $u = -\frac{t}{2}$ トシ $v = e^{-t^2}$ トスルトキハ

$du = -\frac{dt}{2}$ $dv = -2te^{-t^2} dt$

部分積分式即 $\int u dv = uv - \int v du =$ 依リ

$\int_0^{\infty} t^2 e^{-t^2} dt = \left[-\frac{t}{2} e^{-t^2} \right]_0^{\infty} + \frac{1}{2} \int_0^{\infty} e^{-t^2} dt \dots\dots\dots(A)$

然ルニ $e^{-t^2} = \frac{1}{e^{t^2}} = \frac{1}{1 + \frac{t^2}{1} + \frac{t^4}{2} + \frac{t^6}{3} + \dots}$

故ニ $te^{-t^2} = \frac{t}{1 + \frac{t^2}{1} + \frac{t^4}{2} + \frac{t^6}{3} + \dots} = \frac{1}{\frac{1}{t} + 1 + \frac{t^2}{2} + \frac{t^4}{3} + \dots}$

上式ニ於テ $t=0$ ナレバ

右邊ハ $\frac{1}{\frac{1}{0} + 0 + 0 + \dots} = \frac{1}{\infty} = 0$

又 $t=\infty$ ナレバ

右邊ハ $\frac{1}{0 + \infty + \infty + \dots} = 0$

(A) 式ノ第一項ハ $t=0$ ト $t=\infty$ トテ消失シ (A) 式ハ次ノ如クナル

$\int_0^{\infty} t^2 e^{-t^2} dt = \frac{1}{2} \int_0^{\infty} e^{-t^2} dt$

然ルニ第二章第七節ニ依リ $\int_0^{\infty} e^{-t^2} dt = \frac{\sqrt{\pi}}{2}$ ナリ

故ニ $\int_0^{\infty} t^2 e^{-t^2} dt = \frac{\sqrt{\pi}}{4}$

故ニ $\int_{-\infty}^{+\infty} t^2 e^{-t^2} dt = \frac{\sqrt{\pi}}{2}$

第七節 平均誤差中數誤差及現ハレ易キ誤差ノ關係

平均誤差 (l), 中數誤差 (m) 及現ハレ易キ誤差 (r) ノ關係ヲ示セバ次ノ如シ.

$l = \frac{[\pm \epsilon]}{n}$ $m = \sqrt{\frac{[\epsilon^2]}{n}}$

$\rho = 0.4769363$

$r = \rho \sqrt{2} m = 0.6844898 m$

$r = \rho \sqrt{\pi} l = 0.8453576 l$

$m = \frac{1}{\rho \sqrt{2}} r = 1.4826021 r$

$m = \sqrt{\frac{\pi}{2}} l = 1.2533141 l$

$l = \sqrt{\frac{2}{\pi}} m = 0.7978846 m$

$l = \frac{1}{\rho \sqrt{\pi}} r = 1.1829372 r$

第八節 誤差移行ノ法則

本節ニ於テハ測定セラレタル未知數ノ中數誤差ガ之レヨリ導カレタル未知數ノ上ニ如何ニ移行スルカラ乘法加法等ノ場合ニ就テ論ゼン

其一. 倍數ノ場合

觀測値 l = 或ル定數 a ガ乗ゼラルトキ即チ

$x = al \dots\dots\dots(1)$

定数 a の誤差ナキモノ、観測値 l の中數誤差 m を有スルモノトスルトキ其ノ積 x の中數誤差 mx の次式ノ如シ

mx = am (2)

【参考】

Δ'Δ''Δ'''.....Δ(n) ナ l₁ ノ誤差トシ之レヨリ x ノ中數誤差ヲ計算スレバ次ノ如シ

a(l + Δ') - al = aΔ'

a(l + Δ'') - al = aΔ''

.....

a(l + Δ(n)) - al = aΔ(n)

誤差ノ自乗ノ和 (aΔ')² + (aΔ'')² + + (aΔ(n))² = a²(Δ'² + Δ''² + + Δ(n)²) = a²[ΔΔ]

故 = 中數誤差 m_x = √(a²[ΔΔ]/n) = a√([ΔΔ]/n)

而シテ √([ΔΔ]/n) ハ l ノ中數誤差 m ナルヲ以テ

m_x = am

例へバ l = 35° 16' 25'' m = ± 8'' x = 3 × (35° 16' 25'') m_x = am = ± 3 × 8'' = ± 24''

同理 = テ r_x = ar

其二. 加減ノ場合

x を獨立ニ測定シタル觀測値 l₁ 及 l₂ ノ和トスレバ

x = l₁ + l₂ (3)

l₁ 及 l₂ ガ夫々中數誤差 ±m₁ 及 ±m₂ を有スルモノトスレバ其ノ和 x ノ中數誤差ハ次式ノ如シ

m_x = √(m₁² + m₂²)

【参考】

x ノ中數誤差ハ m_x = m₁ + m₂ (3a) ノ如ク思ハルレトモ之レハ只誤差 m₁ 及 m₂

ノ累積セル特別ノ場合 = 外ナラズ然ルニ符號 = 正負アルガ故 = m₁ - m₂ ノ場合アルコトモ考ヘザルベカラズ故 = (3a) 式ノ如キ簡單ナルモノニ非ズ今 l₁ + l₂ = x ガ n 回ノ繰返サレタルモノトシ x ノ誤差ヲ Δ'Δ''Δ''' 等トシ之レニ相當スル l₁ 及 l₂ ノ誤差ヲ Δ'₁Δ'₂, Δ''₁Δ''₂, Δ'''₁Δ'''₂ 等トスレバ

Δ' = Δ'₁' + Δ'₂'

Δ'' = Δ''₁' + Δ''₂'

.....

Δ(n) = Δ₁(n) + Δ₂(n)

之レヲ自乗スルトキハ

(Δ')² = (Δ'₁')² + (Δ'₂')² + 2Δ'₁'Δ'₂'

(Δ'')² = (Δ''₁')² + (Δ''₂')² + 2Δ''₁'Δ''₂'

.....

(Δ(n))² = (Δ₁(n))² + (Δ₂(n))² + 2Δ₁(n)Δ₂(n)

自乗ノ和ハ

[ΔΔ] = [Δ₁Δ₁] + [Δ₂Δ₂] + 2[Δ₁Δ₂]

自乗ノ平均ハ

[ΔΔ]/n = [Δ₁Δ₁]/n + [Δ₂Δ₂]/n + 2[Δ₁Δ₂]/n (4)

[ΔΔ]/n = m_x² ハ x ノ中數誤差ノ二乗

[Δ₁Δ₁]/n = m₁² ハ l₁ ノ中數誤差ノ二乗

[Δ₂Δ₂]/n = m₂² ハ l₂ ノ中數誤差ノ二乗

[Δ₁Δ₂]/n ハ誤差相乗積ノ平均値 = レテ (+)(-) ノ符號ノモノガ同様

= 現レ得ル故 = 零トナル

故 = m_x² = m₁² + m₂²

即チ m_x = √(m₁² + m₂²) (6)

同理 = テ r_x = √(r₁² + r₂²)

故 = 二個ノ無關係ニ測量シタル觀測値ノ和或ハ差ノ中數誤差ハ各觀測値ノ中數誤差ノ二乗ノ和ノ平方根 = 等シ而シテ m₂ ガ m₁ = 比シテ小ナルトキハ m_x = 影響スルコト少ナシ 例へバ

m₁ = 10 m₂ = 1 ナルトキハ m = 10.5

然ルニ $m_1 + m_2 = 11.00$ ナリ. 故ニ小誤差ハ殆ンド影響セズト云フ
經驗上ノ事實ト一致ス.

以上ハ二個ノ數ニ付テ述ベシモ二個以上ノ數ニ於テモ亦同ジ

l_1, l_2, l_3, \dots ヲ觀測値

m_1, m_2, m_3, \dots ヲ夫々其中數誤差トスレバ

先ヅ $l_1 + l_2$ ヲ一ツト見做シテ (6) 式ニ依リ

$x = (l_1 + l_2) + l_3 + \dots$ ノ中數誤差ヲ算出シ順次ニ此法ヲ

反覆應用スルトキハ

$$m_x = \sqrt{m_1^2 + m_2^2 + m_3^2 + \dots} = \sqrt{[mm]} \dots \dots \dots (7)$$

同理ニテ $r_x = \sqrt{r_1^2 + r_2^2 + r_3^2 + \dots} = \sqrt{[rr]}$

[實例一]

$l_1 = 129^\circ 24' 30''$	$m_1 = \pm 5''$	} ナルトキハ
$l_2 = 39^\circ 58' 20''$	$m_2 = \pm 10''$	
$l_3 = 74^\circ 45' 25''$	$m_3 = \pm 8''$	

$$x = l_1 + l_2 - l_3 = 94^\circ 37' 25''$$

$$m_x = \sqrt{5^2 + 10^2 + 8^2} = \pm 14''$$

又 m_1, m_2, m_3 ガ m 等シクシテ其數ガ n ナルトキハ

$$m_x = \sqrt{n \cdot m^2} = m\sqrt{n} \dots \dots \dots (8)$$

同理ニテ

$$r_x = \sqrt{nr^2} = r\sqrt{n}$$

[實例二]

三角形ニ於テ兩内角ヲ等レキ精密度ヲ以テ測定シ

$l_1 = 64^\circ 16' 38''$	$m_1 = \pm 6.5''$	} ナルトキハ
$l_2 = 76^\circ 39' 35''$	$m_2 = \pm 6.5''$	

$$x = \pi - (l_1 + l_2) = 180 - (64^\circ 16' 38'' + 76^\circ 39' 35'') = 39^\circ 03' 47''$$

$$m_x = \pm m\sqrt{n} = \pm 6.5\sqrt{2} = \pm 9.2''$$

此(2)及(8)式ノ簡單ナル應用ハ間尺ヲ以テ或ル線ヲ測ル場合ナリ.

間尺ノ中數誤差ガ m ナルトキ即チ間尺ガ $\pm m$ 丈ケ長キカ短キカナレバ此間尺ヲ a 回正シク置クモ線ノ長サハ $\pm am$ 丈不確實ナリ. 之ニ反シテ間尺ハ正シキモ之レヲ n 回或ル線上ニ置キシニ各回ノ中數誤差ガ $\pm m$ ナルトキハ距離測量ノ中數誤差ハ $m\sqrt{n}$ ナリ

其三 一次函数ノ場合

倍數ニ對スル法則并ニ加減ニ對スル法則ヲ結合スレバ測定セラレタル一次函数ノ中數誤差ニ對スル法則ヲ得ベシ 即チ

l_1, l_2, l_3, \dots ガ觀測値ニシテ m_1, m_2, m_3, \dots ガ夫々其ノ中數誤差ナルトキハ

$$x = a_1 l_1 + a_2 l_2 + a_3 l_3 + \dots \dots \dots (9)$$

ナル一次函数ノ中數誤差ハ

$$m_x = \sqrt{(a_1 m_1)^2 + (a_2 m_2)^2 + (a_3 m_3)^2 + \dots} \dots \dots (10)$$

$m_1 = m_2 = m_3 = \dots = m$ ナルトキハ

$$m_x = m\sqrt{[aa]} \dots \dots \dots (11)$$

[實例]

$l_1 = 39^\circ 21' 36''$	$m_1 = \pm 8''$	} ナルトキハ
$l_2 = 39^\circ 21' 24''$	$m_2 = \pm 8''$	
$l_3 = 39^\circ 21' 33''$	$m_3 = \pm 5''$	

$$x = \frac{l_1 + l_2 + l_3}{3} = \frac{1}{3} l_1 + \frac{1}{3} l_2 + \frac{1}{3} l_3$$

$$= \frac{1}{3} (39^\circ 21' 36'') + \frac{1}{3} (39^\circ 21' 24'') + \frac{1}{3} (39^\circ 21' 33'') = 39^\circ 21' 31''$$

$$m_x = \pm \sqrt{(am_1)^2 + (bm_2)^2 + (cm_3)^2}$$

$$= \pm \sqrt{\left(\frac{1}{3}8\right)^2 + \left(\frac{1}{3}8\right)^2 + \left(\frac{1}{3}5\right)^2}$$

$$= \pm 8\sqrt{\frac{1}{3}} = \pm 4.6''$$

其四. 二數ノ積ノ場合

x ヲ l_1 及 l_2 ナル二個ノ獨立測量ノ値ノ積トシ m_1 及 m_2 ヲ夫々

l_1 及 l_2 ノ中數誤差トス

x ノ誤差ヲ Δ トシ l_1 及 l_2 ノ誤差ヲ夫々 ϵ_1 及 ϵ_2 トナストキハ

$$x \pm \Delta = (l_1 + \epsilon_1)(l_2 + \epsilon_2) = l_1 l_2 + l_1 \epsilon_2 + l_2 \epsilon_1 + \epsilon_1 \epsilon_2$$

$x=l_1l_2$ = シテ $\epsilon_1\epsilon_2$ ハ $l_1\epsilon_2$ 及 $l_2\epsilon_1$ = 比フレバ小ニシテ消ユルモノナ

故 = $\Delta = l_1\epsilon_2 + l_2\epsilon_1$

Δ ヲ自乗シテ其總和ヲ作ルトキハ

$[\Delta^2] = [l_1^2\epsilon_2^2] + [l_2^2\epsilon_1^2] + 2[l_1l_2\epsilon_1\epsilon_2]$

積 $\epsilon_1\epsilon_2$ ハ正負何レニモナリ得ルモノナル故ニ此最後ノ項ハ消失ス

故 = $[\Delta^2] = l_1^2[\epsilon_2^2] + l_2^2[\epsilon_1^2]$

故 = $m_x^2 = l_1^2 m_2^2 + l_2^2 m_1^2$

$m_x = \sqrt{l_1^2 m_2^2 + l_2^2 m_1^2} \dots \dots \dots (12)$

同理ニテ $r_x = \sqrt{l_1^2 r_2^2 + l_2^2 r_1^2}$

$m_1 = m_2$ ナルトキハ

$m_x = m \sqrt{l_1^2 + l_2^2} \dots \dots \dots (13)$

同理ニテ $r_x = r \sqrt{l_1^2 + l_2^2}$

其五. 一般函数ノ場合

一般函数ノ誤差ハ比較的小ナリトノ假定ノモトニ「てら」氏ノ法則ニ從テ近似的ニ一次函数ニ導クモノトス

今觀測値ノ函数ヲ次ノ如キモノトス

$x = f(l_1, l_2, l_3, \dots, l_n) \dots \dots \dots (14)$

但シ $l_1, l_2, l_3, \dots, l_n$ ハ觀測値.

$m_1, m_2, m_3, \dots, m_n$ ヲ夫々觀測値ノ中數誤差トシ $\Delta_1, \Delta_2, \Delta_3, \dots, \Delta_n$

ヲ此等ノ觀測値ガ有スル一定ノ誤差トシ此等ノ誤差ハ小ニシテ其ノ二乗以上ハ除外サレ得ルモノトセバ「てら」氏法則ニ從ツテ

相應スル誤差 Δ ヲ定メ得即チ

$\Delta = f(l_1 + \Delta_1, l_2 + \Delta_2, l_3 + \Delta_3, \dots, l_n + \Delta_n) - f(l_1, l_2, l_3, \dots, l_n)$

$\Delta = \frac{\delta f}{\delta l_1} \Delta_1 + \frac{\delta f}{\delta l_2} \Delta_2 + \frac{\delta f}{\delta l_3} \Delta_3 + \dots + \frac{\delta f}{\delta l_n} \Delta_n$

【参考】「てら」氏法則

$f(x+h, y+k) = u + h \frac{du}{dx} + k \frac{du}{dy} + \frac{h^2}{1.2} \frac{d^2u}{dx^2} + hkc \frac{d^2u}{dx dy} + \frac{k^2}{1.2} \frac{d^2u}{dy^2} + \dots$

依テ其一及其二ニ於テ得ル法則ニ依リテ次式ヲ得

$m_x = \pm \sqrt{\left(\frac{\delta f}{\delta l_1} m_1\right)^2 + \left(\frac{\delta f}{\delta l_2} m_2\right)^2 + \left(\frac{\delta f}{\delta l_3} m_3\right)^2 + \dots + \left(\frac{\delta f}{\delta l_n} m_n\right)^2} \dots \dots \dots (15)$

或ハ $m_x = \pm \sqrt{q_1^2 m_1^2 + q_2^2 m_2^2 + q_3^2 m_3^2 + \dots + q_n^2 m_n^2}$

同理ニテ $r_x = \pm \sqrt{q_1^2 r_1^2 + q_2^2 r_2^2 + q_3^2 r_3^2 + \dots + q_n^2 r_n^2}$

中數誤差等シキトキハ

$m_x = \pm m \sqrt{q_1^2 + q_2^2 + q_3^2 + \dots + q_n^2} = \pm m \sqrt{[qq]}$

同理ニテ $r_x = \pm r \sqrt{q_1^2 + q_2^2 + q_3^2 + \dots + q_n^2} = \pm r \sqrt{[qq]}$

[qq] ナ重みノ係数ト云フ

又 $x = l_1 + l_2 + l_3 + \dots + l_n$

ニテ表ハサル、如キ精密度等シキ觀測値ノ和ニ對シテハ $q=1$ ナル

故 = $m_x = \pm m \sqrt{n}$

故 = 精密度等シキ觀測値ノ和ノ中數誤差ハ觀測回数ノ平方根ニ比例ス

同理ニテ $r_x = \pm r \sqrt{n}$

次ニ示ス如キ算術的平均ノ場合ニハ

$x = \frac{1}{n} (l_1 + l_2 + l_3 + \dots + l_n) = \frac{[l]}{n}$

$q = \frac{1}{n}$ ナル故ニ

$[qq] = n \frac{1}{n^2} = \frac{1}{n}$

故 = $m_x = \pm m \sqrt{[qq]} = \pm \frac{m}{\sqrt{n}}$

故 = 算術的平均値ノ中數誤差ハ一觀測ノ中數誤差ヲ觀測回数ノ平方根ニテ除シタルモノニ等シ

同様に $r_a = \pm r \sqrt{[qq]} = \pm \frac{r}{\sqrt{n}}$

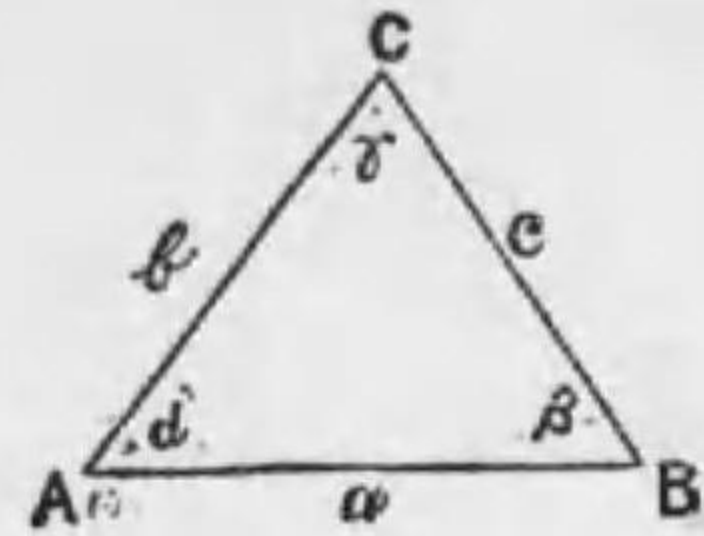
簡單ナル例ヲ舉グレバ

AB=a ナル基線アリ而シテ α 及 γ ナル二角ヲ測定スルトキハ

BC=c ヲ定ムルヲ得ベシ

第八圖

即チ $c = \frac{a}{\sin \gamma} \sin \alpha \dots\dots\dots (16)$



α 角ノ中數誤差ハ ±m_α

γ 角ノ中數誤差ハ ±m_γ

基線 a ハ誤差ナキモノト考ヘ c 邊ノ中

數誤差 m_c ヲ求メントス

$c = \frac{a}{\sin \gamma} \sin \alpha$ ノ微分ヲ作ルトキハ

$dc = \frac{\partial c}{\partial a} da + \frac{\partial c}{\partial \gamma} d\gamma$

$dc = \frac{a}{\sin \gamma} \cos \alpha d\alpha - a \sin \alpha \frac{\cos \gamma}{\sin^2 \gamma} d\gamma$

da 及 dγ ノ代リニ中數誤差 ±m_α 及 ±m_γ ヲ置クトキハ

$m_c = \pm \frac{a}{\sin \gamma} \cos \alpha m_\alpha \pm \frac{a}{\sin \gamma} \sin \alpha \cos \gamma m_\gamma$

(16) 式ニ依リ ±m_c = c cot α m_α ± c cot γ m_γ

然ルトキハ (15) 式ニ依テ

$m_c = \pm c \sqrt{\cot^2 \alpha (m_\alpha)^2 + \cot^2 \gamma (m_\gamma)^2} \dots\dots\dots (17)$

而シテ α 及 γ 角ヲ等シキ精密度ヲ以テ測リタリトスルトキハ

$m_\alpha = m_\gamma = m$ ナルヲ以テ

$m_c = \pm cm \sqrt{\cot^2 \alpha + \cot^2 \gamma}$

[参考] $\frac{\partial f}{\partial x_1} = \frac{dc}{da} = \frac{a}{\sin \gamma} \cos \alpha = \frac{a}{\sin \gamma} \cos \alpha \frac{\sin \alpha}{\sin \alpha} = c \cot \alpha$

$\frac{\partial f}{\partial x_2} = \frac{dc}{d\gamma} = -a \sin \alpha \frac{\cos \gamma}{\sin^2 \gamma} = -\frac{a \sin \alpha}{\sin \gamma} \times \frac{\cos \gamma}{\sin \gamma} = -c \cot \gamma$

$m_c = \sqrt{(c \cot \alpha m_\alpha)^2 + (-c \cot \gamma m_\gamma)^2}$
 $= c \sqrt{\cot^2 \alpha (m_\alpha)^2 + \cot^2 \gamma (m_\gamma)^2}$

而シテ m ガ秒ニテ顯ハサルルトキハ次ノ如クセザル可カラズ

$m_c = \pm \frac{m''}{\rho''} \sqrt{\cot^2 \alpha + \cot^2 \gamma}$

例へバ $\alpha = \gamma = 60^\circ$
 $m = 10''$ } トスレバ

$\frac{m_c}{c} = \frac{10''}{\rho''} \sqrt{\cot^2 60 + \cot^2 60} = \frac{10''}{\rho''} \sqrt{2 \cot^2 60} = \frac{10''}{\rho''} \sqrt{2 \times (0.57735)^2}$
 $= \frac{10''}{\rho''} \sqrt{0.66666} = \frac{10''}{\rho''} \times 0.8 = \frac{10 \times 0.8}{206265} = \frac{8}{206265} = \frac{8.00000}{206265} = 0.0000396$
 $\frac{m_c}{c} = \pm 0.0000396$

即チ m_c ハ c ノ $\frac{0.004}{100}$ ナリ

今 $a = 235.19$ 米 $m_\alpha = \pm 0.004 \sqrt{a} = \pm 0.004 \sqrt{235.19}$ [参考]

$\alpha = 63^\circ 30' 30''$
 $\beta = 47^\circ 16' 30''$
 $\gamma = 69^\circ 13' 00''$

$= \pm 0.004 \times 15.3 = \pm 0.061$ 米
 $m = \pm 20'' = \pm 0.000097$ (弧度)
 $\frac{3.1416 \times 20''}{180 \times 60 \times 60} = 0.000097$

ナルトキハ b 及 c 邊ノ長サ及中數誤差ハ次ノ如シ

$b = a \frac{\sin \beta}{\sin \alpha} = 235.19 \times \frac{\sin 47^\circ 16' 30''}{\sin 63^\circ 30' 30''} = 235.19 \times \frac{0.73462}{0.89500} = \frac{172.7752778}{0.89500} = 193.04$ 米

$c = a \frac{\sin \gamma}{\sin \alpha} = 235.19 \times \frac{\sin 69^\circ 13' 00''}{\sin 63^\circ 30' 30''} = 235.19 \times \frac{0.93493}{0.89500} = \frac{219.8861867}{0.89500} = 245.68$ 米

$m_c = \pm \sqrt{\left(\frac{\partial \left(a \frac{\sin \beta}{\sin \alpha}\right)}{\partial a} m_\alpha\right)^2 + \left(\frac{\partial \left(a \frac{\sin \beta}{\sin \alpha}\right)}{\partial \alpha} m_\alpha\right)^2 + \left(\frac{\partial \left(a \frac{\sin \beta}{\sin \alpha}\right)}{\partial \beta} m_\beta\right)^2}$
 $= \pm \sqrt{\left(\frac{b}{a} m_\alpha\right)^2 + \left(a \frac{-\sin \beta \cos \alpha}{\sin^2 \alpha} m_\alpha\right)^2 + \left(a \frac{\cos \beta}{\sin \alpha} m_\beta\right)^2}$
 $= \pm \sqrt{\left(\frac{b}{a} m_\alpha\right)^2 + (b \cot \alpha m_\alpha)^2 + (b \cot \beta m_\beta)^2}$
 $= \pm b \sqrt{\left(\frac{1}{a} m_\alpha\right)^2 + (\cot \alpha m_\alpha)^2 + (\cot \beta m_\beta)^2}$

$$\begin{aligned}
&= \pm 193 \sqrt{\left(\frac{1}{235} \times 0.061\right)^2 + (0.498 \times 0.00097)^2 + (0.924 \times 0.00097)^2} \\
&= \pm 193 \sqrt{0.00000067378 + 0.0000002333 + 0.0000008033} \\
&= \pm 193 \sqrt{0.00000077744} = \pm 0.054 \text{ 米}
\end{aligned}$$

同様 =

$$\begin{aligned}
m_c &= \pm c \sqrt{\left(\frac{1}{2} m_a\right)^2 + (\cot \alpha m_a)^2 + (\cot \gamma m_\gamma)^2} \\
&= \pm 245.68 \sqrt{\left(\frac{1}{235} \times 0.061\right)^2 + (0.498 \times 0.00097)^2 + (0.37953 \times 0.00097)^2} \\
&= \pm 245.68 \sqrt{0.00000067378 + 0.0000002333 + 0.0000001054} \\
&= \pm 245.68 \sqrt{0.00000071085} \\
&= \pm 245.68 \times 0.00027 = \pm 0.0657 \text{ 米}
\end{aligned}$$

第九節 規則誤差及不規則誤差ノ同時ニ現ハル、場合

間尺ヲ以テ距離ヲ測ルトキハ不規則誤差ノミナラズ規則誤差モ亦現ハルモノナリ

例ヘバ直線ガ左右上下ノ一方ニミ行クハ規則誤差(A)ニシテn回間尺ヲ置クトキハ其ノ誤差ハAnナリ而シテ不規則誤差ハ $B\sqrt{n}$ ナリ故ニ中數誤差ハ次ノ如シ

$$m = \sqrt{(An)^2 + (B\sqrt{n})^2} = \sqrt{A^2 n^2 + B^2 n}$$

第十節 算術的平均値ノ中數誤差

同シ方法ニテ數回反覆測量セシ或ル未知數ノ最モ確カラシキ値ハ其觀測値ノ算術的平均値ナリ。此方法ガ正シキコトノ證明ハ次ノ如シ。

今xナル未知數ヲ定ムル爲メニn個ノ同種ノ測量ヲ行ヒタリトシ其觀測値ヲ $l_1, l_2, l_3, \dots, l_n$ トス

最モ確カラシキ値ハ算術的平均値ニシテ

$$x = \frac{l_1 + l_2 + l_3 + \dots + l_n}{n} = \frac{[l]}{n} \dots \dots \dots (1)$$

而シテ此算術的平均値ト各觀測値トノ差ヲ作ルトキハ

$$\begin{aligned}
v_1 &= x - l_1 \\
v_2 &= x - l_2 \\
v_3 &= x - l_3 \\
&\dots \dots \dots \\
v_n &= x - l_n
\end{aligned} \dots \dots \dots (2)$$

vノ總和ハ(1)式ニ依リ零ナリ即チ

$$[v] = 0 \dots \dots \dots (3)$$

又此vヲ二乗シテ次式ニ依リ概略ニ一觀測ノ中數誤差ヲ算出ス即チ

$$m = \sqrt{\frac{[vv]}{n}} \dots \dots \dots (4)$$

次ニ算術的平均値ノ中數誤差 m_x ヲ求メン

xハlノ直線函數ナルヲ以テ(1)式ハ次式ノ如ク書クヲ得

$$x = \frac{1}{n} l_1 + \frac{1}{n} l_2 + \frac{1}{n} l_3 + \dots + \frac{1}{n} l_n \dots \dots \dots (5)$$

之レヲ誤差移行ノ法則第八節(9)式

$$x = al + a'l' + a''l'' + \dots + a^{(n)}l^n \dots \dots \dots (5_a)$$

ト比較シ

$$m_x = \sqrt{(am)^2 + (a'm')^2 + (a''m'')^2 + \dots} \dots \dots (5_b)$$

又 $a = a' = a'' = \dots = a^{(n)} = \frac{1}{n}$ とスレバ

$$a^2 + a'^2 + a''^2 + \dots + a^{(n)2} = n \left(\frac{1}{n}\right)^2 = \frac{1}{n}$$

又 $m = m' = m'' = \dots = m^{(n)}$ ナル故ニ

$$m_x = \sqrt{\left(\frac{1}{n}m\right)^2 + \left(\frac{1}{n}m\right)^2 + \left(\frac{1}{n}m\right)^2 + \dots + \left(\frac{1}{n}m\right)^2}$$

而シテ此項數ハ n ナル故ニ

$$m_x = \sqrt{n \left(\frac{1}{n}m\right)^2} = \sqrt{\frac{m^2}{n}} = \frac{m}{\sqrt{n}} \dots \dots \dots (6)$$

而シテ $m = \sqrt{\frac{[vv]}{n}}$ ナル式ハ m ノ眞値ナラズシテ近似値ナリ何ト

ナレバ v ハ眞誤差ナラズシテ殘差誤差ナルヲ以テナリ而シテ眞誤差ヲ知ルコト能ハザレドモ次法ニ依リ尙 m ヲ定ムルコトヲ得ベシ

今 X ヲ未知數ノ眞値, ϵ ヲ眞誤差, v ヲ殘差トスレバ

$$\left. \begin{aligned} \epsilon_1 &= X - l_1 \\ v_1 &= x - l_1 \end{aligned} \right\} \text{故ニ } \epsilon_1 = v_1 + (X - x) \dots \dots \dots (7)$$

今 ϵ ノ二乗ヲ作ルトキハ次ノ如シ

$$\epsilon_1^2 = v_1^2 + (X - x)^2 + 2v_1(X - x)$$

$$\epsilon_2^2 = v_2^2 + (X - x)^2 + 2v_2(X - x)$$

$$\epsilon_3^2 = v_3^2 + (X - x)^2 + 2v_3(X - x)$$

.....

$$\epsilon_n^2 = v_n^2 + (X - x)^2 + 2v_n(X - x)$$

$$[\epsilon\epsilon] = [vv] + n(X - x)^2 + 2[v](X - x)$$

而シテ (3) 式ニ依テ $[v] = 0$ ナル故ニ $2[v](X - x) = 0$

$$\text{故ニ } [\epsilon\epsilon] = [vv] + n(X - x)^2 \dots \dots \dots (8)$$

今未知數ノ眞値 X ト算術的平均値 x トノ差ガ算術的平均値ノ中數誤差 m_x ニ等シト假定スレバ $(X - x)^2 = m_x^2 \cdot n$

而シテ (6) 式ニ依テ $m_x = \frac{m}{\sqrt{n}}$ ナル故ニ

$$(X - x)^2 = m_x^2 \cdot n = \frac{m^2}{n} \quad \text{故ニ } n(X - x)^2 = m^2$$

然ル時ハ (8) 式ヨリ $[\epsilon\epsilon] = [vv] + m^2 \dots \dots \dots (9)$

而シテ中數誤差ノ定義ニ依リ $\frac{[\epsilon\epsilon]}{n} = m^2 \dots \dots \dots (10)$

(9) 式及 (10) 式ヨリ

$$[\epsilon\epsilon] = nm^2 = [vv] + m^2 \quad \text{故ニ } m^2(n - 1) = [vv]$$

故ニ各觀測ノ中數誤差 $m = \sqrt{\frac{[vv]}{n - 1}} \dots \dots \dots (11)$

而シテ此 m ノ値ヲ (6) 式ニ入ル、トキハ

$$\text{平均値ノ中數誤差 } m_x = \frac{m}{\sqrt{n}} = \sqrt{\frac{[vv]}{n(n - 1)}} \dots \dots \dots (12)$$

[參考] $m = \sqrt{\frac{[vv]}{n - 1}}$ ナル式ハ $n = 1$ ナルトキハ

$$m = \frac{0}{0} = \text{レテ不定ナル故ニ宜シク } m = \sqrt{\frac{[vv]}{n}} \text{ ナル式ハ } n = 1 \text{ ナルトキハ } m = \sqrt{\frac{0}{1}} = 0$$

トナル故ニ宜シカラズ何ントナレバ只一回ノ測量ノミナルトキハ精密度ヲ云フヲ得ザルヲ以テナリ 故ニ $m = \sqrt{\frac{[vv]}{n}}$ 式ニテハ最初ノ一回ノ測量ヲ除キテ殘餘ノ $(n - 1)$ 回ノ測量ガ精密度ヲ定ムルニ用立ツコトヲ示ス

[實例]

	観測値(l)	v	v ²
1	35°26'16"	+2.8'	7.84
2	" " 20"	-1.2	1.44
3	" " 18"	+0.8	0.64
4	" " 25"	-0.2	0.04
5	" " 15"	+3.8	14.44
計	94"	0.0	62.80 = [vv]

算術的平均値 = 35°26'18"

各観測値ノ中數誤差 $m = \sqrt{\frac{62.80}{4 \times 5}} = \frac{\pm 3.96}{\sqrt{5}} = \pm 1.77''$

次ニ算術的平均値 $x = 35°26'18.8' \pm 1.77''$

而シテ $m = \sqrt{\frac{[vv]}{n-1}} = \sqrt{\frac{62.80}{5-1}} = \pm 3.96'$ $m = \sqrt{\frac{[vv]}{n}} = \sqrt{\frac{62.80}{5}} = \pm 3.5''$

トスレバ

$m_x = \frac{m}{\sqrt{n}}$ ナル式ハ必要ナル式ニシテ算術的平均値ノ中數誤差ハ

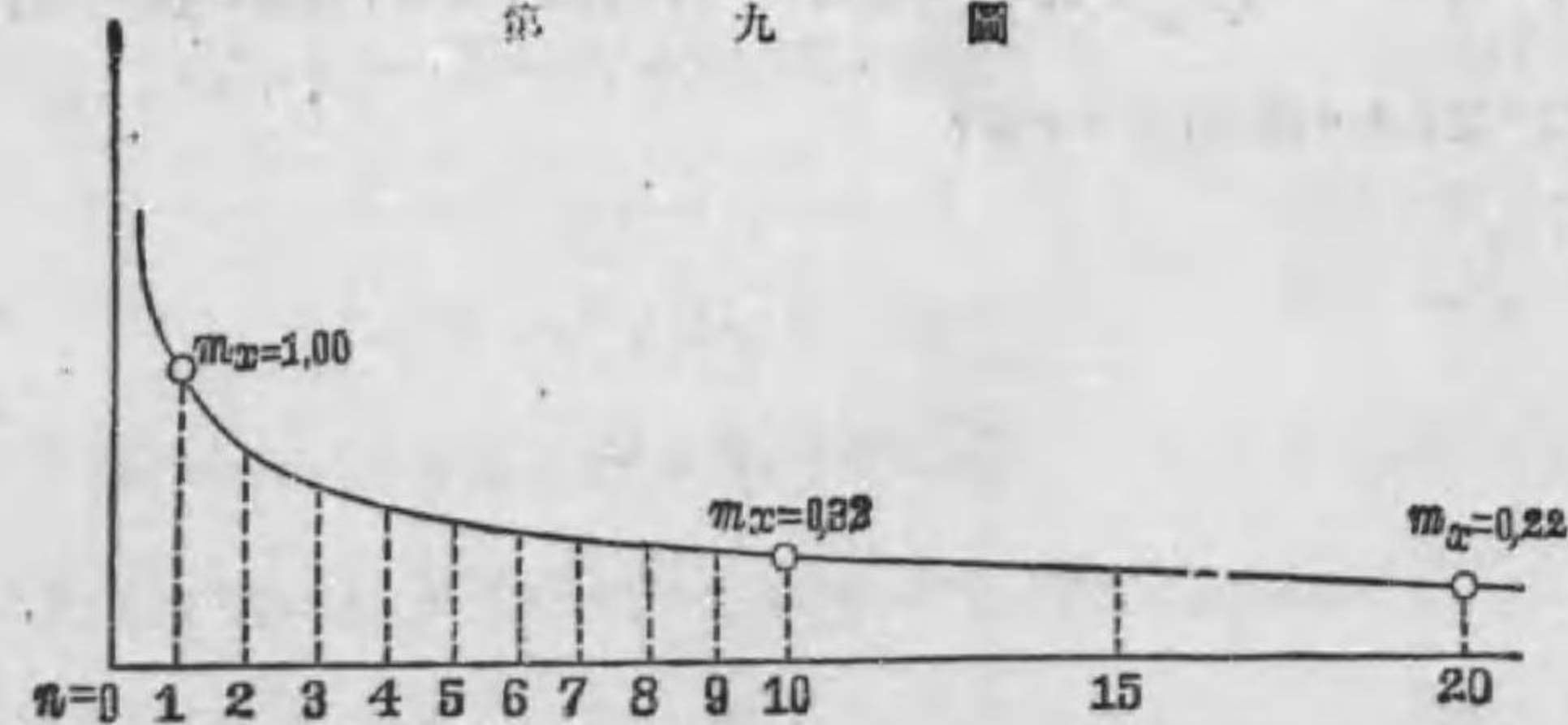
測量回数ノ平方根ニ反比例スルコトヲ示ス今此法則ヲ明カニスル爲

メニ $m=1$ トスレバ

n =	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	20	50	100
$m_x = \frac{1}{\sqrt{n}}$	1.00	0.71	0.56	0.50	0.45	0.41	0.38	0.35	0.33	0.32	0.22	0.14	0.10

ナリ、 m_x ヲ縦距トシ n ヲ横距トシ之ヲ圖示スレバ次ノ如シ

第九圖



此曲線ハ漸近線ヲ有ス即チ中數誤差 m_x ハ次第ニ零ニ近寄ルモ零トナラズ

10回マデ m_x ハ非常ニ速ニ減ジ精密度ヲ増セドモ之レ以上反覆測量スルモ其効果少シ。例ヘバ中數誤差ヲ第一測量ノ中數誤差ノ $\frac{1}{10}$ ニナスニハ100回ノ測量ヲナスヲ要ス

【参考】 $\frac{m_x}{m} = \frac{1}{10} = \frac{1}{\sqrt{100}}$ 故ニ $n=100$

故ニ通常ハ10回ノ測量ニテ充分ナリ

上述ノ式ニ於テハ測量ノ誤差ハ不規則誤差ニシテ正負同様ニ現レ易キ誤差ナリト假定セシガ實際ニ於テハ然ラズシテ測量ヲ精密ニ行ヒ又反覆スルニ從ヒ規則誤差ノ存スルヲ發見スルヲ得ベシ 故ニ測量ヲ反覆スルニ當リテハ其事情ヲ變ジテ行フベシ

例ヘバ角ノ測定ニ於テハ水平圓盤ノ部分ヲ變更シテナスベシ

今 $m_x = \frac{m}{\sqrt{n}}$ 或ハ $m_x^2 = \frac{m^2}{n}$ ナル式ニ依ルトキハ算術的平均値 x ヲ

m_x ナル中數誤差ヲ有スル一回ノ測量ノ結果ト考ヘ得ベシ然ルトキハ此ノ測量ト原測量トノ精密度ノ割合ハ m_x ト m トノ割合ナリ

之ヨリ重みノ意味ヲ理解シ得ベシ m_x^2 ト m^2 ノ割合ハ $n:1$ ノ割合ナル故ニ一観測値ノ重みヲ1トスレバ算術的平均値ノ重みハ n ナリ

又算術的平均値ノ現ハレ易キ誤差ハ次ノ如シ

- l_1, l_2, \dots, l_n ヲ同一量ニ於ケル n 回ノ直接観測値
 - $p=1, \dots$ ヲ各測量ノ重み
 - $p(n)=n, \dots$ ヲ算術的平均値ノ重み
 - r, \dots ヲ各測量ノ現ハレ易キ誤差
 - r_x, \dots ヲ算術的平均値ノ現ハレ易キ誤差
- トスレバ

前述ノ如ク

$$p_x : p : n : 1 = \frac{1}{r_x^2} : \frac{1}{r^2}$$

$$\frac{n}{r^2} = \frac{1}{r_x^2} \quad \text{故} = r_x^2 = \frac{r^2}{n}$$

$$\text{故} = r_x = \sqrt{\frac{r^2}{n}} = \frac{r}{\sqrt{n}} \dots\dots\dots(12)$$

即チ算術的平均値ノ現ハレ易キ誤差ハ測量ノ回数ノ平方根ニテ各測量ノ現ハレ易キ誤差ヲ除シタルモノニ等シ

故ニ算術的平均値ノ現ハレ易キ誤差ハ測量ノ回数 n ガ増ストキニ減ズルモノナリ 故ニ 10 回ノ測量ノ算術的平均値ノ現ハレ易キ誤差ガ r_{10} ナレバ其現ハレ易キ誤差ヲ二分ノ一ニナスニハ 40 回ノ測量ヲナスヲ要ス即チ

【参考】 $r_x = \frac{r}{\sqrt{n}}$ 式ニ依リ $r_{10} = \frac{r}{\sqrt{10}}$ $\frac{r_{10}}{2} = \frac{r}{2\sqrt{10}} = \frac{r}{\sqrt{40}}$

$$\text{故} = r_{40} = \frac{r}{\sqrt{40}} \quad \text{故} = n = 40$$

各測量ノ現ハレ易キ誤差 (r) ハ次ノ如シ

第六節ニ於テ $h = \sqrt{\frac{n}{2[xx]}}$

第四節ニ於テ $hr = 0.4769$ 即チ $r = \frac{0.4769}{h}$

$$\text{故} = r = \frac{0.4769}{\sqrt{\frac{n}{2[xx]}}} = \frac{0.4769}{\frac{1}{\sqrt{2}}\sqrt{\frac{n}{[xx]}}} = 0.4769 \times \sqrt{\frac{[xx]}{n}} \times 1.414 = 0.6745 \sqrt{\frac{[xx]}{n}}$$

第十節 (10) 式ニ依リ $m^2 = \frac{[xx]}{n} = \frac{[vv]}{n-1}$

之チ r ノ値ニ入ルルトキハ

$$r = 0.6745 \sqrt{\frac{[xx]}{n}} = 0.6745 \sqrt{\frac{[vv]}{n-1}} \dots\dots\dots(13)$$

此式ハ單獨直接測量即チ重み 1 ナル測量ノ現ハレ易キ誤差ノ式ナリ

此式ヲ用フルニハ先ヅ算術的平均値ヨリ各觀測値ヲ減ジテ殘差誤

差ヲ見出し其自乗ノ和ヲ作ルヲ要ス

而シテ r ノ知レハ算術的平均値ノ現ハレ易キ誤差 (r_x) ハ次式ニ依テ見出し得ベシ即チ

$$r_x = \frac{r}{\sqrt{n}} = 0.6745 \sqrt{\frac{[vv]}{n(n-1)}} \dots\dots\dots(14)$$

第十一節 一般の平均値ノ中數誤差

一ケノ未知數ヲ定ムルニ精密度ノ等シカラザル多數ノ觀測値アル時ハ次法ニ依テ平均ス。

今 5 個ノ觀測値 $l'_1, l'_2, l'_3, l'_4, l'_5$ アリトスレバ其簡單ナル算術的平均ハ次ノ如シ

$$x = \frac{l'_1 + l'_2 + l'_3 + l'_4 + l'_5}{5} \dots\dots\dots(1)$$

又此等 5 個ノ觀測値ヲ 2 個ト 3 個トニ別ケテ別々ニ平均スレバ

$$l_1 = \frac{l'_1 + l'_2}{2} \quad l_2 = \frac{l'_3 + l'_4 + l'_5}{3} \dots\dots\dots(2)$$

(2) 式ヨリ $l'_1 + l'_2 = 2l_1$ $l'_3 + l'_4 + l'_5 = 3l_2$ トシテ

(1) 式ニ代入スレバ l'_1, l'_2, \dots, l'_5 等ニ無關係ニ總平均値 x ヲ得ル

$$x = \frac{2l_1 + 3l_2}{2+3} \dots\dots\dots(3)$$

依テ一般ニ l'_1, l'_2, l'_3, \dots 等ヲ精密度等シキ觀測値トシ l_1, l_2, l_3, \dots

等ヲ部分的平均値トスレバ (3) 式ト同様ニ次ノ一般式ヲ得

$$x = \frac{p_1 l_1 + p_2 l_2 + p_3 l_3 + \dots}{p_1 + p_2 + p_3 + \dots} = \frac{[pl]}{[p]} \dots\dots\dots(4)$$

此式ニ於テ p_1, p_2, p_3, \dots 等ハ重みヲ意味ス。

今 $m = \frac{m}{\sqrt{n}}$ ナル式ニ於テ $n=p$ 及 $n=p'$ ナル二ツノ場合ヲ考

フルトキハ

$$m_x = \frac{m}{\sqrt{p}} \quad m_x' = \frac{m}{\sqrt{p'}}$$

$$\text{故} = \frac{p}{p'} = \frac{m_x'^2}{m_x^2} \quad \text{或ハ} \quad \frac{m_x}{m_x'} = \frac{\sqrt{p'}}{\sqrt{p}} \dots\dots\dots(5)$$

依テ重みハ中數誤差ノ自乗ニ反比例シ中數誤差ハ重みノ平方根ニ反比例スルヲ知ル

$$\text{又} \quad x = al + a'l' + a''l'' + \dots\dots\dots + a^{(n)}l^{(n)}$$

ナル一次函數ニ於テ觀測値 $l, l', \dots\dots l^{(n)}$ ノ重みヲ夫々 $p, p', p'', \dots\dots p^{(n)}$ トシ x ノ重みヲ p_x トスレバ上述ノ理論ヨリ

$$m_x^2 = \frac{1}{p_x} \quad m^2 = \frac{1}{p} \quad m'^2 = \frac{1}{p'} \quad \dots\dots\dots m^{(n)2} = \frac{1}{p^{(n)}}$$

誤差移行ノ法則 (10) 式ニ依リ

$$m_x^2 = a^2 m^2 + a'^2 m'^2 + a''^2 m''^2 + \dots\dots\dots + a^{(n)2} m^{(n)2}$$

$$\text{ナル故} = \frac{1}{p_x} = \frac{a^2}{p} + \frac{a'^2}{p'} + \frac{a''^2}{p''} + \dots\dots\dots + \frac{a^{(n)2}}{p^{(n)}} = \left[\frac{aa}{p} \right] \dots\dots(5a)$$

又 (7) 式ニ依リ $m_x^2 = m^2 + m'^2 + m''^2 + \dots\dots\dots + m^{(n)2}$ ナルトキハ

$$\frac{1}{p_x} = \frac{1}{p} + \frac{1}{p'} + \frac{1}{p''} + \dots\dots\dots + \frac{1}{p^{(n)}} = \left[\frac{1}{p} \right] \dots\dots\dots(5b)$$

$$m_x^2 = nm^2 \quad \text{ナルトキハ}$$

$$\frac{1}{p_x} = n \frac{1}{p} \quad \text{ナリ} \dots\dots\dots(5c)$$

$$\text{或ハ} \quad p_x = \frac{p}{n}$$

$l_1, l_2, l_3, \dots\dots l_n$ ヲ與ヘラレタル觀測値トシ $p_1, p_2, p_3, \dots\dots p_n$ ヲ夫々ノ重みトスレバ未知數ノ最モ確カラシキ値ハ次ノ一般ノ平均値ナリ

$$x = \frac{p_1 l_1 + p_2 l_2 + p_3 l_3 + \dots\dots + p_n l_n}{p_1 + p_2 + \dots\dots + p_n} = \frac{[pl]}{[p]} \dots\dots\dots(6)$$

此等ノ觀測値ノ殘差ハ次ノ如シ

$$\left. \begin{aligned} v_1 &= x - l_1 \quad \text{重み } p_1 \\ v_2 &= x - l_2 \quad \text{'' } p_2 \\ v_3 &= x - l_3 \quad \text{'' } p_3 \\ &\dots\dots\dots \\ v_n &= x - l_n \quad \text{'' } p_n \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(7)$$

此等ノ v = 夫々ノ重み p ヲ乘ジテ加フレバ (6) 式ニ依リ

$$[pv] = 0 \quad \text{ナリ} \dots\dots\dots(8)$$

重み 1 ナル中數誤差ヲ單位重みノ誤差ト云フ

觀測値 $l_1, l_2, l_3, \dots\dots l_n$ 等ノ中數誤差ハ (5) 式ニ依テ次ノ如シ

$$\frac{m}{\sqrt{p_1}}, \frac{m}{\sqrt{p_2}}, \frac{m}{\sqrt{p_3}}, \dots\dots\dots \frac{m}{\sqrt{p_n}} \dots\dots\dots(9)$$

(6) 式ハ次ノ如ク書き換フヲ得

$$x = \frac{p_1}{[p]} l_1 + \frac{p_2}{[p]} l_2 + \frac{p_3}{[p]} l_3 + \dots\dots\dots + \frac{p_n}{[p]} l_n \dots\dots(10)$$

故ニ誤差移行ノ法則 (9) 式ニ依テ x ノ中數誤差ハ次ノ如シ

$$m_x^2 = \left(\frac{p_1}{[p]} \frac{m}{\sqrt{p_1}} \right)^2 + \left(\frac{p_2}{[p]} \frac{m}{\sqrt{p_2}} \right)^2 + \left(\frac{p_3}{[p]} \frac{m}{\sqrt{p_3}} \right)^2 + \dots\dots\dots + \left(\frac{p_n}{[p]} \frac{m}{\sqrt{p_n}} \right)^2$$

$$m_x^2 = \left(\frac{m}{[p]} \right)^2 \left\{ (\sqrt{p_1})^2 + (\sqrt{p_2})^2 + (\sqrt{p_3})^2 + \dots\dots\dots + (\sqrt{p_n})^2 \right\}$$

$$m_x^2 = m^2 \times \frac{p_1 + p_2 + p_3 + \dots\dots\dots + p_n}{[p]^2} = m^2 \times \frac{[p]}{[p]^2} = \frac{m^2}{[p]}$$

$$\text{故} = m_x = \frac{m}{\sqrt{[p]}} \dots\dots\dots(11)$$

故ニ一般ノ平均値ノ重みヲ p_x トスレバ $p_x = [p]$ ナリ

次ニ重み 1 ナル観測値ノ中數誤差ヲ求メン

次式ニ依リ重みノ等シカラザル観測値ニ屬スルヲ重み 1 ナル場合ノ値ニ換算ス

重み	誤差	重み	改算誤差
p_1	v_1	1	$v_1\sqrt{p_1}$
p_2	v_2	1	$v_2\sqrt{p_2}$
p_3	v_3	1	$v_3\sqrt{p_3}$
.....	

但シ殘差 v ハ眞誤差ノ法則ニ從フモノトス

斯ク重み 1 ナル場合ニ換算セラレタル誤差ヲ用ヒテ中數誤差ヲ求ムレバ次ノ如シ

$$m^2 = \frac{(v_1\sqrt{p_1})^2 + (v_2\sqrt{p_2})^2 + (v_3\sqrt{p_3})^2 + \dots + (v_n\sqrt{p_n})^2}{n-1}$$

$$= \frac{[pvv]}{n-1} \quad m = \sqrt{\frac{[pvv]}{n-1}} \dots (12)$$

(11) 式及 (12) 式ヨリ $m_x = \frac{m}{\sqrt{[p]}} = \sqrt{\frac{[pvv]}{[p](n-1)}} \dots (13)$

【實例】 六定點ヨリ P 點ノ高ヲ定メントス而シテ六點ノ海拔高及 P 點ヨリノ距離ハ次表ノ如シ

點	P 點ヨリノ距離 (a)	海 拔 高	測定ニヨル高サノ差	P 點ノ算出海拔高
A	2010(米)	1043.64(米)	-314.73(米)	728.91(米)
B	8903	619.01	+103.20	728.22
C	5820	480.81	+248.24	729.05
D	3002	1247.01	-518.40	728.58
E	6197	928.18	-199.16	729.02
F	5800	418.71	+310.13	728.84
				平均 728.77

} ..(14)

故ニ 6 個ノ無關係ノ測量ノ算術ノ平均値ハ 728.77 米ナリ然レドモ高サノ測定ハ「重み」等シカラズ

而シテ高サノ差 (h) ハ次式ニ依リ算定ス

$$h = a \tan \alpha + \frac{1-K}{2r} a^2$$

式中 α ハ高低角, K ハ光線屈折係數ニシテ「がらす」氏ニ依レバ 0.13

$\frac{1-K}{2r} a^2$ ハ地球ノ彎曲及光線ノ屈折ニ因ル誤差修正數(測量家必携參照)而シテ a ハ短キ距離ナルガ故ニ誤差ナキモノトスレバ高サノ誤差ハ高低角 α ノ測定誤差トリ即チ

$$dh = a \frac{d \tan \alpha}{d \alpha} d \alpha = a \frac{d \alpha}{\cos^2 \alpha} \dots (15)$$

而シテ α 角ハ小ナルヲ以テ $\cos^2 \alpha = 1$ ト見ルヲ得ベシ尙又角度ハ等シキ精密度ヲ以テ測リタルトシ且ツ既知ノ海拔高ヲ正シキモノトスレバ此 (15) 式ニ依リ高サノ測量ノ中數誤差ハ距離 (a) ニ比例スルコトヲ知ル從ツテ高サノ測量ノ重みハ $\frac{1}{a^2}$ ニ比例ス

a ヲ斜ニテ示セバ P 點ヨリ各點ヘノ距離 (a) 及 重み (P) ハ次ノ如シ.

	A	B	C	D	E	F
a =	2.0	8.9	5.8	3.0	6.2	5.8
(p) = $\frac{1}{a^2}$ =	0.25	0.01	0.03	0.11	0.03	0.03

故ニ次ノ表ヲ得ル

l	p	pl	v = x - l	v ²	pv ²
728 + 0.91	0.25	0.2275	-0.08	0.0064	0.0016
+0.22	0.01	0.0022	+0.61	0.3721	0.0037
+1.05	0.03	0.0315	-0.22	0.0484	0.0015
+0.58	0.11	0.0638	+0.25	0.0625	0.0070
+1.02	0.03	0.0306	-0.19	0.0361	0.0011
+0.84	0.03	0.0252	-0.01	0.0001	0.0000
計	0.46	0.3808			0.0149

故ニ $x = \frac{[pl]}{[p]} = \frac{0.3808}{0.46} = 0.83$

$m = \sqrt{\frac{[pvv]}{n-1}} = \sqrt{\frac{0.0149}{5}} = \pm 0.055 \text{ 米} \dots (16)$

$m_x = \frac{m}{\sqrt{[p]}} = \frac{0.055}{\sqrt{0.46}} = \pm 0.080 \text{ 米}$

故ニ H = 728 + x = 728.83 米

此中數誤差ハ $\pm 0.08 \text{ 米}$

又重み単位即チ距離 1 軒ニ付キ中數誤差ハ $m = \pm 0.055$ ニシテ之レニ屬スル高低角ノ誤差ハ

$$\delta = \frac{m}{a} \rho = \frac{0.055}{1.00} \rho = \frac{0.055}{1000} \times 206.265 = \pm 11''$$

第十二節 一般的平均值ノ現ハレ易キ誤差

l_1, l_2, \dots, l_n ヲ n 個ノ直接觀測値
 p_1, p_2, \dots, p_n ヲ重み
 $p_1 + p_2 + \dots + p_n = [p]$ ヲ一般的平均值ノ重み
 r ヲ重み 1 ナル測量ノ現ハレ易キ誤差
 r_n ヲ一般的平均值ノ現ハレ易キ誤差

重み及現ハレ易キ誤差ノ關係ヨリ

$$1 : [p] = \frac{1}{r^2} : \frac{1}{r_n^2}$$

故ニ

$$\frac{[p]}{r^2} = \frac{1}{r_n^2}$$

$$v_n = \sqrt{\frac{r^2}{[p]}} = \frac{r}{\sqrt{[p]}} \dots \dots \dots (17)$$

故ニ一般的平均值ノ現ハレ易キ誤差 r_n ハ其重みノ平方根ニテ重み 1 ナル觀測値ノ現ハレ易キ誤差 r ヲ除シタルモノニ等シ

前述ノ如キ方法ニ依リ r ヲ見出シ得ベシ併シ次ニ r ヲ見出ス他ノ方法ヲ示サン

今 h ヲ重み 1 ナル測量ノ精密度
 h_1, h_2, \dots, h_n ヲ重み夫々 p_1, p_2, \dots, p_n ナル測量ノ精密度
 トスレトキハ第三章第二節ニ依テ
 h_1, h_2, \dots, h_n ハ重みノ項ニテ現ハシ得ベシ即チ

$$h_1^2 = p_1 h^2$$

$$h_2^2 = p_2 h^2$$

.....

$$h_n^2 = p_n h^2$$

而シテ一般ニ x ヲ或誤差

p ヲ之レニ相當スル測量ノ重み
 h ヲ重み 1 ナル測量ノ精密度
 y ヲ其ぶろばびりちニ

第二章第七節ノ (3) 式ヨリ

$$y = h p^{\frac{1}{2}} \pi^{-\frac{1}{2}} dx e^{-h^2 p x^2}$$

而シテ $p_1 x_1^2$ ノ如キ項ハ n 個ノ測量中ニ於テ $n y_1$ 回現ハルル故ニ

$$n [p x x y] = [p x x]$$

故ニ誤差ノ連續スルモノニ向テ

$$\frac{[p x x]}{n} = [p x x y] = \frac{h \sqrt{p}}{\sqrt{\pi}} \int_{-\infty}^{+\infty} p x^2 e^{-h^2 p x^2} dx$$

今 $h x \sqrt{p} = t$ ヲ單位變數トスレトキハ

$$\frac{[p x x]}{n} = \frac{1}{h^2 \sqrt{\pi}} \int_{-\infty}^{+\infty} t^2 e^{-t^2} dt$$

此積分ノ値ハ第六節ニ依リ $\frac{\sqrt{\pi}}{2}$ ナリ

$$\frac{[p x x]}{n} = \frac{1}{h^2 \sqrt{\pi}} \times \frac{\sqrt{\pi}}{2} = \frac{1}{2 h^2} \dots \dots \dots (18)$$

而シテ $\frac{1}{h^2} = \left(\frac{r}{0.4769} \right)^2$

$$\frac{1}{2 h^2} = \frac{1}{2} \left(\frac{r}{0.4769} \right)^2 = \frac{[p x x]}{n}$$

故 = $r = 0.6745 \sqrt{\frac{[pxx]}{n}} \dots \dots \dots (19)$

之レ重み 1 ナル測量ノ現ハレ易キ誤差ナリ

而シテ [pxx] ハ真誤差ノ項ナリ而シテ

$$[pxx] > [pvv]$$

今 [pxx] = [pvv] + u² (式中 u² ハ定メラルル數)

或組ノ誤差ノ現ハルル「ぶろばびりち」ハ

$$P' = Ke^{-h^2[pxx]} = Ke^{-h^2([pvv] + u^2)} = K'e^{-h^2u^2}$$

故 = u² ノ「ぶろばびりち」ノ法則ハ誤差 (x) ノ「ぶろばびりち」ノ法則ニ似ルコトヲ見ル

而シテ第二章第七節ニ依リ K' = hπ^{-1/2} du

u² ノ現ハレ得ベキ總テノ値ノ平均數ハ

$$\frac{h}{\sqrt{\pi}} \int_{-\infty}^{+\infty} u^2 e^{-h^2 u^2} du = \frac{1}{2h^2}$$

[参考]

$$\frac{h}{\sqrt{\pi}} \int_{-\infty}^{+\infty} u^2 e^{-h^2 u^2} du = \frac{h}{h^2 \sqrt{\pi}} \int_{-\infty}^{+\infty} h^2 u^2 e^{-h^2 u^2} du$$

今 hu = t トスルトキハ

$$h du = dt$$

之ヲ前式ニ入ルルトキハ

$$\frac{1}{h^2 \sqrt{\pi}} \int_{-\infty}^{+\infty} t^2 e^{-t^2} dt = \frac{1}{h^2 \sqrt{\pi}} \times \frac{\sqrt{\pi}}{2} = \frac{1}{2h^2}$$

而シテ $\frac{1}{2h^2} = \frac{[pxx]}{n}$ ナリ

故 = $[pxx] = [pvv] + \frac{[pxx]}{n}$

故 = $\frac{[pxx]}{n} = \frac{[pvv]}{n-1}$

故 = 現ハレ易キ誤差ハ次ノ如シ

$$r = 0.6745 \sqrt{\frac{[pvv]}{n-1}} \dots \dots \dots (20)$$

一般平均値ノ現ハレ易キ誤差ハ次ノ如シ

$$r_n = 0.6745 \sqrt{\frac{[pvv]}{(n-1)[p]}} \dots \dots \dots (21)$$

而シテ測量ノ重みガ總テ 1 ナレバ [p] = n

$$r_n = 0.6745 \sqrt{\frac{[vv]}{(n-1)n}}$$

之レ第十節 (14) 式ト一致ス

又此重み p ナル第一觀測値ノ現ハレ易キ誤差ハ \sqrt{p} ニテ rヲ除シテ得

本章第四節 (9) 式

$$p_1 : p_2 : p = \frac{1}{r_1^2} : \frac{1}{r_2^2} : \frac{1}{r^2} \quad \text{式ノ如ク}$$

測量ノ重みハ其現ハレ易キ誤差ノ自乗ニ反比スルヲ以テ現ハレ易キ誤差ヲ精密ニ求ムルヲ得レバ重みヲ定ムルコト容易ナリ. 而シテ重みガ知ラルルトキハ第三章第三節ノ (2) 式即チ

$$z = \frac{p_1 l_1 + p_2 l_2 + \dots + p_n l_n}{p_1 + p_2 + \dots + p_n} \quad \text{式ニ依リ}$$

此測量ノ結果ヲ結合シテ最モ確カラシキ値ヲ定メ得可シ

第十三節 二個ノ測量ノ特別ノ場合

[其一] 測量ノ精密度ノ等シキ場合

二個ノ精密度等シキ觀測値アリ其差ヲ d トス即チ

$$\left. \begin{array}{l} \text{第一觀測値ヲ } l \\ \text{第二觀測値ヲ } l+d \end{array} \right\} \text{トスレバ}$$

算術的平均値ハ $x=l+\frac{d}{2}$ ナリ

残差ハ次ノ如シ

$$v_1=l+\frac{d}{2}-l=+\frac{d}{2}$$

$$v_2=l+\frac{d}{2}-(l+d)=-\frac{d}{2}$$

一測量ノ中數誤差ハ

$$m=\sqrt{\frac{[vv]}{n-1}}=\sqrt{\frac{\left(\frac{d}{2}\right)^2+\left(\frac{d}{2}\right)^2}{2-1}}=\pm\frac{d}{\sqrt{2}}=\pm 0.707d \dots\dots(1)$$

算術的平均値ノ中數誤差ハ

$$m_x=\frac{m}{\sqrt{2}}=\frac{d}{2}=0.5d \dots\dots(2)$$

[其二] 測量ノ精密度ノ等シカラザル場合

二個ノ精密度等シカラザル觀測値アリ其差ヲ d トス即チ

第一觀測値ヲ (l) 其ノ重みヲ (p)
 第二觀測値ヲ $(l+d)$ 其ノ重みヲ (q) } トスレバ

平均値ハ次ノ如シ

$$x=\frac{pl+q(l+d)}{p+q}=l+\frac{q}{p+q} \times d \dots\dots(3)$$

残差ハ次ノ如シ

$$\left. \begin{aligned} v_1 &= x-l = \left(l+\frac{q}{p+q} \times d\right) - l = +\frac{q}{p+q} \times d \\ v_2 &= x-(l+d) = \left(l+\frac{q}{p+q} \times d\right) - l - d = -\frac{p}{p+q} \times d \end{aligned} \right\} \dots\dots(4)$$

故ニ $v_1:v_2 = \frac{1}{p}:\frac{1}{q}$ ノ比例アリ $\dots\dots(5)$

單位重みノ觀測値ノ中數誤差ハ次ノ如シ

$$m = \sqrt{\frac{pv_1^2+qv_2^2}{2-1}}$$

之レニ殘差 v ノ値ヲ入ル、トキハ

$$m = \sqrt{p\left(\frac{v^2}{(p+q)^2}\right)d^2 + q\left(\frac{v^2}{(p+q)^2}\right)d^2} = d\sqrt{\frac{pq}{p+q}} \dots\dots(6)$$

平均値ノ中數誤差ハ

$$m_x = \frac{m}{\sqrt{p+q}} = \frac{d}{\sqrt{p+q}} \sqrt{\frac{pq}{p+q}} = \frac{d}{p+q} \sqrt{pq} \dots\dots(7)$$

平均前ノ中數誤差 (m_1 及 m_2) ハ次ノ如シ

$$m_1 = \frac{m}{\sqrt{p}} \quad m_2 = \frac{m}{\sqrt{q}} \dots\dots(8)$$

$$m_1:m_2 = \frac{1}{\sqrt{p}}:\frac{1}{\sqrt{q}} \dots\dots(9)$$

今 $p=1, q=2$ トスレバ

	第一測量	第二測量
觀測値	l	$l+d$
重み	$p=1$	$q=2$
平均前ノ中數誤差	$m_1=m$	$m_2=\frac{m}{\sqrt{2}}$
平均値	$x=l+\frac{2}{3}d$	
殘差	$v_1=+\frac{2}{3}d$	$v_2=-\frac{1}{3}d$
	$(v_1-v_2=d)$	

單位重みノ一測量ノ中數誤差 $m=d\sqrt{\frac{2}{3}}$

平均値ノ中數誤差 $m_x=\frac{d}{3}\sqrt{2}$

又次ノ比例アリ

平均前ノ中數誤差 $m_1:m_2 = \frac{1}{\sqrt{1}}:\frac{1}{\sqrt{2}} = \sqrt{2}:1 = 1.414:1$

精密度 $\frac{1}{m_1} : \frac{1}{m_2} = 1 : 1.414$

殘差 $v_1 : v_2 = +\frac{2}{3}d : -\frac{1}{3}d = 2 : 1$

第十四節 三角形ノ内角ノ平均法

其一 精密度等シキ場合

第八圖ノ平面三角形ニ於テ等シキ精密度ヲ以テ其ノ三内角ヲ測定シ α, β 及 γ ナル結果ヲ得タルトキハ $\alpha + \beta + \gamma = 180^\circ$ ナルベキ筈ナルモ測定ニ誤差アルタメ $\alpha + \beta + \gamma - 180^\circ = w$ トナルトキハ此 w ヲ三角ニ等分ス其ノ理由ハ次ノ如シ

今三角中ノ一角ヲ未知數ト假定シ第一角ニ對シ二個ノ無關係ナル觀測値アリトセヨ即チ

$x_1 = \alpha$ 其ノ重み $p_1 = 1 \dots \dots \dots (1)$

$x_2 = 180^\circ - (\beta + \gamma)$ 其ノ重み $p_2 = \frac{1}{2} \dots \dots \dots (2)$

【参考】

x_1 ノ中數誤差ハ $m_1 = \pm m$

x_2 ノ中數誤差ハ $m_2 = \pm m \pm m = \pm m\sqrt{2}$

之レ β 及 γ ノ誤差ガ共ニ備クテ以テナリ

故ニ $m_1 : m_2 = 1 : \sqrt{2}$

$p_1 : p_2 = \frac{1}{m_1^2} : \frac{1}{m_2^2} = 1 : \frac{1}{2}$

平均値ハ次ノ如シ

$$x = \frac{1 \times \alpha + \frac{1}{2} [180^\circ - (\beta + \gamma)]}{1 + \frac{1}{2}} \dots \dots \dots (3)$$

而シテ $\alpha + \beta + \gamma - 180^\circ = w \dots \dots \dots (4)$

即チ $180^\circ - (\beta + \gamma) = \alpha - w$ ナル故ニ

$$x = \frac{2\alpha + (\alpha - w)}{3} = \alpha - \frac{w}{3} \dots \dots \dots (5)$$

同様ニ第二角及第三角ニ於テハ

$y = \beta - \frac{w}{3}$ 及 $z = \gamma - \frac{w}{3}$ ヲ得

而シテ此ノ三内角ノ和ハ次ノ如シ

$x = \alpha - \frac{w}{3}$

$y = \beta - \frac{w}{3}$

$z = \gamma - \frac{w}{3}$

和 $x + y + z = \alpha + \beta + \gamma - w$

次ニ中數誤差ヲ計算セン

x_1 ノ修正數 $v_1 = \frac{w}{3} \dots \dots \dots (6)$

x_2 ノ修正數 $v_2 = \frac{w}{3} + \frac{w}{3} = \frac{2w}{3} \dots \dots \dots (7)$

單位重みノ觀測値ノ中數誤差ハ次ノ如シ

$$m = \pm \sqrt{\frac{p_1 v_1^2 + p_2 v_2^2}{2-1}} = \pm \sqrt{\left(\frac{w}{3}\right)^2 + \frac{1}{2} \left(\frac{2w}{3}\right)^2} = \pm \frac{w}{\sqrt{3}} \dots \dots (8)$$

而シテ平均前ノ α, β 及 γ 角ノ重みハ 1 ナルヲ以テ之レハ平均前ノ角ノ中數誤差ニシテ平均値 (x) ノ重みハ $p_1 + p_2 = \frac{3}{2}$ ナルヲ以テ

$$m_x = \pm \frac{m}{\sqrt{\frac{3}{2}}} = \pm \frac{w}{\sqrt{3}} \times \frac{\sqrt{2}}{\sqrt{3}} = \pm \frac{w}{3} \sqrt{2} \dots \dots \dots (9)$$

【参考】

内角ノ誤差 (w) ハ三個ノ誤差 ($\pm m$) ヲ引起ルモノニシテ即チ $\pm m \pm m \pm m = \pm w$

$$m^2 + m^2 + m^2 = w^2 \text{ 故} = m = \pm \frac{w}{\sqrt{3}}$$

$$\text{故} = m_x : m = \pm \frac{w}{3} \sqrt{2} : \pm \frac{w}{\sqrt{3}} = \sqrt{\frac{2}{3}} : 1 = 0.816 : 1 \dots\dots(10)$$

平均ノ爲メニ中數誤差ハ 0.8 : 1 ノ割合ニ減ジ精密度ハ 1 : 0.8 ノ割合ニ増加ス即チ三角形ノ三角ノ平均ニ依リテ一角ノ精密度ハ二割増スモノナリ

其二 精密度ノ等シカラザル場合

$$\text{三内角ノ観測値ヲ } \alpha, \beta, \gamma \dots\dots(11)$$

$$\text{其ノ重みヲ } p_\alpha, p_\beta, p_\gamma \dots\dots(12)$$

$$\text{誤差ヲ } \alpha + \beta + \gamma - 180^\circ = w \dots\dots(13)$$

單位重みノ中數誤差ヲ m トスレバ

$$m_\alpha = \frac{m}{\sqrt{p_\alpha}}, m_\beta = \frac{m}{\sqrt{p_\beta}}, m_\gamma = \frac{m}{\sqrt{p_\gamma}} \dots\dots(14)$$

$$m_\alpha^2 = m^2 \left(\frac{1}{p_\alpha} \right) \quad m_\beta^2 + m_\gamma^2 = m^2 \left(\frac{1}{p_\beta} + \frac{1}{p_\gamma} \right) \dots\dots(15)$$

今 p_1 ヲ α ノ重み } トスレバ
 p_2 ヲ $(\beta + \gamma)$ ノ重み }

$$p_1 = \frac{1}{p_\alpha}, \quad p_2 = \frac{1}{\frac{1}{p_\beta} + \frac{1}{p_\gamma}} \dots\dots(16)$$

$$p_1 + p_2 = \frac{1}{p_\alpha} + \frac{1}{\frac{1}{p_\beta} + \frac{1}{p_\gamma}}$$

$$[p] = \frac{\left[\frac{1}{p} \right]}{\frac{1}{p_\alpha} \left(\frac{1}{p_\beta} + \frac{1}{p_\gamma} \right)} \dots\dots(17)$$

式中 $\left[\frac{1}{p} \right] = \frac{1}{p_\alpha} + \frac{1}{p_\beta} + \frac{1}{p_\gamma}$

$$x = \frac{p_1 \alpha + p_2 [180^\circ - (\beta + \gamma)]}{p_1 + p_2} = \frac{p_1 \alpha + p_2 (\alpha - w)}{p_1 + p_2}$$

$$= \frac{(p_1 + p_2) \alpha - p_2 w}{p_1 + p_2}$$

$$= \alpha - \frac{p_2}{p_1 + p_2} \times w$$

$$= \alpha - \frac{\frac{1}{\frac{1}{p_\beta} + \frac{1}{p_\gamma}}}{\frac{1}{p_\alpha} + \frac{1}{\frac{1}{p_\beta} + \frac{1}{p_\gamma}}} \times w = \alpha - \frac{\frac{1}{\left[\frac{1}{p} \right]}}{\frac{1}{p_\alpha} \left(\frac{1}{p_\beta} + \frac{1}{p_\gamma} \right)} \times w$$

$$x = \alpha - \frac{\frac{1}{p_\alpha}}{\left[\frac{1}{p} \right]} \times w \dots\dots(18)$$

故ニ w ヲ α, β 及 γ 角ニ分ツニハ重みニ反比シテ分ツベシ

單位重みノ中數誤差ハ $m = \pm \frac{w}{\sqrt{\left[\frac{1}{p} \right]}}$ ナリ $\dots\dots(19)$

【参考】

$$x_1 \text{ ノ修正數 } v_1 = \frac{\frac{1}{p_\alpha}}{\left[\frac{1}{p} \right]} \times w$$

$$x_2 \text{ ノ修正數 } v_2 = \frac{\frac{1}{p_\beta} + \frac{1}{p_\gamma}}{\left[\frac{1}{p} \right]} \times w$$

$$m = \pm \sqrt{\frac{p_1 v_1^2 + p_2 v_2^2}{2-1}} = \pm \sqrt{\frac{p_1 \left(\frac{1}{p_\alpha} \right)^2 w^2}{\left[\frac{1}{p} \right]^2} + \frac{p_2 \left(\frac{1}{p_\beta} + \frac{1}{p_\gamma} \right)^2 w^2}{\left[\frac{1}{p} \right]^2}}$$

$$= \pm \frac{w}{\left[\frac{1}{p} \right]} \sqrt{p_1 \left(\frac{1}{p_\alpha} \right)^2 + p_2 \left(\frac{1}{p_\beta} + \frac{1}{p_\gamma} \right)^2}$$

$$= \pm \frac{w}{\left[\frac{1}{p}\right]} \sqrt{p_1 \left(\frac{1}{p_\alpha}\right)^2 + \frac{1}{\left(\frac{1}{p_\beta} + \frac{1}{p_\gamma}\right)} \left(\frac{1}{p_\beta} + \frac{1}{p_\gamma}\right)^2}$$

$$= \pm \frac{w}{\left[\frac{1}{p}\right]} \sqrt{\frac{1}{p_\alpha} + \frac{1}{p_\beta} + \frac{1}{p_\gamma}} = \pm \frac{w}{\left[\frac{1}{p}\right]} \sqrt{\left[\frac{1}{p}\right]} = \pm \frac{w}{\sqrt{\left[\frac{1}{p}\right]}}$$

平均前ノα角ノ中數誤差ハ

$$m_\alpha = \frac{m}{\sqrt{p_\alpha}} = w \frac{\sqrt{\frac{1}{p_\alpha}}}{\sqrt{\left[\frac{1}{p}\right]}} \dots \dots \dots (20)$$

平均後ノα角ノ中數誤差ハ

$$m'_\alpha = w \frac{\sqrt{\frac{1}{p_\alpha} \left(\frac{1}{p_\beta} + \frac{1}{p_\gamma}\right)}}{\left[\frac{1}{p}\right]} \dots \dots \dots (21)$$

【参考】

$$m'_\alpha = \frac{m}{\sqrt{[p]}} = \frac{w}{\sqrt{\left[\frac{1}{p}\right]}} \times \frac{1}{\sqrt{[p]}}$$

(17) 式ニ依リ

$$= \frac{w}{\sqrt{\left[\frac{1}{p}\right]}} \times \frac{1}{\sqrt{\frac{1}{p_\alpha} \left(\frac{1}{p_\beta} + \frac{1}{p_\gamma}\right)}}$$

$$= \frac{w}{\left[\frac{1}{p}\right]} \times \frac{\sqrt{\frac{1}{p_\alpha} \left(\frac{1}{p_\beta} + \frac{1}{p_\gamma}\right)}}{1} = \frac{w}{\left[\frac{1}{p}\right]} \times \sqrt{\frac{1}{p_\alpha} \left(\frac{1}{p_\beta} + \frac{1}{p_\gamma}\right)}$$

【實例】

球面三角形 ABC (第八圖) = 於テ次ノ如キ觀測値及重みアリ

	觀測値	重み
α	72° 16' 44.86"	p _α =27
β	90° 1' 56.46"	p _β =42
γ	17° 41' 17.43"	p _γ =65

和 α+β+γ=179° 59' 58.75"

條件 = 180° 00' 0.29"

故ニ w = -1.54"

$$\frac{1}{p_\alpha} = 0.037 \quad \frac{1}{p_\beta} = 0.024 \quad \frac{1}{p_\gamma} = 0.015$$

$$\left[\frac{1}{p}\right] = 0.037 + 0.024 + 0.015 = 0.076$$

$$v_\alpha = \frac{1}{p_\alpha} \times w = \frac{0.037}{0.076} \times 1.54 = +0.75''$$

$$v_\beta = \frac{1}{p_\beta} \times w = \frac{0.024}{0.076} \times 1.54 = +0.49''$$

$$v_\gamma = \frac{1}{p_\gamma} \times w = \frac{0.015}{0.076} \times 1.54 = +0.30''$$

觀測値	修正數	平均角
72° 16' 44.86"	+0.75"	72° 16' 45.61"
90° 1' 56.46"	+0.49	90° 1' 56.95
17° 41' 17.43"	+0.30	17° 41' 17.73
179° 59' 58.75"	+1.54"	180° 0' 0.29"

單位重みノ中數誤差ハ

$$m = \pm \frac{w}{\sqrt{\left[\frac{1}{p}\right]}} = \pm \frac{1.54''}{\sqrt{0.076}} = \pm \frac{1.54}{0.2757} = \pm 5.59''$$

又 (21) 式ニ依リ平均角ノ中數誤差ヲ計算スレバ次ノ如シ

α=72°	16'	45.61	±0.77"
β=90	1	56.95	±0.72
γ=17	41	17.73	±0.61

【参考】

$$m_\gamma = w \frac{\sqrt{\frac{1}{p_\gamma} \left(\frac{1}{p_\alpha} + \frac{1}{p_\beta}\right)}}{\left[\frac{1}{p}\right]} = \frac{1.54 \sqrt{0.037(0.024+0.015)}}{0.076}$$

$$= \frac{1.54 \sqrt{0.037 \times 0.039}}{0.076} = \frac{1.54}{0.076} \times \sqrt{0.001443}$$

$$= \frac{1.54}{0.076} \times 0.038 = \frac{0.05852}{0.076} = 0.77''$$

【参考】

地球・回轉橢圓體ニシテ其外部ハ球面ヲナスガ故ニ地球面上ノ大部分ヲ測量スル場合ニハ地表面ヲ球面トシ球面三角法ニ依リ算定スルヲ要ス
球面餘剰εハ次式ニ依リテ算出ス

$$\epsilon = \frac{F}{R^2} \rho \quad \alpha + \beta + \gamma = 180^\circ + \epsilon$$

式中 F ハ三角形ノ面積

$$R \text{ ハ地球ノ半徑} = 6,500,000 \text{ 米}$$

$$\rho \text{ ハ } 206265$$

第十五節 觀測値ノ差ヨリ中數誤差ヲ定ムル法

l_1 及 l_2 ヲ觀測値 } トスレバ
 $l_1 - l_2 = d$ ヲ觀測値ノ差

算術的平均値 $x = \frac{l_1 + l_2}{2}$

殘差 $v_1 = x - l_1 = -\frac{d}{2}$
 $v_2 = x - l_2 = +\frac{d}{2}$

一測量ノ中數誤差ハ

$$m = \sqrt{\frac{[vv]}{n-1}} = \sqrt{\frac{[vv]}{2-1}} = \sqrt{\frac{\left(\frac{d}{2}\right)^2 + \left(\frac{d}{2}\right)^2}{1}}$$

$$= \sqrt{\frac{d^2}{4} + \frac{d^2}{4}} = \frac{d}{\sqrt{2}} \dots \dots \dots (1)$$

算術的平均値ノ中數誤差ハ次ノ如シ

$$m_x = \frac{m}{\sqrt{n}} = \frac{m}{\sqrt{2}} = \frac{d}{\sqrt{2}} \times \frac{1}{\sqrt{2}} = \frac{d}{2} \dots \dots \dots (2)$$

又 $d = m\sqrt{2}$ ナル故ニ二個ノ觀測値ノ差ハ一測量ノ中數誤差ノ $\sqrt{2}$ 倍ナリ又 n 個ノ部分ニ分チテナストキニハ其各部ノ往復ノ差ヲ d トシ其ノ距離ヲ稍等シクシテ重みノ等シキ場合トスレバ此 n 個ノ差ヨリ平均ノ差ヲ算出スベシ

今往復測定ノ結果ヲ l 及 l' トシ其ノ眞誤差ヲ ϵ 及 ϵ' トスレバ

$$\left. \begin{aligned} l_1 + \epsilon_1 &= l'_1 + \epsilon'_1 & \text{或ハ } l_1 - l'_1 &= d_1 = \epsilon'_1 - \epsilon_1 \\ l_2 + \epsilon_2 &= l'_2 + \epsilon'_2 & l_2 - l'_2 &= d_2 = \epsilon'_2 - \epsilon_2 \\ \dots\dots\dots & & \dots\dots\dots & \\ l_n + \epsilon_n &= l'_n + \epsilon'_n & l_n - l'_n &= d_n = \epsilon'_n - \epsilon_n \end{aligned} \right\} \dots \dots \dots (3)$$

故ニ往復測定ノ差ノ自乗ノ和ハ

$$[d^2] = [\epsilon^2] + [\epsilon'^2] - 2[\epsilon\epsilon']$$

及 $\frac{[d^2]}{n} = \frac{[\epsilon^2]}{n} + \frac{[\epsilon'^2]}{n} - \frac{2[\epsilon\epsilon']}{n} \dots \dots \dots (4)$

此式ニテ $\frac{[\epsilon^2]}{n}$ 及 $\frac{[\epsilon'^2]}{n}$ ハ等シキ精密度ヲ以テ測定シタルモノノ中數誤差ノ自乗即チ m^2 又 $\frac{2[\epsilon\epsilon']}{n}$ ハ測定ヲ反覆スレバ終ニ零トナルベ

キモノナルヲ以テ $\frac{[d^2]}{n} = m^2 + m^2 = 2m^2$

故ニ一測定ノ中數誤差ハ $m = \sqrt{\frac{[d^2]}{2n}} \dots \dots \dots (5)$

往復測定ノ中數誤差ハ $m_x = \frac{m}{\sqrt{2}} = \frac{1}{2} \sqrt{\frac{[d^2]}{n}} \dots \dots \dots (6)$

l_1, l_2 等ノ距離等シカラズシテ重み等シカラザルトキハ先ヅ重み 1 ノ測定ノ中數誤差ヲ算出セザルベカラズ例ヘバ

l ノ重みヲ p トスレバ $l\sqrt{p}$ ノ重みハ 1 ナリ

【参考】

$$\left. \begin{aligned} x &= al \dots \dots \dots (1) \\ m_x &= am \dots \dots \dots (2) \end{aligned} \right\} \text{式 = 依り}$$

$$x = \sqrt{p} \times l \text{ ナルトキハ}$$

$$m_x = \sqrt{p} \times m$$

$$\frac{1}{m_x^2} : \frac{1}{m^2} = p_x : p \quad \frac{1}{pm^2} : \frac{1}{m^2} = p_x : p$$

$$\text{故 = } p_x = 1$$

今 (3) 式 = $\sqrt{p_1}, \sqrt{p_2}$ 等ヲ乗ズレバ等シキ重みノモノトナル

而シテ其眞誤差ハ

$$\varepsilon_1 \sqrt{p_1} \cdot \varepsilon_2 \sqrt{p_2} \dots \dots \dots \text{等トナル}$$

故 = (4) 式ノ代リ = 次式ヲ得

$$\frac{[d^2 p]}{n} = \frac{[\varepsilon^2 p]}{n} + \frac{[\varepsilon'^2 p]}{n} - \frac{2[\varepsilon \varepsilon' \sqrt{p} \sqrt{p'}]}{n} \dots \dots \dots (7)$$

而シテ $\frac{2[\varepsilon \varepsilon' \sqrt{p} \sqrt{p'}]}{n} = 0$ ナル故 =

$$\frac{[d^2 p]}{n} = m^2 + m'^2 = 2m^2$$

故 = 重み 1 ナル観測値ノ中數誤差ハ

$$m = \sqrt{\frac{[pd^2]}{2n}} \dots \dots \dots (8)$$

重み 1 ナル二個ノ観測値ノ平均値或ハ往復測量ノ平均値ノ中數誤差ハ

$$m_x = \frac{1}{2} \sqrt{\frac{[pd^2]}{n}} \dots \dots \dots (9)$$

之レガ應用ハ基線測量或ハ水準測量ヲ往復ナス如キ場合ナリ

距離測量ノ中數誤差ハ距離 S ノ平方根 = 比例シテ増ス

故 = 重みハ $(\sqrt{s})^2$ 即チ S = 反比例ス

故 = 一回測量ノ中數誤差ハ (s=1 = 付キ)

$$m = \sqrt{\frac{[pd^2]}{2n}} = \frac{1}{2n} \left(\frac{d_1^2}{s_1} + \frac{d_2^2}{s_2} + \dots + \frac{d_n^2}{s_n} \right) = \sqrt{\frac{1}{2n} \left[\frac{d^2}{s} \right]} \dots \dots \dots (10)$$

又二回測量ノ平均ノ中數誤差ハ (s=1 = 付キ)

$$m_x = \frac{1}{2} \sqrt{\frac{1}{n} \left[\frac{d^2}{s} \right]} \dots \dots \dots (11)$$

【實例】 鐵道水準測量ノ場合

測點	I 第一回水準 測量 = 依ル 高低差(米)	II 第二回水準 測量 = 依ル 高低差(米)	I-II d(米)	d'	距離 s(米)	$\frac{d^2}{s}$	平均値(米) $\frac{I+II}{2}$
1	-0.1853	-0.1850	+0.6	0.36	0.72	0.49	-0.1856
2	1.6258	1.6262	-0.4	0.16	0.42	0.36	1.6260
3	1.4329	1.43.3	+0.6	0.36	0.47	0.81	1.4326
4	0.5106	0.5094	+1.2	1.44	0.48	2.89	0.5100
5	-0.0073	-0.0049	-2.4	5.76	0.51	11.56	-0.0061
6	0.5894	0.5848	+4.6	21.16	0.57	37.21	0.5871
7	-0.0560	-0.0603	+4.2	17.64	0.74	24.01	-0.0581
8	-0.3869	-0.3861	-0.8	0.64	0.30	2.25	-0.3865
9	0.5384	0.5384	0.0	0.00	0.64	0.00	0.5384
10	2.0364	2.0386	-2.2	4.84	0.85	5.76	2.0375
11	1.3718	1.3740	-2.2	4.84	0.57	8.41	1.3729
n=11	7.4698	7.4666	+3.2	10.24	6.27	93.75	7.4682

距離 1 軒ノ一回測量値ノ中數誤差ハ

$$m = \sqrt{\frac{1}{2n} \left[\frac{d^2}{s} \right]} = \sqrt{\frac{1}{22} \times 93.75} = \sqrt{4.26} = \pm 2.06 \text{ 米} \dots \dots \dots (12)$$

距離 1 軒ノ往復測量平均値ノ中數誤差ハ

$$m_x = \frac{1}{2} \sqrt{\frac{1}{n} \left[\frac{d^2}{s} \right]} = \frac{1}{2} \sqrt{\frac{93.75}{11}} = \pm 1.46 \text{ 米} \dots \dots \dots (13)$$

或ハ

$$m_x = \frac{m}{\sqrt{2}} = \frac{2.06}{1.414} = \pm 1.46 \text{ 米}$$

【實例】 基線測量ノ場合

線ヲ二ツノ部分ニ分チ往復測量シテ結果ヲ得タリ

	第一部分	第二部分	平均距離
第一測定	441.1852米	1381.1571米	1822.344米
第二測定	441.1839米	1381.1632米	
差	$d_1 = +1.3$ 米	$d_2 = -6.1$ 米	

差ハ耗 距離ハ軒 = テ示セバ $S_1 = 0.441, S_2 = 1.381, n = 2$ ナル故 = (9) 式 = 從テ

$$m_x = \frac{1}{4} \left(\frac{1.3^2}{0.441} + \frac{6.1^2}{1.381} \right) = 7.70 \dots \dots \dots (14)$$

$$m = \pm 2.78 \text{ 耗 (1 耗 = 付キ)}$$

之レ長サノ單位1耗ノ一回測量ノ中數誤差ナリ

長サ1耗ノ二回測量ノ平均値ノ中數誤差ハ(10)式ニ從テ

$$m_x = \frac{m}{\sqrt{2}} = \frac{2.78}{\sqrt{2}} = \pm 1.96 \text{ 耗 (1 耗 = 付キ)} \dots\dots\dots (15)$$

全平均 1822.3447 米ノ中數誤差ハ

$$m_x' = m_x \sqrt{S_1 + S_2} = 1.96 \sqrt{1.822} = \pm 2.65 \text{ 耗} \dots\dots\dots (16)$$

依テ基線ノ長サハ 1822.3447 ± 0.0027 米

第十六節 重みノ係數

今法正式ヲ解キテ x, y, z ナリノ直線函數トシテ表ストキハ

$$\left. \begin{aligned} x &= \alpha_1 l_1 + \alpha_2 l_2 + \alpha_3 l_3 + \alpha_4 l_4 \\ y &= \beta_1 l_1 + \beta_2 l_2 + \beta_3 l_3 + \beta_4 l_4 \\ z &= \gamma_1 l_1 + \gamma_2 l_2 + \gamma_3 l_3 + \gamma_4 l_4 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (1)$$

今 l ノ中數誤差ヲ m } トスレバ
 z ノ中數誤差ヲ m_z }

$$\begin{aligned} m_z^2 &= \gamma_1^2 m^2 + \gamma_2^2 m^2 + \gamma_3^2 m^2 + \gamma_4^2 m^2 \\ m_z^2 &= (\gamma_1^2 + \gamma_2^2 + \gamma_3^2 + \gamma_4^2) m^2 = [\gamma\gamma] m^2 \dots\dots\dots (2) \end{aligned}$$

$$\frac{1}{p_z} = [\gamma\gamma] \dots\dots\dots (3)$$

今 z ナ法正式ヨリ定ムルニ不定係數ノ方法ニヨリテナサントス即チ不定係數 Q_1, Q_2, Q_3 ナ

法正式ニ乗ズルトキハ

$$\left. \begin{aligned} Q_1[aa]x + Q_1[ab]y + Q_1[ac]z + Q_1[al] &= 0 \\ Q_2[ab]x + Q_2[bb]y + Q_2[bb]z + Q_2[bl] &= 0 \\ Q_3[ac]x + Q_3[bc]y + Q_3[cc]z + Q_3[cl] &= 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (4)$$

而シテ此三式ヲ加ヘテ x 及 y ナ消去セシメ z ノ係數ヲ 1 トスル如ク Q_1, Q_2, Q_3 ナ定ムレ

バ即チ

$$\left. \begin{aligned} Q_1[aa] + Q_2[ab] + Q_3[ac] &= 0 \\ Q_1[ab] + Q_2[bb] + Q_3[bc] &= 0 \\ Q_1[ac] + Q_2[bc] + Q_3[cc] &= 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (5)$$

然ルトキハ(4)式ノ三個ノ式ノ和ハ

$$z - Q_1[al] - Q_2[bl] - Q_3[cl] = 0 \dots\dots\dots (6)$$

$$\begin{aligned} \text{即チ} \quad z &= Q_1(a_1 l_1 + a_2 l_2 + a_3 l_3 + a_4 l_4) \\ &+ Q_2(b_1 l_1 + b_2 l_2 + b_3 l_3 + b_4 l_4) \\ &+ Q_3(c_1 l_1 + c_2 l_2 + c_3 l_3 + c_4 l_4) \end{aligned}$$

此式ヲ l_1, l_2, l_3, l_4 ノ順序ニ配列スルトキハ

$$\left. \begin{aligned} z &= (Q_1 a_1 + Q_2 b_1 + Q_3 c_1) l_1 \\ &+ (Q_1 a_2 + Q_2 b_2 + Q_3 c_2) l_2 \\ &+ (Q_1 a_3 + Q_2 b_3 + Q_3 c_3) l_3 \\ &+ (Q_1 a_4 + Q_2 b_4 + Q_3 c_4) l_4 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (7)$$

此式ヲ(1)式ノ第三式即チ

$$\begin{aligned} z &= \gamma_1 l_1 + \gamma_2 l_2 + \gamma_3 l_3 + \gamma_4 l_4 \quad \text{ト對照スレバ} \\ \gamma_1 &= Q_1 a_1 + Q_2 b_1 + Q_3 c_1 \\ \gamma_2 &= Q_1 a_2 + Q_2 b_2 + Q_3 c_2 \\ \gamma_3 &= Q_1 a_3 + Q_2 b_3 + Q_3 c_3 \\ \gamma_4 &= Q_1 a_4 + Q_2 b_4 + Q_3 c_4 \end{aligned} \left\} \dots\dots\dots (8)$$

此式ニ a_1, a_2, a_3, a_4 ナ乗ジテ加フル時ハ(5)式ニ依テ

$$\begin{aligned} [a\gamma] &= [aa]Q_1 + [ab]Q_2 + [ac]Q_3 = 0 \\ \text{又 } b \text{ 及 } c \text{ ナ乗ズル時ハ同様ニ} \\ [b\gamma] &= [ab]Q_1 + [bb]Q_2 + [bc]Q_3 = 0 \\ [c\gamma] &= [ac]Q_1 + [bc]Q_2 + [cc]Q_3 = 1 \end{aligned} \left\} \dots\dots\dots (9)$$

而シテ x, y ナ除去シテ z ナ定ムルニ

$$[a\gamma] = 0, [b\gamma] = 0, [c\gamma] = 1 \quad \text{ノ三式アリ}$$

同様ニシテ x 及 y ナ定ムルトキハ $[a\alpha] = 1, [b\beta] = 1$ ナ得ベシ

$$\text{故ニ} \quad \left. \begin{aligned} [a\alpha] &= 1 & [b\alpha] &= 0 & [c\alpha] &= 0 \\ [a\beta] &= 0 & [b\beta] &= 1 & [c\beta] &= 0 \\ [a\gamma] &= 0 & [b\gamma] &= 0 & [c\gamma] &= 1 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (10)$$

又 $\alpha_1, \alpha_2, \alpha_3, \alpha_4$ ナ(8)式ニ乗ズルトキハ

$$[a\gamma] = Q_1[a\alpha] + Q_2[b\alpha] + Q_3[c\alpha]$$

而シテ(10)式ニ依テ

$$[a\gamma] = Q_1 \times 1 + Q_2 \times 0 + Q_3 \times 0 = Q_1$$

同様ニ(8)式ニ β 及 γ ナ乗ズルトキハ

$$[b\gamma] = Q_2 \text{ 及 } [c\gamma] = Q_3 \left\} \dots\dots\dots (11)$$

此(11)式ヲ(6)式ニ入ルニトキハ

$$z = [\alpha\gamma][al] + [\beta\gamma][bl] + [\gamma\gamma][cl] \dots\dots\dots (12)$$

此(11)式ヲ(5)式=入ルル時ハ

$$\left. \begin{aligned} [aa][\alpha\gamma] + [ab][\beta\gamma] + [ac][\gamma\gamma] &= 0 \\ [ab][\alpha\gamma] + [bb][\beta\gamma] + [bc][\gamma\gamma] &= 0 \\ [ac][\alpha\gamma] + [br][\beta\gamma] + [cc][\gamma\gamma] &= 1 \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (13)$$

此(12)(13)式=依リテzヲ求ムルヲ得ベシ

第十七節 多數ノ未知數ニ於ケル獨立測量ノ現ハレ易キ誤差

今 p_1 ヲ z ノ重みトシ

r ヲ重み1ナル測量ノ現ハレ易キ誤差トスレバ次ノ關係アリ

$$p_1 : 1 = \frac{1}{r^2} : \frac{1}{r^2}$$

故=
$$r = \frac{1}{\sqrt{p_1}} \dots\dots\dots (1)$$

故=整正值 z_1, z_2, \dots, z_q ノ現ハレ易キ誤差ヲ見出スニハ r 及此等ノ値ノ重みヲ見出スコト必要ナリ

一般=或ル觀測値ノ現ハレ易キ誤差ハ重み1ナル觀測値ノ現ハレ易キ誤差 r ヲ其重みノ平方根ニテ除シタルモノナリ

重み1ナル觀測値ノ現ハレ易キ誤差ヲ見出スニハ次ノ理論=依ル法正式ヲ解キテ最モ確カラシキ値 z_1, z_2, \dots, z_q ヲ得タリト假定シ其眞値ヲ $z_1 + \delta_1, z_2 + \delta_2, \dots, z_q + \delta_q$ トス

但シ $\delta_1, \delta_2, \dots, \delta_q$ ハ小サキ未知修正數ナリ

觀測式=最モ確カラシキ値ヲ代入スルトキハ之レハ零トナラズシテ小サキ殘差 v_1, v_2, \dots, v_q ヲ生ズ即チ

$$a_1 z_1 + b_1 z_2 + \dots + f_1 z_q - l_1 = v_1 \quad \text{重み } p_1$$

$$a_2 z_1 + b_2 z_2 + \dots + f_2 z_q - l_2 = v_2 \quad \text{重み } p_2$$

$$a_n z_1 + b_n z_2 + \dots + f_n z_q - l_n = v_n \quad \text{重み } p_n$$

然レドモ若シ眞値ヲ代入スレバ眞誤差ヲ殘スベシ即チ

$$a_1(z_1 + \delta_1) + b_1(z_2 + \delta_2) + \dots - l_1 = x_1$$

$$a_2(z_1 + \delta_1) + b_2(z_2 + \delta_2) + \dots - l_2 = x_2$$

$$a_n(z_1 + \delta_1) + b_n(z_2 + \delta_2) + \dots - l_n = x_n$$

此等ノ式ヨリ前式ヲ減ズルトキハ次ノ殘差式ヲ得

$$v_1 + a_1 \delta_1 + b_1 \delta_2 + \dots + f_1 \delta_q = x_1$$

$$v_2 + a_2 \delta_1 + b_2 \delta_2 + \dots + f_2 \delta_q = x_2$$

$$v_n + a_n \delta_1 + b_n \delta_2 + \dots + f_n \delta_q = x_n$$

最小二乘法ノ主義=依リ z_1, z_2, \dots, z_q ノ最モ確カラシキ値ヲ得ルニハ $[pxx]$ ヲ最小ニナスヲ要ス而シテ法正式ノ解法=於テ其最小値ハ $[pvv]$ ナリ

殘差式ヨリ $[pvv]$ ト $[pxx]$ トノ關係ヲ見出スヲ得ベシ即チ此等ノ式ノ兩側ノ項ヲ二乗シ其重みヲ乘ジ此積ヲ加フレバ可ナリ

而シテ $\delta_1, \delta_2, \dots, \delta_q$ ノ二乗及相乘積ハ一次ノモノト比スレバ小ナル故=省クトキハ次ノ結果ヲ得

$$[pvv] + k_1 \delta_1 + k_2 \delta_2 + \dots + k_q \delta_q = [pxx]$$

式中 k_1, k_2, \dots, k_q ハ未知修正數ノ係數=シテ既知係數及重み=關係スルモノナリ. 而シテ其項數ハ未知數ノ項數=等シ.

$$\text{今 } k_1 \delta_1 = u_1^2 \quad k_2 \delta_2 = u_2^2 \quad \dots \quad k_q \delta_q = u_q^2 \quad \text{トスルトキハ}$$

$$[pvv] + u_1^2 + u_2^2 + \dots + u_q^2 = [pxx]$$

而シテ精密度 h 重み p_1 ナル誤差 x_1 ノ現ハルル「ぶろばびりち」ハ第二章第七節ニ依リ

$$y_1 = hp_1^{\frac{1}{2}} \pi^{-\frac{1}{2}} dx e^{-h^2 p_1 x^2}$$

式中 h ハ重み 1 ナル観測ノ精密度ナリ故ニ第十一節 (18) 式ト同理ニテ n ガ大ナル數ナルトキハ

$$[pxx] = \frac{n}{2h^2}$$

又未知數ガ只一個ノ場合ニハ u^2 モ亦只一個ニシテ其値ハ $\frac{1}{2h^2}$ ナリ而シテ之レハ如何ナル未知數ノ場合ニテモ正シキ故ニ u^2 ノ値ハ何レモ $\frac{1}{2h^2}$ ニシテ此等ノ値ガ q アル故ニ次ノ結果トナル

$$[pvv] + \frac{q}{2h^2} = \frac{n}{2h^2}$$

$$\text{故ニ} \quad h = \sqrt{\frac{n-q}{2[pvv]}}$$

而シテ $hr = 0.4769$ ナル故ニ重み 1 ナル測量ノ現ハレ易キ誤差ハ次ノ如シ

$$r = 0.6745 \sqrt{\frac{[pvv]}{n-q}} \dots \dots \dots (2)$$

z_1, z_2, \dots, z_q ナル値ノ現ハレ易キ誤差ハ其重みヲ知レバ

$$\gamma_i = \frac{r}{\sqrt{p_i}} \text{ ナル式ヨリ見出サレ}$$

観測値 l_1, l_2, \dots, l_n 等ヨリ観測式及法正式ヲ作り法正式ヲ解ケバ l_1, l_2, \dots, l_n 及未知數ニ關係ナキ係數ノ項ニテ z_1, z_2, \dots, z_q ノ値ヲ示スヲ得

今解法ニ依テ次ノ結果ヲ得タリトス

$$z_1 = \sigma_1 l_1 + \sigma_2 l_2 + \sigma_3 l_3 + \dots + \sigma_n l_n$$

$$z_2 = \tau_1 l_1 + \tau_2 l_2 + \tau_3 l_3 + \dots + \tau_n l_n$$

$$\dots \dots \dots$$

$$z_q = \xi_1 l_1 + \xi_2 l_2 + \xi_3 l_3 + \dots + \xi_n l_n$$

式中 σ, τ, \dots, ξ 等ハ係數ニシテ a, b, \dots, f 及重み p_1, p_2, \dots, p_n ニ關係ス

今 γ_1 ヲ z_1 ノ現ハレ易キ誤差トシ $\gamma_2, \gamma_3, \dots, \gamma_n$ ヲ l_1, l_2, \dots, l_n ノ現ハレ易キ誤差トスルトキハ誤差移行ノ法則ニ依リ

$$\gamma_1^2 = \sigma_1^2 \gamma_1^2 + \sigma_2^2 \gamma_2^2 + \dots + \sigma_n^2 \gamma_n^2$$

而シテ現ハレ易キ誤差ノ自乗ガ重みニ反比スル故ニ

$$\frac{1}{p_1} = \frac{\sigma_1^2}{p_1} + \frac{\sigma_2^2}{p_2} + \dots + \frac{\sigma_n^2}{p_n} = \left[\frac{\sigma\sigma}{p} \right]$$

$$\text{故ニ} \quad p_{z_1} = \frac{1}{\left[\frac{\sigma\sigma}{p} \right]}$$

$$\text{同様ニ} \quad p_{z_2} = \frac{1}{\left[\frac{\tau\tau}{p} \right]}$$

$$\dots \dots \dots$$

$$p_{z_q} = \frac{1}{\left[\frac{\xi\xi}{p} \right]}$$

併シ σ, τ, \dots, ξ 等ノ係數ヲ見出スヨリモ他ノ形狀ニテ此等ノ式ヲ導クヲ宜シトス

今法正式ヲ解キテ次ノ結果ヲ得タリト假定セヨ

$$z_1 = \alpha_1 [pa] + \alpha_2 [pb] + \dots + \alpha_q [pf]$$

$$z_2 = \beta_1 [pa] + \beta_2 [pb] + \dots + \beta_q [pf]$$

$$z_0 = \lambda_1[pa] + \lambda_2[pb] + \dots + \lambda_n[pf]$$

式中 $\alpha, \beta, \dots, \lambda$ は l_1, l_2, \dots, l_n = 關係ナキ係數ナリ

然レバ z_1, z_2, \dots, z_n ノ重さハ $\frac{1}{\alpha_1}, \frac{1}{\beta_2}, \dots, \frac{1}{\lambda_n}$ ナリ

[参考]

z_1 = 對スル二個ノ式ヲ比較スル =

$$\tau_1 = \beta_1 p_1 a_1 + \beta_2 p_1 b_1 + \dots + \beta_n p_1 f_1$$

$$\tau_2 = \beta_1 p_2 a_2 + \beta_2 p_2 b_2 + \dots + \beta_n p_2 f_2$$

$$\dots$$

$$\tau_n = \beta_1 p_n a_n + \beta_2 p_n b_n + \dots + \beta_n p_n f_n$$

此等ノ式ヲ二乗シテ其レノ重みニテ除シ之レヲ加フレバ

$$\left[\frac{\tau\tau}{p} \right] = \beta_1(\beta_1[pa] + \beta_2[pab] + \dots + \beta_n[paf] + \beta_1(\beta_1[pab] + \beta_2[pbb] + \dots + \beta_n[pbf]) + \dots + \beta_n(\beta_1[pab] + \beta_2[pbf] + \dots + \beta_n[pff]))$$

此式=次ノ條件ヲ有セシムル時ハ

$$\beta_1[pa] + \beta_2[pab] + \dots + \beta_n[paf] = 0$$

$$\beta_1[pab] + \beta_2[pbb] + \dots + \beta_n[pbf] = 1$$

$$\dots$$

$$\beta_1[paf] + \beta_2[pbf] + \dots + \beta_n[pff] = 0$$

β_2 以外ノ總テノ項ハ零トナリ

$$\beta_2 \text{ノ値ハ} \left[\frac{\tau\tau}{p} \right] = E_2 \text{トナル}$$

$$z_2 \text{ノ重みハ} \frac{1}{E_2} \text{トナル}$$

法正式ヲ解ク=當リ其ノ絶對項ヲ文字 A = テ示ストキハ z_2 ノ如キ或ル値ノ重みハ z_2 = 對スル法正式ノ絶對項ノ係數ノ反商=等シ

例ハバ

$$\left. \begin{aligned} 3z_1 - z_2 - z_3 &= A_1 \\ -z_1 + 3z_2 - z_3 &= A_2 \\ -z_1 - z_2 + 2z_3 &= A_3 \end{aligned} \right\} \text{ナル法正式アリ之レヲ解クトキハ次ノ値ヲ得}$$

$$z_1 = \frac{5}{8}A_1 + \frac{3}{8}A_2 + \frac{1}{2}A_3$$

$$z_1 = \frac{3}{8}A_1 + \frac{5}{8}A_2 + \frac{1}{2}A_3$$

$$z_2 = \frac{1}{2}A_1 + \frac{1}{2}A_2 + A_3$$

故= z_1 ノ重みハ $\frac{8}{5}$

z_2 ノ重みハ $\frac{8}{5}$

z_3 ノ重みハ 1

故=若シ z_1 ノ重みヲ見出スヲ要スルノミナレバ A_2 及 A_3 ハ計算ニ入ル、ヲ要セズ之レヲ零トナシ得ルコト明カナリ又 z_2 ノ重みヲ見出ス場合=於テハ只 A_2 ヲ計算シ置ケバ可ナリ。次=之ヲ例示セン

重み 1 ナル三個ノ觀測式アリトシ

$$z_1 = 0 \quad z_2 = 0 \quad z_1 - z_2 = +0.51$$

法正式ハ次ノ如シ

$$2z_1 - z_2 = +0.51$$

$$-z_1 + 2z_2 = -0.51$$

絶對項 = A_1 及 A_2 ヲ書キ此式ヲ解クトキハ次ノ如シ

$$z_1 = \frac{2}{3}A_1 + \frac{1}{3}A_2$$

$$z_2 = \frac{1}{3}A_1 + \frac{2}{3}A_2$$

故=整正シタル確カラシキ値ハ次ノ如シ

$$z_1 = +0.17$$

$$z_2 = -0.17$$

又此値ノ重みハ $\frac{1}{2}$ ナリ

殘差ノ二乗ノ和ハ $[vv] = 0.867$

重み 1 ナル観測値ノ現ハレ易キ誤差ハ $\gamma = 0.6745 \sqrt{\frac{[pvv]}{n-q}} = \pm 0.20$

z_1 及 z_2 ノ整正值ノ現ハレ易キ誤差ハ $\gamma_z = \frac{\gamma}{\sqrt{p_z}} = \frac{0.20}{\sqrt{1.5}} = \pm 0.16$

第三回ノ観測ノ整正值ハ $z_1 - z_2 = +0.34$ ニシテ三個ノ観測値ノ修正數ハ三個共ニ其絶對値等シ

又未知數ノ中數誤差ハ次ノ如シ

未知數 x, y, z, t ト観測値 l_1, l_2, \dots, l_n トノ關係ハ次ノ一次式ニテ表ハサルモノトス

$$\left. \begin{aligned} x &= \alpha_1 l_1 + \alpha_2 l_2 + \dots + \alpha_n l_n = [\alpha l] \\ y &= \beta_1 l_1 + \beta_2 l_2 + \dots + \beta_n l_n = [\beta l] \\ z &= \gamma_1 l_1 + \gamma_2 l_2 + \dots + \gamma_n l_n = [\gamma l] \\ t &= \delta_1 l_1 + \delta_2 l_2 + \dots + \delta_n l_n = [\delta l] \end{aligned} \right\} \dots \dots (3)$$

m ヲ單位重みノ測量ノ中數誤差トシ m_i ヲ観測値 l_i ノ中數誤差トスレバ

$$m_i = \frac{m}{\sqrt{p_i}} \dots \dots \dots (4)$$

各未知數ノ中數誤差ハ第十一節 (11) 式ニ依リ次ノ如シ

$$\left. \begin{aligned} m_x &= m \sqrt{\frac{[\alpha\alpha]}{p}} = \frac{m}{\sqrt{p_x}} \\ m_y &= m \sqrt{\frac{[\beta\beta]}{p}} = \frac{m}{\sqrt{p_y}} \\ m_z &= m \sqrt{\frac{[\gamma\gamma]}{p}} = \frac{m}{\sqrt{p_z}} \\ m_t &= m \sqrt{\frac{[\delta\delta]}{p}} = \frac{m}{\sqrt{p_t}} \end{aligned} \right\} \dots \dots \dots (5)$$

$\left[\frac{\alpha\alpha}{p} \right], \left[\frac{\beta\beta}{p} \right], \dots$ 等ヲ自乘重係數ト云フ

此等ヲ決定スルニハ法正式ニ不定係數 X_1, X_2, X_3, X_4 ヲ乗ズ

$$\left. \begin{aligned} [paa]v + [pab]y + [pac]z + [pad]t &= [pal] X_1 & Y_1 & Z_1 & T_1 \\ [pab]v + [pbb]y + [pbc]z + [pbd]t &= [pbl] X_2 & Y_2 & Z_2 & T_2 \\ [pac]v + [pcb]y + [pcc]z + [pcd]t &= [pcl] X_3 & Y_3 & Z_3 & T_3 \\ [pad]v + [pdb]y + [pdc]z + [pdl]t &= [pdl] X_4 & Y_4 & Z_4 & T_4 \end{aligned} \right\} \dots \dots (4)$$

但シ X_1, \dots, X_4 ハ不定係數ニシテ次式ヲ満足スル様ニ選バレタ
ルモノナリ

$$\left. \begin{aligned} [laa]X_1 + [pab]X_2 + [pac]X_3 + [pad]X_4 &= 1 \\ [pab]X_1 + [pbb]X_2 + [pbc]X_3 + [pbd]X_4 &= 0 \\ [pac]X_1 + [pcb]X_2 + [pcc]X_3 + [pcd]X_4 &= 0 \\ [pad]X_1 + [pdb]X_2 + [pdc]X_3 + [pdd]X_4 &= 0 \end{aligned} \right\} \dots \dots (5)$$

各式ニ X ヲ乗ジテ加フルトキハ次式ヲ得

$$x = [pal]X_1 + [pbl]X_2 + [pcl]X_3 + [pdl]X_4 \dots \dots \dots (6)$$

括弧ヲ解キテ l ノ順序ニ並ブレバ

$$\left. \begin{aligned} w &= (p_1 a_1 X_1 + p_1 b_1 X_2 + p_1 c_1 X_3 + p_1 d_1 X_4) l_1 \\ &+ (p_2 a_2 X_1 + p_2 b_2 X_2 + p_2 c_2 X_3 + p_2 d_2 X_4) l_2 \\ &\dots \dots \dots \\ &+ (p_n a_n X_1 + p_n b_n X_2 + p_n c_n X_3 + p_n d_n X_4) l_n \end{aligned} \right\} \dots \dots (5)$$

然ルニ (1) 式ニ依レバ

$$x = \alpha_1 l_1 + \alpha_2 l_2 + \dots + \alpha_n l_n \dots \dots \dots (8)$$

$$\left. \begin{aligned} \text{故ニ} \quad \alpha_1 &= p_1 a_1 X_1 + p_1 b_1 X_2 + p_1 c_1 X_3 + p_1 d_1 X_4 \\ \alpha_2 &= p_2 a_2 X_1 + p_2 b_2 X_2 + p_2 c_2 X_3 + p_2 d_2 X_4 \\ &\dots \dots \dots \\ \alpha_n &= p_n a_n X_1 + p_n b_n X_2 + p_n c_n X_3 + p_n d_n X_4 \end{aligned} \right\} \dots \dots (9)$$

(9) 式ヨリ $\left[\frac{\alpha\alpha}{p}\right]$ ヲ表ハス式ヲ作レバ次ノ如シ

$$\left[\frac{\alpha\alpha}{p}\right] = X_1 [paa]X_1 + [pab]X_2 + [pac]X_3 + [pad]X_4 + X_2([pab]X_1 + [pbb]X_2 + [pbc]X_3 + [pbd]X_4) + X_3([pac]X_1 + [pcb]X_2 + [pcc]X_3 + [pcd]X_4) + X_4([pad]X_1 + [pbd]X_2 + [pdc]X_3 + [pdd]X_4) \dots\dots(10)$$

此式ニ於テ X_1 ノ係數ハ (5) 式ニ依リ 1 = 等シク他ノ X ノ係數ハ皆零ニ等シキ故ニ

$$\left[\frac{\alpha\alpha}{p}\right] = X_1$$

X_1 ノ値ハ他ノ X ノ値ト共ニ (5) 式ヨリ得ラルルコト恰モ法正式ヨリ未知數 w, y, z, t ガ得ラルルガ如シ

消去法ニ依テ得ラレタル結果次ノ如シ

$$\left[\frac{\alpha\alpha}{p}\right] = X_1 = \frac{1}{[paa]} + \frac{A_1^2}{[pbb.1]} + \frac{A_2^2}{[pcc.2]} + \frac{A_3^2}{[pdd.3]} \left. \begin{aligned} X_2 &= \frac{A_1}{[pbb.1]} + \frac{A_2 B_2}{[pcc.2]} + \frac{A_3 B_3}{[pdd.3]} = \left[\frac{\alpha\beta}{p}\right] \\ X_3 &= \frac{A_2}{[pcc.2]} + \frac{A_3 C_3}{[pdd.3]} = \left[\frac{\alpha\gamma}{p}\right] \\ X_4 &= \frac{A_3}{[pdd.3]} = \left[\frac{\alpha\delta}{p}\right] \end{aligned} \right\} (12)$$

X_2, X_3, X_4 ガ夫々 $\left[\frac{\alpha\beta}{p}\right], \left[\frac{\alpha\gamma}{p}\right], \left[\frac{\alpha\delta}{p}\right]$ = 等シキハ後ニ知ラル之ヲ非自乘重係數ト名ヅク。

他ノ自乘重係數ヲ定ムル爲メニ (4) ノ法正式ニ順次ニ不定係數 Y_1, \dots, Y_4 ヲ乗ジ加フ。但シ此等ノ係數ハ次式ヲ満足スル様ニ選ブモノトス。

$$\left. \begin{aligned} [paa]Y_1 + [pab]Y_2 + [pac]Y_3 + [pad]Y_4 &= 0 \\ [pab]Y_1 + [pbb]Y_2 + [pbc]Y_3 + [pbd]Y_4 &= 1 \\ [pac]Y_1 + [pcb]Y_2 + [pcc]Y_3 + [pcd]Y_4 &= 0 \\ [pad]Y_1 + [pbd]Y_2 + [pdc]Y_3 + [pdd]Y_4 &= 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots(13)$$

然ルトキハ $y = [pal]Y_1 + [pbl]Y_2 + [pcl]Y_3 + [pdl]Y_4 \dots\dots(14)$

而シテ x ノ場合ニ於ケルト同様ニ

$$\left. \begin{aligned} \left[\frac{\beta\beta}{p}\right] &= Y_2 = \frac{1}{[pbb.1]} + \frac{B_2^2}{[pcc.2]} + \frac{B_3^2}{[pdd.3]} \\ Y_3 &= \frac{B_2}{[pcc.2]} + \frac{B_3 C_3}{[pdd.3]} = \left[\frac{\beta\gamma}{p}\right] \\ Y_4 &= \frac{B_3}{[pdd.3]} = \left[\frac{\beta\delta}{p}\right] \end{aligned} \right\} \dots\dots(15)$$

同様ニ、

$z = [pal]Z_1 + [pbl]Z_2 + [pcl]Z_3 + [pdl]Z_4 \dots\dots(16)$

$$\left. \begin{aligned} \left[\frac{\gamma\gamma}{p}\right] &= Z_3 = \frac{1}{[pcc.2]} + \frac{C_3^2}{[pdd.3]} \\ Z_4 &= \frac{C_3}{[pdd.3]} = \left[\frac{\gamma\delta}{p}\right] \end{aligned} \right\} \dots\dots(17)$$

同様ニ

$t = [pal]T_1 + [pbl]T_2 + [pcl]T_3 + [pdl]T_4 \dots\dots(18)$

$$\left[\frac{\delta\delta}{p}\right] = T_4 = \frac{1}{[pdd.3]} \dots\dots(19)$$

依テ得タル結果ヲ列記スレバ次ノ如シ

$$\left. \begin{aligned} m_x &= m \sqrt{\frac{\alpha\alpha}{p}} = m \sqrt{\frac{1}{[paa]} + \frac{A_1^2}{[pbb.1]} + \frac{A_2^2}{[pcc.2]} + \frac{A_3^2}{[pdd.3]}} \\ m_y &= m \sqrt{\frac{\beta\beta}{p}} = m \sqrt{* + \frac{1}{[pbb.1]} + \frac{B_2^2}{[pcc.2]} + \frac{B_3^2}{[pdd.3]}} \end{aligned} \right\} (20)$$

$$m_2 = m \sqrt{\frac{\gamma\gamma}{p}} = m \sqrt{* * + \frac{1}{[pcc.2]} + \frac{C_3^2}{[pdd.3]}}$$

$$m_4 = m \sqrt{\frac{\delta\delta}{p}} = m \sqrt{* * * + \frac{1}{[pdd.3]}}$$

本式ニ於ケル係數 A₁, A₂, A₃, B₂, B₃ 及 C₃ ハ第三章第十六節 (25) 式ニ於ケルト同一ノ意味ヲ有ス.

次ニ非自乘重係數ニ就テ論ゼン (9) 式ヨリ

$$\alpha_i = p_i a_i X_1 + p_i b_i X_2 + p_i c_i X_3 + p_i d_i X_4 \dots\dots\dots(21)$$

同様ニ

$$\beta_i = p_i a_i Y_1 + p_i b_i Y_2 + p_i c_i Y_3 + p_i d_i Y_4 \dots\dots\dots(22)$$

依テ (21) 及 (22) 式ヨリ $\left[\frac{\alpha\beta}{p}\right]$ ハ次ノ如クナル

$$\left[\frac{\alpha\beta}{p}\right] = X_1 [paa]Y_1 + [pab]Y_2 + [pac]Y_3 + [pad]Y_4$$

$$+ X_2 [pab]Y_1 + [pbb]Y_2 + [pbc]Y_3 + [pbd]Y_4$$

$$+ X_3 [pac]Y_1 + [pcb]Y_2 + [pcc]Y_3 + [pcd]Y_4$$

$$+ X_4 [pad]Y_1 + [pdb]Y_2 + [pdc]Y_3 + [pdd]Y_4 \dots\dots\dots(23)$$

然ルニ (13) 式ニ依リ X₂ ノ係數ハ 1 ニシテ他ノ係數ハ皆零ナル故ニ

$$\left[\frac{\alpha\beta}{p}\right] = X_2 \dots\dots\dots(24)$$

(23) 式ヲ Y ノ順序ニ配列スレバ

$$\left[\frac{\alpha\beta}{p}\right] = Y_1 \dots\dots\dots(25)$$

斯クシテ總テノ重みノ係數ヲ補助係數 X, Y, Z, T ニテ表ハサル.

即チ

$$X_1 = \left[\frac{\alpha\alpha}{p}\right], Y_1 = \left[\frac{\alpha\beta}{p}\right], Z_1 = \left[\frac{\alpha\gamma}{p}\right], T_1 = \left[\frac{\alpha\delta}{p}\right],$$

$$\left. \begin{aligned} X_2 &= \left[\frac{\alpha\beta}{p}\right], Y_2 = \left[\frac{\beta\beta}{p}\right], Z_2 = \left[\frac{\beta\gamma}{p}\right], T_2 = \left[\frac{\beta\delta}{p}\right] \\ X_3 &= \left[\frac{\alpha\gamma}{p}\right], Y_3 = \left[\frac{\gamma\beta}{p}\right], Z_3 = \left[\frac{\gamma\gamma}{p}\right], T_3 = \left[\frac{\gamma\delta}{p}\right] \\ X_4 &= \left[\frac{\alpha\delta}{p}\right], Y_4 = \left[\frac{\delta\beta}{p}\right], Z_4 = \left[\frac{\delta\gamma}{p}\right], T_4 = \left[\frac{\delta\delta}{p}\right] \end{aligned} \right\} \dots\dots(26)$$

此等ノ値ヲ (13) 式ニ入ルレバ重みノ方程式ヲ得

第一系

$$\left. \begin{aligned} [paa] \left[\frac{\alpha\alpha}{p}\right] + [pab] \left[\frac{\alpha\beta}{p}\right] + [pac] \left[\frac{\alpha\gamma}{p}\right] + [pad] \left[\frac{\alpha\delta}{p}\right] &= 1 \\ [pab] \left[\frac{\alpha\alpha}{p}\right] + [pbb] \left[\frac{\alpha\beta}{p}\right] + [pbc] \left[\frac{\alpha\gamma}{p}\right] + [pbd] \left[\frac{\alpha\delta}{p}\right] &= 0 \\ [pac] \left[\frac{\alpha\alpha}{p}\right] + [pcb] \left[\frac{\alpha\beta}{p}\right] + [pcc] \left[\frac{\alpha\gamma}{p}\right] + [pcd] \left[\frac{\alpha\delta}{p}\right] &= 0 \\ [pad] \left[\frac{\alpha\alpha}{p}\right] + [pdb] \left[\frac{\alpha\beta}{p}\right] + [pdc] \left[\frac{\alpha\gamma}{p}\right] + [pdd] \left[\frac{\alpha\delta}{p}\right] &= 0 \end{aligned} \right\} (27)$$

第二系

$$\left. \begin{aligned} [paa] \left[\frac{\alpha\beta}{p}\right] + [pab] \left[\frac{\beta\beta}{p}\right] + [pac] \left[\frac{\gamma\beta}{p}\right] + [pad] \left[\frac{\delta\beta}{p}\right] &= 0 \\ [pab] \left[\frac{\alpha\beta}{p}\right] + [pbb] \left[\frac{\beta\beta}{p}\right] + [pbc] \left[\frac{\gamma\beta}{p}\right] + [pbd] \left[\frac{\delta\beta}{p}\right] &= 1 \\ [pac] \left[\frac{\alpha\beta}{p}\right] + [pcb] \left[\frac{\beta\beta}{p}\right] + [pcc] \left[\frac{\gamma\beta}{p}\right] + [pcd] \left[\frac{\delta\beta}{p}\right] &= 0 \\ [pad] \left[\frac{\alpha\beta}{p}\right] + [pdb] \left[\frac{\beta\beta}{p}\right] + [pdc] \left[\frac{\gamma\beta}{p}\right] + [pdd] \left[\frac{\delta\beta}{p}\right] &= 0 \end{aligned} \right\} (28)$$

第三系

$$\left. \begin{aligned} [paa] \left[\frac{\alpha\gamma}{p}\right] + [pab] \left[\frac{\beta\gamma}{p}\right] + [pac] \left[\frac{\gamma\gamma}{p}\right] + [pad] \left[\frac{\gamma\delta}{p}\right] &= 0 \\ [pab] \left[\frac{\alpha\gamma}{p}\right] + [pbb] \left[\frac{\beta\gamma}{p}\right] + [pbc] \left[\frac{\gamma\gamma}{p}\right] + [pbd] \left[\frac{\gamma\delta}{p}\right] &= 0 \end{aligned} \right\} (29)$$

$$\left. \begin{aligned} [pac] \left[\frac{\alpha\gamma}{p} \right] + [pcb] \left[\frac{\beta\gamma}{p} \right] + [pcc] \left[\frac{\gamma\gamma}{p} \right] + [pcd] \left[\frac{\gamma\delta}{p} \right] &= 1 \\ [pad] \left[\frac{\alpha\gamma}{p} \right] + [pdb] \left[\frac{\beta\gamma}{p} \right] + [plc] \left[\frac{\gamma\gamma}{p} \right] + [pdi] \left[\frac{\gamma\delta}{p} \right] &= 0 \end{aligned} \right\}$$

第四系

$$\left. \begin{aligned} [paa] \left[\frac{\alpha\delta}{p} \right] + [pab] \left[\frac{\beta\delta}{p} \right] + [pac] \left[\frac{\gamma\delta}{p} \right] + [pad] \left[\frac{\delta\delta}{p} \right] &= 0 \\ [pab] \left[\frac{\alpha\delta}{p} \right] + [pbb] \left[\frac{\beta\delta}{p} \right] + [pbc] \left[\frac{\gamma\delta}{p} \right] + [pbd] \left[\frac{\delta\delta}{p} \right] &= 0 \\ [pac] \left[\frac{\alpha\delta}{p} \right] + [pcb] \left[\frac{\beta\delta}{p} \right] + [pcc] \left[\frac{\gamma\delta}{p} \right] + [pci] \left[\frac{\delta\delta}{p} \right] &= 0 \\ [pad] \left[\frac{\alpha\delta}{p} \right] + [pdb] \left[\frac{\beta\delta}{p} \right] + [pdc] \left[\frac{\gamma\delta}{p} \right] + [pdi] \left[\frac{\delta\delta}{p} \right] &= 1 \end{aligned} \right\} (30)$$

(9) 式ノ α, β, γ = 對スル式ヨリ簡單ニ次ノ關係ヲ導クヲ得

$$\left. \begin{aligned} [pa\alpha] &= 1 & [pb\alpha] &= 0 & [pc\alpha] &= 0 & [pd\alpha] &= 0 \\ [pa\beta] &= 0 & [pb\beta] &= 1 & [pc\beta] &= 0 & [pd\beta] &= 0 \\ [pa\gamma] &= 0 & [pb\gamma] &= 0 & [pc\gamma] &= 1 & [pd\gamma] &= 0 \\ [pa\delta] &= 0 & [pb\delta] &= 0 & [pc\delta] &= 0 & [pd\delta] &= 1 \end{aligned} \right\} \dots\dots(31)$$

又誤差式ヨリ次式ヲ得

$$[p\alpha v] = 0, [p\beta v] = 0, [p\gamma v] = 0, [p\delta v] = 0 \dots\dots(32)$$

此等ノ關係ハ總テ次ノ短縮セラレタル法正式ニ相應ス。

$$[pav] = 0, [pbv] = 0, [pcv] = 0, [pdv] = 0 \dots\dots(33)$$

此等ノ關係ハ殘差ヨリ重み 1 ナルトキノ中數誤差ヲ誘導スルニ用ヒラル。

第十八節 二個ノ未知數ニ於ケル 單位重みノ中數誤差

x, y ヲ平均值
 X, Y ヲ眞値
 v_1, v_2, v_3 ヲ殘差
 $\varepsilon_1, \varepsilon_2, \varepsilon_3$ ヲ眞誤差

$$\left. \begin{aligned} v &= ax + by - l \\ \varepsilon &= aX + bY - l \end{aligned} \right\} \dots\dots(1)$$

$$v - \varepsilon = a(x - X) + b(y - Y) \dots\dots(2)$$

$$\text{故ニ } v = a(x - X) + b(y - Y) + \varepsilon \dots\dots(3)$$

此式ハ誤差式 $v = ax + by - l$ ト同形ヲナス $[av] = 0$ 及 $[bv] = 0$

ヲ作ルトキハ一種ノ法正式ヲ得ベシ即チ

$$\left. \begin{aligned} [av] &= [aa](x - X) + [ab](y - Y) + [a\varepsilon] = 0 \\ [bv] &= [ab](x - X) + [bb](y - Y) + [b\varepsilon] = 0 \end{aligned} \right\} \dots\dots(4)$$

又 $[vv]$ ノ式ノ形ニ依リテ次式ヲ得

$$\begin{aligned} [vv] &= [aa](x - X)^2 + 2[ab](x - X)(y - Y) + 2[a\varepsilon](x - X) \\ &\quad + [bb](y - Y)^2 + 2[b\varepsilon](y - Y) + [\varepsilon\varepsilon] \end{aligned}$$

$$[vv] = [\varepsilon\varepsilon] - \frac{[a\varepsilon]^2}{[aa]} - \frac{[b\varepsilon]^2}{[bb]} \dots\dots(5)$$

[參考] $[vv] = [ll] - \frac{[al]^2}{[aa]} - \frac{[bl]^2}{[bb]}$ 前節(17)式ノ形ニ依ル

故ニ $[vv]$ ハ $[\varepsilon\varepsilon]$ ヲ小ナルヲ知ル而シテ $\frac{[a\varepsilon]^2}{[aa]}$ 及 $\frac{[b\varepsilon]^2}{[bb]}$ ノ平均値ハ次ノ如ク定

ムルヲ得ベシ

$$[a\varepsilon]^2 = (a_1\varepsilon_1 + a_2\varepsilon_2 + a_3\varepsilon_3 + \dots)^2 = a_1^2\varepsilon_1^2 + a_2^2\varepsilon_2^2 + a_3^2\varepsilon_3^2 + \dots + 2a_1a_2\varepsilon_1\varepsilon_2 + \dots(6)$$

而シテ $\varepsilon_1, \varepsilon_2, \dots$ 等ノ自乗ノ代リニ一般ノ平均値 m^2 ナ入レ相乗積 $\varepsilon_1 \varepsilon_2$ ハ其符號不定ニシテ平均ニ於テ消失スルモノトスレバ

$$[a\varepsilon]^2 = (a_1^2 + a_2^2 + \dots)m^2 + 0$$

$$[aa]^2 = [aa]m^2 \text{ 又ハ } \frac{[a\varepsilon]^2}{[aa]} = m^2 \dots\dots\dots (7)$$

同様ニ

$$\begin{aligned} [b\varepsilon. 1] &= [b\varepsilon] - \frac{[ab]}{[aa]}[a\varepsilon] = (b_1\varepsilon_1 + b_2\varepsilon_2 + \dots) - \frac{[ab]}{[aa]}(a_1\varepsilon_1 + a_2\varepsilon_2 + \dots) \\ &= \left(b_1 - \frac{[ab]}{[aa]}a_1\right)\varepsilon_1 + \left(b_2 - \frac{[ab]}{[aa]}a_2\right)\varepsilon_2 + \dots \\ [b\varepsilon. 1]^2 &= \left(b_1 - \frac{[ab]}{[aa]}a_1\right)^2\varepsilon_1^2 + \left(b_2 - \frac{[ab]}{[aa]}a_2\right)^2\varepsilon_2^2 + \dots \\ &\quad + 2\left(b_1 - \frac{[ab]}{[aa]}a_1\right)\left(b_2 - \frac{[ab]}{[aa]}a_2\right)\varepsilon_1\varepsilon_2 + \dots \end{aligned}$$

又 $\varepsilon_1^2, \varepsilon_2^2$ ノ平均値ヲ m^2 トシ相乗積 $\varepsilon_1 \varepsilon_2$ ハ消失スルモノトスレバ

$$\begin{aligned} [b\varepsilon. 1]^2 &= \left\{ \left(b_1 - \frac{[ab]}{[aa]}a_1\right)^2 + \left(b_2 - \frac{[ab]}{[aa]}a_2\right)^2 + \dots \right\} n m^2 \\ \frac{[b\varepsilon. 1]^2}{m^2} &= \left(b_1^2 + \frac{[ab]^2}{[aa]^2}a_1^2 - 2a_1b_1\frac{[ab]}{[aa]}\right) + \left(b_2^2 + \frac{[ab]^2}{[aa]^2}a_2^2 - 2a_2b_2\frac{[ab]}{[aa]}\right) + \dots \\ &= (b_1^2 + b_2^2 + \dots) + \frac{[ab]^2}{[aa]^2}(a_1^2 + a_2^2 + \dots) - 2\frac{[ab]}{[aa]}(a_1b_1 + a_2b_2 + \dots) \\ &= [bb] + \frac{[ab]^2}{[aa]^2}[aa] - 2\frac{[ab]}{[aa]}[ab] \\ \frac{[b\varepsilon. 1]^2}{m^2} &= [bb] - \frac{[ab]}{[aa]}[ab] = [bb. 1] \dots\dots\dots (8) \end{aligned}$$

此 (7) 及 (8) 式ヲ (5) 式ニ代入スル時ハ

$$[vv] = [v\varepsilon] - m^2 - m^2 = [v\varepsilon] - 2m^2$$

而シテ $\frac{[v\varepsilon]}{n} = m^2$ ナル故ニ $[v\varepsilon] = nm^2$

故ニ $[vv] = nm^2 - 2m^2 = (n-2)m^2$

$$m^2 = \frac{[vv]}{n-2} \quad m = \sqrt{\frac{[vv]}{n-2}} \dots\dots\dots (9)$$

同様ニ

$$\begin{aligned} \text{1 個ノ未知數ナルトキハ } m &= \sqrt{\frac{[vv]}{n-1}} \\ \text{3 個ノ未知數ナルトキハ } m &= \sqrt{\frac{[vv]}{n-3}} \\ \text{u 個ノ未知數ナルトキハ } m &= \sqrt{\frac{[vv]}{n-u}} \dots\dots\dots (10) \end{aligned}$$

第十九節 二個ノ未知數ノ中數誤差

x, β, y ハ觀測值 l ト次ノ直線式ニ依テ結合セラレ

$$x = \alpha_1 l_1 + \alpha_2 l_2 + \alpha_3 l_3 + \dots + \alpha_n l_n \dots\dots\dots (1)$$

$$y = \beta_1 l_1 + \beta_2 l_2 + \beta_3 l_3 + \dots + \beta_n l_n \dots\dots\dots (2)$$

m ヲ觀測值 l ノ中數誤差トスレバ

$$m_x^2 = \alpha_1^2 m^2 + \alpha_2^2 m^2 + \dots = (\alpha_1^2 + \alpha_2^2 + \dots)m^2 = [\alpha\alpha]m^2 \dots\dots\dots (3)$$

$$m_y^2 = \beta_1^2 m^2 + \beta_2^2 m^2 + \dots = (\beta_1^2 + \beta_2^2 + \dots)m^2 = [\beta\beta]m^2 \dots\dots\dots (4)$$

今中數誤差 m ノ重みヲ 1 トスレバ

$$p_x = \frac{1}{[\alpha\alpha]} \quad p_y = \frac{1}{[\beta\beta]} \dots\dots\dots (5)$$

[參考] $\frac{m^2}{m_y^2} = \frac{p}{p_y} = \frac{1}{[\beta\beta]}$

而シテ $y = \frac{[bl. 1]}{[bb. 1]} \dots\dots\dots (6)$

此式ト (2) 式トチ一致セシムル爲ニ先ヅ

$$\begin{aligned} [bl. 1] &= [bl] - \frac{[ab]}{[aa]}[al] = (b_1 l_1 + b_2 l_2 + \dots) - \frac{[ab]}{[aa]}(a_1 l_1 + a_2 l_2 + \dots) \\ &= \left(b_1 - \frac{[ab]}{[aa]}a_1\right)l_1 + \left(b_2 - \frac{[ab]}{[aa]}a_2\right)l_2 + \dots \end{aligned}$$

之レヲ (6) 式ニ入ルル時ハ

$$y = \frac{b_1 - \frac{[ab]}{[aa]}a_1}{[bb. 1]} l_1 + \frac{b_2 - \frac{[ab]}{[aa]}a_2}{[bb. 1]} l_2 + \dots$$

之レヲ (2) 式 $y = \beta_1 l_1 + \beta_2 l_2 + \dots + \beta_n l_n$ ト比スル時ハ

$$\beta_1 = \frac{b_1 - \frac{[ab]}{[aa]}a_1}{[bb. 1]}, \quad \beta_2 = \frac{b_2 - \frac{[ab]}{[aa]}a_2}{[bb. 1]} \dots\dots\dots (7)$$

故ニ

$$\beta_1^2 = \frac{1}{[bb. 1]^2} \left(b_1^2 - 2\frac{[ab]}{[aa]}a_1 b_1 + \frac{[ab]^2}{[aa]^2} a_1^2 \right)$$

$$\beta_2^2 = \frac{1}{[bb.1]^2} (b_2^2 - 2 \frac{[ab]}{[aa]} a_2 b_2 + \frac{[ab]^2}{[aa]^2} a_2^2)$$

$$[\beta^2] = \frac{1}{[bb.1]^2} ([b^2] - 2 \frac{[ab]}{[aa]} [ab] + \frac{[ab]^2}{[aa]^2} [a^2])$$

故 =

$$[\beta\beta] = \frac{1}{[bb.1]^2} ([bb] - \frac{[ob]}{[aa]} [ab]) = \frac{1}{[bb.1]^2} [bb.1] = \frac{1}{[bb.1]}$$

故 =

$$p_y = [bb.1] \dots \dots \dots (8)$$

同様 =

$$[aa] = \frac{1}{[aa.1]} \quad p_x = [aa.1] \dots \dots \dots (9)$$

$$m_y = \frac{m}{\sqrt{p_y}} = \frac{m}{\sqrt{[bb.1]}} \dots \dots \dots (10)$$

$$m_x = \frac{m}{\sqrt{p_x}} = \frac{m}{\sqrt{[aa.1]}} \dots \dots \dots (11)$$

m ハ 第十八節 (9) 式及第三章第十一節 (5) 式 = 依テ

$$m = \sqrt{\frac{[vv]}{n-2}} = \sqrt{\frac{[ll.2]}{n-2}} \dots \dots \dots (12)$$

第二十節 測量ノ重み等シカラザル場合

$$\left. \begin{array}{l} \text{観測値ヲ } l_1, l_2, l_3, \dots, l_n \\ \text{其ノ重みヲ } p_1, p_2, p_3, \dots, p_n \end{array} \right\} \dots \dots \dots (1) \text{トスレバ}$$

誤差式ハ次ノ如シ

$$\left. \begin{array}{l} v_1 = a_1 x + b_1 y - l_1 \quad \text{重み } p_1 \\ v_2 = a_2 x + b_2 y - l_2 \quad \text{重み } p_2 \\ v_3 = a_3 x + b_3 y - l_3 \quad \text{重み } p_3 \\ \dots \dots \dots \\ v_n = a_n x + b_n y - l_n \quad \text{重み } p_n \end{array} \right\} \dots \dots \dots (2)$$

此時ハ [pvv]ガ最小ナルコトヲ要ス \dots \dots \dots (3)

法正式ハ次ノ如シ

$$\left. \begin{array}{l} [paa]x + [pab]y - [pal] = 0 \\ [pab]x + [pbb]y - [pbl] = 0 \end{array} \right\} \dots \dots \dots (4)$$

又 [bb.1]ノ代リニ [pbb.1]トナル

單位重みノ中數誤差ハ

$$m = \sqrt{\frac{[pvv]}{n-2}} = \sqrt{\frac{[pbl.2]}{n-2}} \dots \dots \dots (5)$$

此中數誤差ハ實際ノ觀測値ニ屬スルモノニ非ズシテ重み1ナル假設ノ觀測値ノ有スル誤差ナリ。

今誤差式 = \sqrt{p} ヲ乘ズルトキハ

$$\left. \begin{array}{l} v_1 \sqrt{p_1} = a_1 x \sqrt{p_1} + b_1 y \sqrt{p_1} - l_1 \sqrt{p_1} \\ v_2 \sqrt{p_2} = a_2 x \sqrt{p_2} + b_2 y \sqrt{p_2} - l_2 \sqrt{p_2} \end{array} \right\} \dots \dots \dots (6)$$

之ヲ自乗シテ加フルトキハ [pvv]ヲ得

而シテ次ノ略符ヲ用フ。

$$p_1 a_1^2 + p_2 a_2^2 + p_3 a_3^2 + \dots = [paa] \dots \dots \dots (7)$$

第十八節 (1) 式 = 依リ

$$x = \frac{a_1}{\sqrt{p_1}} (l_1 \sqrt{p_1}) + \frac{a_2}{\sqrt{p_2}} (l_2 \sqrt{p_2}) + \dots \dots \dots (8)$$

$$\frac{1}{p_x} = \left[\frac{\alpha\alpha}{p} \right], \quad \frac{1}{p_y} = \left[\frac{\beta\beta}{p} \right] \dots \dots \dots (9)$$

$$p_y = [pbb.1] \dots \dots \dots (10)$$

中數誤差ヲ前知スル場合

誤差式 平均前ノ l ノ中數誤差

$$\left. \begin{array}{ll} v_1 = a_1 x + b_1 y - l_1 & \pm m_1 \\ v_2 = a_2 x + b_2 y - l_2 & \pm m_2 \\ \dots \dots \dots & \dots \dots \dots \\ v_n = a_n x + b_n y - l_n & \pm m_n \end{array} \right\} \dots \dots \dots (11)$$

平均條件ハ

$$\left[\frac{vv}{mm} \right] = \left(\frac{v_1}{m_1} \right)^2 + \left(\frac{v_2}{m_2} \right)^2 + \dots + \left(\frac{v_n}{m_n} \right)^2 = \text{最小} \dots \dots (12)$$

法正式ハ

$$\left. \begin{aligned} \left[\frac{aa}{mm} \right] x + \left[\frac{ab}{mm} \right] y - \left[\frac{al}{mm} \right] &= 0 \\ \left[\frac{ab}{mm} \right] x + \left[\frac{bb}{mm} \right] y - \left[\frac{bl}{mm} \right] &= 0 \end{aligned} \right\} \dots \dots (13)$$

平均後ノ單位重みノ中數誤差ハ

$$m = \sqrt{\frac{1}{n-2} \left[\frac{vv}{mm} \right]} = \sqrt{\frac{1}{n-2} \left[\frac{ll}{mm} \times 2 \right]} \dots \dots (14)$$

平均後ノ l ノ値ノ中數誤差ハ

$$\left. \begin{aligned} m'_1 &= \frac{m}{1} m_1 \\ m'_2 &= \frac{m}{1} m_2 \\ \dots \dots \dots \\ m'_n &= \frac{m}{1} m_n \end{aligned} \right\} \dots \dots (15)$$

m_1, m_2, \dots, m_n ガ平均前ニ正シク定メラレタレバ $m=1$

故ニ $m'_1=m_1; m'_2=m_2; \dots$

今1個ノ誤差式ノ重みガ2ナルトキハ

$$\left. \begin{aligned} v_1 &= a_1x + b_1y - l_1 & p=1 \\ v_2 &= a_2x + b_2y - l_2 & p=1 \\ v_3 &= a_3x + b_3y - l_3 & p=2 \end{aligned} \right\} \dots \dots (16)$$

法正式ハ

$$(a_1^2 + a_2^2 + 2a_3^2)x + (a_1b_1 + a_2b_2 + 2a_3b_3)y - (a_1l_1 + a_2l_2 + 2a_3l_3) = 0$$

第三ノ誤差式ヲ二重ニ入ル、トキハ

$$\left. \begin{aligned} v_1 &= a_1x + b_1y - l_1 & p=1 \\ v_2 &= a_2x + b_2y - l_2 & p=1 \\ v_3 &= a_3x + b_3y - l_3 & p=1 \end{aligned} \right\} \dots \dots (17)$$

(16) 及 (17) 式ヨリ x, y 及 $[ll. 2] = [vv]$ ヲ得ベシ

併シ此場合ノ中數誤差ヲ算出スルニハ

$$m^2 = \frac{[vv]}{3-2} \text{トシ } m^2 = \frac{[vv]}{4-2} \text{トナサズ} \dots \dots (18)$$

第二十一節 單位重みノ測量ノ中數誤差

單位重みノ測量ノ中數誤差ハ $m = \pm \sqrt{\frac{[p\varepsilon\varepsilon]}{n}} \dots \dots (1)$

式中 ε ハ眞誤差

然シ眞誤差ハ知ラレザル故ニ殘差 v ヲ用ヒテ $[p\varepsilon\varepsilon]$ ノ代リニ $[pvv]$ ヲ用フ。

$$aX + bY + cZ + dT = l + \varepsilon \dots \dots (2)$$

$$ax + by + cz + dt = l + v \dots \dots (3)$$

ナルニ式ヨリ次式ヲ得

$$\varepsilon = v + a(X-x) + b(Y-y) + c(Z-z) + d(T-t) \dots \dots (4)$$

之レヨリ

$$\begin{aligned} [p\varepsilon\varepsilon] &= p_1v_1^2 + p_2v_2^2 + \dots + p_nv_n^2 \\ &+ 2\{ (p_1a_1v_1 + p_2a_2v_2 + \dots + p_na_nv_n)(X-x) \\ &+ (p_1b_1v_1 + p_2b_2v_2 + \dots + p_nb_nv_n)(Y-y) + \dots \} \\ &+ (X-x)\{ [pa_1a_1](X-x) + \dots + [pad_1](T-t) \} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
&+(Y-y)\{[pab](X-x)+\dots\dots\dots+[pbd](T-t)\} \\
&+(Z-z)\{[pac](X-x)+\dots\dots\dots+[pcd](T-t)\} \\
&+(T-t)\{[pad](X-x)+\dots\dots\dots+[pdd](T-t)\} \dots\dots\dots(5)
\end{aligned}$$

本式ノ二行並ニ三行ハ第十七節 (33) 式ニ依リ零ニ等シ又未知數ノ眞値並ニ殘差ハ

$$\begin{aligned}
x &= [\alpha l] & y &= [\beta l] & z &= [\gamma l] & t &= [\delta l] \\
X &= [\alpha l] + [\alpha \varepsilon], & Y &= [\beta l] + [\beta \varepsilon], & Z &= [\gamma l] + [\gamma \varepsilon], & T &= [\delta l] + [\delta \varepsilon]
\end{aligned}$$

ヨリ得ラル。即チ

$$x - X = [\alpha \varepsilon] \quad Y - y = [\beta \varepsilon] \quad Z - z = [\gamma \varepsilon] \quad T - t = [\delta \varepsilon] \dots\dots(6)$$

(4) 式ニ之レニ相應スル係數 pa, pb, pc 及 pd ヲ乘ジ加フレバ次式ヲ得。

$$\left. \begin{aligned}
[paa]X - x + [pab](Y - y) + [pac](Z - z) + [pad]T - t &= [pa\varepsilon] \\
[pab](X - x) + [pbb](Y - y) + [pbc](Z - z) + [pbd](T - t) &= [pb\varepsilon] \\
[pac](X - x) + [pcb]Y - y + [pcc](Z - z) + [pcd](T - t) &= [pc\varepsilon] \\
[pad](X - x) + [pdb](Y - y) + [pdc](Z - z) + [pdd](T - t) &= [pd\varepsilon]
\end{aligned} \right\} (7)$$

(5) (6) 及 (7) 式ヨリ

$$[p\varepsilon\varepsilon] = [pvv] + [\alpha\varepsilon][pa\varepsilon] + [\beta\varepsilon][pb\varepsilon] + [\gamma\varepsilon][pc\varepsilon] + [\delta\varepsilon][pd\varepsilon] \dots\dots(8)$$

右邊ヲ展開シ ε ノ順序ニ並ブレバ

$$\begin{aligned}
[p\varepsilon\varepsilon] &= [pvv] + (a_1\alpha_1 + b_1\beta_1 + c_1\gamma_1 + d_1\delta_1)p_1\varepsilon_1^2 \\
&\quad + (a_2\alpha_2 + b_2\beta_2 + c_2\gamma_2 + d_2\delta_2)p_2\varepsilon_2^2 \\
&\quad + \dots\dots\dots \\
&\quad + (a_n\alpha_n + b_n\beta_n + c_n\gamma_n + d_n\delta_n)p_n\varepsilon_n^2 + [q\varepsilon_i\varepsilon_k] \dots\dots(9)
\end{aligned}$$

最後ノ項 $[q\varepsilon_i\varepsilon_k]$ = 於ケル眞誤差 ε ハ正負略同數ニ現ハルルガ故ニ零ニ等シトスルヲ得。又 ε^2 等ノ代リニ其平均値即チ單位重みノ

中數誤差ノ自乘 m^2 ヲ用ヒ且ツ $[p\varepsilon\varepsilon] = nm^2$ トスレバ (9) 式ハ次ノ如クニ變ズ。

$$n \cdot m^2 = [pvv] + m^2([pa\alpha] + [pb\beta] + [pc\gamma] + [pd\delta]) \dots\dots\dots(10)$$

第十七節 (31) 式ニ依リ

$$[pa\alpha] = [pb\beta] = [pc\gamma] = [pd\delta] = 1$$

故ニ n ヲ未知數ノ數トスレバ此等ノ和ハ u ニ等シ。

$$\text{故ニ} \quad n \cdot m^2 = [pvv] + u \cdot m^2$$

$$m = \pm \sqrt{\frac{[pvv]}{n - u}} \dots\dots\dots(11)$$

第二十二節 條件付測量ノ中數誤差

n 個ノ未知數ガ直接測量セラレ其等ノ間ニ満足セラル可キ條件式 n' 個アルモノトスレバ此法ニ於テハ觀測值ハ此等ノ條件ヲ満足スルノミナラズ誤差ノ自乘ノ和ガ最小トナル如ク修正セラレザル可カラズ。但シ $n > n'$ トス。

一般ニ條件付測量ノ平均ハ間接測量ニ誘導スルヲ得ルモノニシテ例ヘバ n 個ノ未知數 $x_1, x_2, x_3, \dots, x_n$ ヲ決定スル爲メニ精密度等シキ測量ヲ行ヒタリトシ未知數ノ間ニハ満足サル可キ次ノ n' 個ノ條件式アリトス。

$$\left. \begin{aligned}
a_0 + a_1x_1 + a_2x_2 + a_3x_3 + \dots\dots\dots + a_nx_n &= 0 \\
b_0 + b_1x_1 + b_2x_2 + b_3x_3 + \dots\dots\dots + b_nx_n &= 0 \\
c_0 + c_1x_1 + c_2x_2 + c_3x_3 + \dots\dots\dots + c_nx_n &= 0 \\
\dots\dots\dots \\
n'_0 + n'_1x_1 + n'_2x_2 + n'_3x_3 + \dots\dots\dots + n'_nx_n &= 0
\end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(1)$$

第二十三節 條件付測量ノ現ハレ易キ誤差

條件付測量ガ第三章ノ方法即チ n 個ノ觀測式ニ於テ q 個ノ未知數ヲ n' 個ノ條件式ニ依リ $q-n'$ 個ノ獨立數ニ爲シ整正シタルトキハ重み 1 ナル測量ノ現ハレ易キ誤差ハ明カニ第十七節 (2) 式ニ於テ q ノ代リニ $q-n'$ ヲ代入スレバ可ナリ即チ

$$\gamma = 0.6745 \sqrt{\frac{[pvv]}{n-q+n'}} \dots\dots\dots (1)$$

又重み p_1, p_2, \dots, p_q 等ノ測量ノ現ハレ易キ誤差ハ

$$\gamma_1 = \frac{\gamma}{\sqrt{p_1}} \quad \gamma_2 = \frac{\gamma}{\sqrt{p_2}} \quad \dots\dots\dots \gamma_q = \frac{\gamma}{\sqrt{p_q}}$$

z_1, z_2, \dots, z_q ノ重みハ前節ノ方法ニテ求メラル。

第三章ノ方法ニテ整正セラルル多數ノ未知數ニ於ケル直接測量ノ場合ニハ觀測式ノ數ハ未知數ノ數ニ等シ即チ

$$n=q$$

而シテ條件式ノ數ガ n' ナレバ重み 1 ナル測量ノ現ハレ易キ誤差ハ

$$\gamma = 0.6745 \sqrt{\frac{[pvv]}{n}} \dots\dots\dots (2)$$

之レヨリ或ル重みノ測量ノ現ハレ易キ誤差ハ直チニ求メラル此場合ニハ殘差 v ハ單ニ觀測値ト整正值ノ差ナリ。

應 用 實 例

第三章及第四章ニ於テ測量ノ整正及比較ニ關スル方法及公式ヲ述ベタリ爰ニ此等ノ方法ノ應用ヲ示サントス而シテ測量ノ最モ普通ノ場合ハ一個ノ未知數ニ於ケル直接測量ノ場合ナリ

第 五 章

一個ノ未知數ニ於ケル直接測量

第一節 重み等シキ測量

或ル未知數ヲ等シキ注意ヲ以テ數回測量スルトキハ其ノ測量ノ重みハ等シ昔ヨリ直接測量ノ算術的平均數ハ其未知數ノ最モ確カラシキ値ト考ヘラレタリ而シテ最小二乘法ノ主義ニ依リ之ガ正シキコトヲ前述セリ

今 x ヲ未知數ノ最モ確カラシキ値、 n ヲ測量ノ數、 l ヲ或ル觀測値トシ r ヲ一回ノ觀測ノ現ハレ易キ誤差、 γ_x ヲ整正值 x ノ現ハレ易キ誤差、 v ヲ殘差誤差トスレバ未知數ノ最モ確カラシキ値ハ算術的平均數ニシテ即チ

$$x = \frac{[l]}{n}$$

又一回ノ測量ノ現ハレ易キ誤差ハ第十節ニ依リ

$$\gamma = 0.6745 \sqrt{\frac{[vv]}{n-1}}$$

又算術的平均數ノ現ハレ易キ誤差ハ

$$\gamma_x = \frac{\gamma}{\sqrt{n}} = 0.6745 \sqrt{\frac{(vv)}{n(n-1)}}$$

第三章第三節 (1) 式ニ依リ

$$x = \frac{l_1 + l_2 + l_3 + \dots + l_n}{n}$$

次ニ x ノ値ヨリ各觀測値ヲ減ジテ n 個ノ v ヲ見出シ之ヲ二乗シテ